

C区第14号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00056	土師器 環	覆土内 破片	口(13.0)	並・還・並・浅黄橙・黒色鈺物粒子・ 白色微粒子	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残す。	東毛産
10-00057	土師器 甕か	覆土内 破片	底(12.0)	並・酸・軟・浅黄橙・白色微粒子・ 黒色鈺物粒子	紐作り。外面横位の篋削り。内面は横位の撫で整形。器面の 風化がある。底面は特殊。	東毛産

C区第15号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00058	須恵器 塊	覆土内 破片	基部(7.4)	並・還・並・外面灰白・内面黒・黒 色鈺物粒子・白色微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。内面は焼成時の燻れ。	漆田窯の製 品
40-00008	鉄器 刀子	C15溝覆土 内 破片	残長4.0 幅1.1 厚重5.0		茎・刀身の半分を欠損する。折れ曲がった状態であり、廃棄 段階で曲げられていたことが判明する。	

C区第16号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00059	土師器 環	覆土内 破片	厚0.7	並・酸・軟・明黄褐・赤褐色粒子・ 黒色鈺物粒子	外面を赤色塗彩する。口縁部は横撫でを施し、口縁直下は横 位の篋削りを施す。	東毛産
10-00060	土師器 甕か羽釜	覆土内 破片	底(6.0)	並・還・並・鈍橙・黒色鈺物粒子	外面は縦位の篋削りを施す。内面は回転横撫でを施す。底面 に離砂が付着する。	東毛産
10-00061	須恵器 皿	覆土内 破片	口(14.5)	並・酸・並・明黄褐・黒色鈺物粒子・ 透明鈺物粒子	轆轤成整形右回転。器厚はやや厚めの作りになっている。	東毛産
10-00062	須恵器 小皿	覆土内 破片	口(8.8) 底(5.6) 高1.4	並・酸・硬・鈍黄橙・黒色鈺物粒子・ 夾雑物微量	轆轤成整形右回転。底面の切り離し技法は不詳。	東毛産
10-00063 52	須恵器 小皿	覆土内 完形	口9.7 底4.5 高1.8	並・酸・並・黄橙・白色微粒子・黒 色鈺物粒子	轆轤成整形右回転。立ち上がりから強い稜を残し口縁部があ 立ち上がる。	東毛産
10-00064	須恵器 環	覆土内 破片	口(15.4) 底(7.4) 高4.0	並・酸・並・浅黄橙・白色粒子・黒 色鈺物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。直線的に立ち上がり、 口唇部は短く外反する。内面に沈線状の轆轤整形痕。	東毛産か
10-00065	須恵器 環	覆土内 破片	底(6.8)	並・酸・軟・鈍橙～鈍褐・夾雑物微 量	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。内面は焼成時か焼成時 後か判断しかねる燻りが認められる。	東毛産
10-00066	須恵器 塊	覆土内 破片	底(6.6)	並・還・軟・灰黄・透明鈺物粒子・ 黒色鈺物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。胎土はシルト質気味。	漆田窯の製 品か
10-00067	須恵器 塊	覆土内 破片	底(8.0)	並・酸・軟・鈍黄橙・黒色鈺物粒子・ 赤褐色粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。直立する高台から腰部 が立ち上がる。器形は大身。	東毛産
10-00068	須恵器 塊	覆土内 破片	底(8.6)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈺物粒子・ 軽石状白色粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。大身の塊で高台は長目。	東毛産
10-00069	須恵器 塊	覆土内 破片	底(10.6)	並・還・並・灰白・黒色鈺物粒子多 量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。大身の塊で高台は長目。	東毛産
10-00070	土師器 甕か羽釜	覆土内 破片	底(12.0)	並・酸・並・鈍橙・黒色鈺物粒子・ β石英	紐作り。外面は横位・斜位の篋削り。内面は横位の篋撫でを 施す。	東毛産
10-00071	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口(22.0) 鐙部(24.2)	並・酸・硬・灰黄・白色微粒子・透 明鈺物粒子	轆轤成整形右回転。鐙は貼り付け後成整形。	東毛産
10-00072	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.9	並・還・軟・灰褐・白色微粒子・黒 色粒子	紐作り後叩き整形。詳細不詳。	東毛産
10-00073	須恵器 瓶	覆土内 破片	底(12.0)	密・還・締・白灰・黒色粒子・夾雑 物微量	紐作り後轆轤右回転成整形。高台は付け高台。胎土中に小孔 が目立つ。	東毛産
10-00074	須恵器 瓶	覆土内 破片	底(8.0)	密・還・締・外面暗灰・白色粒子・ 夾雑物微量	紐作り後轆轤右回転成整形。高台は付け高台と考えられる。 焼締まりが強く、内面頸部直下に自然釉付着する。	東海産
10-00075	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚1.1	並・還・硬・暗灰・石英・シルト縞	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は素文。内面は摩 滅し何らかに転用されている。	不詳
10-00076	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	底(7.3)	密・還・硬・白灰 釉調=施釉部分はない	轆轤成整形右回転。施釉部分が認められない。見込みが摩滅 する。	
10-00077	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	底(7.0)	密・還・硬・灰 釉調=施釉は一部認められる	轆轤成整形右回転。施釉部分が見込みの一部しか認められ ない。施釉は刷毛塗りか。	
10-00078	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	厚0.3	密・還・締・灰 釉調=灰オリブ小粒状	轆轤成整形右回転。施釉は不詳。	
10-00079	施釉陶器 灰釉 皿	覆土内 破片	厚0.3	密・還・締・灰 釉調=灰オリブ小粒状	轆轤成整形右回転。施釉は浸掛け。	
10-00080	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(17.0)	密・還・硬・灰白 釉調=灰オリブ全体に薄い	轆轤成整形右回転。施釉は不詳。	
10-00081	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	底7.2	密・還・硬・白灰 釉調=残部には施釉が無い	轆轤成整形右回転。施釉は浸掛け。	
10-00082	施釉陶器 灰釉 瓶	覆土内 破片	頸(5.4)	密・還・締・灰 釉調=灰オリブくすみ厚い	紐作り後轆轤右回転成整形。釉は厚く色目はくすんでいる。	
10-00083	施釉陶器 灰釉 平瓶	覆土内 破片	底(16.0) 肩(21.2) 厚1.0	密・還・硬・灰 釉調=灰オリブ肩は厚い	紐作り後轆轤右回転成整形。施釉は肩から天井部にかけては 厚い。把手の上面は削りだしによる筋筋が通る。	
10-00084	施釉陶器 緑釉 碗	覆土内 破片	口(14.0) 底(7.4) 高(5.0)	並・還・硬・灰黄 釉調=全体に薄く生土が透ける	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。施釉は刷毛塗りか。珠 点文状の釉の釉調は、透明感あるエメラルドグリーン。	京都 洛北産
10-00085	施釉陶器 灰釉 皿	覆土内 破片	底6.4	密・還・硬・灰 釉調=透明全体に薄い	轆轤成整形右回転。高台は削り出し高台。見込み型抜き の菊花文を鉄釉で施す。	美濃産か
10-00086	染付磁器 碗	覆土内 破片	口(10.2)	密・還・締・白灰 釉調=透明/精製具須	轆轤成整形右回転か。模様は意匠不明。	
10-00087	磁器 青磁碗	覆土内 破片	厚0.3	密・還・締・灰 釉調=くすんだ灰オリブで厚い	轆轤成整形左回転か。施釉は浸掛けか。内外面に猫掻が認め られる。	同安窯系
20-00019	石製品 砥石	覆土内 完形	長6.4 幅2.9 厚2.4 重61.00	流紋岩	手持砥。上面の前後が使い減りにより山形に成っている。	
20-00020	石製品 転用砥石	覆土内 1/2残か	残長11.3 幅6.8 厚5.2 重317.2	粗粒輝石安山岩	石臼の転用。上面に石臼時の目が1条残る。砥面は4面認め られ、皿上に浅く窪む。	
40-00009	鉄器 器種不明	覆土内 完形か	総長12.7 幅0.6 厚0.6 重4.8		故意の折り曲げとは思われない。観察以前に錆の除去作業が 行われたため詳細不詳。	

C区第17号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00088	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.6	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈹物粒子・ 透明鈹物粒子(長石か)	胴部の下位片。斜位気味に寛削りを施す。	東毛産

C区第18号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00089	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.5	並・酸・並・鈍橙・黒色鈹物粒子・ 白色微粒子	外傾の強い坏の口縁部。器内外面は横位の撫で整形を施す。	東毛産

B区第19号溝状遺構(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00090	軟質陶器 焙烙	覆土内 破片	厚0.9	並・酸・並・鈍黄橙・微粒雲母	型作り後轆轤成整形右回転。底面に型目を顕著に残す。	東毛産
10-00091	施釉陶器 鉄釉 搦鉢	覆土内 破片	厚0.8	密・還・硬・明黄褐 釉調=鉄釉薄く暗赤	轆轤成整形右回転。卸し目は残存しない。	産不詳
10-00092	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	厚1.0~1.8	並・還・並・黒・黒色鈹物粒子・白 色微粒子	底部には型目が顕著に残る。脚部・胴部は紐作り後轆轤右回 転成整形。外面は石目地の型目仕上げ。	東毛産
10-00093	軟質陶器 焙烙	覆土内 破片	厚0.9	並・酸・並・黄・黒色鈹物粒子・ 透明鈹物粒子	見込みは平滑な撫で整形。底面は型目を顕著に残す。	東毛産
10-00094	施釉陶器 鉄釉ビンツケ	覆土内 破片	厚0.5	並・還・並・灰・夾雑物無 釉調=明灰オリーブ	轆轤で円形に成形後、楕円形に押しつぶし成形している。側 面には、この際の亀裂が認められる。	産不詳
10-00095	施釉陶器 鉄釉ビンツケ	覆土内 破片	厚0.4	並・還・並・灰・夾雑物無 釉調=明灰オリーブ	轆轤で円形に成形後、楕円形に押しつぶし成形している。側 面には、この際の亀裂が認められる。	産不詳
10-00096	施釉陶器 鉄釉 香炉	覆土内 破片	口(5.3) 底(3.2) 高3.8	並・還・硬・灰・黒色粒子 釉調=灰オリーブ表面は照る	轆轤成整形右回転。高台は削り出し。口唇部は肥厚し内傾す る。	産不詳
10-00097	施釉陶器 鉄釉 皿	覆土内 1/2残	口(8.2) 底(3.0) 高1.8	並・還・締・灰・夾雑物無 釉調=くすんだ灰オリーブ	轆轤成整形左回転。外面は篋による轆轤撫で整形。釉はやや 厚目で貫が入る。	産不詳
10-00098	施釉陶器 鉄釉 皿	覆土内 1/2残	口(9.8) 底(4.8) 高1.7	密・還・締・灰 釉調=赤褐薄く施釉	轆轤成整形左回転。外面は篋による轆轤撫で整形。	産不詳
10-00099	陶器 土瓶 蓋	覆土内 破片	径9.6 返径6.5 高2.7	密・還・締・乳白 釉調=銅釉か	天井部に銅釉(?)で草を描き、透明釉を施軸する。非常に 焼き締まって磁器質に仕上がっている。	産不詳
10-00100	施釉陶器 鉄釉 瓶	覆土内 破片	厚0.8	密・還・硬・暗灰 釉調=くすんだ鼠志野釉	轆轤成整形左回転。鉄絵の意匠は不分明。	産不詳
10-00101	施釉陶器 鉄釉 瓶	覆土内 破片	底(9.0)	並・還・硬・黄灰 釉調=鉄釉末端側はコバルト発色	炬轆轤成整形左回転。外面の篋撫で轆轤整形は右回転。高台 は削り出し。	産不詳
10-00102	施釉陶器 鉄釉捏ね鉢	覆土内 破片	底(14.2)	密・中・硬・灰 釉調=灰オリーブ照りが有る	轆轤成整形右回転。高台は削り出し。内面立ち上がり重ね 焼痕ろトンチン跡が認められる。	産不詳
10-00103	施釉陶器 三島手鉢	覆土内 破片	底(10.8)	密・還・硬・オリーブ褐 釉調=施釉は薄目	轆轤成整形右回転。見込みにトンチン跡が3箇所残る。施文は 桔梗を印刷する。	唐津系
10-00104	土製品 転用円盤	覆土内 完形	径2.4~2.5 厚0.8	並・還・並・灰・石英・黒色鈹物粒 釉調=薄鉄釉(暗赤褐)	鉄釉施釉の陶器片の周辺を磨き整形している。内面に卸し目 が認められる。	産不詳
10-00105	磁器 白磁角小皿	覆土内 完形	長辺3.0 短辺1.9 高0.3	密・還・締・白灰 釉調=透明一陰沈に傾く	型作り。底部は上げ底。平面形は長方形を呈する。	産不詳
10-00106	磁器 白磁角小皿	覆土内 完形	長辺3.5 短辺2.5 高1.2	密・還・締・白灰 釉調=透明一陰沈に傾く	型作り。底部は上げ底。平面形は長方形を呈する。	産不詳
10-00107	磁器 瑠璃釉 琴柱状製品	覆土内 破片	長4.6 幅1.1 高2.4	密・還・締・乳白 釉調=背面以外に施釉	型作り。細長い足部に「M」字状の柱状の部分が立つ。瑠璃 釉を施軸する。	産不詳
10-00108	磁器 青磁碗	覆土内 破片	厚0.7	密・還・締・灰 釉調=オリーブ灰	青磁手蓮弁文碗。花卉が接する部分の破片。	産不詳
10-00109	磁器 染付 湯呑	覆土内 破片	口(9.0)	密・還・締・乳白色	鉄絵と山具須の文様だが、細片のため図柄は不明。	産不詳
10-00110	磁器 印判色 染付伝飯器	覆土内 破片	口(5.3)	密・還・締・乳白 釉調=均質に施釉	脚部を欠損する。上皿部外面には、赤絵と金彩により、秋草 文を表出している。	産不詳
10-00111	磁器 色染 付 小碗	覆土内 破片	口(6.0)	密・還・締・乳白 釉調=均質に施釉	高台部を欠損する。外面は赤絵で菊花文を描いている。内面 は部分的にしか文様が残存しないため意匠は不明。	産不詳
10-00112	磁器 印判 染付 碗	覆土内 破片	口6.6 底3.6 高4.9	密・還・締・乳白 釉調=均質に施釉	体部に面取り7面を施す。3本爪の竜が玉を緊握みにしてい る。呉須はベロ藍。	産不詳
10-00113	磁器 印判 染付 碗	覆土内 破片	口7.4 底3.4 高5.1	密・還・締・乳白 釉調=均質に施釉	紅葉と流水を表す。型紙印判染付。呉須はベロ藍。	産不詳
10-00114	磁器 印判 染付 湯呑	覆土内 破片	口5.9 底3.4 高5.7	密・還・締・乳白 釉調=均質に施釉	中央に松を配し、脇に松・蛸足唐草を配する。部分的にダミ が認められる。呉須はベロ藍。	産不詳
10-00115	磁器 染付皿	覆土内 破片	底(6.8)	密・還・締・乳白 釉調=均質に施釉	外面に唐草を描き、内面に橘の蕾を3個描く。呉須は精製呉 須。	産不詳
10-00116	磁器 染付 広東碗	覆土内 破片	底(6.0)	密・還・締・乳白 釉調=均質に施釉	外面は部分的に文様が残存する。見込みはコンニャク判と目 跡が認められる。	産不詳
10-00117	磁器 印判 染付 碗	覆土内 破片	底(4.5)	密・還・締・乳白 釉調=均質に施釉	外面に牡丹を配し、周囲に微塵唐草を施す。見込みに三友 を表す。呉須はベロ藍。	産不詳
10-00118	磁器 印判 染付 飯碗	覆土内 破片	口(13.6) 底(4.2) 高5.6	密・還・締・乳白 釉調=均質に施釉	外面口唇部から、縦線格子を囲む雲形文を配し、他に、菊・ 松を配する。呉須はベロ藍。	産不詳
10-00119	磁器 白磁皿	覆土内 破片	口(13.6) 底(7.2) 高3.1	密・還・締・乳白 釉調=透明釉を均質に施釉	体部は丸味を帯び、口縁部は外傾する。器厚は薄い。底面に 青緑の釉調で「A.T.china X・・」が認められる。	産不詳
10-00120	磁器 錦手鉢	覆土内 破片	口(17.6) 底(8.0) 高5.4	密・還・締・乳白 釉調=均質に施釉	模様は8分割と考えられる。松は緑・菊は赤を左に、亀甲に 菊を赤・松を緑に右に配している。下絵の線描きは黒。	産不詳
10-00121	磁器 貧乏徳利	覆土内 破片	底(12.4)	密・還・締・灰 釉調=乳濁	轆轤成整形左回転。屋号の「屋」一文字が残存する。	産不詳
10-00122	焼締陶器 瓶か	覆土内 破片	厚0.7	粗・還・締・暗灰・石英・微粒雲母 釉調=薄鉄釉	紐作り後轆轤右回転成整形。器内外面は鉄釉を薄く施軸する。	大戸産か
10-00123	焼締陶器 搦鉢	覆土内 破片	厚0.7	密・酸・締・暗赤褐・石英	紐作り後轆轤左回転成整形。卸し目は8+α本。	産不詳

B区第19号溝状遺構(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00124	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	厚0.9	密・還・締・内面暗赤/外面・断面暗 灰・白色鉱物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。	産不詳
10-00125	土製品 紡錘車か	覆土内 1/2残	径(9.0) 高2.2 重94.0	並・還・硬・白灰・夾雑物少	轆轤成整形右回転。上面側は長石等が溶解しガラス化が認められる。	産不詳
10-00126	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	厚0.9	密・還・締・暗灰～暗赤・透明鉱物 粒子・石英	紐作り後轆轤右回転成整形。複合口縁部の器外面側を欠損する。	常滑産
10-00127	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	厚1.0	粗・還・締・灰・夾雑物少・自然釉 灰オリーブ	紐作り後叩き整形。外面は叩き不詳、宛具は素文。	常滑産
10-00128	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	厚1.0	密・還・締・暗灰～暗赤・白色微粒 子	紐作り後叩き整形。外面は叩きは不詳、宛具は素文。	東海産か
10-00129	瓦 本瓦 女瓦	覆土内 破片	厚2.3	並・還・軟・白灰・シルト質・黒色 鉱物粒子	表面はミガキ仕上げ。裏面・側端部は篋撫で仕上げ。一枚作りか。生地土は粘土化したローム土か。	
60-00001	ガラス製品 小瓶	覆土内 口唇部欠損	口(1.2) 高(6.2) 胴最3.5 厚1.15	色調・淡い青緑/重13.03	袋状を呈する。側部縦位に型のみ残る。口縁部・肩部に型目が残る。気泡の内包量は4。	
60-00002	ガラス製品 小瓶	覆土内 完形	口1.45 頸1.3 底2.0 高7.1	色調・コバルトブルー/重20.04	器形の横断面は八角形を呈する。器面に「神業」、裏面に「南回生堂」の陽刻が認められる。気泡の内包量は2。	
60-00003	ガラス製品 小瓶	覆土内 完形	長7.6 口1.3 最幅2.1 下径0.6	色調・薄茶/重15.06	器面に「組合目業」裏面に「ZENNKORENN」の陽刻が認められる。上下蓋は欠損する。気泡の内包量は3。	
60-00004	ガラス製品 小瓶	覆土内 完形	口3.3 胴最3.6 底3.0 高3.6	色調・薄い緑/重35.70 衝26.8cc	短い筒型を呈する。蓋止めの螺旋は3段が観察される。気泡の内包量は5。	
60-00005	ガラス製品 小瓶	覆土内 破片	口3.7 肩4.8 底4.0 高5.1	色調・ミルクホワイト/残重42.47	底部高台は外側に張り出し、体部・胴部は直線的に立ち上がる。口縁部はスクリューを設ける。気泡の内包量は1。	
60-00006	ガラス製品 小瓶	覆土内 完形	口2.0 胴最5.0 底4.2 高9.0	色調・茶/重120.15/衝120ml	筒型の胴部から天井部は丸みを帯び立ち上がる。外面に目盛りと型合わせ目認められる。気泡の内包量は1。	
20-00021	石製品 砥石	覆土内 破片	残長7.5 幅3.1 厚3.6 重88.98	流紋岩	使い減りが顕著。未使用面1面ある。手持砥。	
20-00022	石製品 砥石	覆土内 破片	残長5.0 幅3.7 厚1.2 重46.24	流紋岩	使い減りは緩やか。裏面は粗い砂岩質の拱頂面。置砥か。	
20-00023	石製品 砥石	覆土内 完形	長10.5 幅2.9 厚2.0 重95.90	砥沢石	横断面が形状形に加工されている。4面を使用している。手持砥。	
40-00010	鉄器 釘	覆土内 部分欠損	残長5.7 幅0.4 厚0.4 重4.9		断面正方形を呈する。錆化が顕著。	
40-00011	鉄器 不明	覆土内 部分欠損	長3.9 幅6.3 厚1.3 重16		隅丸三角形を呈する。断面は波型を呈する。三角に釘が残存するが先端を欠損する。	
40-00012	鉄片 不詳	覆土内 破片	残長5.1 残幅4.1 残厚0.3 残重8.3		板状の鉄片。詳細不詳。	
40-00013	鉄器 把手	覆土内 部分欠損	残長4.6 幅8.7 厚1.25 重51		和單筒把手。錆化が顕著。断面円形を呈する。	
40-00014	鉄器 馬蹄	覆土内 部分欠損	残長11.5 幅11.6 厚0.6 重149		表面の両側に轆を施し内面に釘穴を設けている。釘穴には断面正方形の釘が残存している。片減り(?)が顕著。	
40-00015	喫煙具 雁首	覆土内 部分欠損	残長5.0 幅1.2 厚1.0+α 重8.7		雁首を欠損する。羅字の差込部分が押しつぶされている。側面に銀ロウ接合部分が認められる。	
40-00016	喫煙具 吸口	覆土内 完形	長5.2 幅1.4 厚4.25 重7.9		吸口の先端を欠損する。羅字の差込部分は押しつぶされている。接合は銀ロウ。	
40-00017	喫煙具 吸口	覆土内 4/5残存	残長4.8 幅1.2 厚0.7 重6.2		二つの部分からなる。羅字側と吸口側は接合されている・3箇所ともに銀ロウで接合されている。	
40-00018	貨幣 銅貨	覆土内 完形	径1.85 厚0.1 重1.8		大正5年製5厘銅貨。	
40-00019	貨幣 銅銭	覆土内 完形	径2.2 厚0.1 重1.1		寛永通寶。背面は無紋。錆化が進んでいる。	
40-00020	貨幣 銅銭	覆土内 完形	径2.3 厚0.1 重2.1		寛永通寶。背面は無紋。錆化は少なく残存良好である。	
40-00021	貨幣 銅銭	覆土内 完形	径2.3 厚0.1 重1.7		寛永通寶。背面は無紋。やや錆化がやや進んでいる。	
40-00022	礫剥片	覆土内 完形	長5.9 幅5.6 厚2.1 重44		礫の剥片上に、ノロ状の流動滓が付着する。	

C区第16号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
40-00023	鉄滓	覆土内 破片	残長5.9 残幅6.4 残厚3.9 残重240		破砕後被熱している。表面がかせている。全体に若干磁力(磁力5)を呼ぶ。	
40-00024	鉄滓	覆土内 破片	残長8.9 残幅7.5 残厚4.0 残重240		全体に大きい泡孔が多い。全体に若干磁力(磁力5)を呼ぶ。	

B区第20号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00130	須恵器 坏か碗	覆土内 破片	厚0.3	並・中・軟・黄灰・夾雑物少	轆轤成整形右回転。口唇部に焼成前の粘土小粒が付着する。	東毛産

B区第22号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00131	須恵器 坏か碗	覆土内 破片	口(12.8)	並・還・軟・灰白～灰・白色軽石・ 黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。器厚は厚目。	東毛産
20-00024	礫器 擦石	覆土内 破片	長10.1 幅7.4 厚3.3 重314.45	粗粒礫石安山岩	礫の扁平面が摩滅する。小口・縁辺は塙打に伴う剥離が認められるが、擦りと叩きを交互に繰り返している。	

B区第23号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00132	軟質陶器 焙烙	覆土内 破片	厚1.1	並・酸・並・明黄褐・黒色鈹物粒子	底部は型作り。体部・口縁部は紐作り後轆轤右回転成整形。	東毛産
10-00133	軟質陶器 焙烙	覆土内 破片	厚1.0	並・中・並・外黒褐・内面灰黄・微 粒状夾雑物微量	底部は型作り。体部・口縁部は紐作り後轆轤右回転成整形。	東毛産
10-00134	施釉陶器 鉄釉 鉢	覆土内 破片	口(25.0)	並・還・締・黄灰・夾雑物微量 釉調=薄い	轆轤成整形右回転。摺鉢の可能性も有る。	
10-00135	施釉陶器 鉄釉灯火皿	覆土内 破片	口(6.8) 最大径8.8	並・還・硬・灰黄・夾雑物無し	轆轤成整形右回転。体部は回転斲削り。器内外面に鉄釉を施す。	
10-00136	施釉陶器 鉄釉 摺鉢	覆土内 破片	底(12.6)	並・還・締・黄灰 釉調=薄い	轆轤成整形右回転。卸目は1単位23本。	
10-00137	磁器色絵付 鉢	覆土内 破片	胴最13.0	密・還・締・乳白 釉調=ダミは少ない	外面文様は、呉須で横(?)を下絵に黒、中央部に橙で彩色している。	
10-00138	鉄器 染付 皿	覆土内 破片	口(14.0) 底(8.6) 高4.0	密・還・締・乳白 釉調=ダミは少ない	外面に唐草を描き、内面に意匠不明の草花を描く。呉須は精製呉須。	
20-00025	石造品 石製摺鉢	覆土内 破片	口(12.2) 底(12.0) 高9.5	粗粒輝石安山岩	作りは石臼工人によると考えられる。外面は塙打整形、内面は鍋底状でよく磨かれた状態。	
20-00026	石造品 五輪塔地輪	覆土内 上半欠損	1辺35.5 残高20	馬見岡凝灰岩	底面に鑿の加工痕が残る。側面は磨き仕上げになっている。	

B区第24号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00139	軟質陶器 焙烙	覆土内 破片	厚0.3	並・酸・並・明黄褐・黒色鈹物粒子・ 透明鈹物粒子	底部片。非常に薄い作り。底面は型目が顕著に残る。内面は轆轤目を顕著に残す。	東毛産
10-00140	磁器 染付 湯呑	覆土内 破片	底(3.2)	密・還・締・乳白 釉調=ややくすむ	見込みに手描のコンニャク判を施す。外面模様は破片のため詳細不明。	産不詳
20-00027	石造品 五輪塔地輪	覆土内 部分欠損	1辺30.5	馬見岡凝灰岩	2片に割れた状態。実測図は机上で合成した。側面は磨き仕上げ。穴は後世に施された可能性がある。	

B区第26号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00141	須恵器 環	覆土内 破片	底(7.4)	並・還・軟・暗灰~黒・白色微粒子・ 黒色鈹物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。作りが厚い。	東毛産笠懸 寄りか
10-00142	施釉陶器 鉄釉 鉢	覆土内 破片	底(14.0)	並・還・硬・黄灰 釉調=薄い	轆轤成整形右回転。底面は回転斲削整形。施釉は全体に薄く施している。	産不詳
10-00143	施釉陶器 鉄釉 摺鉢	覆土内 破片	底(14.0)	並・還・硬・黄灰 釉調=濃い目	轆轤成整形右回転か、釉の被覆により判別困難。卸し目10+ α 単位。	産不詳
20-00028	石製品 砥 石 手持砥	覆土内 破片	残長7.1 幅2.1 厚2.4 重68.46	砥沢石	両端を欠損する。火中に寄り黒褐色に燻れている。2側面は未使用で、断面逆台形状を呈する。使い減りは少ない。	
20-00029	石製品 砥 石 手持砥	覆土内 破片	残長11.2 幅3.05 厚2.8 重116.05	砥沢石	両端を欠損する。火中に寄り黒褐色に燻れている。3側面は未使用で、山形に使い減っている。	

C区第27号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00144	土師器 壺	覆土内 破片	厚0.5	並・酸・並・鈍橙・微粒状石英	外面は斲削り、内面は撫で整形を施している。細片のため産詳細不詳。	東毛産

B区第28号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00145	土師器 環	覆土内 破片	口(12.0) 底(8.4)	並・酸・並・鈍黄橙・透明鈹物粒子・ 黒色鈹物粒子	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残す。	東毛産
10-00146	土師器 環	覆土内 破片	口(13.6) 底(10.3)	並・酸・並・鈍黄橙・ β 石英・黒色鈹 物粒子	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残す。	東毛産
10-00147	土師器 壺	覆土内 破片	口(22.0) 頸(20.6)	並・酸・並・鈍褐・黒色鈹物粒子・ 夾雑物微量	「コ」の字状口縁。頸部に粘土紐の接合痕跡を留める。外面は斲削り、内面は撫で整形。	東毛産
10-00148	土師器 環	覆土内 破片	厚0.3	並・酸・並・鈍橙・透明鈹物粒子・ 夾雑物少	底部片。外面は斲削りを施し、内面は撫で整形している。また、内面に底面に判読不能の墨書が認められる。	東毛産 墨書-3
10-00149	須恵器 環	覆土内 破片	口(12.8) 底(7.6) 高3.4	並・酸・並・暗灰・茶褐・白色微粒 子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部はやや張り口縁部は直線的に立ち上がる。器厚は薄い。	東毛産か伊 勢崎産
10-00150	須恵器 環	覆土内 破片	口(12.4)	並・還・硬・灰・黒色粒子・白色粒 子	轆轤成整形右回転。立ち上がりは直線的、口縁部が屈曲する状態。	東毛産
10-00151	須恵器 壺	覆土内 破片	底(8.0)	並・還・硬・灰・夾雑物微量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。高台は立ち上がり部に設けている。	東毛産
10-00152	須恵器 壺	覆土内 破片	底(7.0)	並・酸・並・灰白・黒色鈹物粒子・ 微粒状石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。高台は底部の角部に設けている。	東毛産
10-00153	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚0.8	密・還・締・暗灰・シルト縞・夾雑 物微量	紐作り後轆轤右回転成整形、肩部に2条の横線を施し、下位に裾の刺突を廻らす。	栗附産
10-00154	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚0.7	並・還・硬・灰・黒色粒子・白色粒 子・白色微粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。	太田産か笠 懸産
10-00155	須恵器 羽釜	覆土内 破片	鈔(25.0) 胴(22.0)	並・還・硬・灰・白色微粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。鈔は貼り付け。	
10-00156	須恵器 大甕	覆土内 破片	口(45.4)	密・還・締・暗灰・白色微粒子(微 粒状石英)	紐作り後轆轤右回転成整形。過度の焼成により、器面が小粒状に発泡している。	太田産か
40-00025	鉄滓	覆土内 破片	残長5.0 残幅4.9 残厚4.7 残重203		表面側に孔状の凹凸が目立つ。全体に磁力(磁力5)をやや帯びる。	

B区第28号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
40-00026	鉄滓	覆土内 破片	残長9.8 残幅7.6 残厚6.0 残重493		表面側は溶解した滑らかな面に小さい凹凸が全体に及ぶ。底面には炉床が付着。磁力(磁力6)をやや帯びる。	

B区第29号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00157	土師器 環	覆土内 破片	口(12.0) 底(10.2)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉾物粒子	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型溝を残す。底部は篋削り。	
10-00158	土師器 環	覆土内 破片	口(11.8) 底(7.4)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型溝を残す。底部は篋削り。	
10-00159	土師器 甕	覆土内 破片	口(19.0) 頸(17.6)	並・酸・並・鈍黄橙・透明鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子・白色微粒子	「コ」の字状口縁。内外面は撫で成形。	東毛産
10-00160	須恵器 環	覆土内 破片	口(12.0) 底(6.4) 高3.2	並・還・並・灰・白色微粒子	轆轤成形右回転。底部は回転糸切。立ち上がり部に若干段を有しやや丸味を帯びた口縁部が立ち上がる。	東毛産か太田産
10-00161	軟質陶器 播鉢か	覆土内 破片	底(12.6)	並・酸・並・鈍黄橙・石英多・黒色 鉾物粒子・透明鉾物粒子	見込み中央が盛り上がるが、立ち上がり周辺は摩滅が認められない。	東毛産
10-00162	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口(21.0) 鈎部(25.2) 胴最(25.0)	並・酸・硬・鈍黄橙・β石英・黒色鉾 物粒子	紐作り。口縁部に篋の小口の撫で跡が認められる(叩き状の痕跡)。鈎部下位は横位の篋撫で整形。	東毛産
10-00163	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口(10.6) 頸(7.0) 底(8.6)	密・還・締・オリープ黒・微粒状石 英	紐作り後轆轤右回転成形。口縁部内外面及び見込みに自然釉の付着が認められる。	兼附産か東海産
10-00164	須恵器 鉢	覆土内 破片	口(31.0)	並・還・並・灰・白色微粒子・黒色 粒子	紐作り後轆轤右回転成形。外傾する口縁部から受け口状に口唇部が立ち上がる。	東毛産か太田産
10-00165	施釉陶器 灰釉 段皿	覆土内 破片	口(18.0)	密・還・締・灰白 釉調=オリープ灰で全体に均質	轆轤成形右回転。内面全体に施釉する。施釉は浸し掛けか。	狼投産
10-00166	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(16.6)	密・還・締・白灰 釉調=薄く透明	轆轤成形右回転。施釉は浸し掛け。	狼投産
10-00167	施釉陶器 緑釉 皿	覆土内 破片	口(14.6) 底(7.6) 高2.8	密・還・締・黒褐 釉調=灰オリープ均質	轆轤成形右回転。高台は付け高台。外面体部に暗文状の篋描きが認められる。	美濃産
10-00168	土師器 手捏	覆土内 破片	口(3.2) 底(2.7) 高2.9	並・酸・並・明黄褐・黒色鉾物粒 子	上端側は、内面に向かい粘土の押しつぶしが見られる。器内外面指撫で整形を施している。	東毛産
10-00169	土製品 紡錘車	覆土内 破片	上径(6.5) 下径(4.4) 高1.5	並・酸・並・鈍黄橙・β石英・黒色鉾 物粒子	上面は指撫で、下面・側面は篋撫でを施すが、撫では半ば乾燥がやや進んだ状態のため、器面は研磨状の滑沢。	
20-00030	石製品 紡錘車	覆土内 破片	上径(5.3) 下径(3.2) 高1.8	蛇紋岩	小単位の欠損が多い。側面は金属器による削り痕が明瞭に認められる。	
20-00031	礫器 擦石か砥石	覆土内 破片	残長13.6 幅8.1 厚2.9 重582.20	珪質変質岩	扁平面の両面が摩滅する。小口部と截断部に剝離が認められる。扁平面に鉄錆が付着する。	
20-00032	礫器 叩き石	覆土内 破片	長12.2 幅6.1 厚4.2 重357.98	粗粒輝石安山岩	全体に端打痕が顕著で、裏面側は端打後の摩滅が認められる。	

B区第30号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00170	須恵器 環か埴	覆土内 破片	口(12.8)	並・還・並・灰・黒色粒子・白色微 粒子	轆轤成形右回転。腰部が張り、口縁部は短く外反する。	太田産か笠懸産
40-00027	鉄器 不詳	30溝覆土 破片	残長2.9 幅2.1 厚0.5 重6		板状の鉄片。図中上面がわにややめくれ状の盛り上がりか認められる。模状の使用か。	

B区第34号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00171	土師器 甕	覆土内 破片	底(6.4)	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉾物粒子・ 白色軽石	底面には篋削りを施す。内面は篋撫でを施している。	東毛産 墨書-
10-00172	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.7	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉾物粒子・ 赤褐色粒子・白色微粒子	外面は斜位の篋削り。内面は横位の撫で整形を施している。	
10-00173	施釉陶器 灰釉 瓶	覆土内 破片	厚0.5	並・還・硬・灰 釉調=オリープ灰厚い	紐作り後轆轤右回転成形。器内外面の轆轤痕は顕著だが、施釉が厚い。	狼投産

B区第38号溝状遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00174	須恵器 環か埴	覆土内 破片	厚0.3	並・還・並・灰白・細粒状石英多量	轆轤成形右回転。口唇部は薄く短く外反する。	東毛産
10-00175	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	厚0.3	並・還・硬・灰 釉調=灰オリープ厚い	轆轤成形右回転。施釉は厚いが、二次焼成により釉が変質している。	狼投産

B区第1号道跡遺構

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00176	須恵器 埴	覆土内 破片	底(8.0)	並・酸・軟・明黄褐・黒色鉾物粒 子	轆轤成形右回転。高台は付け高台。高台は底部の内側角部に設けている。	

C区第1号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00177 52	土師器 埴	貯蔵穴 破片	口9.3 頸5.9	並・酸・並・橙・β石英・白色粒子	紐作り。口縁部は丁寧な横撫でを施す。肩部から頸部にかけては、小単位に寛撫でを施している。	東毛
10-00178 52	土師器 小形甕	貯蔵穴 破片	胴最11.5 底7.1	並・酸・並・赤橙・黒灰・白色粒子 微量・黒色鉱物粒子 (見込み)	器厚は厚くスングリした作り。見込みに粗い砂を混入する粘土を塗っている。外面は寛撫でを施している。	
10-00179 52	土師器 小形甕	貯蔵穴 破片	口10.7 頸9.7 胴最(11.6)	粗・酸・並・鈍褐・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	紐作り後撫で整形。口縁部は直立気味に立ち上がる。肩はやや張る。外面は風化により器面が荒れている。	東毛
10-00180 52	土師器 甕	甕内 破片	底5.6	並・酸・硬・浅黄橙・細粒状β石英・ 黒色鉱物粒子	紐作り。外面は縦位の寛削り後同寛撫で整形を施している。	
40-00028	鉄器 鏝	床面直上層 葦欠損	残長4.3 身幅2.6 重0.4		有茎平根三角形腹伏式か。錆化により身の部分が膨れている。	
20-00033	礫器 擦石	覆土内 部分欠損	残長6.3 幅6.5 厚5.5 重201	二ツ岳軽石	平坦気味の面に摩滅が認められる。	

C区第2号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00181 52	土師器 坏	貯蔵穴上層 完形	口13.0 高5.3	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉱物粒子 多量・石英	内斜口縁。型作り。口縁部直下に型膚を残す。体部・底部は寛撫でを小単位に施し、内面に暗文を施している。	東毛
10-00182 52	土師器 坏	貯蔵穴下層 1/2残	口(13.4) 高5.3	並・酸・並・橙・微粒雲母・シルト 質気味	内斜口縁。型作り。口縁部直下に型膚を残す。体部・底部は寛撫でを小単位に施し、内面に暗文を施している。	藤岡産
10-00183 52	土師器 坏	貯蔵穴下層 1/2残	口(14.0) 高5.1	並・酸・並・鈍褐・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	内斜口縁。型作り。口縁部直下に型膚を残す。体部・底部は寛撫でを小単位に施し、内面に暗文を施している。	東毛A
10-00184 52	土師器 坏	貯蔵穴上層 完形	口14.1 高5.7	並・酸・並・明赤褐・β石英・黒色鉱 物粒子・赤褐色石英	内斜口縁。型作り。口縁部直下に型膚を残す。体部・底部は寛撫でを小単位に施し、内面に暗文を施している。	太田産か
10-00185 52	土師器 坏	甕左覆土下 層1/2残	口(14.1) 高(5.0)	並・酸・並・鈍褐・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	内斜口縁。型作り。口縁部直下に型膚を残す。体部・底部は寛撫でを小単位に施し、内面に暗文を施している。	東毛A
10-00186 52	土師器 坏	貯蔵穴下層 完形	口11.7 高5.6	並・酸・硬・橙・浅黄橙・黒色鉱物 粒子・β石英・夾雑物少	型作り。口縁部直下に型膚を残す。体部・底部は寛撫でを小単位に施し、内面は寛撫でを施す。殆ど未使用の器面。	西毛産か
10-00187 52	土師器 坏	貯蔵穴上層 完形	口11.7 高6.3	並・酸・並・黒・灰褐・白色軽石・ β石英・黒色鉱物粒子	作りは不詳。体部・底部は寛撫でを施している。底面全体に黒斑が認められる。生地土は粘土化したローム土か。	東毛A
10-00188 52	土師器 模倣坏	完形	口12.9 高5.5	並・酸・並・橙・β石英・黒色鉱物 粒子	外縁は寛撫でで表出。型作り。口縁部直下に型膚を残す。体・底部は寛撫でを小施し、内面に暗文を施している。	東毛A
10-00189 52	土師器 坏	貯蔵穴下層 1/4残	口(14.9) 高(6.5)	並・酸・並・暗褐・白色軽石・黒色 鉱物粒子	型作り。口縁部直下に型膚を残す。体部・底部は寛撫でを小単位に施している。内面に暗文を施している。	東毛
10-00190	土師器 小形甕	覆土内 破片	口(13.0) 胴最(13.4)	並・酸・並・鈍褐・黒色鉱物粒子・ 赤褐色石英	口縁部は短く外傾する。胴部は丸味を帯、頸部直下は横撫でを施す。胴部上半は寛削り、下半は寛撫でを施す。	東毛A
10-00191 53	土師器 直口壺	甕内 2/3残	口(10.4) 胴最(13.4) 底6.0	粗・酸・並・鈍褐・白色軽石・黒色 鉱物粒子	口縁部は直立する。内外面は寛撫でを小単位に施している。全体に作りは粗雑。	東毛A
10-00192	土師器 甕	甕・貯蔵穴 破片	口(17.8) 頸(15.0)	並・酸・硬・黄橙・β石英・黒色鉱物 粒子	口縁部は「く」の字状に立ち上がる。外面は寛削り。内面は撫で整形を施す。	東毛
10-00193	土師器 甕	甕内 破片	底(5.0)	並・酸・並・浅黄橙・白色微粒子・ 白色鉱物粒子	紐作り。外面は方向性の無い撫で整形。内面は横位の寛撫でを施す。	
10-00194	土師器 甕	貯蔵穴内 破片	底(7.0)	並・酸・硬・橙・黒色鉱物粒子・白 色微粒子	紐作り。外面は横位の寛削り。内面は撫で整形。	
10-00195 53	土師器 甕	貯蔵穴上層 完形	口17.7 頸14.6 底5.0 高28.1	並・酸・並・暗黄褐・β石英・石英多 量・凝灰岩片・白色粒子	口縁部は「く」の字状に立ち上がる。外面は強い篋を押し付ける撫で整形。内面は撫で整形を施す。	東毛
10-00196 53	土師器 甕	甕内 破片	口(16.5) 頸(13.0) 胴最27.2	並・酸・並・暗黄褐・β石英・石英多 量・凝灰岩片・白色粒子	口唇部は欠損するが、擬似口縁に整形。外面は丁寧な寛撫で球形を現す。内面も寛撫でを施すが、風化が顕著。	東毛
40-00029	鉄器 釘	C2住床直 層破片	残長4.8 幅0.4 厚0.5 重4.5		頭部の先端が旧欠。錆化が顕著。	

C区第1号井戸跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00197	土師質土器 皿	覆土内 破片	厚0.5	並・酸・並・明黄褐・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・白色鉱物粒子	轆轤成整形左回転。	東毛産
10-00198	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	厚0.8	並・酸・並・器内外面黒褐・断面鈍 黄橙・白色鉱物粒子	紐作り後轆轤左回転成整形。	東毛産
40-00030 ・31	鉄塊	覆土内 完形	長3.0 幅2.9 厚(2.9) 重24.2		同一の鉄塊が錆化現象により割れている。磁力は強く磁石を振り下げる。磁力は1。	
20-00034	礫器 擦石	覆土内 破片	長10.6 幅9.9 厚2.8	粗粒輝石安山岩	扁平面が顕著に摩滅し、擦痕も認められる。縁辺に壱打磨が認められる。	

C区第2号井戸跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00199 53	土師質土器 小皿	覆土内 完形	口8.6 底5.5 高2.05	並・酸・並・赤褐色粒子・石英	轆轤成整形左回転。底部は回転糸切。	東毛産
10-00200 53	土師質土器 皿	覆土内 部分欠損	口11.2 底6.3 高2.55	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉱物粒子	轆轤成整形左回転。底部は回転糸切。	東毛産
20-00035	石製品 下白	覆土内 破片	径(26.2) 高10.5 重2,050	粗粒輝石安山岩	細片化しているが、8分割の目と考えられる。軸棒の穴は、成形時の突き込み痕が残る。	
20-00036 54	石製品 不詳	覆土内 部分欠損	長34.2 幅31.3 高20.0 重15,200	粗粒輝石安山岩	外形は円形状を呈するが、見込みは長方形を呈する。外面は粗いハツリ内面は突き込み。口唇部は磨かれている。	
20-00037 53	石製品 下白	覆土内ハン ギリ欠損	上19.6 底27.8 高12.0	粗粒輝石安山岩	ハンギリ端部を欠損し、上白面・底面を部分的に欠損する。上白面は分割の目も殆ど磨り減った状態。8分割。	

C区第4号井戸跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
20-00038	礫器 擦石	覆土内 破片	長11.0 幅11.0 厚4.0 重7830.4	粗粒輝石安山岩	扁平面が顕著に摩滅し、擦痕も認められる。	

C区第5号井戸跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00201 54	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 1/2残	口(28.6) 頸(22.6) 底(18.6)	並・酸・並・鈍橙・赤褐色粒子・黒色 鈳物粒子・夾雑物微量	紐作り後轆轤左回転成整形。外面に厚い塗幕状に炭化物が付着する。	東毛産
20-00039 54	石造品 板碑	覆土内 1/2残	残長49.3 幅23.5 厚3.2	緑色片岩	種字キリークと反花座を彫り込む。表面は磨き仕上げ、裏面は棒状鑿の突き込みが横方向に顕著に残る。	

C区第6号井戸跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00202	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	厚0.9	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈳物粒子・ 夾雑物少	底面・立ち上がりは横位の回転篋無でを施している。轆轤成整形左回転。	東毛産
10-00203	転用品 円盤	覆土内 破片	径7.5	並・酸・軟・鈍黄橙・白色微粒子・ 黒色鈳物粒子	土師質土器皿の底部片を加工し円盤に転用している。轆轤成整形左回転。底部は回転糸切。	東毛産

B区第7号井戸跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00204	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.4	並・酸・並・明黄褐・黒色鈳物粒子・ 透明鈳物粒子・微粒状石英	外面は横位・斜位の篋削り、内面は横位の篋無で整形。	東毛産

B区第8号井戸跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00205	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.3	並・酸・並・浅黄橙・黒色鈳物粒子	口縁部外面・内面は横位の篋無で整形。外面体部は縦位の篋削りを施している。	
10-00206	須惠器 大甕	覆土内 破片	厚1.2	並・還・締・暗灰・白色鈳物粒子・ 石英片岩(粗粒)	紐作り後叩き整形。外面は板目叩きか、宛具は素文。	太田産か

C区第1号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00207 55	土師器 坏	覆土内 1/2残	口(12.0) 底6.8 高4.1	並・酸・並・鈍橙・黒褐・黒色鈳物 粒子・白色粒子	型作り。口縁部は横篋無でを施す。口縁部直下軽い指撫で整形を施し、部分的に型膚を残す。底面に離れ砂。	東毛産

C区第2号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00208	土師器 坏	覆土内 細片	厚0.5	並・酸・並・鈍橙・白色粒子・黒色 鈳物粒子	体部周辺の破片。外面は篋削り、内面は篋無で整形。	東毛産
10-00209	土師器 甕	覆土内 細片	厚0.5	並・酸・並・鈍橙・透明鈳物粒子・ 夾雑物微量	底部周辺の破片。外面は縦位の篋削り、篋無で整形。	東毛産

C区第5号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00210	須惠器 坏か塊	覆土内 細片	口(15.6)	並・酸・軟・赤橙・明黄褐・細粒状 チャート	轆轤成整形右回転。器面の風化が顕著。被二次焼成か。	東毛産

C区第6号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00211 55	土師質土器 皿	覆土内 完形	口8.4 底5.2 高2.1	並・酸・並・鈍橙・透明鈳物粒子多 量	轆轤成整形左回転。口唇部が煤けている。	東毛産
10-00212	須惠器 蓋	覆土内 破片	厚0.7	並・還・並・灰・黒色鈳物粒子・透 明鈳物粒子	轆轤成整形右回転。天井部は回転篋削り。	東毛産
10-00213	軟質陶器 焙烙	覆土内 破片	厚0.5	並・酸・並・鈍橙・透明鈳物粒子多 量・黒色鈳物粒子・岩片	底面は型目。内面は轆轤整形痕。	東毛産
20-00040 55	装身具 勾玉	覆土内 破片	残長2.2 幅1.0 厚1.0 重2.75	石英	頭部を欠損する。割れ口は新鮮(調査時の欠損か)。	

C区第7号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00214	須惠器 塊	覆土内 破片	高台基部(6.8)	並・還・軟・灰・透明鈳物粒子・縞 状粘土	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。	東毛産
10-00215	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	厚0.3	密・還・締・白灰 釉調=透明で均質	轆轤成整形右回転。施釉は浸掛けか。	

富田漆田遺跡 諸元

C区第10号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00216	須惠器 盤か	覆土内 破片	厚0.5	並・酸・硬・鈍橙・透明鉱物粒子・ 夾雑物微量		轆轤成整形右回転。高台は付け高台。 東毛産

C区第12号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00217	須惠器 碗	覆土内 破片	底(6.2)	並・中・並・浅黄橙・灰・夾雑物少・ 透明鉱物粒子		轆轤成整形右回転。高台は付け高台。 東毛産

C区第14号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00218	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.3	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子		外面は横撫で整形・横位の寛撫で整形。内面は横位の撫で整形。 東毛産

C区第15号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00219	土師器 甕か	覆土内 破片	厚0.8	並・酸・並・鈍橙・透明鉱物粒子・ 夾雑物少		外面は縦位の寛削り後横位の軽い寛撫で整形、内面は横位の 寛撫で整形。 東毛産

C区第21号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00220	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.6	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子		外面は縦位の寛削り、内面は横位の寛撫で整形。 東毛産

C区第22号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00221	土師器 坏か	覆土内 破片	厚0.6	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子		底面に離れ砂。器種は甕・羽釜も考慮される。 東毛産

C区第26号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00222	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.4	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子		外面は縦位の寛削り、内面は横位の寛撫で整形。 東毛産

C区第31号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00223	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.6	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉱物粒子		外面は縦位の寛削り、内面は横位の寛撫で整形。 東毛産

C区第34号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00224	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.3	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子		外面は縦位の寛削り、内面は横位の寛撫で整形。 東毛産

C区第35号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00225	須惠器 坏	覆土内 破片	□(14.0)	並・還・並・灰・透明鉱物粒子・黒 色粒子		轆轤成整形右回転。 東毛産

C区第36号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00226	土師質土器 皿	覆土内 一部欠損	□8.0 底4.7 高2.05	並・酸・並・内面黒褐・外面鈍橙・ 白色微粒子・白色鉱物粒子		轆轤成整形左回転。底部は回転糸切。 東毛産

C区第39号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00227	須惠器 坏	覆土内 細片	厚0.5	並・酸・並・鈍橙・透明鉱物粒子多 量		轆轤成整形右回転。細片のため詳細不詳。 東毛産

C区第61号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00228	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.8	粗・酸・並・黄橙・粗粒砂・黒色鉱 物粒子		「く」の字上に開く口縁破片。外面は寛撫での痕跡が窺える。 東毛産

B区第63号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00229	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.8	並・酸・硬・暗灰・白色微粒子・白 色鈳物粒子	紐作り後叩き整形。外面は板目叩き、宛具は素文。	太田産か笠 懸産

B区第64号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00230	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.8~0.3	並・酸・並・鈍橙・透明鈳物粒子・ 夾雑物少	外面は横位の寛削り、内面は横位の寛撫で整形。	東毛産
10-00231	須恵器 瓶	覆土内 破片	口(13.2)	並・還・硬・灰・夾雑物微量	紐作り後轆轤右回転成整形。	東毛産

C区第68号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00232	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.3	並・還・硬・灰・白色粒子・白色微 粒子	轆轤成整形右回転。細片のため詳細不詳。	東毛産

C区第70号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00233	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.6	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈳物粒子・ 透明鈳物粒子	外面は縦位・斜位の寛削り、内面は横位の寛撫で整形。	東毛産

C区第71号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00234	土師器 甕か	覆土内 破片	厚0.9	並・酸・並・鈍橙・白色鈳物粒子・ 石英	底面に離れ砂。羽釜と甕の判別が出来ない。	東毛産

C区第72号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00235	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.7	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈳物粒子・ 透明鈳物粒子	外面は斜位の寛削り、内面は横位の寛撫で整形。	東毛産

C区第74号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00236	須恵器 環	覆土内 破片	口(12.6)	並・酸・並・黄橙・黒色鈳物粒子・ 夾雑物少	体部直下は寛削り、口縁部・内面は横位の撫で整形。体部は 器面の風化により観察不能。	東毛産

B区水田跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
40-00032	鉄器 刀か	B下水田面	残長2.7 残幅16.0 残厚0.7 残重32.3		観察以前に錆の除去作業が行われたため詳細不詳。平作りに 形作られている。	
40-00033	鉄器 火打ち鎌	B下水田面 部分欠損	残長2.7 残幅9.3 厚0.322.7 重22.7		観察以前に錆の除去作業が行われたため詳細不詳。使用痕の メクレも観察不能。	

遺構外出土遺物(1)-1

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00237	軟質陶器 鉢	C区4溝 覆土 破片	口(28.2)	並・酸・並・断面白灰・外面黒・白 色微粒子・夾雑物少量	内傾しながら直線的に立ち上がる。紐作り後轆轤右回転成整形。	東毛産か
10-00238	施釉陶器 鉄釉 揃鉢	B区B水田 跡埋土破片	口(28.0)	密・還・硬・黄灰・白色鈳物粒子	紐作り後轆轤左回転成整形。内外面に鉄釉を施釉する。卸目は 9本+α 1単位。	不詳
10-00239 55	土師質土器 皿	C区3号住 2/3残	口(7.4) 底(4.3) 高1.7	並・酸・並・浅黄橙・黒色鈳物粒子・ 白色粒子・赤褐色粒子	轆轤成整形左回転。底部は回転糸切。	
10-00240	土師質土器 皿	C区内 破片	口(7.8) 底(2.8) 高1.9	並・酸・並・鈍黄橙・赤褐色粒子・ 白色微粒子	轆轤成整形左回転。	東毛産
10-00241	土師質土器 皿	C区表土層 破片	口(8.4) 底(5.2) 高1.9	並・酸・並・鈍黄橙・白色鈳物粒子・ 白色微粒子	轆轤成整形左回転。	東毛産
10-00242	土師質土器 皿	C区表土層 破片	口(8.8) 底(6.0) 高2.2	並・酸・並・鈍黄橙・赤褐色粒子・ 黒色鈳物粒子・細粒砂	轆轤成整形左回転。	東毛産
10-00243 55	土師質土器 皿	17-P-1 (C区)破片	口(9.0) 底(5.0) 高2.4	並・酸・並・鈍黄橙・白色微粒子・ 砂質	轆轤成整形左回転。	東毛産
10-00244	土師質土器 皿	C区2面 破片	底(6.4)	並・酸・並・黄橙・白色微粒子・赤 褐色粒子・細粒砂	轆轤成整形左回転。	東毛産
10-00245	軟質陶器 内耳鍋	C区表土層 破片	口(26.0)	並・酸・並・鈍黄橙・白色微粒子・ 夾雑物少量	轆轤成整形左回転。	東毛産
10-00246	軟質陶器 内耳鍋	C区内 破片	口(28.0)	並・中・並・暗灰・黒色鈳物粒子・ 夾雑物少量	轆轤成整形左回転。	東毛産
10-00247	軟質陶器 内耳鍋焙烙	B区表土層 破片	口(34.0) 底(27.0) 高6.0	並・酸・並・外面黒・内面灰褐・白 色粒子・白色微粒子	轆轤成整形左回転。	東毛産
10-00248	軟質陶器 内耳鍋焙烙	B24溝覆土 破片	口(38.0)	粗・中・並・灰黄・黒色鈳物粒子・	轆轤成整形左回転。生地土は粘土化したローム土か。	東毛産

富田漆田遺跡 諸元

遺構外出土遺物(1) - 2

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00249	軟質陶器 内耳鍋	C区6層 破片	底(25.6)	粗・還・並・暗灰・黒色粒子・白色 微粒子・軽い	底部は型作り、体部は紐作り後轆轤左回転成整形。	東毛産
10-00250	軟質陶器 香炉	C区6層 破片	厚0.8	並・還・並・白灰・夾雑物少無し・ 軽い	紐作り後轆轤左回転成整形。口唇部は平坦。体部に重ね菱 文を印刻する。	
10-00251	施釉陶器 天目碗	C区表土層 破片	厚0.6	並・還・硬・灰・黒色微粒子	轆轤成整形左回転。釉調は厚くやや禾目を帯びる。	瀬戸産
10-00252	焼締陶器 大甕	C区内 破片	厚0.8	密・還・締・茶褐・白色鉍物粒子	紐作り後轆轤左回転成整形。外面に自然釉が付着する。	常滑産
10-00253	焼締陶器 大甕	C区表土層 破片	厚1.3	密・還・締・茶褐・白色鉍物粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は轆轤回転再整形 により逸している。	常滑産
10-00254	焼締陶器 壺か	C区表土層 破片	厚1.4	密・還・締・暗赤褐・白色鉍物粒子	紐作り後轆轤左回転成整形。内面に自然釉が付着する。底部 には塵砂が残る。	不詳
10-00255	青磁 鎗手 蓮弁文碗	C区表土層 破片	口(18.0)	密・還・締・灰 釉調=オリブグリーン	内面に模様意匠は不詳。	
10-00256	青磁 鎗手 蓮弁文碗	B区23溝 覆土 破片	厚0.5	密・還・締・灰 釉調=オリブグリーン	蓮弁は認められないが筋筋が認められる。	
10-00257	青磁 鎗手 蓮弁文碗	B区2面 5トレ破片	厚0.6	密・還・締・白灰 釉調=オリブグリーン	外面に間弁の筋筋と蓮弁が認められる。	
10-00258	青磁 鎗手 蓮弁文碗	C区表土層 破片	厚0.7	密・還・締・白灰 釉調=厚いオリブ灰	内面に片葉研形りの模様が認められる。	

遺構外出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
60-00007	玩具 オハジキ	B区表土層 破片	長径4.7 短径4.5 厚0.9 重33.8		平坦な面に融けたガラスを置き、上方から、二つ巴の型を押 捺し、二つ巴文を陽刻する。	
20-00041	石製品 砥石	B区表土層 完形	長13.2 幅3.0 厚2.1 重132.10	砥沢石	側面・裏面にノコ目が残る。手持砥。幅は1寸か。	
20-00042	石製品 砥石	C区表土層 部分欠損	長10.1+ α 幅3.0 厚2.3 重116.1	砥沢石	小口の片側を欠損する。側面・裏面にノコ目が残る。手持砥。 幅は1寸か。	
20-00043	石製品 砥石	C区表土層 破片	長5.5+ α 幅3.0 厚0.5 重16.0	珪質粘板岩	片面を欠損する。顕著な使い減りは認められない。手持砥。	
20-00044	礫器 擦石	A区内 破片	長9.4 幅9.1 厚5.1 重169.4	軽石	球状の軽石を半載し、半載面が摩擦する。	
40-00034	鉄器 不詳	17-G-15 グリッド内	残長10.3 残幅1.4 残厚0.4 残重10.1		握り鉄か。観察以前に錆の除去作業が行われたため詳細不詳。	
40-00035	鉄器 釘	27-P-2/6 層 破片	残長3.3 幅0.5 厚0.4 重4		錆化が顕著。両端共に廃棄段階には欠損している。断面長方 形を呈する。	
40-00036	鉄器 馬蹄	B区表土層 完形	長12.6 幅11.3 厚2.0 重170		表面の両側に樋を施し内面に釘穴を設けている。釘穴には断 面正方形の釘が残存している。	
40-00037	喫煙具 吸口	C区内 部分欠損	残長3.0 幅1.2 厚0.7 重8.5		吸口側が欠損する。吸口側・胴体は銀ロウ接合されている。	
40-00038	貨幣 銅銭	C区内 完形	径2.3 厚0.1 重2.7		「開元通寶」。背面は無い。私鑄銭の可能性も考慮される。	
40-00039	貨幣 銅銭	C区2面 完形	径2.4 厚0.15 重2.5		「元豊通寶」錆化は少なく残存良好である。	
40-00040	貨幣 銅銭	C区内 完形	径2.35 厚0.125 重2.9		「聖宋元寶」。背面は無い。	
40-00041	貨幣 銅銭	17-S-16 グリッド内	径2.4 厚0.15 重2.8		寛永通寶。背面は無紋。やや錆化がやや進んでいる。	
40-00042	貨幣 銅銭	B区2面 部分欠損	径2.3 厚0.075 重1.5		寛永通寶。全体に錆化が顕著で、文字がやっとなり判読できる状 態。	
40-00043	貨幣 銅銭	B27溝覆土 内 完形	径2.4 厚0.1 重2.5		寛永通寶。背面は無紋。錆化が進んでいる。	
40-00044	貨幣 鉄銭か	17-S-16 グリッド内	径2.9 厚2.9 重6.5		3枚が積層している。錆化が顕著。	
10-00259	土師器 甕	C区2号井 戸 破片	口(17.0)	並・酸・並・淡橙・高温石英・黒色 鉍物粒子・夾雑物少量	高速回転による(轆轤か)整形。外面には縦位の細かな寛削 りを施している。須恵器工人の製作が推定される。	
10-00260	土師器 小形甕	C区16溝 覆土 破片		並・酸・並・鈍橙・軽石・白色微 粒子	紐作りか。器内外面は横位の寛撫で整形を施している。つくり はやや粗雑。	
10-00261	土師器 塊	C区表土層 破片	口(11.8)	並・酸・並・鈍橙・黒色粒子・黒色 鉍物粒子・軽石状白色粒子	成形不詳。器外面は横位・斜位の寛削り。器内面は撫で整形 を施している。生地土は粘土化したローム土か。	
10-00262	土師器 短頸壺か	C区16溝 覆土 破片	頸(7.0) 胴最(9.0)	並・酸・並・黄灰・細粒砂	外面体部は横位の寛削り、上半は横位の寛撫で、内面は横位 の撫で成形を施している。	
10-00263	土師器 短頸壺	C区16溝 覆土 破片	口(8.2) 胴最(10.0)	並・酸・並・浅黄橙・白色粗粒子・ 高温石英	粘土紐の巻き上げ成形。内外面に紐の痕跡を留める。外面は 斜位の寛削り。内面は横撫でを施している。	
10-00264	土師器 埴	A区FA水 田跡 破片	底(4.4) 胴最(8.8)	並・酸・並・浅黄橙・軽石状白色粒 子・砂粒	底部は平底。器外面は横位の寛削り、器内面は寛撫で整形を 施す。体部から底部にかけて吸炭が認められる。	

遺構外出土遺物(3)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00265	土師器 高坏	C区16溝 覆土破片	脚(13.0)	並・酸・並・浅黄橙・白色粒子・赤 褐色粒子・高温石英(少量)	基部に坏部の接合部が残る。脚は中位まで縦位の細かい寛撫 で。脚端部・器内面は横撫でを施している。	
10-00266	土師器 高坏	C区16溝 覆土破片	脚(13.6) 基(3.6) 高8.3	並・酸・並・浅黄橙・白色粒子・高 温石英(少量)	脚は絞りながら器内面を指撫でを施している。外面は縦位の 寛撫で、脚端部は横撫でを施している。	
10-00267	土師器 高坏	C区16溝 覆土破片	基(3.4)	並・酸・並・黄橙・高温石英・夾雑 物少量・被二次焼成	脚部は縦位の寛削りご撫でを施し、上半に研磨を施している。 器内面は横位の寛撫で。坏部はヘソを付す。	
10-00268	土師器 高坏	C区16溝 覆土破片	基(3.6)	並・酸・並・浅黄橙・細粒砂(夾雑 物少量)	基部に坏部の接合部が残る。脚は中位まで縦位の細かい寛撫 でを施すが、後の整形の手擦れにより痕跡程度が残存。	
10-00269	土師器 坏	C区2溝 覆土破片	厚0.5	並・酸・並・黄橙・白色粒子・黒色 鉱物粒子	見込みに「R」文字状が認められるが、植物等の有機質が製 作時に混入し、焼成後文字状に残ったもの。非文字。	
10-00270	須恵器か 甕か羽釜	C区表土層 破片	底(4.4)	並・酸・並・黄橙・白色粒子・砂粒 少量	低部は隠砂が残る。立ち上がりは寛削りを施している。内面 は高速回転の撫で整形。生地は粘土化したローム土か。	
10-00271	須恵器 坏	B区2面 破片	口(12.4) 底(6.8) 高(3.1)	密・還・硬・暗灰・白色微粒子	轆轤成整形右回転。低部は回転糸切。	笠懸か太田 産
10-00272	須恵器 坏	B区2面 破片	底(7.2)	密・還・硬・暗灰・夾雑物微量	轆轤成整形右回転。低部は回転糸切後周縁部を回転筥調整。	太田産
10-00273	須恵器 坏	B区2面 破片	底(8.2)	密・還・硬・灰・黒色粒子・夾雑物 少量	轆轤成整形右回転。底部は回転筥起こし。	太田産
10-00274	須恵器 坏	B区2面 破片	底(7.0)	密・還・硬・灰・白色微粒子・夾雑 物微量	轆轤成整形右回転。低部は回転糸切後周縁部を回転筥調整。 体部が強く稜を張る状態。	笠懸産
10-00275	須恵器 坏	B区2面 破片	底(6.6)	並・酸・並・白灰・黒色粒子・白色 鉱物粒子・夾雑物少量	轆轤成整形右回転。低部は回転糸切後周縁部を回転筥調整。 周縁の筥削りは粗雑で波打つ状態になっている。	東毛産
10-00276	須恵器 坏	C区2面 部分欠損	口13.5 底6.0 高4.1	並・酸・軟・黄灰・微粒雲母・雲母 石英片岩・長石	轆轤成整形右回転。低部は回転糸切。口縁部から体部に焼成 時の吸炭が認められる。特殊な窯体構造か。	吉井産か

遺構外出土遺物(4)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00277	須恵器 坏	B区2面 破片	口13.0	並・酸・並・白灰・白色粒子(石英 か)	轆轤成整形右回転。体部が強く稜を張る状態。	栃木三義産 か
10-00278	須恵器 埴	27-T-1 1/3残	底(6.2)	並・酸・並・灰黄・黒色鉱物粒子・ 夾雑物少量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。底部器内外面は吸炭が 認められる。生地土は粘土化したローム土か。	東毛産
10-00279	須恵器 長頸壺	B区2面 破片	底7.8	密・還・締・灰・白色微粒子・白色 鉱物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。高台は貼り付け。	笠懸産
10-00280	須恵器 埴	B区2面 破片	底(8.6)	密・酸・硬・灰・白色粒子・夾雑物 少量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。高台は長めで端部に沈 線状の窪みを全周させている。体部は張っている。	笠懸産
10-00281	須恵器 双耳付埴か	B区2面 破片	厚0.6	並・酸・軟・灰・白色微粒子・夾雑 物微量	台形状に整形した粘土板を、坏部に脣を施し手付けしている。	太田産
10-00282	須恵器 埴	B区北2面 破片	底(8.0)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	轆轤成整形右回転。高台は撞破りを施し付け高台。底面は回 転筥撫でを施している。	栃木産か
10-00283	須恵器 内黒坏	17-C-8 破片	底(7.0)	並・酸・並・黄橙・白色微粒子・黒 色粒子	轆轤成整形右回転。低部筥使い。器器内面に研磨を施し焼し 処理。生地土は粘土化したローム土か。	東毛(笠懸 か)
10-00284	須恵器 内黒坏	B区2面 破片	底(7.6)	密・酸・並・浅黄橙(灰色がかかる)・ 夾雑物微量	轆轤成整形右回転。低部は回転糸切。器内面は横位の研磨施 し焼し焼成時を施す。	東毛産
10-00285	須恵器 内黒坏	B区2面 破片	底(8.0)	密・酸・並・浅黄橙・赤茶色に汚れ た高温石英・黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は縦位の研磨を 施し焼し焼成を施している。	太田産
10-00286	須恵器 皿	不明 2/3残	口12.8 底5.7 高3.5	並・酸・軟・灰褐・白色微粒子・ 白色粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。高台は端部を磨き再整 形を施している。	東毛産
10-00287	須恵器 盤	B区2面 破片	底(12.2)	並・酸・並・灰白・黒色微粒子若干	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。底部は厚い。高台は粘 土円柱の切り離し部分に施している。	秋間産

遺構外出土遺物(5)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00288	須恵器 蓋	B区2面 破片	楕(7.0)	並・酸・硬・灰・黒色粒子・白色微 粒子	天井部は轆轤右回転寛撫で整形を施している。摘部リング状 に成形している。割れ口は磨かれている。	秋間産
10-00289	須恵器 短頸壺	B区北2面 破片	口(10.2)	密・酸・並・白灰・夾雑物微量	口縁部は短く立ち上がる。紐作り後轆轤右回転成整形。口脣 部は摩滅している。	
10-00290	須恵器 長頸壺	C区表土層 破片	厚0.5	並・酸・硬・灰・黒色粒子・白色微 粒子白色微粒子・黒色粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。口脣部直下に刷毛状の撫でが認 められる。	太田産
10-00291	須恵器 長頸壺	B区北2面 破片	頸4.0	密・還・締・灰白・夾雑物微量	紐作り後轆轤右回転成整形。轆轤目の凹凸は顕著。	東海産か
10-00292	須恵器 長頸壺か	B区2面 破片	肩(24.2)	並・還・締・暗灰・白色微粒子・黒 色粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。肩直上位・直下にやや細い横線 を施し、更に波状文(8本一単位)を廻らせる	太田産吉沢 産か
10-00293	須恵器 長頸壺	B区2面 破片	底(8.2)	並・還・硬・灰・白色微粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。高台は貼り付け。	東毛産
10-00294	須恵器 長頸壺	C区表土層 破片	底(10.2)	密・還・締・白色微粒子・黒色粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。高台は貼り付け。見込みに自然 釉が認められる。	笠懸産
10-00295	須恵器 長頸壺か	B区北2面 破片	底(11.6)	密・還・締・白灰・夾雑物殆どない	紐作り後轆轤右回転成整形。底面は周辺部のみが撫で再整形 を施している。	東海産か
10-00296	須恵器 高坏	C区表土層 破片	坏部器厚0.7	密・酸・硬・暗灰・白色微粒子	脚部は紐作り。器内面に絞りの跡が認められる。脚と坏部は 手付け。	笠懸産
10-00297	須恵器 臑	C区表土層 破片	厚0.6	粗・還・並・灰・黒色粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。	
10-00298	須恵器 甕	B区2面 破片	底(14.0)	並・酸・並・灰・白色微粒子・白 色微粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。低部の中央を径約3.6cmで円形に 穿孔し、立ち上がり部に3箇所孔を穿つ。	笠懸産
10-00299	軟質陶器 鉢	C区内 破片	底(13.0)	並・酸・並・灰・白色微粒子・白色 鉱物粒子少量	紐作り後轆轤右回転成整形。低部は寛撫で再整形。内面は摩 滅する。	乗附産

遺構外出土遺物(6)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00300	須恵器 甕	B区2面 破片	鈔(27.0)	並・酸・並・灰・白色微粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。鈔は貼り付け。轆轤の回転は速い。	笠懸産
10-00301	須恵器 器種不明	B区2面 破片	厚0.7	密・還・締・灰・白色微粒子少量	紐作り後轆轤右回転成整形。凸帯は性格不詳。特段の摩滅等は認められる。	東海産か
10-00302	須恵器 羽釜	C区2面 破片	口(18.4) 鈔(21.8)	並・酸・並・浅黄橙・白色粒子・赤褐色粒子・夾雑物少量	紐作り後轆轤右回転成整形。胴部に最大径を有する。外面は縦位の篋撫で横位に施している。内面は轆轤整形痕。	東毛産
10-00303	須恵器 羽釜	C区16溝 覆土破片	厚0.7	粗・中・軟・内面黄橙・外面灰・白色微粒子・細粒状石英	紐作り後轆轤右回転成整形。鈔は貼り付け。	東毛産
10-00304	須恵器か 甕か羽釜	C区表土層 破片	底(4.8)	並・酸・並・黄橙・高温石英・夾雑物少量	低部は離砂が残る。立ち上がりは篋削りを施している。内面は高速回転の撫で整形。生地は粘土化したローム土か。	
10-00305	須恵器か 甕か羽釜	B区19溝 覆土破片	底(5.4)	並・酸・並・鈍橙・黒色粒子夾雑物少量	低部は離砂が残る。立ち上がりは篋削りを施している。内面は高速回転の撫で整形。生地は粘土化したローム土か。	
10-00306	須恵器か 甕か羽釜	C区表土層 破片	底(5.6)	並・酸・並・鈍橙・角粒砂・黒色粒子	低部は離砂が残る。立ち上がりは篋削りを施している。内面は高速回転の撫で整形。生地は粘土化したローム土か。	
10-00307	須恵器か 甕か羽釜	C区表土層 破片	底(6.0)	並・酸・並・黄橙・白色粒子・砂粒少量	低部は型膚が残る。立ち上がりは篋削りを施している。内面は高速回転の撫で整形。生地は粘土化したローム土か。	
10-00308	須恵器 甕か	B区2面 破片	底(12.4)	並・酸・並・鈍黄橙・軽石・白色粒子・角粒砂・夾雑物少量	低部は離砂が残る。立ち上がりは篋削りを施している。内面は高速回転の撫で整形。生地は粘土化したローム土か。	
10-00309	須恵器 甕	C区2面 破片	口(23.8)	密・還・締・灰・白色鉱物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。口縁部は複合状に肥厚する。	乗附産
10-00310	須恵器 大甕	C区表土層 破片	厚1.3	密・還・締・白灰・黒色粒子・夾雑物微量	紐作り後轆轤右回転成整形。縦位に6+α本一単位の刷毛撫でを施し、平行する横線を施している。	乗附産
10-00311	須恵器 大甕	B区2面 破片	厚0.8	粗・還・硬・灰・石英雲母片岩・白色鉱物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。外面に4本一単位の縦位刷毛撫でを施している。	吉井産か
10-00312	須恵器 大甕	B区19溝 覆土破片	厚1.1	並・還・締・暗灰・白色微粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。外反しながら立ち上がる。外面に7+α本一単位の波状文を施している。	太田産
10-00313	須恵器 甕	C区4溝 覆土破片	厚1.0	並・酸・並・白灰・白色粒子・白色微粒子・高温石英	紐作り後轆轤右回転成整形。「く」に外反する。	東毛産

遺構外出土遺物(7)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00314	須恵器 大甕	C区表土層 破片	厚1.4	並・酸・並・灰・夾雑物微量	紐作り後轆轤右回転成整形。胴部側とは接合部で欠損する。	乗附産か
10-00315	須恵器 大甕	C区内 破片	厚0.9	並・酸・並・暗灰・白色微粒子・石英	紐作り後叩き整形。外面は叩き素文、宛具も素文か。外面は叩き後撫で再整形。内面は摩滅する。	乗附産
10-00316	須恵器 大甕	C区表土層 破片	厚1.3	並・酸・並・暗灰・白色鉱物粒子・白色粒子・赤褐色粒子	紐作り後叩き整形。外面は叩き素文、宛具も素文か。外面は叩き後撫で再整形。	吉井・乗附産
10-00317	須恵器 大甕	C区6層 破片	厚1.3	密・還・締・暗灰・白色鉱物粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は青海波文。	乗附産
10-00318	須恵器 大甕	C区内 破片	厚1.1	並・還・硬・暗灰・白色微粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は素文。内面は摩滅する。器形は大きい。	乗附産
10-00319	須恵器 大甕	B区北2面 破片	厚0.8~1.2	並・還・締・灰・黒色粒子	紐作り後叩き整形。外面は板目叩き、宛具は板小口で小口で刷毛撫でを施している。	秋間産
10-00320	須恵器 大甕	C区内 破片	厚1.2	並・還・硬・暗灰・石英雲母石英片岩・白色鉱物粒子・白色微粒子	紐作り後叩き整形。外面は叩き素文、宛具も素文か。外面は叩き後撫で再整形。内面は摩滅する。	吉井産
10-00321	須恵器 甕	B区北2面 破片	厚1.1	密・還・締・暗灰・夾雑物少無	粘土板成形か。詳細不詳。内面は摩滅する。	乗附産
10-00322	須恵器大甕 転用円盤	B区2面 破片	厚0.7	密・還・締・暗灰・白色微粒子	大甕片の転用。隅丸形状に成形し、小口は小単位に整形している。外面叩き、宛具共に素文。	乗附産
10-00323	須恵器大甕 転用円盤	B区北2面 破片	径6.0 厚1.3 重55.3	並・還・硬・暗灰・白色微粒子・白色鉱物粒子	大甕片の転用。外面は平行叩き、宛具は青海波文。	吉井・乗附産
10-00324	須恵器大甕 転用盤	B区2面 破片	径4.8 穴径0.5 厚1.5 重42.7	並・酸・並・灰・白色微粒子・黒色粒子	大甕片の転用。外面は平行叩き、宛具は青海波文。	秋間産
10-00325	瓦 女瓦	C区2面 破片	厚1.5	密・還・硬・灰白・黒色鉱物粒子	作りは不詳。布目は細かく、凹面全体に顕著に摩滅する。凸面は篋撫で整形。砥石に転用か。	東毛産

遺構外出土遺物(8)―1

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00326	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	口(14.0)	密・還・締・灰 釉調=厚いオリーブ灰	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00327	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	口(15.4)	密・還・締・灰 釉調=透明	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00328	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	口(16.2)	密・還・締・灰 釉調=オリーブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は浸掛け。	
10-00329	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	口(14.0) 底(7.2) 高5.6	密・還・締・灰 釉調=オリーブ灰	轆轤成整形右回転。腰部は回転篋削りを施している。施釉は浸掛けは刷毛塗りか判断出来ない。	
10-00330	施釉陶器 灰釉 皿	B区2面 破片	口(12.0)	密・還・締・暗灰(須恵器質) 釉調=やや厚味のあるオリーブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	梓
10-00331	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	厚0.3	密・還・締・灰 釉調=透明	轆轤成整形右回転。施釉は浸掛け。	
10-00332	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	厚0.3	密・還・締・灰 釉調=オリーブ灰	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00333	施釉陶器 灰釉 碗	B区北2面 破片	厚0.4	密・還・締・灰 釉調=オリーブ灰	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00334	施釉陶器 灰釉 碗	調査区内 破片	厚0.5	密・還・締・灰 釉調=透明	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	

遺構外出土遺物(8)―2

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00335	施釉陶器 灰釉 碗	C区内 破片	厚0.5	密・還・締・灰 釉調=透明	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00336	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	厚0.3	密・還・締・灰 釉調=透明	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00337	施釉陶器 灰釉 碗	C区6層 破片	厚0.6	密・還・締・灰 釉調=透明	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00338	施釉陶器 灰釉 碗	A区FA水 田跡面破片	厚0.4	密・還・締・灰 釉調=白濁	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00339	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	厚0.35	密・還・締・灰 釉調=透明	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00340	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	厚0.4	密・還・締・灰 釉調=厚いオリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00341	施釉陶器 灰釉 皿	B区2面 破片	厚0.4	密・還・締・灰 釉調=厚味が薄い灰緑	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00342	施釉陶器 灰釉 碗	A区FA水 田跡面破片	厚0.3	密・還・締・灰 釉調=透明	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00343	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	厚0.25	密・還・締・灰 釉調=オリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00344	施釉陶器 灰釉 碗	C区2溝 破片	底(6.4)	密・還・締・灰 釉は残存しない。	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	
10-00345	施釉陶器 灰釉 碗	C区16溝 破片	底(7.8)	密・還・締・灰 釉調=厚味の薄い灰緑	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	
10-00346	施釉陶器 灰釉 碗	B区北2面 破片	底(7.2)	密・還・締・灰 釉調=オリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	
10-00347	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	底(8.0)	密・還・締・灰 釉調=厚味の薄いオリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	
10-00348	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	底(7.2)	密・還・締・灰 釉調=オリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00349	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	底(7.2)	密・還・締・灰 釉調=オリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は浸掛け。	
10-00350	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	底(6.6)	密・還・締・灰 釉調=オリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は浸掛け。	
10-00351	施釉陶器 灰釉 碗	C区6層 破片	底(8.4)	密・還・締・灰 釉は残存しない。	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	
10-00352	施釉陶器 灰釉 碗	B区B下水 田跡破片	底(8.6)	密・還・締・灰 釉は残存しない。	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	
10-00353	施釉陶器 灰釉 碗	B区2面 破片	底(6.4)	密・還・締・灰 釉調=白濁	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	

遺構外出土遺物(9)―1

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00354	施釉陶器 灰釉 碗	A区FA水 田跡 破片	底(7.0)	密・還・締・灰 釉調=オリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	
10-00355	施釉陶器 灰釉 碗	C区2溝 破片	底(8.0)	密・還・締・灰 釉調=厚味の極薄いオリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	
10-00356	施釉陶器 灰釉 碗	C区2溝 破片	底(6.8)	密・還・締・灰 釉は残存しない。	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	
10-00357	施釉陶器 灰釉 碗	B区19溝覆 土 破片	厚0.7 底(9.0+α)	密・還・硬・灰 釉調は認められない。	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。見こみに毘描き花文を施している。	
10-00358	施釉陶器 灰釉 碗	C区6層 破片	厚0.3	密・還・硬・灰 釉調=白濁	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。焼成前の窺掻き文字が挿かれているが判読不能。	
10-00359	施釉陶器 灰釉 皿	B区4溝 破片	厚0.4	密・還・締・暗灰(須器質) 釉調=やや厚味のあるオリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	
10-00360	施釉陶器 灰釉 段皿	B区2面 破片	厚0.4	密・還・締・白灰 釉調=オリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00361	施釉陶器 灰釉 皿	B区2面 破片	厚0.5	密・還・締・灰 釉調=やや厚味あるオリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00362	施釉陶器 灰釉 碗	B区北2面 破片	口(14.8) 底(7.2) 高2.3	密・還・締・灰 釉調=厚味のある灰緑	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00363	施釉陶器 灰釉 皿	B区2面 破片	口(16.2)	密・還・締・灰 釉調=厚味の薄いオリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00364	施釉陶器 灰釉 皿	B区2面 破片	底(7.0)	密・還・締・灰 釉調=厚味のある灰緑	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00365	施釉陶器 灰釉 皿	B区2面 破片	底(7.0)	密・還・締・灰 釉調=厚味のある灰緑	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00366	施釉陶器 灰釉 皿	A区表土層 破片	底(6.2)	密・還・硬・灰白 釉調=白濁	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00367	施釉陶器 灰釉 皿	C区表土層 破片	底(8.0)	密・還・締・灰 釉調=オリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00368	施釉陶器 灰釉 皿	B区2面 破片	底(7.8)	密・還・硬・灰 釉調=厚いオリープ灰	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。	
10-00369	施釉陶器 灰釉 皿	B区2面 破片	口(12.6) 底(6.0) 高2.1	密・還・締・灰 釉は残存しない。	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00370	施釉陶器 灰釉 皿	B区2面+ B29溝破片	厚0.7	密・還・硬・灰白 釉調=見込みは厚目のオリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00371	施釉陶器 灰釉 耳皿	C区内 破片	厚0.5	密・還・硬・灰白 釉調=厚い灰緑	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00372	施釉陶器 灰釉 耳皿	B区2面 破片	長(11.4) 短(8.2) 底(4.6)	密・還・硬・灰白 釉調=厚い灰緑	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	

富田漆田遺跡 諸元

遺構外出土遺物(9)ー2

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00373	施釉陶器 灰釉 耳皿	C区6層+ 2面 破片	長(9.6) 短(7.0) 底(4.6)	密・還・硬・灰白 釉調=オリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00374	施釉陶器 灰釉 蓋	B区2面 破片	口(13.0)	並・還・硬・白灰 釉調=オリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00375	施釉陶器 灰釉 薬瓶	C区2面 破片	口(12.0) 胴最(31.0)	並・還・硬・灰白/ 釉調=器外面上半は厚いオリブ灰	紐作り後轆轤右回転成整形。下半部は回転篋削り。破片の図上復元。	

遺構外出土遺物(10)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00376	施釉陶器 灰釉 蓋	調査区内 破片	口(13.2)	密・還・締・白灰 釉調=オリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00377	施釉陶器 灰釉長頸瓶	B区23溝 破片	口(8.8)	密・還・締・灰 釉調=オリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00378	施釉陶器 灰釉長頸瓶	B区2面 破片	口(12.0)	密・還・締・白灰 釉調=内面厚いオリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	
10-00379	施釉陶器 灰釉長頸瓶	B区2面 破片	口(1.3)	密・還・締・灰 釉調=薄い灰緑	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	
10-00380	施釉陶器 灰釉長頸瓶	B区2面 破片	口(1.30)	密・還・締・白灰 釉調=内外厚いオリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	
10-00381	施釉陶器 灰釉長頸瓶	調査区内 破片	厚0.3	密・還・締・灰 釉調は不詳	轆轤成整形右回転。施釉部分が認められない。須恵器の可能性もある。小形器種。	
10-00382	施釉陶器 灰釉長頸瓶	C区表土層 破片	頸(6.4)	密・還・締・灰 釉調は不詳	轆轤成整形右回転。施釉は表裏前面に施釉されている。施釉方法は不詳。	
10-00383	施釉陶器 灰釉長頸瓶	C区内 破片	厚0.5	並・還・硬・灰 釉調=器外面厚い灰緑	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00384	施釉陶器 灰釉長頸瓶	C区表土層 破片	厚0.6	並・還・硬・灰 釉調=厚くすんだオリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00385	施釉陶器 灰釉長頸瓶	B区2面 破片	頸(6.0)	密・還・締・白灰 釉調=厚いオリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は浸掛け。	
10-00386	施釉陶器 灰釉長頸瓶	B区23溝+ 2面 破片	厚0.5	密・還・締・灰 釉調=オリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は浸掛けか。	
10-00387	施釉陶器 灰釉長頸瓶	A区内 破片	底(9.0)	密・還・締・白灰 釉調=オリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は浸掛けか。	
10-00388	施釉陶器 灰釉長頸瓶	B区2面 破片	底(10.0)	並・還・硬・灰 釉調=オリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は浸掛けか。	
10-00389	施釉陶器 灰釉長頸瓶	B区3面 破片	底(14.0)	並・還・硬・灰 釉調=オリブ灰	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。施釉は浸掛けか。	
10-00390	施釉陶器 灰釉長頸瓶	C区表土層 破片	厚0.5	密・還・締・白灰 釉調=軸は認められない。	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00391	施釉陶器 灰釉 鉢	C区6層 破片	厚0.7	密・還・硬・灰白 釉調=オリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。器形は大きい。表裏面に施釉する。	
10-00392	施釉陶器 灰釉 瓶か	B区2面 破片	厚0.6	並・還・硬・灰 釉調=内外厚いオリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00393	施釉陶器 灰釉 小瓶	B区23溝+C 区表土破片	厚0.5	密・還・締・灰 釉調=オリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。細片から図上復元。	
10-00394	施釉陶器 灰釉長頸瓶	B区2面 破片	厚0.6	密・還・締・白灰 釉調=厚いオリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は浸掛けか。	
10-00395	施釉陶器 緑釉 碗	C区6層 破片	厚0.7	粗・酸・軟・明赤褐・夾雑物少量	酸化焰焼成の胎土色調が透けて見える。ダミ状の発色濃い部分も認められる。	
10-00396	施釉陶器 緑釉 稜碗	B区2面 破片	底(6.4)	並・還・硬・明黄褐 釉調=施釉は薄い緑黄色	酸化焰焼成の胎土色調が透けて見える。轆轤成整形右回転。見込み・体部に研磨を施し施釉。	
10-00397	埴輪 円筒形	C区2面 破片	器厚1.4 (径22.0)	並・酸・並・鈍橙・細粒礫・チャート 円粒・高温石英	B種横刷毛。籬は断面四角形状を呈する。刷毛は13+α本を一単位。器内面は粗い撫で整形。今井神社古墳からか。	
10-00398	埴輪 円筒形	B区23溝 覆土破片	器厚1.9 底径14.0	並・酸・並・明黄褐・細粒角礫・汚 れた円粒状高温石英	11+α本一単位の縦位刷毛撫でを施している。生地土は比較的詰んでいる。	
10-00399	埴輪 円筒形	C区2溝 覆土破片	器厚1.6 (径13.0)	やや粗・酸・並(軽)・明黄褐・シル ト質・赤褐色粒子・白色粒子	12+α本一単位の縦位刷毛撫でを施している。生地土はややシルト質で軟質気味。	

遺構外出土遺物(11)ー1

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00400 55	埴輪 円筒形	C区表土層 破片	器厚1.7 (径18.0)	やや粗・酸・並(軽)・明黄褐・シル ト質・夾雑物少量	13+α本一単位の縦位刷毛撫でを施している。前者とは赤褐色粒子を含むか否かが特徴の相違点。	
10-00401 55	埴輪 円筒形	C区2溝 覆土 破片	器厚1.4 (径16.0)	並・酸・並(軽)・明黄褐・白色粒子	9+α本一単位の縦位刷毛撫でを施している。籬は四角形だが断面三角形状に近い。窓(○)を籬の頂上に穿つ。	
10-00402 55	埴輪 円筒形	17-S-18 破片	器厚1.4 (径15.0)	並・酸・並(軽)・明黄褐・チャート 円粒・細粒角礫	14+α本一単位の縦位刷毛撫でを施している。籬は断面三角形状を呈する。	
10-00403 55	埴輪 円筒形	B区19溝 覆土 破片	器厚1.4 (径16.0)	並・酸・並・明黄褐・細粒角礫・白 色粒子	11+α本一単位の縦位刷毛撫でを施している。籬は四角形。	
10-00404 55	埴輪 円筒形	B区64号土 坑 破片	器厚1.1 (径16.0)	並・酸・並・鈍黄橙・高温石英・細 粒礫	11+α本一単位の縦位刷毛撫でを施している。籬は断面四角形状を呈する。籬の直上に窓(□)を穿つ。	
10-00405 55	埴輪 円筒形	B区19溝 覆土 破片	器厚1.5 (径20.0)	並・酸・並(重)・浅黄橙・黒色鉱物粒 子・軽石状白色粒子	6+α本一単位の縦位刷毛撫でを施している。籬は断面四角形状を呈する。生地土は粘土化したローム土か。	
10-00406 55	埴輪 円筒形	C区表土層 破片	器厚1.1 (径20.0)	並・酸・並・明黄橙・高温石英・白 色粒子	6+α本一単位の縦位刷毛撫でを施している。籬は断面四角形状を呈する。籬の直下に多角形の窓を穿つ。	
10-00407 55	埴輪 形象か	C区16溝 覆土 破片	器厚1.2 (径15.0)	並・酸・硬(重)・灰褐・白色粒子・ 白色鉱物粒子	13+α本一単位の縦位刷毛撫でを施している。籬は断面四角形状を呈する。籬直下に窓(円)を穿つ。	
10-00408 55	埴輪 円筒形	C区7溝 覆土 破片	器厚1.5 (径16.0)	並・酸・硬(重)・鈍橙・白色粒子・ 高温石英	12+α本一単位の縦位刷毛撫でを施している。籬は低い断面四角形状を呈する。	

遺構外出土遺物(1)―2

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00409 55	埴輪 円筒形	C区7溝 覆土 破片	器厚1.9 底径(18.0)	並・酸・硬(重)・鈍橙・白色微粒子	21+ α 本一単位の縦位刷毛撫でを施している。器溝にクラックが目立つ。	
10-00410 55	埴輪 円筒形	C区16溝 覆土 破片	器厚1.8 (径18.0)	並・酸・硬(重)・鈍橙・黒色鈹物粒子・高温石英	22+ α 本一単位の縦位刷毛撫でを施している。籬は断面三角形形状を呈する。生地土は粘土化したローム土か。	
10-00411 55	埴輪 円筒形	C区16溝 覆土 破片	器厚1.4 (径18.0)	並・酸・並・鈍橙・風化した高温石英・黒色微粒子	17+ α 本一単位の縦位刷毛撫でを施している。籬は断面四角形状を呈する。生地土は粘土化したローム土か。	
10-00412 55	埴輪 円筒形	C区表土層 破片	器厚2.0 (径14.0)	並(密・重い)・酸・並・鈍橙・風化した石英・黒色微粒子	6+ α 本一単位の縦位刷毛撫でを施している。胎土に石英雲母片岩を含む。	吉井産
10-00413 55	埴輪 円筒形	C区16溝 覆土 破片	器厚1.6 (径14.0)	並(密・重い)・酸・並・鈍橙・風化した石英・黒色微粒子	6+ α 本一単位の縦位刷毛撫でを施している。籬は断面三角形形状を呈する。胎土に石英雲母片岩を含む。	吉井産
10-00414 55	埴輪 円筒形	C区16溝 覆土 破片	器厚1.6 (径16.0)	並(密・重い)・酸・並・鈍橙・風化した石英・黒色微粒子	7+ α 本一単位の縦位刷毛撫でを施している。籬は断面三角形形状を呈する。胎土に石英雲母片岩を含む。	吉井産

遺構外出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00415 56	埴輪 円筒形	C区3溝 覆土 破片	器厚1.3 (径14.0)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈹物粒子・石英・軽石状白色微粒子	16+ α 本一単位の縦位刷毛撫でを施している。器内面は斜位の刷毛撫で。生地土は粘土化したローム土か。	
10-00416 56	埴輪 円筒形	C区2溝 覆土 破片	器厚1.4 (径17.0)	並・酸・硬・鈍橙・石英	28+ α 本一単位の縦位刷毛撫でを施している。籬は断面三角形形状で低い。籬の直下に円窓を穿つ。	
10-00417 56	埴輪 円筒形	C区16溝 覆土 破片	器厚1.5 (径15.0)	並・酸・並・橙・白色鈹物粒子・微粒雲母	器面の風化が著しい。刷毛整形は認められない。籬は断面三角形形状を呈し低い。籬の直下に円窓を穿つ。	藤岡産
10-00418 56	埴輪 円筒形	C区7溝 覆土 破片	器厚1.0 (径16.0)	並・酸・並・鈍黄橙・白色鈹物粒子・角粒砂	9+ α 本一単位の縦位刷毛撫でを施している。籬は断面三角形形状を呈する。器内面は縦位の撫で整形。	
10-00419 56	埴輪 円筒形	C区表土層 破片	器厚1.6 (径9.5)	並・酸・並・浅黄橙・高温石英・白色鈹物粒子・白色微粒子	18+ α 本一単位の縦位刷毛撫でを施している。器内面は縦位の撫で整形。	
10-00420 56	埴輪 円筒形	C区4溝 覆土 完形	器厚1.3 (径14.0)	並・酸・軟・黄橙・赤褐色微粒子・細粒砂	14+ α 本一単位の縦位刷毛撫でを施している。器内面は縦位の撫で整形。	
10-00421 56	埴輪 円筒形	C区表土層 破片	器厚1.7 (径13.0)	並・酸・並・浅黄橙・石英・黒色微粒子	刷毛の単位は粗い。5+ α 本一単位の縦位刷毛撫でを施している。器内面は縦位の撫で整形。	
10-00422 56	埴輪 円筒形	B区19溝 覆土 破片	器厚2.4 (径15.0)	並・酸・並・浅黄橙・白色微粒子・黒色鈹物粒子	刷毛の単位は粗い。9+ α 本一単位の縦位刷毛撫でを施している。生地土は粘土化したローム土か。	
10-00423 56	埴輪 家形埴輪か	B区2面 破片	器厚1.6 (径不詳)	並・酸・並・浅黄橙・白色微粒子・黒色鈹物粒子・石英	8+ α 本一単位の縦位刷毛撫でを施している。基部に窓を施している。形象埴輪の基部と考えられる。	
10-00424	土製品 瓦塔か土鍾	C区2面 破片	上径3.9 底径7.5 孔径0.9 高60.1	並・還・硬・灰・白色微粒子・針状鈹物	轆轤成整形右回転。笠状に成形している。上面は寛撫で整形。瓦塔の相輪の可能性もある。	埴玉産か
10-00425	土製品 土鍾	C区7溝 覆土 完形	長4.0 幅1.9 孔径0.5 重9.6	粗・酸・軟・鈍黄橙・黒色鈹物粒子・高温石英	紡錘形を呈する。生地土は粘土化したローム土か。	東毛産
10-00426	土製品 土鍾	B区2面 破片	長4.3 幅2.1 孔径0.5 重14.4	粗・酸・軟・浅黄橙・黒色鈹物粒子・高温石英	紡錘形を呈する。生地土は粘土化したローム土か。	東毛産
10-00427	土製品 土鍾	B水田跡 完形	長4.5 幅1.8 孔径0.5 重13.8	粗・酸・軟・黄橙・黒色鈹物粒子・高温石英	紡錘形を呈する。生地土は粘土化したローム土か。	東毛産
10-00428	土製品 土鍾	B区2面 完形	長4.4 幅1.3 孔径0.4 重7.0	粗・酸・軟・黄橙・黒色鈹物粒子・高温石英	円筒形を呈する。生地土は粘土化したローム土か。	東毛産
10-00429	土製品 土鍾	C区2面 完形	長5.2+ α 幅2.2 孔径0.3 重17.5	粗・酸・軟・鈍黄橙・黒色鈹物粒子・高温石英	紡錘形を呈する。生地土は粘土化したローム土か。	東毛産
10-00430	土製品 土鍾	B区2面 完形	長5.4 幅1.8 孔径0.3 重15.8	粗・酸・軟・鈍黄橙・黒色鈹物粒子・高温石英	紡錘形を呈する。生地土は粘土化したローム土か。	東毛産
20-00045	石製品 鍾	C区2面 破片	上径4.0 底径3.5 孔径0.95 高2.1	軽石(As-CかFr-FPにと伴う軽石か)	軽石材質のため軽い。紡錘車の機能を果たせるのか。または、紡錘車とは異なる遺物か。	
20-00046 56	石製模造品 剣形	C区5溝覆 土部分欠損	長0.505 幅0.34 厚1.2 重5.37	滑石	鋳造り。材質が軟質のため、全体に摩滅する。孔部分は穿孔時の欠損か。	
20-00047 56	石製模造品 剣形	C区5溝 覆土 完形	長0.33 幅0.15 厚0.7 重3.35	滑石	平造り。上方に直行に近い面構成が認められ、孔の位置からも欠損品の転用の可能性もある。	

遺構外出土遺物(3)―1

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
40-00045	鉄器 釘	C区6層 破片	残長3.1 幅0.7 厚0.7 重10		錆化が偏る。旧状面が認められ、黒錆色を呈する。良質の素材と考えられる。	
40-00046	鉄器 釘か	C区6層 破片	残長2.8 幅0.5 厚0.5 重4		錆化が顕著。断面正方形を呈する。下端は廃棄段階には欠損している。	
40-00047	鉄器 釘	C区表土層 完形	総長10.5 幅0.6 幅0.5		頭部は折り曲げている。観察以前に錆の除去作業が行われたため詳細不詳。	
40-00048	鉄器 釘か	C6溝覆土 内 破片	残長3.4 残幅0.6 残厚0.4 残重2.0		断面は正方形になっている。観察以前に錆の除去作業が行われたため詳細不詳。	
10-00431	土製品 羽口	C区8溝 覆土 破片	厚2.4 空気孔(2.5位)	並・酸・硬・橙・細粒状白色鈹物粒子・白色微粒子・黒色鈹物粒子	器外面に酸化ガラス質の付着が認められる。断面は還元が顕著。生地土は粘土化したローム土か。	
10-00432	土製品 羽口	C区6層 破片	厚2.6 空気孔(2.9)	並・酸・硬・橙・細粒状白色鈹物粒子・白色微粒子・黒色鈹物粒子	器外面に酸化ガラス質の付着が認められる。断面は酸化が顕著。生地土は粘土化したローム土か。	
10-00433	土製品 羽口	C区表土層 破片	厚1.3	並・酸・硬・橙・細粒状白色鈹物粒子・白色微粒子・黒色鈹物粒子	器外面に酸化ガラス質の付着が認められる。断面は酸化が顕著。生地土は粘土化したローム土か。	
40-00049	鉄滓	B27溝覆土 内 完形	長3.6 幅3.8 厚1.9 重16.4		小孔多く軽い。磁力は認められない。	
40-00050	鉄滓	B27溝覆土 内 完形	長3.3 幅4.1 厚2.8 重16.8		小孔多く軽い。磁力は認められない。	
40-00051	鉄滓	B区2面 完形	長5.0 幅4.9 厚1.1 重26.9		上面は粗いが下面は比較的細かな凹凸。溶解中に垂れて落下し、円盤状に広がったものと思われる。	
40-00052	鉄滓	C区表土層 破片	残長3.9 残幅3.6 厚1.8 重37		図中裏面左端部が比較的磁力(磁力3)を呼ぶ。	

遺構外出土遺物(13) - 1

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
40-00053	鉄滓	C区6層 破片	残4.0 長幅4.5 厚1.7 重42		図中裏面側が比較的磁力(磁力3)を呼ぶ。	
10-00434 56	縄文土器 尖底深鉢	C区6層 破片	器厚0.8	並・酸・並・鈍黄橙・高温石英・黒色鉱物粒子・チャート片	口唇部は肥厚する。器内面は横・斜位の撫で整形、外面は縦位の撫で整形。外面単軸rを縦転する。	
10-00435 56	縄文土器 尖底深鉢	1溝覆土 破片	器厚0.7	並・酸・並・鈍黄橙・高温石英・黒色鉱物粒子・軽石状白色粒子	口唇部は肥厚するが平坦気味。器内面は摩滅する。外面は縦位の撫で整形。外面単軸rを縦転する。	
10-00436 56	縄文土器 尖底深鉢	27-O-1 破片	器厚0.9	並・酸・並・鈍黄橙・中粒砂・軽石状白色粒子	口唇部は肥厚する。器内面は横・斜位の撫で整形、外面は縦位の撫で整形。外面に施文は認められない。	
10-00437 56	縄文土器 尖底深鉢	C区1溝 覆土 破片	器厚0.6	並・酸・並・鈍橙・細粒砂	器厚は薄い器内面は横位の寛撫で、器外面は縦位の撫でを施し、単軸rを縦転する。	
10-00438 56	縄文土器 尖底深鉢	6溝覆土 破片	器厚0.6	並・酸・並・鈍橙・金雲母ダイヤサイト・雲母	器厚は薄い器内面は横位の寛撫で、器外面は縦位の撫でを施し、単軸rを縦転する。	藤岡産か
10-00439 56	縄文土器 尖底深鉢	C区 破片	器厚0.7	並・酸・並・暗黄褐・細粒砂	器厚は薄い器内面は横位の寛撫で、器外面は縦位の撫でを施し、単軸rを縦転する。	
10-00440 56	縄文土器 尖底深鉢	B区2面 破片	器厚0.6	並・酸・並・鈍橙・細粒砂	器厚は薄い器内面は横位の寛撫で、器外面は縦位の撫でを施し、単軸rを縦転する。	
10-00441 56	縄文土器 尖底深鉢	B区26溝 覆土 破片	器厚0.6	並・酸・並・浅黄橙・夾雑物微(良質粘土)	器厚は薄い器内面は横位の寛撫で、器外面は縦位の撫でを施し、単軸rを縦転する。	
10-00442 56	縄文土器 尖底深鉢	13号土 覆土 破片	器厚0.8	並・酸・並・黒色鉱物粒子・高温石英・含繊維(針状若干)	口唇部は肥厚し、縄文乃至絡条体の瓦痕が認められる。外面には細い条痕文、器内面には横位に条痕文を施す。	

遺構外出土遺物(14)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00443	縄文土器 深鉢	B区北2面 破片	器厚0.7	並・酸・並・鈍橙・砂粒・白色粒子	口縁部は外反する。R-1原体の横転施文。	
10-00444	縄文土器 深鉢	27-O-16 破片	器厚0.8	並・酸・並・浅黄橙・含繊維・細粒砂	口縁部は内湾し、口唇部は尖る。外面は多条L-r原体の横転施文。1149と同一個体。	
10-00445	縄文土器 深鉢	C区2溝覆土 破片	器厚1.0	並・酸・並・黄橙・白色微粒子・石英・含繊維	外傾する口縁部の口唇部が平坦。器外面はR-1原体の横転施文。器内面は横位の寛撫で。	
10-00446	縄文土器 深鉢	27-O-16 破片	器厚0.9	並・酸・並・鈍橙・細粒砂・含繊維	口縁部は内湾し、口唇部は尖る。外面は多条R-1原体の横転施文。器内面は横位の寛撫でを施している。	
10-00447	縄文土器 深鉢	27-Q-7 破片	器厚0.8	並・酸・並・浅黄橙・含繊維・細粒砂	口縁部は内湾し、口唇部は尖る。外面は多条L-r原体の横転施文。1150と同一個体。	
10-00448	縄文土器 深鉢	3掘立ピット 5 破片	器厚0.9	並・酸・並・茶褐・軽石状白色粒子・含繊維	口縁部は内湾し、口唇部は尖る。外面は多条L-r原体の横転施文。器内面は横位の寛撫でを施している。	
10-00449	縄文土器 深鉢	C区表土 破片	器厚0.8	並・酸・並・茶褐・白色軽石・含繊維	L-r原体の擬似羽状。器内面は横位の撫で整形。	
10-00450	縄文土器 深鉢	C区5溝 覆土 破片	器厚0.8	並・酸・並・鈍黄橙・白色粒子・含繊維	羽状縄文を施文する。器内面は横位の寛撫でを施している。	
10-00451	縄文土器 深鉢	49号住 覆土 破片	器厚1.0	並・酸・並・黄橙・黒色鉱物粒子・白色軽石・含繊維	L-r原体の擬似羽状。器内面は横位の撫で整形。	
10-00452 10-00464 10-00465 10-00466 10-00468	縄文土器 深鉢	27-Q-7 破片	器厚0.7	並・酸・並・鈍黄橙・細粒砂	丸味を強く帯びて立ち上がる底部から胴部は、R-1原体の横転施文する。胴部上半から口縁部文様の境には、横位に連続爪形文を施し、区画を意識している。口縁部文様は4単位の」波頂部及び波状部管に、縦位の半截竹管による沈線施文に竹管刺突文を施し、肋骨文を施している。口唇部直下には連続爪形文を施している。	5点の同一個体
10-00453	縄文土器 深鉢	B区2面 破片	器厚1.0	並・酸・並・橙・含繊維・夾雑物少量	無節の結節原体rの横転施文。器内面は横位の撫で整形。	
10-00454	縄文土器 深鉢	B区2面 破片	器厚1.0	並・酸・並・鈍黄橙・含繊維・白色粒子・夾雑物少	無節の原体rの横転施文。器内面は横位の撫で整形。	
10-00455	縄文土器 深鉢	C区4溝 覆土 破片	器厚1.2	並・酸・並・浅黄橙・含繊維・夾雑物少量	多条原体の羽状縄文を施文する。器内面は横位の寛撫でを施している。	
10-00456	縄文土器 深鉢	B区2面 破片	器厚1.2	並・酸・並・浅黄橙・含繊維・白色粒子・黒色鉱物粒子	無節の原体rの横転施文。器内面は横位の撫で整形。	
10-00457	縄文土器 深鉢	B区2面 破片	器厚1.1	並・酸・並・鈍黄橙・含繊維・夾雑物少量	単軸絡条体原体rの横転施文。器内面は横位の撫で整形。	458と同一個体
10-00458	縄文土器 深鉢	B区2面 破片	器厚1.1	並・酸・並・鈍黄橙・含繊維・夾雑物少量	単軸絡条体原体rの横転施文。器内面は横位の撫で整形。	457と同一個体
10-00459	縄文土器 深鉢	表土層 破片	器厚1.0	並・酸・並・明黄褐・粗粒砂・高温石英	半截竹管による横位の栄光沈線を施文し、線間に「ハ」の字状の連続施文。	
10-00460	縄文土器 深鉢	27-P-1 破片	器厚0.9	並・酸・並・黒褐・黒色鉱物粒子・白色微粒子	口唇部は尖る。口縁部に平行して2条の連像爪形文を施し、下位は、斜位に粗い寛撫でを施している。	
10-00461	縄文土器 深鉢	27-Q-7 破片	器厚0.6	並・酸・並・鈍橙・細粒砂・赤褐色粒子	4単位の波状口縁。口縁部に沿う2条の連続爪形文を施文し、波頂部からは連続爪形文と竹管刺突文を施す。	
10-00462	縄文土器 深鉢	27-Q-7 破片	器厚0.7	並・酸・並・鈍黄橙・砂粒少量	4単位の波状口縁。口縁部に沿う3条の連続押引文を施文し、下位に肋骨文(?)を施す。	
10-00463	縄文土器 深鉢	27-Q-7 破片	器厚0.7	並・酸・並・黄橙・細粒砂	4単位の波状口縁。口縁部に沿う4条の連続押引文を施文し、下位に肋骨文を施す。	
10-00467	縄文土器 深鉢	27-P-6 破片	器厚0.7	並・酸・並・鈍黄橙・細粒砂少量	R-1原体の横転施文。器内面は横位の撫で整形。	
10-00469	縄文土器 深鉢	27-P-6 破片	器厚0.7	並・酸・並・鈍黄橙・細粒砂	R-1原体の横転施文。器内面は横位の撫で整形。	
10-00470	縄文土器 深鉢	27-Q-7 破片	器厚0.7	並・酸・並・鈍橙・細粒砂・風化石英	R-1原体の横転施文。器内面は横位の撫で整形。	吉井山土
10-00471	縄文土器 深鉢	B区2面 破片	器厚0.6	並・酸・並・鈍橙・夾雑物少量	「く」の字に屈曲する胴中位の破片。横位の沈線の上にコンパス文、口縁部に向かい山形状に沈線区画を施す。	

遺構外出土遺物 (15)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00472 ~00476	縄文土器 深鉢	27-Q-7 破片	器厚0.7~0.8	並・酸・並・鈍黄橙・細粒砂	丸味を強く帯びて立ち上がる底部から胴部は、R-1 原体の横転施文する。胴部上半から口縁部文様の境には、横位に連続爪形文を施し、区画を意識している。口縁部文様は4 単位のJ 波頂部及び波状部管に、縦位の半載竹管による沈線施文に竹管刺突文を施し、肋骨文を施している。口唇部直下には連続爪形文を施し、口唇部には小単位に刻みを施している。	5 点の同一 個体
10-00477	縄文土器 深鉢	2 区表土層 破片	器厚0.8	並・酸・並・鈍黄橙・粗粒砂多量	地文にL-r 原体を回転施文し、木の葉文を施文する。器内面は横撫でを施す。	
10-00478	縄文土器 深鉢	B 区 2 面 破片	器厚0.9	並・酸・並・浅黄橙・砂粒・石英	連続爪形文を施文する。器内面は横位の撫で整形。	
10-00479	縄文土器 浅鉢	27-O-4 破片	器厚0.8	並・酸・並・黄橙・粗粒砂	地文の施文は認められない。隆帯を横位に貼付する。	
10-00480	縄文土器 浅鉢	27-P-6 破片	器厚0.7	並・酸・並・鈍黄橙・粗粒砂・風化 顕著	地文にL-r 原体を回転施文し、刻み隆帯を横位施文する。	
10-00481	縄文土器 深鉢	27-N-8 破片	器厚0.7	並・酸・並・黄橙・微粒砂	地文にR-1 原体を回転施文し、刻み隆帯を横位施文する。	
10-00482	縄文土器 深鉢	27-P-? (6) 破片	器厚1.0	並・酸・並・鈍橙・デイスait・粗 粒状白色粒子	無筋1 原体を横転施文し、刻み隆帯を横位施文する。	
10-00483	縄文土器 深鉢	27-N-8 破片	器厚0.8	並・酸・並・茶褐・細粒砂	地文にR-1 原体を回転施文し、刻み隆帯を横位施文する。	
10-00484	縄文土器 深鉢	42 区表土 層 破片	器厚0.9	粗・酸・並・明黄褐・粗砂粒	地文にR-1 原体を回転施文し、刻み隆帯を横位施文する。器 面の風化が顕著。	
10-00485	縄文土器 深鉢	C 区 2 溝 覆土 破片	器厚0.7	並・酸・並・鈍橙・砂粒・白色微粒 子	L-r 原体の横転施文。	
10-00486	縄文土器 深鉢	27-R-6 破片	器厚0.8	並・酸・並・橙・高温石英・白色粒 子	R-1 原体の横転施文に、円管刺突文を縦列配置する。	
10-00487	縄文土器 深鉢	C 区表土層 破片	器厚0.9	並・酸・並・浅黄橙・砂粒・白色微 粒子	地文にR-1 原体を回転施文し、刻み隆帯を横位施文する。器 面の風化が顕著。	
10-00488	縄文土器 深鉢	27-R-6 破片	器厚1.0	並・酸・並・鈍黄橙・細粒砂・微粒 雲母	沈線による山形文、沈線間に貝殻復線文が認められる。器内 面は横位の寛撫で整形を施す。	県外搬入品 か
10-00489	縄文土器 深鉢	C 区16溝 覆土 破片	器厚0.7	並・酸・並・鈍橙・金雲母	外傾する口縁部の口唇部が短く外反する。器外面には斜位の 連続爪形文を施文する。	
10-00490	縄文土器 深鉢	表土層 破片	器厚0.9	並・酸・並・鈍黄橙・白色微粒子	口縁部は内湾する。波状口縁の頂部から隆帯による槽円区画 を施す。区画内にL-r 原体をランダムに充填施文する。	
10-00491	縄文土器 深鉢	C 区 2 溝 覆土 破片	器厚1.2	並・酸・並・浅黄橙・砂粒少量	口縁部は内湾する。隆帯間を充填施文する。	
10-00492	縄文土器 深鉢	C 区 4 溝 覆土 破片	器厚1.1	並・酸・並・浅黄橙・砂粒少量	隆帯を縦位に施文し、R-1 原体を縦位施文する。	

遺構外出土遺物(16)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00493	縄文土器 深鉢	B 区 2 面 破片	器厚1.0	並・酸・並・浅黄橙・砂粒・デイス ait 多量	隆帯を縦位に施文し、L-r 原体を縦位施文する。	
10-00494	縄文土器 深鉢	C 区13溝 覆土 破片	器厚1.0	並・酸・並・浅黄橙・粗粒砂	隆帯を縦位に施文し、R-1 原体を縦位施文する。	
10-00495	縄文土器 深鉢	B 区 2 面 破片	器厚1.2	並・酸・並・橙・粗粒砂少量	綾杉文を施文する。	吉井産
10-00496	縄文土器 深鉢	C 区 5 溝 覆土 破片	器厚1.2	並・酸・並・橙・デイスait・石英	斜位に集合沈線を施す。器内面は横位の指撫で整形を施す。	
10-00497	縄文土器 深鉢	C 区 1 溝 覆土 破片	器厚1.2	並・酸・並・鈍黄橙・砂粒	内湾気味の口縁部に横線を施文し、下位にR-1 原体を横転施 文する器内面は横位の寛撫で整形を施す。	
10-00498	縄文土器 深鉢	7-I-8 破片	器厚0.7	粗・酸・並・鈍黄橙・粗粒砂	内湾気味の口縁部に把手を付する。地文にL-r 原体の横転施 文。器内面は横位の寛撫で整形を施す。	
10-00499	縄文土器 深鉢	B 区 2 面 破片	器厚0.8	並・酸・並・明黄褐・夾雑物少量	胴部中位にくびれを有する。縦位の槽円沈線区画内にL-r 原 体に縦転施文する。器内面は横位の寛撫で整形を施す。	
10-00500	縄文土器 深鉢	C 区 1 掘立 P2 破片	器厚0.9	並・酸・並・鈍黄橙・砂粒・長石	胴部中位にくびれを有する。縦位の槽円沈線区画内にL-r 原 体に縦転施文する。器内面は横位の寛撫で整形を施す。	
10-00501	縄文土器 深鉢	B 区 2 面 破片	器厚0.8	並・酸・並・明黄褐・細粒砂・夾雑 物少量	胴部中位にくびれを有する。縦位の槽円沈線区画内にL-r 原 体に縦転施文する。器内面は横位の寛撫で整形を施す。	
10-00502	縄文土器 深鉢	17-R-7 破片	器厚0.8	並・酸・並・黄橙・細粒砂・石英	呪医の沈線区画にL-r 原体の縦位縦転施文。器内面は横位の 寛撫で整形を施す。	
10-00503	縄文土器 深鉢	27-Q-6 破片	器厚0.6	並・酸・並・茶褐・黄褐色軽石粒・ (山ネバ)	三角形構成の細い浅い沈線文を施す。器内面は横位の指撫で 整形を施す。	
10-00504	縄文土器 深鉢	27-Q-6 破片	底11.4 底厚1.3 器厚1.5	並・酸・並・明黄褐・白色粒子多量・ 白色微粒子多量	底部は直線的に立ち上がる。器外面は縦位の寛撫でを施し、 器内面は横撫でを施す。	
10-00505	縄文土器 深鉢	C 区 1 溝 覆土 破片	底6.4 底厚1.8 器厚0.9	並・酸・並・明黄褐・白色微粒子・ 高温石英	外反気味に立ち上がる。器外面は縦位の寛撫でを施す。	
10-00506	縄文土器 深鉢	C 1 井戸 覆土 破片	底(6.6)	並・酸・硬・浅黄橙・β 石英・白色微 粒子	底は厚い。文様の施文は認められない。	

遺構外出土遺物(17)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
20-00048	打製石器 鏃	27-S-? 完形	長7.5 幅1.3 厚1.0 重12.0	黒色安山岩	剝片剝離面が表裏面に認められる。	
20-00049	打製石器 鏃	C区16溝 部分欠損	残長2.5 身幅1.8 重ね0.3	黒色安山岩	平根三角形腹扶式。腹扶部の片側・鋒を欠損する。腹扶は端部を直線的に加工する「鏃形鏃」である。	
20-00050	打製石器 鏃	C区表土層 完形	長2.8 幅1.4 厚0.3 重1.17	チャート	無茎長平根三角形扶式。剝片剝離面は認められないが、2次加工の剝離面の一部が認められる。	
20-00051	打製石器 鏃	C区1面 部分欠損	残長3.5 幅1.7 厚0.5 重1.90	黒色安山岩	有茎長平根三角形扶式。剝片剝離面の一部が表裏面に認められる。	
20-00052	打製石器 鏃	15号住覆土 部分欠損	残長2.1 幅1.8 厚0.35 重1.01	黒色安山岩	無茎平根三角形扶式。先端を欠損する。剝片剝離面が裏側に認められる。	
20-00053	打製石器 鏃	C区内 部分欠損	残長1.9 幅1.45 厚0.3 重0.88	チャート	無茎平根三角形扶式。先端を欠損する。剝片剝離面が表側に認められる。	
20-00054	打製石器 鏃	B区2面 部分欠損	残長2.1 幅1.7 厚0.35 重1.33	黒色頁岩	有茎平根三角形扶式。欠損が2回認められ、欠損調整後再度欠損している。	
20-00055	打製石器 削器	27-S-6 完形	長5.7 幅2.5 厚0.8 重11.0	黒色頁岩	剝片素材を縦に用い、バルブ側を刃部加工している。基部は剝片の横側にとり、縦長の姿に仕上げている。	
20-00056	打製石器 削器	27-R-6 完形	長8.7 幅2.2 厚1.0 重1.60	黒色頁岩	縦長の剝片素材の縁辺を成形加工し、長辺両側縁に刃部加工を施す。剝片剝離面が表裏面に認められる。	
20-00057	打製石器 削器	27-R-6 完形	長6.7 幅4.2 厚1.0 重23.0	黒色頁岩	剝片素材を縦に用いている。バルブ側を成形し、剝離面の端部に刃部加工している。側縁側を基部加工している。	
20-00058	打製石器 削器	27-Q-7 完形	長3.4 幅6.4 厚0.6 重13.0	黒色頁岩	剝片のバルブ側を基部にし、全体を側縁加工し成形している。剝片剝離面が表裏面に認められる。	
20-00059	打製石器 削器	27区内 完形	長4.0 幅4.2 厚1.1 重15.0	珪化凝灰岩	剝片剝離素材の縁辺に加工を施す。剝片剝離面が表裏面に認められる。	
20-00060	打製石器 削器	27-R-7 完形	長3.6 残幅6.9 厚1.4 重26.0	黒色頁岩	バルブ側に基部にし、横長に加工している。剝片剝離面が表裏面に認められる。	

遺構外出土遺物(18)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
20-00061	打製石器 削器	27-S-7 完形	長5.2 幅3.3 厚0.8 重17.0	黒色頁岩	縦長の剝片素材の縁辺を成形加工し、長辺両側縁に刃部加工を施す。剝片剝離面が表裏面に認められる。	
20-00062	打製石器 削器	27-S-6 完形	長3.3 幅6.3 厚1.0 重13.0	チャート	バルブ側に基部を残し、剝片端部側に刃部加工を施す。剝片剝離面の一部が表裏面に認められる。	
20-00063	打製石器 彫器	27-R-6 完形	長6.5 幅5.9 厚1.1 重47.0	黒色頁岩	全体に側縁加工を施す。剝片剝離面の一部が表裏面に認められる。	
20-00064	打製石器 削器	27-S-6 完形	残長3.7 残幅6.4 厚0.9 重18.0	黒色頁岩	剝片の両端部を加工し、剝片端部に刃部加工を施す。刃部加工は細かな加工を施す。剝片剝離面が表裏面に残る。	
20-00065	打製石器 削器	27-R-1 完形	長4.4 幅6.9 厚1.3 重36.0	黒色頁岩	横長剝片の端部に刃部加工を施し、片側縁に及んでいる。剝片剝離面の一部が表裏面に認められる。	
20-00066	打製石器 削器	27-S-6 完形	長3.5 幅2.6 厚1.0 重1.0	黒色頁岩	両側縁を加工している。表面には一部、裏面は全面、剝片剝離面が認められる。	
20-00067	打製石器 削器	27-O-6 完形	長4.5 残幅7.4 厚1.0 重37.0	黒色頁岩	剝片裏面側のバルブ部分の反対側周辺に囲うが集中する。剝片剝離面の一部が表裏面に認められる。	
20-00068	打製石器 削器	27-R-9 部分欠損	残長5.4 残幅6.6 厚0.7 重23.0	黒色頁岩	表裏面での剝片剝離時の方向が異なる。表面打点側に刃部加工を施す。	
20-00069	打製石器 削器	27-R-6 部分欠損	残長4.6 残幅6.3 厚1.0 重31	黒色頁岩	剝片の側縁寄りに刃部加工を施す。表面に礫面を残し、裏面に剝片剝離面を残す。	
20-00070	打製石器 削器	B区2面 部分欠損	残長4.5 残幅6.2 厚1.5 重39.0	黒色頁岩	剝片端部側に刃部加工を施す。表面に礫面を残し、裏面に剝片剝離面を残す。	
20-00071	打製石器 削器	C区表面採 集 完形	長75.3 幅7.0 厚1.1 重39.0	黒色頁岩	縦長剝片の側縁に加工を施す。表面に礫面、裏面に剝片剝離面を残している。	
20-00072	打製石器 削器	27-S-7 完形	残長5.6 残幅6.5 厚0.9 重33.0	黒色頁岩	剝片縁辺に加工痕が認められ、剝片端部側に刃部加工が認められる。剝片剝離面の一部が表裏面に認められる。	
20-00073	打製石器 削器	27-S-6 完形	長6.2 幅9.8 厚2.2 重145.0	黒色頁岩	剝片剝離の端部側に刃部加工が認められる。表面は礫面、裏面に剝片剝離面を残す。	
20-00074	打製石器 削器	B区2面 完形	長5.3 幅8.5 厚1.3 重72.0	黒色頁岩	剝片剝離の端部側に刃部加工が認められる。表面は礫面、裏面に剝片剝離面を残す。	
20-00075	打製石器 鏃	27-S-6 部分欠損	長8.0 幅7.2 厚1.6 重78.0	黒色頁岩	剝片端部側に刃部加工を施す。先端を欠損する。	
20-00076	打製石器 削器	27-R-2 完形	長4.8 幅9.8 厚1.5 重59.0	黒色頁岩	剝片剝離の端部側の一部に剝離が認められる。	
20-00077	打製石器 削器	C区16溝 覆土 完形	長5.4 幅11.3 厚1.5 重114.6	黒色頁岩	剝片剝離面が表裏面に認められる。剝片端部に刃部加工を施している。側縁には刃部構成が認められる。	
20-00078	打製石器 削器	C区表土層 完形	長8.9 幅9.2 厚1.5 重151.0	黒色頁岩	剝片剝離の打点側に刃部加工が認められる。表面は礫面、裏面に剝片剝離面を残す。	
20-00079	打製石器 削器	27-Q-6・ P。完形	長6.8 幅11.5 厚1.1 重94.0	黒色頁岩	剝片剝離の端部側に刃部加工が認められる。表面は礫面、裏面に剝片剝離面を残す。	
20-00080	打製石器 削器	42区表土層 完形	長6.4 幅10.7 厚2.4 重173.31	黒色頁岩	表面は礫面・剝片剝離面を残すが、刃部加工は認められないが、裏面はバルブ側に加工が施されている。	

遺構外出土遺物(19)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
20-00081	打製石器 ヘラ状石器	31号住 覆土 完形	長5.4 幅3.4 厚2.2 重34.9	黒色安山岩	礫面を残す。三角形に側縁加工を施している。摩滅・風化は認められない。	
20-00082	打製石器 ヘラ状石器	38号住 覆土 完形	長6.7 幅3.4 厚1.7 重44.2	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。周縁に小単位に加工を施している。摩滅・風化は認められない。	
20-00083	打製石器 ヘラ状石器	27-Q-7 完形	長8.3 幅5.1 厚3.4 重163.8	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。周縁加工は荒い。摩滅・風化は認められない。	
20-00084	打製石器 ヘラ状石器	57号住 覆土 完形	長8.8 幅5.2 厚2.9 重144.0	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。周縁に加工を施している。摩滅・風化は認められない。	
20-00085	打製石器 ヘラ状石器	27-P-9 完形	長8.8 幅4.4 厚2.2 重79.1	黒色頁岩	撥形に加工し、表裏面に剥片剥離面を残す。側縁・端部に加工を施す。摩滅・風化は認められない。	
20-00086	打製石器 ヘラ状石器	27-S-6 完形	長9.2 幅4.3 厚1.8 重86.7	黒色頁岩	撥形に加工し表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。側縁・端部に加工を施す。摩滅・風化は認められない。	
20-00087	打製石器 ヘラ状石器	27-Q-7 完形	長7.8 幅6.6 厚2.3 重97.2	黒色頁岩	撥形に加工し表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。側縁・端部に加工を施す。摩滅・風化は認められない。	
20-00088	打製石器 ヘラ状石器	27-S-6 完形	長10.1 幅6.2 厚3.3 重189.4	黒色頁岩	撥形に加工し、表裏面に剥片剥離面を残す。側縁・端部に加工を施す。摩滅・風化は認められない。	
20-00089	打製石器 ヘラ状石器	27-P-8 完形	長11.3 幅5.4 厚2.4 重159.4	黒色頁岩	撥形に加工し表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。側縁・端部に加工を施す。摩滅・風化は認められない。	
20-00090	打製石器 ヘラ状石器	A区表土層 完形	長11.1 幅6.2 厚2.7 重173.0	黒色頁岩	撥形に加工し表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。側縁・端部に加工を施す。摩滅・風化は認められない。	
20-00091	打製石器 ヘラ状石器	27-S-6 完形	長10.3 幅6.0 厚2.8 重201.4	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。側縁の剥離は裏面のみに認められる。摩滅・風化は認められない。	
20-00092	打製石器 ヘラ状石器	27-Q-7 完形	長9.1 幅5.4 厚2.9 重118.3	黒色頁岩	両面に加工が認められる。打製石斧状の加工であるが、側部の加工は荒く、基部の作りとは異なる。	

遺構外出土遺物 (20)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
20-00093	打製石器 ヘラ状石器	27-Q-7 完形	長11.6 幅5.8 厚3.1 重229.8	黒色頁岩	表面は礫面を残す。1次剥離は荒い。摩滅・風化は認められない。	
20-00094	打製石器 ヘラ状石器	42区表土層 完形	長11.8 幅6.2 厚2.4 重200.0	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。裏面の周縁に加工を施している。摩滅・風化は認められない。	
20-00095	打製石器 ヘラ状石器	42区表土層 完形	長13.1 幅6.5 厚3.6 重259.0	黒色頁岩	剥片剥離面が表裏面に認められる。1次はくりは荒く細かな側縁加工は認められない。	
20-00096	打製石器 ヘラ状石器	27-S-6 完形	長12.0 幅6.9 厚2.8 重197.8	黒色頁岩	尾表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。裏面側は片側縁側に加工が認められる。摩滅・風化は認められない。	
20-00097	打製石器 ヘラ状石器	C区16溝 覆土 完形	長8.6 幅6.6 厚4.8 重268	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。周縁は荒い剥離を施している。摩滅・風化は認められない。	
20-00098	打製石器 ヘラ状石器	35号住 覆土 完形	長9.4 幅5.3 厚2.3 重131.5	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。全体に荒い作り。摩滅・風化は認められない。	
20-00099	打製石器 ヘラ状石器	31号住 覆土 完形	長9.4 幅5.7 厚3.0 重206.9	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。全体に荒い剥離により構成されている。	
20-00100	打製石器 ヘラ状石器	31号住 覆土 完形	長8.7 幅7.1 厚3.3 重247.7	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。側縁・下端は鈍角に剥離成形を施している。摩滅・風化は認められない。	

遺構外出土遺物(21)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
20-00101	打製石器 ヘラ状石器	27-P-7 完形	長9.8 幅7.5 厚3.4 重313.0	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。周縁加工は荒い。摩滅・風化は認められない。	
20-00102	打製石器 ヘラ状石器	38号住 覆土 完形	長19.7 幅7.1 厚3.2 重229.3	黒色頁岩	尾表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。裏面側は片側縁側に加工が認められる。摩滅・風化は認められない。	
20-00103	打製石器 ヘラ状石器	C区表土層 完形	長8.5 幅6.0 厚4.1 重211.1	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。周縁は荒い剥離を施している。摩滅・風化は認められない。	
20-00104	打製石器 ヘラ状石器	27-Q-6 完形	長9.6 幅5.4 厚2.1 重126.3	黒色頁岩	剥片剥離面が表裏面に認められる。側縁加工は比較的細かい。摩滅・風化は認められない。	
20-00105	打製石器 ヘラ状石器	27区内 完形	長8.7 幅5.2 厚2.9 重97.0	黒色頁岩	表面は礫面を残す。比較的つくりは丁寧。摩滅・風化は認められない。	
20-00106	打製石器 ヘラ状石器	27-L-6 部分欠損	残長8.3 幅5.8 厚2.0 重114.2	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。周縁加工はやや荒い。台石技法に拠り縦断されていると考えられる。	
20-00107	打製石器 削器	48区表土層 完形	長9.0 幅7.2 厚1.9 重138.1	黒色頁岩	剥片剥離面が表裏面に認められる。刃部加工は荒い。摩滅・風化は認められない。	
20-00108	打製石器 ヘラ状石器	42区表土層 完形	長13.1 幅8.3 厚3.2 重338.1	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。裏面の周縁に加工を施している。摩滅・風化は認められない。	

遺構外出土遺物(22)-1

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
20-00109	短冊形打製石斧	C区2溝 覆土 完形	長13.2 幅3.7 厚1.6 重105.9	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残し、剥片剥離面側に側部の加工が認められる。未製品の可能性もある。	
20-00110	短冊形打製石斧	B区30溝 覆土 完形	長13.4 幅4.6 厚1.6 重125.6	細粒輝石安山岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。表裏面の刃部側には摩滅が認められる。荘園調整は丁寧。	
20-00111	撥形打製石斧	A区内 完形	長11.8 幅4.7 厚1.2 重74.1	黒色頁岩	剥片剥離面が表裏面に認められる。側縁の加工は小単位で丁寧仕上げられている。	
20-00112	撥形打製石斧	B区2面 完形	長13.0 幅5.0 厚2.2 重148.8	黒色頁岩	刃部には摩滅が認められ、摩滅部分を部分的に残し、再加工している。	
20-00113	撥形打製石斧	C区4溝 覆土 完形	長14.1 幅5.3 厚2.6 重232.3	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。軽度の摩滅が認められる。	
20-00114	撥形打製石斧	47号住 覆土 完形	長12.9 幅4.9 厚2.6 重161.6	黒色頁岩	刃部に摩滅が認められ、表裏面に再調整1次剥離面が多い。側部の剥離は小単位で丁寧。	

遺構外出土遺物(2) - 2

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
20-00115	撥形打製石 斧	C区4号井 戸 完形	長11.4 幅5.2 厚2.1 重130.6	黒色頁岩	表裏面の剥片剥離面には摩滅が認められる。全体の加工は摩滅後の再調整である。	
20-00116	打製石器 ヘラ状石器	27-P-3 完形	長11.3 幅5.4 厚2.7 重143.6	黒色頁岩	撥形に加工し表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。側縁・端部に加工を施す。摩滅・風化は認められない。	
20-00117	打製石斧未 製品 完形	C区表土層 完形	長13.2 幅5.2 厚2.8 重207.2	黒色頁岩	台石技法による剥離後、両側部の台石技法による剥離が認められる。刃部等は無い。未製品のまま廃棄されている。	
20-00118	打製石器 削器か	C区内 完形	長6.6 幅4.0 厚1.1 重38.0	黒色頁岩	全体が摩滅するが、摩滅より新しい剥離(後損か)も認められる。剥離の状態から打製石斧とは思われない。	
20-00119	打製石器 削器	27-P-8 完形	長7.7 幅4.8 厚1.2 重54.6	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面が認められる。両側縁に刃部加工を施す。下端は当時の破損状態。	
20-00120	撥形打製石 斧	B区表土層 完形	長11.1 幅5.4 厚2.3 重142.4	黒色頁岩	表裏面の剥片剥離面には摩滅が認められる。全体の加工は摩滅後の再調整である。	

遺構外出土遺物(3)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
20-00121	分胴形打製 石斧	B区2面 完形	長8.7 幅7.1 厚1.8 重209.3	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。2次加工の成形は丁寧である。摩滅は認められない。	
20-00122	分胴形打製 石斧	外C区1号 溝覆土	長10.8 幅7.0 厚2.8 重233.4	細粒輝石安山岩	表皮を残す。基部の刃込みは細かくない。端部に小単位の打痕が認められる。全体に作りは粗雑。	
20-00123	分胴形打製 石斧	A区内 部分欠損	残長9.5 幅7.8 厚2.4 重209.3	細粒輝石安山岩	風化が顕著で、細部調整等は不分明。表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。	
20-00124	分胴形打製 石斧	A区内 完形	長12.3 幅7.1 厚2.9 重278.9	黒色頁岩	台石技法か。表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。基部の加工の刃り込みは1次剥離後の整形程度。	
20-00125	分胴形打製 石斧	B区2面 完形	長9.4 幅7.8 厚1.7 重112.2	黒色頁岩	刃部に再加工の痕跡が認められるが、仕上げられた痕跡は少ない。基部刃り込みは局所的な形が推定される。	
20-00126	分胴形打製 石斧	C区5号 井戸 完形	長23.4 幅12.1 厚4.0 重1,431.3	変質安山岩	扁平な円礫が素材。表裏面に礫面を残す。1次加工は粗い。側縁加工は成形程度。刃部を一部欠損する。	

遺構外出土遺物(4)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
20-00127	打製石器 ヘラ状石器	C区表土層 破片	残長6.7 残幅4.4 厚4.1 重124.7	黒色頁岩	礫面をプラットフォームにし、両側縁を荒く剥離している。裏面の剥離端部の部分を小単位に加工している。	
20-00128	礫器 スタ ンプ形石器	C区16溝 覆土 破片	長10.1 幅7.4 厚4.5 重479.7	輝緑岩	円礫を載断し、握り部分は剥離整形し、面取りを施している。上端は集中場打痕で埋まる。使用面は欠損する。	
20-00129	打製石器 ヘラ状石器	27-Q-6 完形	長10.4 幅6.8 厚3.8 重343.1	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に剥片剥離面を残す。台石技法による剥離により、端部側潰れた状態。未製品か。	
20-00130	磨製石器 石斧	C区16溝 覆土 破片	長13.9 幅5.2 厚2.6 重242.1	変質玄武岩	表面は側部からの一撃による剥離か。全体に再調整の工程が窺え、集中場打成形を施している。	
20-00131	石器 磨製石斧	12号住 1/2残	残長7.8 幅4.0 厚2.4	変質玄武岩	側面に再調整の場打再整形痕が認められる。	
20-00132	磨製石器 石剣か石斧	B区2面 破片	残長10.2 幅4.1 厚1.5 重87.0	変質玄武岩	比較的扁平で幅にも変化が認められない。石剣の可能性が高い。	
20-00133	磨製石器 石斧	B区2面 破片	残長8.5 幅5.1 厚2.5 重143.4	変輝緑岩	乳棒状磨製石斧。刃部は始刃。側縁に成形時の集中場打痕が残る。載断は一撃による欠損。	
20-00134	石器 磨製 石斧未製品	覆土内 破片	残長15.9 幅8.1 厚3.8 重836.39	変質玄武岩	素材を粗く成形し、場打整形を施している。	

遺構外出土遺物(5)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
20-00135	礫器 磨石	27-P-8 完形	長9.2 幅5.5 厚3.2 重204.5	変質安山岩	円礫の平坦面が摩滅する。場打痕は認められない。	
20-00136	礫器 叩き石	27-Q-6 完形	長9.9 幅5.3 厚2.0 重140.3	黒色頁岩	円礫の平坦面が摩滅し、端部に場打痕が認められる。	
20-00137	礫器 擦石	C区	長9.5 幅8.1 厚4.0 重410	粗粒輝石安山岩	円礫の平坦面が摩滅し、縁辺等に場打痕が認められる。	
20-00138	礫器 叩き石	C区表土層 完形	長12.8 幅10.6 厚3.7 重813.1	石英閃緑岩	円礫の両面が顕著に摩滅し、縁辺には集中場打痕が認められる。	
20-00139	礫器 磨石	27-R-7 完形	長11.1 幅10.5 厚3.5 重583.0	左岸	円礫の両面が顕著に摩滅し、縁辺には集中場打痕は認められない。	
20-00140	礫器 叩き石	27-Q-6 完形	長13.4 幅7.1 厚5.7 重766.8	粗粒輝石安山岩	円礫の平坦面が摩滅し、側部・端部に場打痕が認められる。	
20-00141	礫器 叩き石	27-R-7 完形	長10.9 幅6.3 厚3.5 重312.8	粗粒輝石安山岩	平坦面が摩滅し集中場打痕・摩滅した凹穴が2箇所に認められる。周縁にも集中場打痕が認められる。	
20-00142	礫器 叩き石	27-R-6 完形	長15.9 幅7.5 厚4.5 重831.3	粗粒輝石安山岩	円礫の側部中央部に集中場打痕が認められる。上端に僅かな場打痕が認められる。摩滅・風化は認められない。	

遺構外出土遺物(26)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00507	土師器 環	C区内 破片	厚0.5	並・酸・並・浅黄橙・黒色鈳物粒子・ 白色粒子	内外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。生地土は粘土化したローム土か。	墨書-7・8
10-00508	土師器 環	C区表土層 破片	厚0.5	並・酸・並・浅黄橙・黒色鈳物粒子・ 白色粒子	外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。生地土は粘土化したローム土か。	墨書-9
10-00509	土師器 環	C区4溝 覆土 破片	厚0.5	並・酸・並・明黄褐・黒色鈳物粒子・ 白色粒子	外面に墨書が認められる。文字は「口」か。生地土は粘土化したローム土か。	墨書-10
10-00510	土師器 環	B区2面 破片	厚0.4	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈳物粒子・ 白色粒子・発泡長石	外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。生地土は粘土化したローム土か。	墨書-11
10-00511	土師器 環	B区2面 破片	厚0.6	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈳物粒子・ 白色粒子	内面に墨書が認められるが文字の判読は不能。墨痕か。生地土は粘土化したローム土か。	墨書-12
10-00512	土師器 環	B区2面 破片	厚0.5	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈳物粒子・ 白色粒子	外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。生地土は粘土化したローム土か。	墨書-13
10-00513	土師器 環	B区2面 破片	口(12.2) 底(5.6) 高(4.4)	並・酸・並・明黄褐・黒色鈳物粒子・ 白色粒子	外面は篋削りを施し、内面は撫でによる仕上げ。内面には墨書二文字(戯画か)が認められるが判読不能。	墨書-14・15
10-00514	土師器 塊	B区2面 破片	厚0.7	粗・酸・並・浅黄橙・白色微粒子・ 黒色鈳物粒子	縦横成整形右回転。外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。	墨書-16 東毛産
10-00515	須恵器 環	C区6溝 覆土 破片	口(13.2)	並・酸・並・白灰・黒色鈳物粒子・ 透明	縦横成整形右回転。外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。	墨書-17 秋間産か
10-00516	土師器 環	C区2井戸 破片	厚0.4	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈳物粒子・ 白色粒子	内面に墨書が認められる。筆跡には勢いが認められるが文字の判読は不能。生地土は粘土化したローム土か。	墨書-18
10-00517	須恵器 環	B区2面 破片	底(5.0)	並・還・並・白灰・夾雑物微量	縦横成整形右回転。外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。内面に有機質(漆?)が付着する。	墨書-19
10-00518	須恵器 環	B区2面 破片	底(5.2)	並・還・並・灰・白色粒子・夾雑物 少量・東毛産	縦横成整形右回転。外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。	墨書-20 東毛産
10-00519	須恵器 環	C区6溝 覆土 破片	厚0.5	並・酸・硬・鈍黄橙・白色粒子・白 色微粒子	縦横成整形右回転。外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。	墨書-21
10-00520	須恵器 環	B区26溝 覆土 破片	厚0.5	並・還・並・灰・細粒状白色鈳物粒 子・黒色粒子少量	縦横成整形右回転。内外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。東毛産	墨書-22・23
10-00521	土師器 環	C区2面 破片	底(6.0)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈳物粒子・ 白色粒子	内面に墨書が認められる。文字は「田」かこれに類する文字。生地土は粘土化したローム土か。	墨書-24 東毛産
10-00522	須恵器 環	B区2面 破片	底(6.6)	並・還・並・灰・黒色粒子・白色粒 子・夾雑物少量	縦横成整形右回転。外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。	墨書-25 東毛産
10-00523	須恵器 環	B区2面 破片	底(7.0)	並・還・並・灰・黒色粒子少量	縦横成整形右回転。内外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。	墨書-26・27
10-00524	須恵器 環か塊	B区2面 破片	厚0.4	並・還・軟・白灰・夾雑物微量	縦横成整形右回転。外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。	墨書-28 東毛産
10-00525	須恵器 環か塊	C区2面 破片	厚0.7	並・中・並・外面黒・内面灰黄・黒 色鈳物粒子・白色粒子	縦横成整形右回転。内面に墨書が認められるが文字の判読は不能。	墨書-29
10-00526	土師器 壺	B区2面 破片	厚0.6	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈳物粒子・ 白色粒子	外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。生地土は粘土化したローム土か。	墨書-30
10-00527	土師器 環	C区2面 破片	厚0.4	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈳物粒子・ 白色微粒子	外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。吉井・藤岡産の土師器か。	墨書-31
10-00528	土師器 壺	C区16溝 覆土 破片	厚0.9	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈳物粒子・ 白色粒子	外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。生地土は粘土化したローム土か。	墨書-32
10-00529	須恵器 環か塊	B区23溝 覆土 破片	厚0.8	並・中・軟・明黄褐・白色微粒子・ 黒色鈳物粒子	縦横成整形右回転。内面に墨書が認められるが文字の判読は不能。	墨書-33 東毛産
10-00530	須恵器 環か塊	B区2面 破片	厚0.7	粗・酸・軟・灰白・白色微粒子・黒 色鈳物粒子	縦横成整形右回転。外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。墨痕の可能性はある。	墨書-34 東毛産
10-00531	須恵器 環か塊	C区表土層 破片	厚0.5	並・還・並・白灰・黒色鈳物粒子微 量・夾雑物微量	縦横成整形右回転。外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。	墨書-35 東毛産
10-00532	土師器 塊	B区2面 破片	底(7.0)	並・酸・並・鈍橙・白色粒子・黒色 鈳物粒子	型作り。底面に離砂。高台は貼り付け。内面に有機質(漆?)が付着する。	東毛産
10-00533	須恵器 環か塊	B区2面 破片	厚0.5	並・酸・並・外面黒・内面灰白・白 色微粒子・夾雑物少量	縦横成整形右回転。内面に墨書が認められるが文字の判読は不能。	墨書-36 東毛産

遺構外出土遺物(27)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00534	須恵器 塊	B区2面 破片	底(7.0)	並・酸・並・鈍黄橙・白色鈳物粒子・ 黒色鈳物粒子・白色粒子	縦横成整形右回転。高台は貼り付け。見込みに墨書が認められるが文字の判読は不能。外面に吸炭が認められる。	墨書-37・38
10-00535	須恵器 塊	B区B水田 跡面 破片	底(5.6)	並・酸・軟・浅黄橙・白色粒子・夾 雑物少量	縦横成整形右回転。高台は貼り付け。外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。	墨書-39 東毛産
10-00536	須恵器 塊	B区2面 破片	底(6.4)	粗・酸・軟・灰白・白色粒子・白色 鈳物粒子	縦横成整形右回転。高台は貼り付け。外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。生地は粘土化したローム土か。	墨書-40 漆田産か
10-00537	須恵器 塊	B区2面 破片	底(6.2)	並・酸・並・橙・黒色鈳物粒子多量・ 白色粒子	縦横成整形右回転。高台は付け高台。底面に墨書が認められるが文字の判読は不能。539と同一産地。丁寧な作り。	墨書-41 東毛産
10-00538	須恵器 塊	B区2面 破片	底(7.2)	並・酸・並・橙・黒色鈳物粒子多量・ 白色粒子	縦横成整形右回転。高台は貼り付け。見込みに墨書が認められるが文字の判読は不能。537と同一産地作りは丁寧。	墨書-42 東毛産
10-00539	須恵器 塊	B区2面 破片	底(6.2)	並・酸・並・橙・黒色鈳物粒子多量・ 白色粒子	縦横成整形右回転。高台は貼り付け。見込みに墨書が認められるが文字の判読は不能。537と同一産地作りは丁寧。	墨書-43 東毛産
10-00540	須恵器 環か塊	C区6層 破片	厚0.6	並・還・並・灰白・白色粒子・夾雑 物少量	縦横成整形右回転。外面に墨書が認められるが文字の判読は不能。	墨書-44 東毛産
10-00541	施釉陶器 灰釉 皿	B区2面 破片	底(7.8)	密・還・締・灰 釉調=内面に極薄い灰緑釉がかかる	縦横成整形右回転。施釉は刷毛塗り。底面に墨書、文字は未判読。	墨書-45

富田漆田遺跡北側調査区遺構諸元

溝状遺構

第12号溝状遺構

層序：(基準線標高値105.80m・106.40m)

1. 黒色土：粒状C軽石含有・粒状ローム少量。

所見：当溝状遺構は、調査区の東斜面で横断する状態で、13号溝を切る状態で発見されている。当溝状遺構の底面は非常によく硬化していたので道跡と考えられる。時期は覆土の状態、出土遺物から9世紀から10世紀頃と判断できる。

第13号溝状遺構

層序：(基準線標高値106.20m・106.30m)

黒色土：粗粒状C軽石含有・粒状C軽石多量・炭化物少量。

所見：当溝状遺構は、調査区の東斜面で台地に平行する状態で12号溝を切られる状態で発見されている。当該溝状遺構に平行して、5世紀末頃の住居跡が2基発見されている。そして、覆土の状態は、5世紀の住居跡の覆土に類似し粗粒状C軽石を多く含む。また出土遺物では住居跡と同時期の遺物が出土している。このことから、当該の溝状遺構は住居跡と並存していたことが推定される。この並存の意義は、斜面立地の住居跡を雨水から保護する目的で構築されたものと推定される。

第18号溝状遺構

層序：(基準線標高値103.20m・103.40m・104.20m)

1. 黒色土：As-B多量・粗粒状ローム少量。
2. 黒色土：As-B多量・塊状ローム斑状多量・粗粒状ローム多量。
3. 黒色土：As-B多量・粗粒状ローム微量。
4. 黒色土：As-B多量・粗粒状ローム多量・粒状ローム多量。
5. 黒色土：As-B多量・粒状ローム含有。
6. 黒色土：As-B多量・粗粒状ローム含有・粒状ローム混入。
7. 黒色土：As-B多量・塊状ローム混入・粗粒状ローム多量。
8. 1近質。
9. 黒灰色土：As-B多量・粗粒状ローム若干。
10. 黒灰色土：As-B多量・塊状褐色土若干。
11. 黒色土：As-B多量・塊状ローム混入・粗粒状ローム混入。
12. 黒色土：As-B多量・塊状ローム微量。
13. 塊状ローム主体(壁の崩壊土か)。
14. 黒灰色土：As-B多量・地山崩壊土含有。
15. 黒色土：As-B多量・塊状ローム含有。
- 16~18. 地山土の崩壊土。
19. 黒色土：As-B多量・砂含有。
20. 灰褐色土：塊状ローム少量・砂主体。
21. 黒色土：As-B多量・鉄分含有・灰色砂含有。
22. 黒色土：As-B多量・塊状灰色地山土混入。
23. 灰色砂層。
24. 灰褐色シルト質土。
25. 黒色土：As-B多量・砂粒混入。
26. 灰黄褐色シルト質土。
27. 灰褐色土砂層。
28. 黒色土：As-B多量・赤褐色・橙色地山土多量。
29. 黒色シルト質土：As-B微量。
30. 砂礫層。

所見：当溝状遺構は、台地の斜面直下から掘り込まれている。走行方向は大泉坊川の流露に向かい直行方向で調査区外域へ延びている。

この低地部分の県道南側部分では同規模乃至より大規模なC・B4号溝が発見されている。この溝状遺構も台地の縁辺部から発しており、低地部内で方向を90度転換して北側に向かう状態で走行している。この南北走する部分に当該溝状遺構が合流するか、方向を南北走に転換して県道南側の4号溝と同一遺構として構築された可能性も考えられる。

時期は、As-Bの混入状態と黒色土の状態から中世後半頃と推定される。

第19号溝状遺構

所見：当溝状遺構は、低地部で発見されている。発見規模が短いため詳細不詳である。時期は覆土が砂質黒褐

色土であったことから、近世から近代と考えられる。後述の20・21号溝と同時期と考えられる。

第20号溝状遺構

所見：当溝状遺構は、低地部で21号溝と併走する状態で発見されている。性格は、平面形状が地形とは逆の状態であらうことから、水路とは考え難い。耕地の区画とも思われるが不分明である。時期は覆土の砂質黒褐色土の状態から、近世から近代の頃と推定される。また、21号溝は同時存続していた可能性が考えられる。

第21号溝状遺構

所見：当溝状遺構は、低地部で20号溝と併走する状態で発見されているが、20号溝同様に性格に就いては不分明である。時期はほぼ変わらないか、同時存続していた可能性が考えられる。

住居跡

第1号住居跡

位置：5地区-28-O-20/38-O-1グリッド。形状：矩形か。規模：2.94m×3.25m。主軸方位：北-124度→東。構築基準辺：不詳。竈規模：全長1.02m×袖部幅1.12m×燃焼部幅0.57m。

層序：(基準線標高値107.00m)

13. 黒褐色土：粒状C軽石含有。 14. 黒褐色土：粒状C軽石少量。 15. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒少量。
16. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量・被熱ロームブロック少量。 17. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土少量・焼土粒含有。
18. 茶褐色土：ロームブロック・塊状暗褐色土斑状混入。

所見：当住居跡は54・55号住に切られている。確認時には当該住居跡の竈のみが確認され、54・55号住の竈は確認出来なかった。このことから当初は1軒の住居跡と考えて調査着手したが、調査の進行に伴い54住居跡との切りあい、続いて55住居跡との切りあい関係が認められた。竈は外側に突出する状態のP₁に接している。この状況は、竈の位置による制約が外側に突出せざるを得ない状況であったことが推定される。このことは、構築当初段階では、P₁の構築は考慮されていなかったことが類推される。また、この南隅部の突出状態を除外すれば、住居跡の形状は比較的均整の取れた状態になり、竈は隅部に接する状態で構築意思が決定していることが推定される。

出土遺物は少量のみで細片化した状態であった。これらの遺物から当該住居跡の時期を推定するのは困難でもあるが、概ね9世紀後半までの時期が推測される。また、10-00575は上位住居跡に当たる55住居跡に伴う遺物と考えられる。住居跡の形状は傍竈坑も認められるものの、調査を通じて、傍竈坑を伴う住居跡の在り方を観察したが、明瞭な分類基準になる要件として結論出来なかった。此の事を踏まえ、出土遺物からの9世紀後半という時期に就いても推定の域を出ない。

第2号住居跡

位置：5地区-28-N-O-19・20グリッド。形状：横長方形。規模：3.38m×4.12+ α m。主軸方位：北-119度→東。構築基準辺：西壁か。竈規模：全長1.00m×袖部幅1.10+ α m×燃焼部幅0.40m。

層序：(基準線標高値107.20m)

9. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土含有。 10. 黒褐色土：粒状C軽石微量。
11. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状黒色土含有。 12. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム混入。
13. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒混入・ロームブロック少量・粗粒状炭化物少量・粗粒状焼土含有。
14. 黒褐色土：粒状C軽石少量・ロームブロック含有・粒状ローム多量。

15. 黒褐色土：塊状灰黄褐色粘土混入・焼土粒混入・塊状焼土含有・粗粒状炭化物混入。
16. 黒褐色土：粒状C軽石微量・ロームブロック多量・粒状ローム多量。
17. 被熱土。
18. 黒褐色土・塊状焼土・灰の混土。
19. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒微量。
20. 塊状焼土。
21. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有・焼土粒混入・ロームブロック少量。
22. 黄褐色粘土。
23. 黒褐色土：硬質粘質土。
24. 黒褐色土：焼土粒混入・塊状黄褐色粘土少量・粗粒状炭化物含有。
25. 黒褐色土：粒状C軽石含有無・粒状ローム少量・粒状黄褐色粘土少量。
26. 塊状灰褐粘土。
27. 塊状灰褐粘土・粗粒状ローム含有・粗粒焼土含有。
28. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・粗粒状ローム含有・ロームブロック少量。
29. 焼土黒褐色土：粒状C軽石少量・ロームブロック混入・塊状黄褐色粘土含有。

所見：当住居跡は53号住に切られる。確認段階は1号住の竈の煙道が北隅部で切りあう以外には、ほぼ単独住居跡と考えられたが、調査中に調査区界の壁面を精査した結果、竈と考えられる礫・被熱層・焼土粒等を確認した。この竈と考えられる部分と、2号住の覆土上層の単一層を以って53号住と認定した。

当住居跡は顕著な掘方は認められなかった。掘方とするのはP₁の土坑状の掘り込みのみと竈の掘方のみであった。竈は、壁材に地山礫を多用し、右燃焼部壁で3段2列、左壁では1段2列。煙道部天井部にやはり礫を用いており、この礫を架けるための礫を門柱上に奥壁部分に立ち上げている。燃焼部の両壁は被熱による赤色変化が顕著であった。煙道部は、土師器甕が入れ子状態で据え、出土した甕は4個体を数える。燃焼部の両壁は被熱による赤色変化が顕著であった。また掘方では、焚口部の直下に改築時掘り込みの痕跡が土層断面で確認されている。

出土遺物では、当遺跡生産と考えられる10-00585・10-00586が上述土師器甕と共伴している。最も古い時期での共伴関係が成立している。この土師器甕は、「コ」の字状口縁を呈し、9世紀中頃を中心盛期として捉えることが出来る遺物であることから、当該住居跡の時期をこの9世紀中頃と考えられる。また、当遺跡生産の2点の須恵器坏は、量産段階の胎土と異なる開窯段階の胎土の製品である。

第3号住居跡

位置：5地区-38-N-20/38-L・N-1グリッド。形状：横長方形。規模：3.76m×4.22m。主軸方位：北-115度→東。構築基準辺：不詳。第1竈規模：全長1.26m×袖部幅0.75m×燃焼部幅0.60m。第2竈規模：全長1.30m×袖部幅0.64m×燃焼部幅0.6m。

層序：(基準線標高値107.10m)

1. 黒褐色土：粗粒状C軽石含有粒状ローム少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
3. 黒褐色土：細粒状C軽石微量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状焼土混入・ロームブロック少量。
5. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・粒状焼土混入・塊状焼土少量・ロームブロック含有。
6. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・攪乱多。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状焼土斑状混・ロームブロック斑状混。
8. 黒褐色土・塊状焼土・ロームブロックの混土。
9. 貼床(ロームブロック主体)。
10. 黒褐色土：粒状C軽石微量・ロームブロック斑状多量。
11. 黒褐色土：粒状C軽石少量・ロームブロック斑状多量。

所見：当該住居跡は、耕作等の攪乱により西壁側を失っている→東壁隅部周辺では壁溝様の落ち込みが認められている。竈は東壁・南東隅部での2箇所で見られている。この二者の竈は、北寄りの東壁に構築された竈(第1竈)は埋め戻されていた。南東隅部の竈(第2竈)は住居の廃棄段階まで使用されている。この事からも、東竈から南東隅部竈への竈構築位置の変遷が窺える。この竈の位置の形態では9世紀末~10世紀初頭であろうが、出土遺物の時期が異なっている。

出土遺物では、口縁整形に「コ」の字状口縁の特徴である口縁下半部の強い整形が窺える10-00596があり、9世紀でも初め頃の技法特徴が認められる。須恵器では、塊10-00600の高台取り付けが坏部の底部内面側に付けており、実際より底径の小さい心象を受ける。また、10-0063が破片化している事から、廃棄段階は10-00599・00600が示す、9世紀前半と考えられる。

住居跡形態と遺物の時期差がこれ程に隔絶しているのは当住居のみである。ここでは、遺物の年代観で当住居の年代としておきたい。

第4号住居跡

位置：5地区-28-N・O-19・20グリッド。形状：横長方形。規模：(3.65m)×5.30m。主軸方位：北-108度→東。構築基準辺：不詳。竈規模：全長0.56m×袖部幅1.10m×燃烧部幅0.45m。

層序：(基準線標高値107.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入(表土層混入)。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土多量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状焼土混入・粒状焼土多量。
4. 塊状焼土主体。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土混入・粒状焼土多量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粗粒状ローム。
7. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム混入・発色は茶褐色。

所見：当住居跡は切りあい関係の認められない単独住居跡であるが、耕作等の攪乱により西壁側を失い残存状態は悪い。しかし、出土遺物は豊富で、竈周辺を含め多数の遺物が出土し完形個体も多い。特に注目されるのは、P₁内出土の個体と竈掘方内出土の破片が接合している。竈は、燃烧部中央に燃烧部を塞ぐ形で大きい礫を据え、この礫の手前には支脚と考えられる礫が設置されている。これは、燃烧部での熱効率が礫を設置しなければならない状態であった事を示している。則ち、竈の最終改築が失敗していたか、器設に掛ける主体物(土器)に変化があった事を示唆している。また、左右両袖は燃烧部礫の部分まで礫を多用した造りになっている。

出土遺物では、須恵器坏・埴類が非常に豊富で、当遺跡生産の物が主体を占めており、羽釜の共伴も特徴である。上述の竈の構造変質は此の羽釜に起因する可能性も推測させている。住居跡の時期はやはり9世紀末～10世紀初頭と考えられる。

第5号住居跡

位置：5地区-28-K・L-19・20グリッド。形状：矩形。規模：2.67m×3.14m。主軸方位：北-120度→東。構築基準辺：不詳。竈規模：全長0.70m×袖部幅1.10m×燃烧部幅0.50m。

層序：(基準線標高値107.90m)

1. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・ロームブロック含有。

所見：当住居跡は西側斜面で6号住が近接するが、切り合い関係の認められない単独住居跡である。しかし、後世の攪乱に因り殆どが失われていた。このため、実測図は掘方面での状態である。図中の断面ポイントBの位置で突出する状態の土坑状の掘り込みは、竈の掘方で北東隅に寄った竈を構築する以前の竈と思われる。住居の掘方では、土坑状の掘り込みが認められるが、P₈は貯蔵穴等の住居施設の一つと思われる。

出土遺物も、住居跡の遺存が不良であったことから非常に少なかった。図示出来たのは土師器「コ」の字状口縁甕2点である。10-00639は「コ」の字表出に口縁中段に棒状の工具を用いているのが特徴である。時期の確定は困難であるが、遺物からの年代は概ね9世紀代であろうことは推定されるが、住居跡形態では、9世紀末～10世紀初頭頃と思われる。

第6号住居跡

位置：5地区-38-L-1グリッド。形状：横長方形。規模：3.00+α m×4.48m。主軸方位：北-116度→東。構築基準辺：不詳。竈規模：全長0.90m×袖部幅1.00m×燃烧部幅0.46m。

層序：(基準線標高値108.00m)

1. 黒褐色土：細粒状C軽石少量。粒状ローム含有。

所見：当住居跡は5号住に近接する。切り合い関係の認められない単独住居跡である。当住居も5号住同様に遺存は非常に悪い。住居は比較的均整の取れた形状をしているものの、西側を失っているため詳細不詳である。

出土遺物は住居跡の遺存が悪かったものの、10-00641・00642・00643は竈覆土下層・床面直上・床面直上層で出土している。また、破損している鎌40-00056の基部が出土している。この欠損状態は40-00055も同様で、大身の反りの強い鎌という特徴が共通点である。住居跡の時期は土師器坏から9世紀前半と推定される。

第7号住居跡

位置：5地区-38-K・L-5・6グリッド。形状：不詳（矩形か）。規模：3.48+ α m×3.70m。主軸方位：北-108度→東。構築基準辺：不詳。竈：未発見。

層序：（基準線標高値106.70m）

1. 黒褐色土：ロームブロックの混土・塊状焼土若干。

所見：当若住居跡は西斜面で土取りによる攪乱により、遺存状態は甚だ悪い。確認段階では、床面が確認面に露呈しており、竈も失われ、調査実施出来たのは掘方だけであった。掘方は土坑状の掘り込みが多いのが特徴で、P₆は底面と壁面下半に塊状黄褐色粘土を厚さ1～3cm程が貼られてあった。

出土遺物は住居跡の遺存が非常に悪かったことから自ずと少なく、図示可能な個体すべてを掲載した。時期は出土遺物からは9世紀後半～10世紀初頭頃と思われる。

第8号住居跡

位置：5地区-38-J-7グリッド。形状：不詳。規模：2.02+ α m×2.80m。主軸方位：北-124度→東。構築基準辺：不詳。竈規模：全長0.90m×袖部幅0.64m×燃燒部幅0.34m。

層序：（基準線標高値107.10m）

1. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・粒状焼土多量・粗粒状炭化物混入。
2. 黒褐色土：微粒状C軽石若干。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
4. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状焼土混入。
5. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・粒状焼土若干。
6. 5同質。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状焼土含有・粒状焼土混入・粗粒状炭化物含有。
8. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・粒状ローム若干。

所見：当住居跡は西側斜面に構築されており、後世の攪乱により？を失っている。住居は床面直上に於いて多量の塊状焼土・炭化材が出土していることから、火災住居跡と判断される。

出土遺物は残存不良な住居跡にも拘わらず比較的豊富である。また、その出土状態も良好であり、遺物は住居跡内の床面の東側に集中している。竈内では土師器甕10-00650・羽釜10-00655がある。土師器甕は既に「コ」の字状口縁ではなく緩やかに外反して立ち上がる口縁を呈している。頸部直下は横位の篋削り、胴部下半は縦位の篋削りを施している。この篋整形は4号住居跡10-00629に代表される、羽釜に認められる篋整形技法で、須恵工人が轆轤を制止させて行う整形技法である。羽釜10-00655は38号住居跡出土10-00933等と同一工人の製作であろう事が推定される。坏・塊類は北東隅部にやや偏る状況で出土している。消失直前での配置状態を示していると考えられ、屋内空間、とりわけ床面の利用状況が窺える好例でもある。これらの出土遺物から住居跡の時期は9世紀末～10世紀初頭頃と考えられる。

第9号住居跡

位置：5地区-38-I・J-7・8グリッド。形状：不詳。規模：1.7+ α m×2.76m。主軸方位：北-123

度→東。 構築基準辺：不詳。 竈規模：全長0.64m×袖部幅0.14m×燃焼部幅0.38m。

層序：(基準線標高値107.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・粒状焼土含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粒状焼土少量。
4. 灰。
5. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状焼土多量。
6. 黒褐色土：細粒状C軽石微量。

所見：当住居跡は8号住の至近に位置している。そして、8号住同様に西壁を失っている。南隅部のP₁は生活面上では浅く皿状の窪み状態であったが、掘方を露呈させた状態では、床面下-20cm程で底面が確認されている。掘方全体では、P₂が発見された以外比較的平坦な底面が発見されている。

出土遺物は土師器坏・土師器甕・須恵器坏・須恵器壺がある。数量は多くないもののセット内容は充実しているとして良いと考える。この中で、土師器坏10-00657・00658の底部には型膚が中央に残っている。型成形段階で器厚調整が手慣れていた事が窺える。土師器甕10-00659は肩部から頸部にかけての高さが比較的低く、肩部から急激に頸部にかけて窄んだ様な「怒肩」の器形を呈している。類似器形は他の住居跡からも比較的多く出土例があり、この「怒り肩」と逆に「撫肩」の器形の土師器甕も多い。当遺跡では、此の両者が認められる。須恵器坏では、体部が直線的に立ち上がる坏10-00661、口縁直下で丸みを帯び短く外反する坏10-00660の2形態が認められる。西毛地区では夫々秋間窯跡群・吉井窯跡群で生産された器形特徴を備えている。これらの出土遺物から当住居跡の時期は9世紀中頃と考えられる。

第10号住居跡

位置：5地区-38-E-10・11グリッド。 形状：横長方形。 規模：(2.66m)×(3.56m)。 主軸方位：北-115度→東。 構築基準辺：不詳。 竈規模：全長2.0m×袖部幅1.5m×燃焼部幅0.36m。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：ロームブロック多量(下面是炭化物が認められた)。
2. 塊状焼土層。
3. ロームブロック・塊状焼土の混土。
4. 黒褐色土：粒状焼土多量・被熱ローム多量。

所見：当住居跡は西斜面で13号住に近接している。当該住居跡は11号溝と攪乱により大半の部分を破壊されているため、遺存は甚だ悪い。

図示したのは掘方面の状況である。生活面での平面図も作図したが、竈も地山の削り出しによるため、改めての掘方は認められなかった。このため、図示は掘方面の一面にした。掘方では、土坑状の掘り込みが多いが、攪乱により判然としない部分もある。竈は、全長2.0mの長大な規模で、地山を削り抜き構築している。特に、左右のそでは大きく、右袖はズングリとした感じを受けるが、右袖は細長く対照的な構造になっている。底面は、煙道下端まで平坦で壁は60度程で立ち上がる。この竈内では、ローム土が被熱した焼土ブロックが多量に出土している。燃焼部部分の天井部が崩落した状態と考えられる。この構造の竈は当該住居跡のみでしか認められなかった。

出土遺物は非常に少なかった。土師器壺10-00663・00664は内面に研磨を施しているものの燻し処理が施されていなかった。燻しを施せば土師器内黒塊になる整形である。住居跡の時期は、この少数の出土遺物を見る限りに於ては、9世紀後半頃と思われる。

第11号住居跡

位置：5地区-36-T・S-3・4グリッド。 形状：矩形か。 規模：3.0m×3.85m。 主軸方位：北-115度→東。 構築基準辺：不詳。 竈規模：全長0.8m×袖部幅1.30m×燃焼部幅0.35m。

富田漆田遺跡 諸元

層序：(基準線標高値109.50m)

1. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状焼土・焼土粒主体。
2. 塊状焼土・焼土粒主体・黒褐色土若干（全体が被熱している）。
3. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・焼土粒多量・塊状焼土含有。

所見：当住居跡は台地の頂部でやや東側に寄った部分で発見されている。住居の遺存は浅く確認面下15cm程で、西接する公道の攪乱により西側壁は失っており全体的には遺存は悪い。竈は東壁側中央よりやや南東隅部寄りに付設されている。竈の燃焼部・焚口部は被熱酸化に全体が赤色に変色していた。これ程の被熱変色は滅多に見られる状況ではなく、被熱処理を伴う施設とも考えられる。床面では、南壁西側部分に白色粘土が数mmの厚さで分布が認められた。また、中央よりやや西壁に寄った位置で発見されたP₄は、二重構造のピットで、竈・白色粘土の分布・屋外至近位置での窯跡の存在等から、窯跡に関係する工房の轆轤ピットと推定され、諸状況から当住居は須恵器工房と考えられる。この白色粘土は、隣接の窯跡から出土している多くの須恵器の胎土とは異なり陶土質の緻密な粘土であった。この陶土質の粘土を含め、陶土質を生地土とする胎土を遺物観察表では「A生地土」と記載した。

出土遺物は須恵器坏・塊類は、隣接の窯跡で焼造された製品である。また、10-00680・00681は轆轤整形の甕で、2号窯跡出土の10-01244と同種である。秋間型甕と同様な背景の元での限られた生産と考えられる。羽釜10-00682は当遺跡で生産された須恵器坏・塊を多く出土する住居跡で共伴する羽釜と同一技法により生産されており、当遺跡での焼造も考慮される。しかし、これらの羽釜の胎土は、須恵器坏・塊類の胎土に類似するが同定出来なかった。これらの出土遺物から当住居跡の時期は窯跡と密接しており、「コ」の字状口縁土師器甕が認められないことから、9世紀末～10世紀初頭頃と推定しておきたい。

第12号住居跡

位置：5地区38-E-11グリッド。形状：不詳。規模：1.2α m×2.6m。主軸方位：北-114度→東。構築基準辺：不詳。竈規模：全長0.75m×袖部幅1.14m×燃焼部幅0.37m。

層序：(基準線標高値108.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム多量・攪乱顕著。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状焼土含有。
5. 塊状焼土主体。
6. 黒褐色土：粒状C軽石若干・焼土粒含有・炭化物含有。
7. 黒褐色土・塊状ロームの混土。

所見：当住居は西斜面中位に位置するため、西側が攪乱により失われており、残存部自体も攪乱が著しく遺存が悪かった。竈の横断面では、改築以前の崩壊した壁体をそのまま埋め戻し、新たに上位に掘方を構築し竈を改築している。

出土遺物は住居跡の遺存が非常に不良であったことから自ずと少なかった。図化出来たのは羽釜4個体であった。10-00684・00685は当遺跡の窯跡の製品を伴う時期と考えられる。前出11号住居跡と同時期の住居跡と推定される。

第13号住居跡

位置：5地区38-D・E-9・10グリッド。形状：横長方形。規模：3.16m×3.9m。主軸方位：北-110度→東。構築基準辺：北壁。竈規模：全長0.72m×袖部幅1.35m×燃焼部幅0.54m。

層序：(基準線標高値108.70m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粒状ローム少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒少量・粒状ローム少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入・粒状ローム含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム少量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム混入・粒状ローム多量。
6. 5近質。

7. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒混入・塊状焼土少量。 8. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状焼土混入・焼土粒多量。
9. 黒褐色土・塊状ローム混土・塊状焼土少量。

所見：当住居は西側斜面側の中位に位置し、10・12～14号住居跡が群在する状態で発見されている。住居は、横長方形を基調とするが、南側が窄む状態で正確には梯形上を呈するが、横長方形基調とした。竈部分は周辺に攪乱が認められたため、トレンチを設定して平面確認を実施して調査を実施した。掘方は南側半分で土坑状の掘り込みが顕著で、9基程の土坑掘り込みが認められる。

出土遺物は少なく土師器甕類4個体しか図示出なかった。土師器甕の口縁部個体は「コ」の字状口縁を呈する個体で、小型台付甕(10-00688)・甕(10-00691)は「怒り肩」を呈している。特に後者は器厚が薄く篋削りも比重に手慣れた熟達した工人による製作と考えられる。住居跡の時期は出土遺物から9世紀中頃と推定される。

第14号住居跡

位置：5地区38-D・E-10・11グリッド。 **形状：**不詳。 **規模：**2.05+ α m×1.41+ α m。 **主軸方位：**北-110度→東。 **構築基準辺：**不詳。 **竈：**未発見。

層序：(基準線標高値108.70m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム含有。

所見：当住居は調査区内西側斜面で10・12・13号住居跡に囲まれる位置：関係である。攪乱を非常に激しく受けており部分的な残存状態でしか露呈出来なかった。このため詳細に就いては不分明である。

出土遺物は殆ど皆無に近い状態であったが、唯一図示出来たのは10-00692土師器坏であった。時期は9世紀中頃なのであろうか。

第15号住居跡

位置：5地区38-G・H-5・6グリッド。 **形状：**不詳。 **規模：**2.5+ α m×2.81+ α m。 **主軸方位：**北-28度→東。 **構築基準辺：**不詳。 **竈規模：**全長0.5m×袖部幅0.9+ α m×燃烧部幅0.28m。

層序：(基準線標高値108.20m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。 2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土少量。 3. 浅赤褐色土：細粒状C軽石微量(全体に被蒸)。
4. 褐色土・黒褐色土の混土(竈掘方)。

所見：当住居は調査区西側斜面に位置する。住居跡は11号溝・耕作・土取りの攪乱により遺存が悪い。竈は2箇所で見られている。第1竈(住居廃棄段階)は北側に、第2竈は東側に構築している。第1竈は大きな改修が認められ、燃烧部奥壁よりの補強礫は改修前に据えられている礫である。また、焚口部の左右袖先端の礫は改築後に付設されている。第2竈は、11号溝に切られているため詳細は不分明である。

出土遺物は住居跡の遺存が悪かったため少量しか出土しなかった。図示出来た遺物は全て破片である。傾向としては9世紀後半頃の土器と考えられる。此の出土遺物の中10-00698土師器甕は、口縁部から肩部の篋削りが横位、肩部から胴部が垂直下方への篋削りを施している。この技法は「秋間型甕」に見られる特徴で、篋削り整形段階で回転台か輾轆上で土器を回転させながら行った査証である。同様な技法が当遺跡出土の羽釜で顕著に認められ、当該土師器甕は「須恵器工人」が拘わった可能性が濃厚である。

第16号住居跡

位置：5地区38—G—5・6グリッド。 形状：横長方形か。 規模：2.14m×2.08+ α m。 主軸方位：北—117度→東。 構築基準辺：不詳。 竈：未発見。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状焼土少量。

所見：当住居は調査区内西側斜面に位置：する。住居跡の南側・竈は土取りの攪乱により失われている。掘方では土坑状の掘り込みが二箇所で見られている(P₂・P₃)。

出土遺物は、遺存が不良ながらも内容は比較的良好である。当遺跡生産の坏、羽釜の同伴関係が認められる。この内容から9世紀末～10世紀初頭頃の年代が得られる。

第17号住居跡

位置：5地区38—F・G—5・6グリッド。 形状：横長方形。 規模：2.80m×4.30m。 主軸方位：北—102度→東。 構築基準辺：西壁。 竈規模：全長1.23m×袖部幅1.08m×燃焼部幅0.68m。

層序：(基準線標高値108.80m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：細粒状As-C少量・含有・粒状ローム含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム少量・粒状ローム混入。
5. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒混入・小塊状焼土含有・炭化物含有。
6. 茶褐色土：塊状焼土混入・焼土粒含有・塊状ローム含有。

所見：当住居は調査区内西側斜面に位置している。住居跡はほぼ水平なローム土の床を備える、掘方の認められない床面であった。竈は、東壁の中央よりやや南東隅部に寄り、袖部他の構造は全て屋外に突出する状態で構築されている。燃焼部では、中央に並列支脚が2本設置されており並架構造であったことが判断出来る。煙道部の立ち上がりは、燃焼部奥壁隅部に礫を脚にして、扁平な礫を架け煙道部の開口とし火道を確保されている。煙道部の奥側底面には、軸に直行する方向で2個の礫を据えている。この煙道部の立ち上がる部分では、羽釜(0152)が出土している。この羽釜は焚口部・燃焼部出土の破片と接合しているが、孰れも煙道部方向から落ち込む状態で出土していることから、この羽釜は、煙道部の構造上の補強材か、煙道部の立ち上がり部分にも器設を設けていた可能性も考慮される。

出土遺物は、10-00706の皿形傾向の小型化した須恵器坏が認められ、土師器甕も10-0012?00714の所謂土釜段階の「コ」の字状口縁の次の段階の甕が多い。10-00712は口縁部の整形に棒状工具に類する状態の整形紺が認められ、浅い沈線の条痕が3条認められる。この棒状工具の整形痕は「コ」の字状口縁以降の土師器甕に認められる事が多く、条数に若干の違いは認められるものの生産地を限定させるための分類基準の一つに上げられる特徴とも言い得る。また、10-00715羽釜は、吉井型甲類に類似は認められる製品であるが、口径に比較して器高が低いズングリとした器形である。吉井型の模倣とも思われるが、まだ、羽釜事態の実態が不明な事が多い段階では明確な事は述べられない。時期としては小型化皿形傾向の認められる須恵器坏・土師器甕などから10世紀後半と考えられる。

第18号住居跡

位置：5地区38—E・F—4・5グリッド。 形状：矩形か。 規模：2.60m×2.40+ α m。 主軸方位：北—123度→東。 構築基準辺：北壁。 竈：部分的な発見であった。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム混入・塊状ローム含有・攪乱多量。

所見：当住居は調査区の西側斜面に位置する。住居跡の南側は土取りの攪乱により失われているが、掲載図中の右下部分には、隅部とも思われる弱い立ち上がりが認められた。この部分を隅部とした場合、当住居の形状は正方形乃至矩形が推定される。しかしこの場合、竈の左袖部分の造りが異なるとも考えられ、調査状況からは不明の域は脱し得ない。

出土遺物は破片類しか得られていない。10-00718・00719の異なる塊の出土状況もあるが、年代は9世紀末～10世紀初頭頃が当該住居跡の時期と思われる。

第19号住居跡

位置：5地区38-E-8グリッド。 **形状：**矩形。 **規模：**2.4m×3.22m。 **主軸方位：**北-113度→東。 **構築基準辺：**南・西壁。 **竈規模：**全長1.00m×袖部幅0.97m×燃焼部幅0.35m。

層序：(基準線標高値109.00m)

1. 黒褐色土：粗粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：細粒状C軽石含有。
3. 黒褐色土：細粒状C軽石少量。
4. 黒褐色土：細粒状C軽石含有・焼土粒微量・塊状ローム含有・粒状ローム混入。
5. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状黒色土含有・塊状ローム少量。
6. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒褐色土・塊状焼土少量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム混入・粒状ローム含有。

所見：当住居は調査区内西側斜面の中位に位置している。住居跡は北側で耕作に伴う攪乱により部分的な破壊が認められる。竈は袖部から燃焼部にかけて礫により部分的な補強がされているが、左右で対をなす形は行われていない。竈の掘方では、燃焼部直下の左側底面には、被熱により酸化で焼土化している部分が認められた。この焼土化した部分は、掘方を解釈する上で重要と考えられ、おそらく、掘方とは構築当初の底面として使用され、その後の改築により埋設される部分を呼称していると考えられる。住居跡の掘方は南壁直下の部分で、壁に沿って土坑状の掘り込みが認められ、北西壁隅部でも土坑状の掘り込みが認められる。構築基準辺としての結果であったと考えられる。

出土遺物は少なく、口径の大型化の認められる10-00723・00724土師器甕、縦篋使いの10-00725土師器甕があり、特筆される遺物として10-00726吉井型甲類羽釜が認められる。この中の前二者土師器甕の外傾口縁には、「コ」の字状口縁成・整形の特徴が看取され、前出10-00712と同様な棒状工具による整形痕が認められる。これらの遺物から、当該住居跡は9世紀末～10世紀初頭頃に推定される。

第20号住居跡

位置：5地区38-F・G-7・8グリッド。 **形状：**横長方形。 **規模：**2.70m×3.91m。 **主軸方位：**北-122度→東。 **構築基準辺：**西壁か。 **竈規模：**全長0.59m×袖部幅1.10m×燃焼部幅不詳。

層序：(基準線標高値108.30m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状黒色土(IV層土)斑状混・粒状ローム混入・塊状ローム砂粒。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム斑状混・粒状ローム多量。
6. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・粒状ローム含有・塊状ローム少量。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・粒状ローム含有・塊状ローム少量。
8. 塊状焼土主体。
9. 黒褐色土：粒状C軽石微量・焼土粒含有。
10. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有(硬質)。
11. 黒褐色土と塊状ロームの混土(塊状焼土若干)。
12. 黒褐色土と塊状焼土の混土。
13. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状焼土多量・焼土粒混入・塊状ローム含有・粒状ローム含有。

所見：当住居は調査区内西側斜面の中位に位置している。住居跡の東壁側は溝状の攪乱により破壊されている。均整の取れた壁溝を伴う住居跡である。竈は袖・燃焼部等は認められず、改築の意図で崩した後改築途中で住

居跡を廃棄したと考えられる。また、竈掘方では奥壁側にトンネル状に掘られた状態が露呈された。この状況は燃焼部から煙道部にかけてトンネル状に掘削して構築したことが推測される。

出土遺物は、10-00727小形鉢乃至甕、00277類似形状でやや大きい00278、10-00279土師器甕、轆轤使用の10-00731小形広口瓶が特徴的な遺物である。また、20-00152有孔の砥石は半分ほどに破損した後に穿孔されており、破損後の使用痕も認められない事から、破損後に下げ砥としたとは考え難いことから、砥石転用の錘と考えられる。

住居跡の時期は10世紀中頃～後半頃が推定される。

第21号住居跡

位置：5地区38—C・D—3・4グリッド。 形状：不詳。 規模：2.4m×1.26+ α m。 主軸方位：北—113度→東。 構築基準辺：不詳。 竈：未発見。

層序：(基準線標高値109.50m)

所見：当住居は土取りによる攪乱により大半を失っている。残存状況から構築時の指向方向は北壁に従えば凡そ113度である。この他に就いては不明である。

出土遺物は、住居跡の遺存が悪いためやはり非常に少なく状態も悪い。当遺跡産の10-00734坏乃至埴・10-00736土師器坏で判断せざるを得ないが、上限として10-00734の出土遺物等を勘案して9世紀後半～10世紀初頭と推定しておきたい。

第22号住居跡

位置：5地区—38—C—4・5グリッド。 形状：横長方形か。 規模：2.4m×4.5m。 主軸方位：北—約115度→東。 構築基準辺：不詳。 竈：未発見。

層序：(基準線標高値109.50m)

6. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
7. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
8. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・ロームブロック含有。
9. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・ロームブロック混入。

所見：耕作の攪乱が著しい。竈の痕跡を探るため東壁側にトレンチを設定して確認面から掘り下げたが攪乱の深厚が顕著で痕跡すら確認出来なかった。また、確認段階では南北方向に長い横長方形の形状が確認されているが、掘方では、壁溝と思われる浅い掘り込みが確認されている。この部分を22号住と認定した場合、当初確認した北壁側は23号住の北東部分の壁の崩落としか解釈されない。調査段階では、攪乱が顕著過ぎたため、明確な状況は得られなかった。新旧関係では23号住が22号住を切る事は判明したが、この23号住も攪乱により竈を失っていたため明確な所見は得られなかった。

出土遺物は、須恵器坏・埴があり当遺跡産のものが目立ち羽釜の出土も多い。羽釜は短い口縁部に胴部は篋削りを多用する特徴があり、この須恵器坏・埴と羽釜の組成は当遺跡での特徴の一つである。時期はやはり9世紀末?10世紀初頭と考えられる。

第23号住居跡

位置：5地区—38—C—4・5グリッド。 形状：矩形か。 規模：2.9+ α m×3.30m。 主軸方位：北—約110度→東。 構築基準辺：西壁か。 竈：未発見。

層序：(基準線標高値109.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・攪乱顕著。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粗粒状ローム含有。
3. 黄褐色土：ローム土の風化した様な状態。
4. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・ロームブロック混入。
5. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・ロームブロック多量。

所見：当住居跡は22号住を切り構築している。確認段階は竈が耕作の攪乱により確認出来ず新旧確認も困難であった。攪乱顕著なため竈が未確認であったため、住居覆土を掘り下げる前に→東壁側に竈を確認するためトレンチを設定して確認を試みたが、攪乱深厚が著しく痕跡すら確認出来なかった。22号住でも記したが、当初確認した22号住の北壁部分は、当該住居跡の崩落に原因する可能性が考えられる。また掘方のP₁～P₄は当該住居跡に伴うか、22号住に伴うかは調査所見が得られなかった。床面で発見されているピットは、覆土が表土層に類似していたことから、近世以降の時期と判断した。

出土遺物は、図示した2点のほかには細片の土師器・須恵器が若干出土した程度である。時期の特定には困難があるが、出土遺物では9世紀前半頃であろうか。

第24号住居跡

位置：5地区38-B-5・6グリッド。 **形状：**不詳。 **規模：**2.2+α m×2.72m。 **主軸方位：**北-124度→東。 **構築基準辺：**不詳。 **竈：**未発見。

層序：(基準線標高値109.60m)

所見：当住居は台地の稜線近くの平坦部に位置する。住居跡は著しい攪乱により多くを失っている。確認段階で攪乱が広範囲にわたることから、攪乱範囲の確認面下での遺構の存否を確認するためにトレンチを設定して調査した。この結果、攪乱は竈側の部分を破壊していることが判明した。このことから詳細に就いては不詳である。

当該住居跡の遺存が不良であったため出土遺物も少なかった。10-00760土師器坏は底面に離砂が認められる。時期は10-00732が認められることから、やはり9世紀後半～10世紀初頭頃と考えられる。

第25号住居跡

位置：5地区38-B-7・8グリッド。 **形状：**横長方形。 **規模：**2.82m×3.46m。 **主軸方位：**北-110度→東。 **構築基準辺：**北・西壁。 **竈規模：**全長1.22m×袖部幅1.22m×燃燒部幅≒0.3m。

層序：(基準線標高値109.70m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粗粒状ローム含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状黒色土砂粒・塊状ローム含有。
4. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・粒状ローム多量。
5. 2同質。
6. 4同質。
7. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量・粗粒状ローム含有・焼土粒含有。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有・焼土粒含有・炭化物含有。
9. 黒褐色土：焼土粒混入・塊状焼土若干・粗粒状ローム混入。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒混入・炭化物含有。

所見：当住居は台地稜線のやや西斜面側に位置する。住居跡は屋内中央部に皿状に窪まれた、小規模な炉跡と近接して台石が発見され、周囲からは極少量ながらも鍛造薄片が出土している。これらのことから、当住居は小鍛冶を伴う竪穴住居跡と判断される。

竈では、土師器甕が奥壁側から燃燒部側に倒れ込んだ状態で、設置され押し潰れた状態で出土している。また、この甕が設置してあったと推定される部分は、燃燒部底面より一段高くなり、燃燒部奥壁・煙道口にも当たり、補強の礫20cm程の間隔で据えられている。此の状況は、この部分が器設部と推定される。竈掘方では、19号住居跡同様に、掘方底面で被熱による酸化部分が認められた。この掘方底面が構築当初の燃燒部底面であった可能性は高い。

出土遺物は土師器甕・須恵器坏・須恵器塊の良好な共伴関係の遺物が出土している。10-00763土師器甕は底

部から肩部は縦位の篋削り、肩部から頸部までは横位の篋削りを施し、底面には離砂が認められる。また底部側には、小指の先端程度の小さな窪みが認められる。この窪みは、38号住出土10-00915でも同様部分に多く認められる。篋削りの特徴は轆轤上での整形であることを推定させる。須恵器坏には小型化・内湾傾向、須恵器坑には足高傾向が認められることから、時期は10世紀後半と推定される。

第26号住居跡

位置：5地区38-A・B-7グリッド。 形状：矩形。 規模：3.18m×3.75m。 主軸方位：北-115度→東。

構築基準辺：不詳（西壁か）。 竈：未発見。

層序：（基準線標高値109.80m）

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粗粒状ローム含有・焼土粒混入・粒状ローム混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム含有・粗粒状ローム少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム多量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム多量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量・粒状ローム混入。
6. 黒褐色土：細粒状As-C少量・少量・塊状ローム含有。

所見：当住居は台地稜線寄りの西側斜面に位置する。住居跡は25号住・攪乱に切られている。また、耕作による攪乱が顕著である。竈は土坑に切られた状態に見えるが、調査所見としては竈の据え変え時の掘り込みと考えた。据え変え時に掘り込みを大きく掘りすぎた結果再構築に不向きであった結果と判断している。これは、掘り込みが余りにも竈設置位置に重複しすぎる事と、覆土を切り込む状況（土層断面等）が認められなかった事である。土坑に因る切り込みという考え方も出来るが、この考えを否定出来る要件は確実な意味での所見は土層断面の判断でしかない。

出土遺物は、10-00774・00776の当遺跡産の須恵器坏・耳皿の2点を含んでいる。耳皿は第1号窯跡から出土があり確実な資料である。住居跡の時期はやはり9世紀末～10世紀初頭と考えられる。

第27号住居跡

位置：5地区27-S・T-18・19グリッド。 形状：矩形。 規模：3.54m×4.00m。 主軸方位：北-114度→東。 構築基準辺：北壁。 竈規模：全長1.04m×袖部幅1.24m×燃焼部幅0.52m。

層序：（基準線標高値108.70m）

1. 黄褐色土：塊状ローム主体。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム極多量・粗粒状ローム多量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
4. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム多量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石若干。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・ローム土の混在により全体にローム質の土層。
7. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム多量斑状混。
8. 7同質。
9. 小塊状灰褐色粘質土と塊状焼土の混土。
10. 9同質（塊状焼土の混入が9より多い）。
11. 灰主体・粗粒状焼土含有。
12. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム含有・焼土粒混入・炭化物混入。
13. 塊状焼土主体。
14. 黒褐色土・塊状ローム混土。

所見：当住居は東斜面の中位程に位置する。住居跡は28号住を切り構築しているが、間接的には8軒の切り合い関係がある。確認時には詳細な切り合い関係は把握出来ず、図示した28・41号住を一括調査した。新旧関係は同確認用の補助セクションベルトを設定し確認した均整の取れた平面形状を有する住居跡でP₁の形状も含め古様を呈するも、竈構造は新様を呈しており基準的形状に設定出来る構造である。

出土遺物は、住居跡の重複状態から確実性に乏しい実態がある10-00785は床面直上層からの出土であるが、覆土内からは10-00782・00783（10世紀後半）が出土しており、00781・00785（9世紀中頃）の遺存がまだ良好な資料と好対照な状態である。だが、この00781・00785が出土させる住居跡としては土師器甕の出土が乏しい点が上げられる。時期は00781・00785から9世紀後半頃と考えられる。

第28号住居跡

位置：5地区27-T-18・19グリッド。形状：横長方形。規模：3.2m×4.80m。主軸方位：北-109度→東。構築基準辺：北壁か。竈：未発見。

層序：(基準線標高値108.70m)

15. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム混入。 16. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム混入・塊状ローム含有。
 17. 黒褐色土：粒状C軽石含有。 18. 15同質。 19. 16同質。 20. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粗粒状ローム含有。
 21. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム混入。

所見：当住居は前出27号住に切られ、41号住を切り構築している。住居跡の大半は27号住の破壊により失われている。このため、詳細不分明である。

出土遺物は、破片が主体であるため時期の推定には困難が有る。この中で40-00062鎌は完形で、大身の作りでやや反り（柄に装着した状態で、耳基部から鎌の頂点から耳基部からの水平線への垂直距離）が強い。総体的には9世紀前半頃であろうか。

第29号住居跡

位置：5地区27-S-20/37-S-1グリッド。形状：正方形。規模：3.40m×3.52m。主軸方位：北-121度→東。構築基準辺：西・南壁か。竈規模：全長0.91m×袖部幅0.92m×燃烧部幅≒0.5m。

層序：(基準線標高値108.90m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。 2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム混入。
 3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・細粒状ローム混入。 4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム混入。
 5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・細粒状ローム多量。 6. 黒褐色土：粒状C軽石若干・細粒状ローム混入・焼土粒含有。

所見：当住居は東側斜面に位置する。住居跡は東隅部側が調査区外に延びたため同部は露呈出来なかったが、形状は正方形と推測される。この形状は後出の34号住を含め2軒のみである。また、住居の構築時の指向方向は概ね121度を指し、他の住居とは異なっている。

出土遺物は破片類しか得られていない。この破片類は9世紀前半頃が主体と思われるが、10-00817須恵器壺が唯一10世紀中頃に推定される。住居跡の形状も竈が南隅部に近接して構築されている。この形状と10-00817が示す年代観をして当該住居跡の時期と考え、10世紀前半と推定しておきたい。

第30号住居跡

位置：5地区37-R・S-1グリッド。形状：不詳。規模：2.84m×2.88+ α m。主軸方位：北-114度→東。構築基準辺：西・南壁か。竈：未発見。

層序：(基準線標高値109.10m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。 2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム少量。
 3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状ローム少量。 4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒少量・粒状ローム微量。
 5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒含有・塊状焼土含有。 6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム混入・塊状ローム含有。
 7. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム少量。 8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有・粒状ローム混入。

所見：当住居は東側斜面に位置する。住居の東側半分は調査区外に延びたため同部は露呈出来なかった。住居跡の西・南壁は直線的に延びていることから、構築基準辺であった可能性が高い。このことは、前述30住居跡でも同様である。また、調査区北西壁際の掘方面からは、他の住居跡の存在を示すと思われる状況が看取されたが分明には成し得なかった。

出土遺物は、当遺跡産の10-00819須恵器坏が認められ、大形破片の10-00820土師器甕の他がある。土師器甕は「コ」の字状口縁の退化した状態で、口縁部直下は横位の篋削り、胴部は縦位の篋削りを伴うもので、須恵

器工人の手法が用いられている。破片類は孰も9世紀以前の須恵器である。当該住居跡は10-00819・00820等から、住居跡の時期は9世紀後半頃と考えられる。

第31号住居跡

位置：5地区37-R・S-1グリッド。 形状：梯形。 規模：3.42m×2.96m。 主軸方位：北-91度→東。

構築基準辺：南北壁（西壁・北-111度→東）。 竈規模：全長0.2m×袖部幅≒0.75m×燃烧部幅計測不能。

層序：(基準線標高値109.10m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量・粒状ローム含有・炭化物少量。
2. 2黒褐色土：粒状C軽石混入・粗粒状ローム少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム斑状混。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム斑状多量。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡30住居跡に切られ、32住居跡を切り構築している。全体に歪んだ住居跡であるが、南北双方の壁は平行叩きする状態である、しかし、この方向での住居跡の指向方向は他例からは異なる方向性を指しており、歪んだ状態に認められる西壁の方向は他例に近く、当初の構築に当たっての志向方向はこの西壁の方向であった可能性が考えられる。

出土遺物は比較的豊富であるが破片類が目立っている。土師器坏では10-00826・00827・00830の遺存が良好で、10-00833土師器甕も大形破片、当遺跡産10-00840・00841須恵器坏。吉井型甲類羽釜10-00854がある。土師器甕は「コ」の字状口縁がやや退化した状態の口縁部でやや小形である。これらの遺物の年代観から、住居跡の時期はやはり9世紀後半頃と考えられる。また墨書土器の破片が多い点が注意される。

第32号住居跡

位置：5地区27-S-20/37-S-1グリッド。 形状：横長方形。 規模：2.73m×3.22m。 主軸方位：北-113度→東。

構築基準辺：西・南壁。 竈規模：全長1.01m×袖部幅0.78m×燃烧部幅0.42m。

層序：(基準線標高値109.10m)

7. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状ローム含有。
10. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム斑状混。
11. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有・塊状ローム少量・焼土粒住居跡。
12. 黒褐色土：粒状C軽石微量・焼土粒含有・粗粒状焼土褐色土・炭化物含有。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は31住居跡に切られている。当住居も比較的整った形状を呈しており、西・南壁が構築構築基準辺と考えられる。竈は攪乱により不分明である。

出土遺物は少ない。大形破片10-00855土師器甕は、器厚もやや厚く「コ」の字状口縁も退化した個体である。他の遺物は10-00857須恵器坏がある。また、10-00858は墨書が認められ、「几」に「寺」とも判読出来る。出土遺物からは9世紀末頃の年代観が考えられる。一方、出土遺物に当遺跡産の須恵器坏・塊が伴っていないのは、開窯直前に廃棄されていた可能性も考慮される。このことから、時期は9世紀末～10世紀初頭頃としておきたい。

第33号住居跡

位置：5地区37-S・T-1グリッド。 形状：正方形。 規模：2.75m×2.84m。 主軸方位：北-114度→東。

構築基準辺：北壁か。 竈：未発見。

層序：(基準線標高値109.20m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は34号住に切られている。竈は未発見であり、遺構種として住居跡の認定も困難であるが調査時の呼称を用いた。34号住との重複部分を考慮しても竈を付設する遺構ではなかったことが窺え、当該遺構は竪穴状遺構として認定される。床面等の硬化も認めらなかったが、覆土の土質は住居跡の覆土と同質であることから、他の住居跡との時期差は無いと判断されるものの、性格は不分明である。

出土遺物は破片だけであった。34号住に切られる事から9世紀中頃以前の時期が推定される。

第34号住居跡

位置：5地区37-T-1・2グリッド。 **形状：**正方形。 **規模：**4.11m×4.18m。 **主軸方位：**北-100度→東。 **構築基準辺：**北壁。 **竈規模：**全長0.80m×袖部幅1.20m×燃烧部幅0.88m位か。

層序：(基準線標高値109.30m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入・粒状炭化物多量(101号土坑)(1号竈被覆土と同質)。
3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有・粒状ローム混入(ローム質強)。
5. 4同質。
6. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒少量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒微量・小塊状ローム少量。
8. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石若干・焼土粒若干・塊状ローム混入。
10. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状焼土含有・焼土粒混入。
11. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状焼土含有・炭化物少量。
12. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒少量・塊状焼土少量・塊状ローム含有。
13. 塊状ローム主体。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は1・2号竈と101号土坑に切られている。101号土坑は1号竈の被覆土同様な覆土であることから、竈体の失われた竈跡の前庭部の可能性も考えられる。住居跡の施設では「コ」の字の壁溝が北壁を中心にして出土している。正方形を呈する住居跡は当住居跡を含め29号住が発見されている。掘方では西壁側で壁溝の跡と考えられる掘り込みが発見されている。恐らくは、当該住居跡は拡張された事を示唆している。また、P₃・P₆は対になる掘り込みの深い柱穴であることから、入り口施設と考えられる。竈は、廃棄段階の形状は確りした形状の出土は出来なかった。恐らく改築の意図の下に破壊し、再構築を行わなかったことによると考えられる。竈掘方の鶏卵上の掘り込みは住居の拡張前の段階での所産に因るものと思われる。

出土遺物は、10-00865?00867土師器坏3点が当該住居跡の時期を推定させる。また、10-0073は1号竈乃至2号竈の製品と考えられるが、調査段階で竈乃至住居跡出土の分別が出来ていなかったため、当該住居跡扱いにしている。両竈跡に伴う可能性が強い。遺物の時期は9世紀中頃と考えられる。が周辺状況からは、9世紀末～10世紀初頭と考えられる。

第35号住居跡

位置：5地区27-Q・R-19・20グリッド。 **形状：**不詳。 **規模：**3.04m×4.46m。 **主軸方位：**北-93度→東。 **構築基準辺：**不詳(西壁か)。 **竈：**未発見。

層序：(基準線標高値108.70m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状褐色土斑状混。
5. 黒褐色土・塊状ロームの混土。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。破片の北東半分は調査区外に延びているため、前面露呈出来なかった。しかし、西壁の壁線が整っていることから横長方形が推定されるが、形状は明定できない。

出土遺物は破片類しか出土していない。この中で、10-00876土師器甕が大形破片であり他は細片化している。時期は9世紀末～10世紀初頭頃と考えられる。

第36号住居跡

位置：5地区28-B・C-18・19グリッド。 形状：横長方形(矩形)。 規模：3.46m×4.12m。 主軸方位：北-116度→東。 構築基準辺：北壁。 竈規模：全長0.9m×袖部幅1.2m位か×燃焼部幅0.45m位か。

層序：(基準線標高値109.10m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム極多量斑状・塊状VII層土多量・粗粒状焼土少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム混入。
3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム多量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム多量・粗粒状ローム少量。
5. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状焼土混入・ローム質土混入。
6. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状焼土主体・ローム質土混入。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒含有・ローム質土混入。
8. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・小塊状ローム混入・粒状ローム混入・ローム質土混入。
9. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒若干・粒状ローム含有・ローム質土混入。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒少量・粗粒状ローム少量・塊状ローム少量・ローム質土混入。
11. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒微量(8近質)。
12. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム少量・焼土粒含有・塊状焼土少量・ローム質土含有。
13. 黒褐色土と塊状ロームの混入。

所見：当住居は台地稜線上に位置する。重複関係は認められない。住居跡の北側半分が均整の良く取れており、北壁に構築構築基準辺が推定される。竈は、調査段階で過度に掘り過ぎていた。原因は、竈覆土全体に焼土が広がり、顕著な、壁・底面が確認できなかったが、土層断面では、立ち上がりと思われる分層線が看取できている。一方で全体が改築過程での状況とも考えられる。状況はこの様に難解な覆土であった。

出土遺物は土師器甕が目立っている。10-00888は最も良好である。他の破片も大形破片である。これらの土師器甕の内、前二者は口縁部が長いが、後三者は口縁部が短い。特に、00888は器形も通有の「コ」の字状口縁の甕より丸みを帯びた様な作りである事から、新しい要素が認められる。また、10-00882は外面に粗い刷毛撫でを施す丸底の小形甕壺で県内でも希少な資料である。胎土の生地土も県内産の生地土と異なっている。県外(中部地方)からの搬入品を考えられる。

鉄器では、40-00065は大身の刀子で研減も顕著である。00066は刃関も相当研減している。00067は釘と推定されるが、頭部は叩き延ばされた状態のままである。未使用の可能性が強い。

出土遺物からは、当該住居跡は9世紀中頃と推定される。

第37号住居跡

位置：5地区28-A・B-16・17グリッド。 形状：横長方形。 規模：3.36m×4.12m。 主軸方位：北-109度→東。 構築基準辺：北・西壁。 竈規模：全長0.70m×袖部幅1.20m×燃焼部幅0.44m。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム含有・粗粒状ローム混入・(ローム質土)。
2. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム含有(粗粒状ローム)。
3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状ローム混入。
4. 黒褐色土：粒状C軽石若干(粗粒状ローム)。
5. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム含有・粒状ローム含有(粗粒状ローム)。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム含有・焼土粒混入。
7. 被熱層。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有・塊状ローム含有。
9. 塊状ローム主体。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は基調を長方形に採るが竈部分側が萎縮した状態に認められる。この形状は、構築段階から意識されていたことが掘方から看取される。これは、北・西壁側は規模に応じた掘り込みが認められるのに対して、南壁側は予め西壁隅部から東壁南隅部の距離を決めて構築している点である。そして、竈先端を囲む外郭はほぼシンメトリーな長方形になることから、上屋構造は対辺長が等しい構造であったことが推定される。

出土遺物では、10-00896・00897土師器「コ」の字状口縁甕が大形破片である。10-00903灰釉陶器平瓶の高台は平たく所謂「K-14様式」に比定される。土師器甕の年代観では9世紀中頃であるが、住居跡形態の年代観で

は9世紀末～10世紀初頭頃である。また、比企産の須恵器坏が出土している。

第38号住居跡

位置：5地区27-T-17・18/28-A-17・18グリッド。形状：横長方形。規模：4.36m×3.46m。主軸方位：北-103度→東。構築基準辺：北・西壁か。竈規模：全長1.60m×袖部幅1.00m×燃烧部幅0.46m。

層序：(基準線標高値108.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
3. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粗粒状炭化物含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粗粒状炭化物少量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム斑状多量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム混入・粒状ローム多量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム・塊状粘土斑状混。
8. 塊状ローム。
9. 黒褐色土：粒状C軽石微量・焼土粒含有・塊状焼土含有。
10. 塊状焼土。
11. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粗粒状C軽石含有・粗粒状焼土含有。
12. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状焼土少量・焼土粒含有。
13. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土多量。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は39～41号住を切り構築している。竈は新旧大きく二回の改築が施され、構築当初中央寄りであったのが、最終段階では南東隅部に寄る位置になっている。廃棄時以前の竈は、東壁のやや中央よりで掘方面で明瞭に現れ、大きく屋外に突出した状態である。廃棄時の竈は、燃焼部での使用状況が良好に保存されていた。器設部には羽釜が並架された状態で出土し、羽釜を周囲から支え目地詰する土器片、焚口部天井架の礫、並架用の支脚等詳細な状況が窺知し得る。竈に羽釜を並架した状態での出土例は県内では初例と考えられる。

出土遺物は、竈・竈周辺から良好な遺物が出土している。特に良好な10-00905土師器坏・10-00906土師器塊・10-00915土師器甕・10-00920?00922須恵器坏・10-00925・00928・00929須恵器塊・10-00933・00934土師器羽釜・10-00935土師器片口鉢がある。土師器甕10-00916の内面には篋の小口(刷毛状)出の撫で整形が施されている。同様に羽釜10-00933・00934も篋の小口による撫で整形が顕著である。00934は器形も丸みを帯びる器形で00916と類似する特徴を備えている。そして、同様な胎土として観察される。また、00916の胴部下半には底部に残る離砂と同様の砂が多く付着する部分が認められる。胴部上半には、小指の先程度の窪みが多く認められ、窪みの内部は未整形である。

これらのセット内容は標識に足りる内容である。これらのセットは全て酸化焰焼成であり、当遺跡産の製品を含まないこと、小形化の傾向が認められないことから、時期は10世紀前半に推定出来る。

第39号住居跡

位置：5地区27-T-9・10/28-A-9グリッド。形状：矩形。規模：3.30m×3.90m。主軸方位：北-114度→東。構築基準辺：西壁か。竈規模：全長1.30m×袖部幅1.54m×燃烧部幅0.56m。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状焼土・塊状焼土含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム若干・焼土粒少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム少量・焼土粒少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム含有・焼土粒若干。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量。
7. 攪乱。
8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・被熱黒褐色土主体・焼土粒混入。
9. 黒褐色土：粒状C軽石微量・被熱黒褐色土主体・塊状焼土含有。
10. 8近質。
11. 黒褐色土：粒状C軽石微量・灰混入。
12. 塊状焼土主体。
13. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土少量・焼土粒含有・炭化物少量。
14. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム混入。
15. 黒褐色土・塊状ローム混土。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は38号住に切られ、40号住を切っている。住居の北壁は、壁溝が入れ違い状態になっており、構築時に東西別の方向から掘削した状況が推測される。形状は比較的整いい様相的にも古い。竈は被熱黒褐色土が多量に埋没していたことから、構築被覆に黒褐色土を主体にした事が推

定される。そして、被熱状態が顕著な焼土化ではないことから、改築後短期間のうちに廃棄された可能性も考えられる。

出土遺物は、大形破片の10-00945土師器甕が床面直上層と覆土から出土している。須恵器壺10-00947は体部・口縁部を大きく欠損する覆土内からの出土である。他は破片である。金属器では40-00070がある。瓶等の蓋と思われる製品で、銅製の薄い板状の中央に舌状の鈕が付いている。出土層位は、覆土の最上層から出土している。当該住居跡で直接的に使用されていたものとは思われない。住居跡の時期は、9世紀中頃と思われる。

第40号住居跡

位置：5地区27-T-16・17/28-A-16・17グリッド。形状：縦長方形か。規模：5.30m×3.15+ α m。

主軸方位：北-108度→東。構築基準辺：不分明。竈規模：全長0.80m×袖部幅1.40m×燃烧部幅0.60m。

層序：(基準線標高値108.30m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム主体。
2. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム少量・塊状焼土少量・焼土粒含有(粘土質気味)
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量・炭化物多量層状・塊状焼土含有。 4. 2近質。
5. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粗粒状焼土含有。 6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・焼土粒・被熱土の混土。
7. 被熱土+塊状焼土。 8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム混入・炭化物東毛産か太田産・灰混入。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は38・39号住に切られ、59号住を切り構築している。当遺跡でもっとも軸方向に長い縦長方形の形状をていしているが、59号住以外の別な住居跡との切り合いも考慮される。だが、確認面は攪乱が多いことから、平面精査では3基の切り合いの確認は出来なかった。竈の右傍らの棚上の構造は、硬く締められた平坦な面で床面から6cm程上位に当たっている。掘方面で出土した土坑類は40・59号住の帰属が問題になるが、土層断面で確認できたのはP₇しかなく、またP₁₃・P₁₄のごとく形状から重複関係が認められるものの、新旧関係を含め帰属が明確に成し得なかった。

出土遺物は破片しか出土していない。39号住に切られていることから、破片類を加味しても9世紀初頭～中頃の住居跡と思われる。

第41号住居跡

位置：5地区27-T-18・19グリッド。形状：不分明。規模：1.3+ α m×3.58m。主軸方位：北-99度

→東。構築基準辺：不分明。竈：未発見。

層序：(基準線標高値107.80m)

22. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粒状ローム少量。 23. 黒褐色土：粒状C軽石少量(攪乱が多い)。
24. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム少量(攪乱が多い)。 25. 黒褐色土：粒状C軽石混入。粒状ローム含有・粗粒状ローム少量。
26. 黒褐色土：粒状C軽石若干・細粒状ローム少量。 27. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状黒色少量・塊状ローム少量。
28. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム少量・粗粒状ローム混入。 29. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム含有。
30. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム混入。

所見：当住居は東斜面中位程に位置している。住居跡は27号住に大半を切られ詳細は不分明である。

出土遺物は、破片類しか出土していない。重複する27・28号住はそれぞれ9世紀前半?9世紀中頃に推定されることと、出土破片類からは当該住居跡は8世紀末～9世紀初頭頃と思われる。

第42号住居跡

位置：5地区27-T-17～19/28-A-17～19グリッド。形状：正方形。規模：8.50m×8.20m。主軸方位：

北-68度→東。構築基準辺：四壁。炉規模：全長0.67m×幅0.46m。

層序：(基準線標高値108.90m)

1. 黒色土：粒状C軽石混入。 2. 黒色土：粒状C軽石含有。 3. 黒色土：粒状C軽石少量。
 4. 黒色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。 5. 褐色土：細粒状軽石微量・塊状ローム褐色土・粒状ローム多量。 6. 5同質。
 7. 褐色土：細粒状軽石含有・粒状ローム多量。 8. 塊状ローム主体・黒褐色土斑状混。

42号住 pit 深度一覧表

	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	P ₅	P ₆	P ₇	P ₈	P ₉	P ₁₀	P ₁₁
床面標高値	108.30	108.27	108.27	108.34	108.24	108.24	108.31	108.30	108.30	108.30	108.28
底面標高値	108.07	107.99	107.99	108.15	108.07	108.01	107.82	108.14	108.21	108.21	108.10
深度(一値)	27	28	28	19	17	23	49	16	9	9	18
摘要							北西隅				
	P ₁₂	P ₁₃	P ₁₄	P ₁₅	P ₁₆	P ₁₇	P ₁₈	P ₁₉	P ₂₀	P ₂₁	P ₂₂
床面標高値	108.24	108.07	108.09	108.06	108.06	108.30	108.27	108.19	108.24	108.24	108.24
底面標高値	108.05	107.66	107.83	107.83	107.94	108.09	107.91	108.04	108.13	108.12	108.01
深度(一値)	19	40	26	23	12	21	36	15	11	12	23
摘要						掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面
	P ₂₃	P ₂₄	P ₂₅	P ₂₆	P ₂₇	P ₂₈	P ₂₉	P ₃₀	P ₃₁	P ₃₂	P ₃₃
床面標高値	108.22	108.21	(108.15)	(108.15)	108.31	108.30	108.30	108.30	108.26	108.20	108.25
底面標高値	107.92	107.99	107.44	107.82	108.12	108.09	108.14	108.09	108.00	107.95	108.15
深度(一値)	30	22	71	33	19	21	16	21	26	25	10
摘要	掘方面	掘方面	掘方面 南西隅	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面
	P ₃₄	P ₃₅	P ₃₆	P ₃₇	P ₃₈	P ₃₉	P ₄₀	P ₄₁	P ₄₂	P ₄₃	
床面標高値	108.24	108.28	108.21	108.23	108.10	108.10	108.06	108.09	108.08	108.32	
底面標高値	108.11	108.12	108.05	107.93	107.92	107.86	107.82	107.82	107.64	108.14	
深度(一値)	13	16	16	30	18	24	22	21	42	17	
摘要	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面 南東隅	掘方面	

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は27・28・38・39・41号住に切られているため全体に遺存状況は良好ではない。住居跡の構造は床面中央よりやや北東側に炉を備え、やや西側小規模な炉を備えている。この炉の北東壁側床面には、広範囲に灰が広がっていた。柱穴はやや多く発見されているが、支柱穴と考えられる柱穴は隅部に寄った位置で発見されたP₇・P₁₁・P₁₃の3本が想定されるが、位置的に極度に隅部側に寄っている事に疑問もある。掘方では、壁沿いで発見された、壁に直行する方向に掘り込まれた5の溝状の掘り込みが認められた。この掘り込みは床面上では確認できず、掘方面の調査段階で、ほぼローム土だけで充填され黒褐色土等の土は一切認められなかった。住居跡全体像が不分明な状態のため詳細はなお不分明であるが、当該住居跡の場合は、床面上に施設として設置された状況とは異なると考えられる。

出土遺物は、北壁の北隅に寄った部分からと、東壁の直下の部分にやや多く出土している。前者は床面から遊離しているが、後者は床面直上が多い。時期は5世紀中頃と考えられる。

第43号住居跡

位置：5地区27-T-15・16/28-A-15・28グリッド。 形状：横長方形か。 規模：不分明。 主軸方位：不分明。 構築基準辺：不分明。 竈規模：不分明。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。が、確認段階でも深耕の攪乱により殆ど痕跡しか留めていなかった。また、床面の相当する面も攪乱により判定不能な状態であった。この諸条件により当該住居跡の作図が出来なかった。

出土遺物は、竈部分で10-00986が出土しているが、5世紀後半の土師器甕であり住居跡の形状とは隔たりが大きい。恐らく、10世紀前半以前頃の住居跡と考えられる。

第44号住居跡

位置：5地区27-O-13・14グリッド。 形状：不詳。 規模： $2.6+\alpha$ m \times $1.4+\alpha$ m。 主軸方位：北-93度位→東。 構築基準辺：不詳。 竈：未発見。

層序：(基準線標高値105.10m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム少量。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。58号住に切られ、後世の攪乱等により大半を失っており遺存状態は不良である。詳細不詳である。

出土遺物は、住居跡も遺存が不良なため遺物の状態も不良であった。この中で10-00987土師器坏は比較的遺存が良い大形破片である。時期はこの土師器坏から9世紀前半頃と考えられる。

第45号住居跡

位置：5地区27-R・S-16・17グリッド。 形状：横長方形。 規模：4.08m \times 4.90m。 主軸方位：北-93度→東。 構築基準辺：南壁。 竈規模：全長1.50m \times 袖部幅1.80m \times 燃烧部幅(0.72m)。

層序：(基準線標高値108.00m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム多量斑状混・炭化物含有・焼土粒混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有。
3. 1同質。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒多量。
5. 2同質。
6. 4同質。
7. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム混入・塊状ローム含有。
8. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・粗塊状焼土多量。
9. 灰層。
10. 灰+塊状焼土層。
11. 黒褐色土：黒褐色土・粒状C軽石若干・粗粒状ローム含有・粗粒状ローム若干。
12. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粗粒状ローム混入・塊状ローム含有。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。47号住と重複し当跡が新しい。当該住居跡を含め47号住も攪乱を顕著に受けている。特に調査上竈部分の攪乱には、状況判断に混乱を起こさせている。攪乱は、近年の土地改良・土地改良以前の開墾・前代の三者に分別出来る。

住居跡は、均整の取れた平面形状を呈し、65号住(後述)に次ぐ均整さを誇る。均整は、四隅・四壁の中でも南東部を構成する南壁・東壁は、直線走行する壁ほぼ直角に交わる状態であるが、他の2壁・3隅はややこの状況とは異なり甘さが窺知されることから、この2壁が構築基準にされていると考えられる。また、床面での住居規模：を図面上で計測すると3.70m \times 4.50mで、この数値を0.30m(唐尺・天平尺の1尺相当)で除すると概12(尺) \times 15(尺)になり15坪の面積換算も出来き、平面構成比では4:5になる。

掘方では、住居跡ない東側に集中する傾向が認められる。これは、構築基準面に起因するのと、南東方向に傾斜する地形にも要因が考えられる。即、南東側に水平位で軟弱な土層が深くなる傾向に因るまた、P₁・P₂は床面での使用が確認されている。他の土坑状の掘り込みは掘方面での確認である。

出土遺物は、豊富で土師器坏の出土が目立っているが土師器甕が少なかった。土師器坏には体部に丸みを帯びるものが多い。須恵器坏・塊類では朽木三甕と考えられる10-01016が特筆される。また、須恵器甕類の破片が目立つ。鉄器では、20-00074は大刀鐔で貴重な資料である。住居跡はこれら遺物から9世紀初頭～前半頃と考えられる。

第46号住居跡

位置：5地区27-P・Q-12・13グリッド。 形状：不詳。 規模： $4.2+\alpha$ m \times $3.24+\alpha$ m。 主軸方位：北-85度→東位か。 構築基準辺：西壁か。 竈：未発見。

層序：(基準線標高値105.00m)

1. 黒色土：粒状C軽石混入。
2. 黒色土：粒状C軽石含有。
3. 黒色土：粒状C軽石少量。
4. 黒色土：細粒状C軽石微量。
5. 黒色土：細粒状C軽石若干。
6. 黒色土と塊状ロームの混土。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。が、法面の崩壊等により南東半分が失われている。また、50号住居を切り構築している。

構造の不詳が多いが、残存部での床面上では特徴的な施設等は認められなかった。掘方では、壁溝状の掘り込み、ピット状の掘り込みがやや多く発見されている。

出土遺物は、北西隅部で10-01031土師器甕が圧壊した状態で出土している。口縁下半がやや長めで「コ」の字状口縁に類する状態になっている。土師器坏は破片であるが内湾気味の個体。須恵器は高台付の浅い坏が出土している。時期は8世紀後半頃と思われる。

第47号住居跡

位置：5地区27-R・S-16・17グリッド。 **形状：**正方形。 **規模：**4.04m×(4.22m)。 **主軸方位：**北-111度→東。 **構築基準辺：**南壁。 **竈規模：**全長1.02m×袖部幅1.20m×燃烧部幅0.60m。

層序：(基準線標高値108.00m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粗粒状ローム少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム混入・塊状ローム含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量・焼土粒含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石住居跡・焼土粒多量。
5. 灰層。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有・焼土粒含有。
7. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粗粒状ローム含有・粗粒状ローム若干。

所見：当住居は調査区東側斜面に位置し、45号住居に切られ重複している。住居跡の規模は45号住居下の断面で確認されている。この規模から当住居は矩形状の平面形状が推定される。竈部分は深耕攪乱により遺存不良な状態である。掘方では、当住居跡も45号住居同様に南東側での掘り込みが顕著である。

出土遺物は、破片類が多い。土師器坏類は作りの薄い平底化した形態である。10-01045土師器甕は口縁部下半は「コ」の字状口縁の意識が認められる。10-01047須恵器坏は底部が非常に荒れているが完形個体である。比較的薄い作りで直線的に立ち上がる口縁部が特徴である。住居跡の時期は9世紀前半と考えられる。

第48号住居跡

位置：5地区27-Q・R-14・15グリッド。 **形状：**横長方形。 **規模：**4.96m×3.82m。 **主軸方位：**北-84度→東。 **構築基準辺：**西壁。 **竈規模：**全長1.73m×袖部幅1.64m×燃烧部幅0.6m。

層序：(基準線標高値106.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土斑状。
5. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粗大塊状ローム主体。
6. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム多量・粗粒状ローム含有。
7. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状ローム含有。
8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粗粒状ローム混入。
10. 塊状ローム・塊状黒褐色土の混土。
11. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・暗茶灰褐色塊状シルト斑状。
12. 塊状焼土主体(被熱暗茶灰褐色塊状シルト)。
13. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状焼土含有。
14. 塊状焼土(燃烧部天井部の崩落)。
15. 黒褐色土：微粒状C軽石若干・粗粒状焼土少量・灰多量。
16. 灰層。
17. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・暗茶灰褐色塊状シルト混入・灰混入・焼土粒混入。
18. シルト質。
19. 褐色土：VII層土近質。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。南東隅部で67号土坑に切られているが、調査は新旧の判定が困難だったので、当住居を先行調査させてしまい、このため土坑の3分の1を失っている。住居跡は比較的均整の取れた形状を呈している。竈は、住居廃棄後竈内部が半ば埋没した段階で天井部が棚落ち状に崩壊している。このため、旧状を窺知するための好例である。図中の燃烧部の一点鎖線は、天井部崩落の塊状焼土が認められた範囲を示している。則、この部分が焚口の天井部乃至器設部の天井部の位置を示していると考えられる。但

し、焚口天井部の補強等が未確認であることから、当該部分が焚口部天井前縁に当たり、器設は別な方法を用い他の部分に設置されていた可能性も考慮のうちである。譬、煙道部の煙孔の部分が該当する可能性も考えられる。

出土遺物は、土師器坏類には平底化認められ、10-01063土師器台付小形甕は「コ」の字状口縁化が認められる。10-01066須恵器坏は回転篋切りの底部に墨書を施している。10-0169盤は口縁部を欠損しているが当遺跡では希少な遺物である。住居跡の時期は9世紀中頃と考えられる。

第49号住居跡

位置：5地区27-P・Q-14/27-P~Q-15グリッド。 形状：正方形。 規模：4.50m×4.30m。 主軸方位：北-112度→東。 構築基準辺：北壁・南壁。 竈規模：第1竈全長1.70m×袖部幅1.50m×燃焼部幅0.51m/第2竈全長1.12m×袖部幅1.28m×燃焼部幅0.60m。

層序：(基準線標高値106.80m)

1. 黒色土：粒状C軽石多量 (IV層土の二次堆積)。
2. 黒色土：粒状C軽石混入。
3. 黒褐色土：粒状C軽石若干。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状IV層土灰・粗粒状ローム混入・粒状ローム含有。
5. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粗粒状ローム含有・塊状IV層土含有。
6. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状IV層土多量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入・粗粒状ローム含有。
8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム多量。
10. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状ローム含有。
11. 黒褐色土：粒状C軽石多量・塊状ローム含有。
12. 黒褐色土：粒状C軽石多量・塊状ローム多量。
14. 黒褐色土：塊状ローム少量・塊状黒紫色粘質土混入・塊状暗紫粘質土混入・粗粒状ローム含有。
14. 塊状暗紫赤色粘質土・塊状焼土の混土 (天井部崩壊土)。
15. 灰・炭化物。
16. 黒褐色土：塊状ローム多量・塊状焼土少量・焼土粒多量・炭化物含有。
17. 11同質。
18. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状暗紫粘質土含有。
19. 塊状暗紫粘質土。
20. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状暗紫粘質土多量。
21. 塊状暗紫赤色粘質土・塊状焼土の混土 (天井部崩壊土)。
22. 灰・炭化物。
23. 黒褐色土・塊状ローム混土。
24. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有・粒状ローム混入。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡の東側部分が12号溝に切られ、南側では13号溝・136号土坑を切っている。住居の形状は均整の取れた正方形を呈している。床面上での規模：は3.90m×3.93mが図上で計測出来、0.30m (唐尺・天平尺の1尺相当) で除すると13尺：13尺の数値が得られる。また、当住居は今回の発見住居跡の中で最も残存深度が深く、良好な状態で発見されている。竈は西壁で2基発見されている。北側が古く (第1竈) 南側が廃棄時の竈 (第2竈) である。第1竈の奥壁部では、煙道孔被熱と思われる塊状焼土が認められているが、この塊状焼土は旧状から大きく移動していることも無く、ほぼ旧状を知る手掛かりになると考えられたことから、調査段階では残したまま写真撮影を行った。

出土遺物は、住居跡遺存の良さに比較すれば少なさを感じる。土師器坏類は丸底が主体である。10-01073は焼成後の落書 (田か) が認められる。10-01081・01802須恵器坏・蓋はセット関係で、伝世品と考えられる。住居跡の時期は8世紀後半頃と推定される。古墳時代以降の住居跡では最も古い住居跡である。

第50号住居跡

位置：5地区27-P・Q-12/27-P~R-13/27-P・Q-15グリッド。 形状：正方形。 規模：(6.20)m×6.74m。 主軸方位：北-37度→西。 構築基準辺：四壁。 炉規模：径0.8m。

層序：(基準線標高値105.70m)

1. 黒色土：粒状C軽石混入。
2. 黒色土：細粒状C軽石微量。
3. 黒色土：細粒状C軽石微量・塊状ローム含有・粒状ローム含有。
4. 黒色土：粒状C軽石含有・塊状ローム少量。
5. 3同質。
6. 黒色土：焼土粒混入・炭化物含有。
7. 黒色土・塊状ローム混土。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。南西隅部側は土地改良事業に拠る攪乱が顕著で、南東隅部側で46

号住がり、斜面部の下端側に占地することから、住居跡の遺存は不良である。残存部分は北西壁側の半分程度であるが、 $P_3 \cdot P_7 \cdot P_4 \cdot P_9$ が遺存していたことから住居跡の形状・規模が推定出来た。遺物は北西壁下で壁沿いの床面上から出土している。壁に重複する $P_{11} \cdot P_{12} \cdot P_{14}$ は、B-B'の断面に於いては(P_{12})当住居より古い、壁に設けられる柱材のピットと思われる。また P_{13} も当住居に伴うと思われる。

出土遺物は、北西壁下および P_1 際の床面直上から出土している。時期は5世紀中頃と思われる。

第51号住居跡

位置：5地区27-O-13・14グリッド。形状：正方形か。規模： $3.20 + \alpha \text{ m} \times 3.73 + \alpha \text{ m}$ 。主軸方位：北-62度→東。構築基準辺：不詳。竈：未発見。

層序：(基準線標高値105.80m)

1. 黒色土：粒状C軽石混入。
2. 黒色土：粒状C軽石少量。
3. 黒色土：粒状C軽石含有。
4. 黒色土：粒状C軽石含有・塊状ローム少量。
5. 黒色土：細粒状C軽石若干・焼土粒含有。
6. 黒色土：細粒状C軽石微量・粒状ローム含有・塊状ローム若干。
7. 赤褐色：地床炉の被熱層。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。が、住居跡の北東側は調査区外に延び、南東側は44・58号住の重複も在るが後世の攪乱等により失っている。出土遺物・炉跡・ P_1 の存在から50号住とほぼ同時期の住居跡と考えられる。炉の位置からは当該住居跡の規模を復元すると、1辺8mほどの規模が想定出来る。だが、詳細不詳である。

出土遺物は、破片類しか得られなかった。要素的には50号住と同様である事から5世紀中頃と推定される。

第52号住居跡

位置：5地区27-S・T-11・12グリッド。形状：不詳。規模： $4.00\text{m} \times 3.39 + \alpha \text{ m}$ 。主軸方位：北-93度位→東。構築基準辺：西壁か。竈：未発見。

層序：(基準線標高値105.30m)

1. 黒色土：細粒状C軽石多量。
2. 黒色土：細粒状C軽石多量・塊状灰多量・塊状焼土含有。
3. 黒色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム含有。
4. 黒色土：細粒状C軽石若干。
5. 黒色土：塊状ローム混土。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡の南東半分は斜面の法面にあたり失われている。このため詳細不詳である。恐らく、竈を具備する住居であったと考えられる。掘方では南西隅部周辺には、ピット状の掘り込みがやや多く集中する傾向が認められた。

出土遺物は破片類しかない。10-01101土師器「コ」の字状口縁甕は大形破片である。須恵器坏類も破片であるが、出土遺物の時期的組成には矛盾がないと思われる。時期は9世紀中頃と思われる。

第53号住居跡

位置：5地区-28-N・O-19・20グリッド。形状：不詳。規模： $(2.1 + \alpha \text{ m}) \times (2.2 + \alpha \text{ m})$ 。主軸方位：詳細不詳。構築基準辺：不詳。竈規模：袖部幅0.78mか。

層序：(基準線標高値107.20m)

1. 塊状焼土。
2. 黒褐色土：細粒状C軽石若干。塊状焼土微量・粒状焼土含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粒状焼土若干。
5. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土含有。
6. 塊状焼土。
7. 黒褐色土：粒状C軽石微量。
8. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム少量。

所見：当住居跡は、2号住調査段階の調査区界を精査した段階で確認された住居跡である。このため、断面での露呈にしかならなかった。53・54号住の調査を含め、調査段階の不手際と共に反省している。

上記のとおり、断面のみの露呈であったため、詳細等に就いては不明である。だが、竈の発見位置からすれば、南側に竈を備える構造であろう事が推定される。

出土遺物は、2号住に含んでいる10-00585・00586と判断できる。この2点共に漆田産の須恵器坏である。時期はやはり9世紀末～10世紀初頭と考えられる。

第54号住居跡

位置：5地区—28—O・P—20・38—O・P—1グリッド。形状：横長方形か。規模：1.80m×(2.79+ α)m。主軸方位：北—約110度→東。構築基準辺：不詳。竈規模：全長0.6m×袖部幅0.95m×燃烧部幅0.56m

層序：(基準線標高値107.00m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粒状ローム混入。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粗粒状炭化物含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量とロームブロックの混土。
5. 黒褐色土・塊状焼土・粗粒状炭化物・灰の混土。
6. 塊状焼土主体。
7. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有・焼土粒混入。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・ロームブロック混入。

所見：当住居跡は55・1号住を切り構築している。確認状態は、1号住の床面露呈段階に至り1号住とは別な住居跡であることを確認した。住居跡の形状・規模は重複関係にある1・2号土坑による攪乱により殆どが残存していない。

出土遺物は、竈に前代の横瓶10-00576が壁の補強に用いられていた。床面から出土しているのは10-00577・578灰釉塊である。漆田産10-00572?00574須恵器坏・塊は覆土内からの出土であるが、住居跡の遺存が浅い事から床面直上層部分に相当する。時期はやはり9世紀後半～10世紀初頭と考えられる。

第55号住居跡

位置：5地区—38—O—20グリッド。形状：不詳。規模：0.65+ α m×1.5+ α m。主軸方位：北—約120度→東。構築基準辺：不詳。竈規模：全長0.6+ α m×袖部幅0.25+ α m×燃烧部幅0.25+ α m。

層序：(基準線標高値107.00m)

9. 黒褐色土：粒状C軽石多・焼土粒少量。
10. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
11. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
12. 赤褐色：焼土。

所見：当住居は調査区界壁の断面で確認された住居跡であり、確認されたのは竈の一部のみである。1号住を切ること、54号住に切られている事は確認できているが他の詳細に就いては不明である。

出土遺物は認められなかった。時期に就いては54号住を下限に考えるしかなく、恐らく9世紀後半～10世紀前半頃と思われる。

第56号住居跡

位置：5地区37—R—5・6グリッド。形状：横長方形。規模：3.24m×4.48m。主軸方位：北—102度→東。構築基準辺：西壁。竈規模：全長0.82m×袖部幅1.16m×燃烧部幅0.48m。

層序：(基準線標高値109.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入・小塊状ローム含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム混入・粗大塊状ローム含有。
5. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粗粒状ローム含有・粒状ローム混入。
6. 黒褐色土(粒状C軽石微量)と塊状ロームの混土。
7. 黒褐色土：粒状C軽石混入・炭化物少量。
8. ローム土主体・炭化物少量・焼土粒少量。
9. 塊状焼土主体。
10. 灰層。
11. 塊状ローム・塊状焼土の混土。
12. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有。
13. 黒褐色土・塊状ローム混土。

所見：当住居は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。住居跡の北東隅部は調査区外に延びている。住居跡

は未調査部分も残すが、比較的整った横長方形を呈すると考えられる。竈は全体に崩落の進んだ状態とも思われたが、覆土には塊状焼土主体層があり、押し潰れた状態であったと思われる。

出土遺物では、当遺跡の生産須恵器坏類を多く出土しているが、やや摩滅の進んだ状態や破片固体も多い為、窯の操業段階よりやや新しい時期に推定される。時期は9世紀末～10世紀前半頃と考えられる。

第57号住居跡

位置：5地区37—S—4・5グリッド。形状：矩形。規模：3.39m×3.81m。主軸方位：北—116度→東。

構築基準辺：西壁。竈規模：全長1.41m×袖部幅1.46m×燃焼部幅0.62m。

層序：(基準線標高値109.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粗粒状ローム少量・塊状褐色土斑状。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粗粒状ローム混入・焼土粒含有・塊状黒色土多量。
3. 黒褐色土：絵黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量・粗粒状ローム少量。 4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状褐色土含有。
5. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状褐色土多量。 6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粗粒状ローム混入・小塊状ローム含有。
7. 黒褐色土・塊状ローム混土。 8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量・塊状ローム少量。 10. 塊状ローム・塊状焼土混土。
11. 黒褐色土：粗塊状焼土多量・塊状ローム混入。 12. 黒褐色土：粒状C軽石若干・焼土粒含有・塊状ローム含有・粒状ローム少量。
13. 10同質。 14. 黒褐色土・塊状褐色土・塊状ローム混土。 15. 7同質。

所見：当住居は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。南壁側で108号土坑を切る。住居跡の形状は比較的整っている。壁溝は四壁下で発見されているが、南西隅部は、床下の掘方により壁溝の在り方は分明に成し得なかった。掘方では、南壁下でピット状の掘り込みが目立つ。入り口施設に伴うピットも含まれる可能性がある。

出土遺物は少なかった。10-01138土師器甕は撫肩の口縁部下半が長い大形破片で、作りは非常に熟達した工人の製作であることが感じられる。C類の生地土を使用している。恐らく、陶土質粘土の得られる地帯での生産と考えられる。時期は他の破片類を含めても9世紀中頃～10世紀初頭と推定される。

第58号住居跡

位置：5地区27—O—13・14グリッド。形状：不詳。規模：0.93+ α m×2.44+ α m。主軸方位：北—56度位→東。構築基準辺：不詳。竈：未発見。

層序：(基準線標高値105.10m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石少量。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。44・51号住を切り構築するが、住居跡の大半が後世の攪乱により失われており詳細不詳である。

出土遺物は皆無であった。44号住を切り構築している事から、9世紀中頃以降の住居跡と考えられる。

第59号住居跡

位置：5地区27—T—16・17/28—A—16・17グリッド。形状：横長方形か。規模：2.78+ α m×3.92+ α m。主軸方位：北—約90度→東位か。構築基準辺：不分明。竈：未発見。

層序：(基準線標高値108.30m)

9. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム混入・塊状ローム含有。 10. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム少量・焼土粒含有。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は40号住に切られているが他の住居跡にも切られている可能性も考慮される。詳細に就いては不分明であるが、軸方向は45号住等に類似する。

出土遺物10-00965須恵器皿は、40号住との境目部分から出土いるため、厳格には当該住居跡に確実視得ない

状況が有る。時期は状況から9世紀中頃と思われる。

第60号住居跡

位置：5地区37—S・T—7グリッド。 形状：横長方形か。 規模：2.61+ α m×3.14m。 主軸方位：北—97度→東。 構築基準辺：西壁か。 竈：未発見。

所見：当住居は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。住居は東半分が公道下に存するため完掘出来ず、露呈は約半分程度に止まった。当住居は61号住と南西隅部が重複するが、極部分的な重複なため双方の新旧関係直接的には確認し得なかった。掘方は認められなかった。詳細は不詳な部分が多い。

出土遺物は、10-01144土師器甕は器厚も厚く短い外傾口縁部を特徴とすることと、10-01143須恵器坏は体部下半が丸みを帯びる特徴が認められることから、時期は10世紀中頃と考えられる。

第61号住居跡

位置：5地区37—T—6・7グリッド。 形状：横長方形か。 規模：3.10m×2.78m。 主軸方位：北—112度→東。 構築基準辺：不詳。 竈：未発見。

層序：(基準線標高値109.80m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状黒色土含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム含有。
5. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム少量・焼土粒少量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム含有。
7. 黒褐色土・塊状ローム混土。

所見：当住居は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。竈周辺部分は公道下に位置することにより調査不能であったが、床面上で顕著な焼土分布認められていることから同部の東端周辺に焚口部の推定が可能である。また、当住居は60号住と北東隅部が重複するが、極部分的な重複なため双方の新旧関係直接的には確認し得なかった。掘方は浅いが顕著で、西側半分と南東隅部部分に認められた。西壁下では、壁溝の痕跡が認められたが、床面上では確認出来なかった。

出土遺物は極僅かしかなかった。10-0146須恵器坏は底面に墨書「石」を記した内黒である。他は細片で図示出来得た遺物を掲載してある。時期は10世紀中頃と考えられる。

第62号住居跡

位置：5地区27—R・S—10グリッド。 形状：不詳。 規模：1.85+ α m×3.13m。 主軸方位：北—58乃至148度→東。 構築基準辺：四壁か。 竈：未発見。

層序：(基準線標高値104.20m)

1. 黒色土：粗粒状C軽石褐色土・粒状C軽石含有。
2. 粒状C軽石少量・塊状ローム多量。
3. 塊状ローム・黒色土の混土。

所見：当住居は調査区東側斜面に位置する。住居跡の南東半分は後世の攪乱により失っている。住居跡は残存が悪いものの、壁下で壁溝が発見され、均整の取れた住居であることが窺知される。掘方では床面下10cm程で底面が確認され浅い土坑状の掘り込みも発見されている。

出土遺物で図化出来得たのは10-01149一点のみである。住居形状は均整が取れ壁溝を巡らすことと、覆土の体積土壌から5世紀代かと思われる。

第63号住居跡

位置：5地区38—E—10グリッド。 形状：不詳。 炉規模：0.68m×0.66m。 主軸方位：不詳。

所見：当住居は倒木跡内の暗褐色中で発見された石囲炉跡である。このため発見時は水平状態ではなく、倒木の転倒による下位層が約90度程の角度で倒置された様な状態であった。炉石周辺での床面は明らかに出来なかった。再度・再々度倒木跡の遺構確認面の平面精査を実施したが落ち込み（当該住居跡に伴う諸施設）等は確認されなかった。

出土遺物は炉周辺と、確認面周辺出土の遺物を掲載した。時期は縄文時代中期、加曾利E3式の時期と考えられる。

第64号住居跡

位置：5地区27-T-19・20グリッド。 **形状：**縦長方形。 **規模：**2.88m×2.42m。 **主軸方位：**北-104度→東。 **構築基準辺：**西・南壁か。 **竈規模：**全長0.91m×袖部幅1.06m×燃烧部幅0.50m。

層序：(基準線標高値109.00m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
3. 塊状ローム・塊状焼土・塊状塊状褐色混土。

所見：当住居は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。切り合い関係は認められなかった。住居跡は土地改良事業による削平、部分的な耕作に伴う攪乱もあり全体的には遺存不良であった。竈の右袖は掘り過ぎにより失っている。掘方も際立ったものは認められず、南東隅部周辺が全体に掘り込みが認められただけに止まっている。

出土遺物は住居跡の残存が不良であったため少なかった。しかし、少ないながらも10-01156・01157土師器環、10-01159須恵器耳皿が出土している。須恵器耳皿は漆田産である。時期は10世紀前半頃と思われる。

第65号住居跡

位置：5地区27-Q・R-16・17グリッド。 **形状：**矩形。 **規模：**4.18m×4.66m。 **主軸方位：**北-114度→東。 **構築基準辺：**西壁。 **竈規模：**全長0.75m×袖部幅1.18m×燃烧部幅0.60m。

層序：(基準線標高値108.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム多量斑状・炭化物少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入。
3. 黒褐色土：塊状ローム少量・粒状ローム含有。
4. 塊状ローム主体・炭化物少量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有・粒状ローム含有。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量・炭化物微量・塊状焼土少量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状ローム微量。
8. 塊状ローム主体。
9. ローム質（粗粒状ローム混入・粒状ローム多量）。
10. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粗粒状ローム含有。
11. 暗褐色土：塊状ローム多量。
12. 暗褐色土：粗粒状ローム少量・焼土粒微量。
13. 黒褐色土・塊状ローム混土。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は攪乱に被覆された状態で確認された。調査段階では南壁部分で66号住居を切る住居跡として確認調査したが、整理段階の出土遺物の検討結果は発掘調査の逆で66号住居の遺物様相が当該住居跡より新しい。調査段階後半では、ロームブロックを多量に含む覆土が住居跡中央部まで認められていたことと、66号住居がロームブロックのみで埋設された状態であったことから、当該住居跡は66号住居に切られる可能性が濃厚である。

一方、当住居は発掘された住居跡の中で最も整った状態で南壁と西壁・西壁と北壁・北壁と東壁が接する各隅部は、ほぼ直角に結合する状態で、過去において筆者が発掘調査した当該期の住居跡（約1500軒）の中で、壁同士の掘り込み状態がこれ程までに整っていた住居跡は唯一であり、最高の状態である。掘方は竈部分で認められただけで、地山ローム土を丁寧に掘削し住居を構築したことが窺知される。

出土遺物は、土師器環・甕、須恵器環・埴とやや纏まっている。10-01161土師器環は口縁部外面に墨書「良」

を記している。須恵器坏10-01170は埼玉産の製品に思える。時期は9世紀中頃と考えられる。

第66号住居跡

位置：5地区27-Q・R-16グリッド。形状：不詳。規模：3.22m×1.28+ α m。主軸方位：北-107度→東。構築基準辺：不詳。竈：未発見。

層序：(基準線標高値108.40m)

1. 塊状ローム主体。
2. 塊状ローム主体・塊状焼土含有。
3. 黒褐色土・塊状ローム混土。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。当該住居跡は65号住に切られいるとの確認時の所見から調査を実施した。65号住の所見でも記述したが、当該住居跡の覆土は塊状ロームを主体にすることが特徴的である。この塊状ロームは床面直上から堆積が認められ、65号住の中央部までこの状況が達していた。この事から、新旧関係を逆転させて調査した可能性が濃厚である。しかし、当該住居跡の竈が認められ無かったことから、調査段階では確認当初の所見を優先させていた。この竈未発見は攪乱が著しかった事に原因するとも思われる。また、覆土に見られた大量のロームブロックは、至近の住居構築に伴って埋設されている可能性もあるものの、その住居跡の特定は無理である。また、67号住を切り構築している。このため詳細については不明である。

出土遺物は、P₁内から10-01174土師器台付小形甕・01175須恵器碗が出土している。須恵器碗は漆田産である。時期はやはり9世紀末?10世紀初頭と考えられる。

第67号住居跡

位置：5地区27-R・S-16・17グリッド。形状：正方形か。規模：4.70m×4.33m。主軸方位：北-101度→東。構築基準辺：西壁か。竈：未発見。

層序：(基準線標高値108.30m)

1. 黒褐色土：細粒状C軽石住居跡・炭化物混入・塊状ローム含有・粗粒状ローム混入・焼土粒多量。
2. 攪乱層内塊状ローム。
3. (66号住1・2層) 塊状ローム主体。
4. (66号住3層) 黒褐色土・塊状ローム混土。

所見：当住居は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。北側は66号住に切れ、住居跡全体に攪乱が非常に顕著であったことから、1次確認面では平面形状すら把握出来ず、部分的に確認面を掘り下げ確認を実施して調査を行った。図中に掘立柱建物跡と思われるピットを3箇所で見出したが、掘立柱建物跡とは確定出来なかった。ピットの埋土は表土層に近いことから近世以降と考えられる

出土遺物は住居跡の遺存が攪乱により非常に悪かったことから少なく破片のみであった。図化した土師器類全てはC類生地土を使用する陶土質の製品である。そして、10-01178土師器甕の作りには熟達工人によるものである。肩は撫肩で口縁部下半が長く直立している。須恵器類も作り丁寧である。時期は9世紀中頃と考えられる。

第68号住居跡

位置：5地区27-O・P-9・10グリッド。形状：正方形。規模：4.60m×4.70m。主軸方位：北-68度→東。構築基準辺：西南壁か。竈規模：全長1.14m×袖部幅0.97m×燃烧部幅0.54m。

層序：(基準線標高値103.30m)

1. 黒色土：粒状炭化物混入。
2. 黒色土：粒状C軽石含有。
3. 黒色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・シルト含有・焼土粒少量。
5. 塊状白黄灰褐色粘土。
6. 塊状焼土。
7. 被熱白黄灰褐色粘土・塊状焼土の混土。
8. 5同質。
9. 白黄灰褐色粘土(袖)。

所見：当住居は調査段階では低地部分であったが、当時は斜面部の裾に当たる部分であったと考えられ、床面はもはやローム土を使用出来ない部分での占地である。住居跡は後世の削平と18号溝による重複により遺存は悪かった。この遺存状態の中出土遺物は豊富で、床面直上から床面直上層中で出土している。また、床面上で確認されているピットの中で支柱穴を想定して調査したP₂～P₄は、床面下10cm程で地山面達してしまい、ピットとしての性格自体に疑念も生ずる。

出土遺物は非常に多かった。何れも床面直上乃至床面直上層からの出土である。この中で、須恵器坏の模倣10-01193土師器坏は、器厚が非常に薄く整形も非常に丁寧に仕上げられてる。胎土も良質な生地土を用いている。今回の調査で出土している幾多の遺物の中では、最も秀作に上げられる逸品である。時期は5世紀末～6世紀初頭頃と考えられる。

第69号住居跡

位置：5地区27-O・P-8・9グリッド。 **形状：**横長方形。 **規模：**2.05m×2.45m。 **主軸方位：**北-120度→東。 **構築基準辺：**西壁か。 **竈規模：**全長1.05m×袖部幅0.9m×燃烧部幅0.6m。

層序：(基準線標高値103.30m)

1. 黒色土：粗粒状C軽石微量・焼土粒若干。

所見：当住居は調査段階では低地部分であったが、当時は斜面部の裾に当たる部分であったと考えられ、床面はもはやローム土を使用出来ない部分での占地である。当遺跡で最も標高の低い部分で発見されている。住居跡は遺存が悪く南側は失われていた。このため、詳細については不分明である。

出土遺物は殆ど無かった。辛うじて作図可能な程度であった。10-01209は然程大きくない破片であるが、C類生地土である。時期は出土遺物では9世紀前半としか言えないが、住居跡形態からは、9世紀後半頃であろうか。

掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡

位置：5地区27-O・P-7・8グリッド。 **形状：**南北棟か(詳細不詳)。 **柱間・規模：**(桁×梁)：6尺・5尺・+αか(3.3m)×7尺・2間(4.2m)。 **主軸方位：**北-5度-東。

層序：(基準線標高値103.30m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 粒状C軽石少量。
3. 粒状C軽石混入・焼土粒含有。

所見：当掘立柱建物跡は低地部分で発見されている。当時は、緩やかな緩斜面部での占地と考えられる。この紙面部占地であったことにより、南西側の遺存が悪く柱穴が半分以上失われていると考えられる。桁側の遺存する柱間から(6尺・5尺)、もう一間の延長が推定され、3間(6尺・5尺・6尺)×2間(7尺・7尺)での規模が推定出来る。出土遺物は無かったが、P₃の軸方向を45度程傾ける在り方から9世紀中頃の建物であったと思われる。

窯跡

第1号窯跡

位置：28-T-1・2グリッド。 **形状：**瓢形か。 **規模：**残存長2.57m×窯体長0.72+αm×窯体幅1.12+αm×前庭長1.61+αm×前庭幅1.10+αm×窯底と前庭底面比高差0.10m。 **主軸方位：**北-121度-東。

所見：当窯跡は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。須恵器工房と判断される11号住の南側9m程に位置している。当該窯跡は34号住の調査中に発見された。34号住の平面確認段階で全体に炭化物を含む黒くくすんだ黒褐色土広がる状態で、明確な形状としては確認できなかった。このため、先ず断面確認を行い、状況により調査方法を再考する考えであった。これにより、調査はこの34号住着手にこの黒褐色土域を通る土層断面位置を設定して掘り下げた。この結果、黒褐色土が住居跡の床面上まで広がる点と、下層では炭化物の量が増加することが明らかになった。この事から、何らかの遺構が重複することが明確になった。しかし、この段階では、壁等は殆ど掘り尽くしてしまっており、結果的に34号住の床面上精査段階で窯跡を認定した。このため、当該窯跡は34号住の床面上に残存した状態でしか記録に出来なかった。このため、詳細な状況を不明にしまった。

出土遺物は、窯底面直上層で出土した個体は比較的良好な固体であったが、34号住の調査段階で出土した遺物は破片類であった。

窯跡の構造は2基の土坑を接続させた状態で、瓢形状の平面形状を呈すると考えられる。露呈出来た状態が不良なため詳細不詳である。

出土遺物では須恵器杯・壺・皿・耳皿・瓶類が認められたが、瓶は口縁部片一点(10-01221)のみで、3号窯跡で出土している1点(10-01249)を含め2点のみの出土しかない。出土須恵器杯・壺には、やや緻密な胎土と、やや粗めの二者の胎土が認められる。このうちの前者は、11号住床面上で出土した白色粘土(陶土質粘土)が素地土と考えられ、後者は、低地部の粘土化したローム土が生地土と考えられる。遺物観察表中では、この粘土化したローム土を生地土にして製作された胎土を「A生地土」として記述した。但し、当遺跡での製作を限定するのではなく、広域に賦存するであろう粘土化ロームを指している。一方、陶土質の生地土に就いては「C生地土」として記述している。

この他では、杯・壺の内外面及び断面には「黒斑」が残る物が多い。この「黒斑」は、焼成段階で土器側が吸炭した結果に因るものであり、焼成方法に原因していると考えられる。

第2号窯跡

位置：28-T-1・2/29-A-1・2グリッド。 **形状：**瓢形基調。 **規模：**全長2.88m×窯体長1.59m×窯体幅2.1m×前庭長1.38m×前庭幅1.42m×窯底と前庭底面比高差0.8m。 **主軸方位：**北-272度-東。

層序：(基準線標高値109.30m)

1. 茶褐色土：黒褐色土とローム土の混土。
2. 茶褐色土：黒褐色土とローム土の混土(塊状ローム含有)。
3. 暗褐色土：粒状C軽石含有・ローム土含有。
4. 茶褐色土：黒褐色土・ローム土の混土(1よりローム土の含有が少ない)。
5. 4近質・粒状C軽石含有。
6. 1近質。
7. 黒褐色土：粒状C軽石含有・炭化物多量・やや硬質。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有・炭化物混入・硬質。
9. 黒褐色土：粒状C軽石少量・炭化物多量・粗粒状ローム少量。

所見：当窯跡は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。須恵器工房と判断される11号住の南側9m程に位置している。当窯跡は土層断面E-E'の観察及び平面での状況から、改築乃至重複していることが判断される。土層断面では、最低4時期での操業が認められる。平面では、炭化物を残す範囲と酸化被熱範囲の円形状の部分と、長方形の焼成部、この双方を囲む状態のやや大きい円形状基調の部分の3者の状態が看取され、さらに、長方形部分では内外に二重になっている状態にも思われる。また、前庭部も土層断面9層と8層の部分により2者の状況が認められる。特にこの前庭部の状況は、改築に因る状況なのか、廃棄後に改めて切られて構築されている状況なのか判断が難しい点がある。しかし、9層土は前庭部の上位側まで埋没している状況として解釈するならば、新旧関係による所産と判断できる。一方、5号窯跡では、焼成部の構造がやはり新旧の状

況が看取され、円形基調から長方形へと改修されている。焼成部の構造が円形から長方形への変遷が認められることから、単純に改修としても理解される。ここでは、9層土の堆積状況から、2基による切り合いと推定しておき、8層より上位段階+長方形焼成部を2 a号、円形基調焼成部+9層の構造を2 b号としておく。

出土遺物では、坏・坏蓋・埴・皿・甕の5器種が出土している。この5器種の中で坏・埴が主体生産され、次いで皿が生産されている。坏蓋・甕は夫々1個体ずつである。しかし、後者は当該窯跡で確実に生産されたとするには明確さを欠いている。上述の新旧関係での2 b号に伴う遺物は、前庭部で出土している一群(10-01223・01233・01235・01240・01241)である。この一群と他者を比較しても形状・技法には差異は認められない。また他の窯跡出土の遺物と比較しても生地土の相違以外は認められない。

第3号窯跡

位置：28-A-1。 **形状：**瓢形。 **規模：**全長2.37m×窯体長1.02m×窯体幅1.59m×前庭長1.35m×前庭幅1.14m×窯底と前庭底面比高差0.09m。 **主軸方位：**北-265度-東。

層序：(基準線標高値109.30m)

1. 黒色土：粗粒状C軽石少量・焼土粒若干・炭化物若干・被熱粒状ローム少量。
2. 黒色土：細粒状C軽石若干・粗粒状炭化物混入・粗粒状ローム少量・焼土粒若干。
3. 黒色土：細粒状C軽石微量・ローム主体。
4. 黒色土：細粒状C軽石含有・焼土粒若干・炭化物含有・褐色土斑状・塊状ローム斑状。
5. 黒色土：細粒状C軽石含有・塊状ローム少量・粗粒状炭化物含有。
6. 黒色土：細粒状C軽石少量・塊状ローム少量・粗粒状ローム含有・粗粒状炭化物含有。
7. ローム質土。
8. 黒色土：細粒状C軽石含有・粗粒状炭化物多量・粗大炭化物含有。
9. 黒色土：細粒状C軽石含有・塊状ローム混入・粗粒状炭化物多量焼土粒混入。
10. 黒色土：細粒状C軽石若干・炭化物多量・塊状焼土含有・焼土粒混入。
11. 10近質。
12. 黒色土：細粒状C軽石微量・塊状ローム含有・焼土粒混入・炭化物含有。

所見：当窯跡は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。須恵器工房と判断される11号住の南側10m程に位置している。

窯跡の燃焼部奥壁側は、道路工事の際に部分的に破壊されている。

焼成部の構造は隅丸長方形と丸味の強い楕円形状の2者が認められ、当窯跡も改修が行われた事を物語っている。この双方の形状の内前者が廃棄段階の形状であり、構築当初は丸味の強い楕円形状を呈している。また、双方の底面の比高差は8cm程ある。そして、前庭部では中央ほどのところに土坑状に窪んだ部分が認められ、同部の底面と前庭の手前側底面との比高差は11cmに及んでいる。恐らく操業の経過の中で窪んだか、作爲的に掘り下げたものと考えられるものの、結論付けるには及べない。だが、構築当初は、前庭部手前側の底面が構築段階の底面にほぼ近いと考えられる。ここで、この構築段階の形状を推定すれば、前庭部と焼成部では前庭部側が低く、焼成部側の底面が4cm程の比高差を有して立ち上がっていたと推定される。そして、廃棄段階の形状は5号窯と類似するが、前庭部と焼成部の比高差が逆転している。

出土遺物は少なかった。この中で図上復元可能な個体はすべて掲載した。出土した器種は、埴・皿・瓶の3器種に限られている。この中で10-01247皿のみが他の窯跡出土の遺物と対比されるが、特徴等に異なる点は認められなかった。

第4号窯跡

位置：27-R-15グリッド。 **形状：**窖窯構造。 **規模：**全長0.75m×窯体幅0.78m×深さ0.64m。 **主軸方位：**北-13度-西。

所見：当窯跡は東斜面の中位で、48号住に切られ部分的に残存した状態で発見されている。この48号住との重複関係は、当初住居跡に伴う古期竈と想定していたが、床面20cmも上位の部分以底面を備えるのと、奥壁より上位の構造が袋状でさらに地表面側に向かい漏斗上に立ち上がる構造から竈とは異なると判断した。そして、この構造に類似する遺構として窯であることを判断した。覆土は、底面から8cm程には2cm程を最大とする木炭を多量含み、塊状の焼土・粗粒状の焼土・細粒の焼土と黒褐色土が混土となった状態であった。この上位は焼土粒を含む黒褐色土が堆積していた。被熱の状態は底面では認められず、袋状の壁面部分で強く酸化により橙～赤橙色に変色部分が認められた。

出土遺物は土師器甕の胴部が細片化したものが数点出土しただけであった。

当窯跡は袋状の燃焼空間から、上部の漏斗状の構造部分に熱を給源する構造であり、土師の焼成室はこの漏斗状より上位の位置に考えられる。当該遺跡以外では、土師器（坏・甕等）の胴部や体部に、円形または不正形状の熱受けにより暗い赤橙色に変色部分があり、この色調変色部が受熱の火道と考えられることから、この条件を満たす構造として当該の窯が推定される。

土師器類には、被二次焼成個体以外では、時折焼成時の円形・楕円形・不正形状の、焼成時に受けたと考えられる赤橙～暗赤褐に変色する部分が認められる。この部分は焼成時に局部的に高温を受けた部分と判断され、焼成時の状況を示していると考えられる。状況的には焼成遺構の構造に因ることが推定出来、恐らくは、窖構造の燃焼空間から焼成室に熱を送る部分「送熱部」の痕跡と推定される。

このことから、当該跡は窖構造の残存と判断され、恐らく土師器の焼成窖であると考えられる。

第5号窯跡

位置：37-S・T-3グリッド。 形状：瓢形基調。 規模：全長2.28m×窯体長1.68m×窯体幅1.71m×前庭長0.71m×前庭幅1.03m×窯底と前庭底面比高差0.15m。 主軸方位：北-32度-西。

層序：(基準線標高値103.30m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・炭化物含有。
2. 茶褐色土：粒状C軽石微量・炭化物少量。
3. 黒色土：塊状ローム含有・炭化物多量。
4. 茶褐色土：粒状C軽石微量・炭化物含有・焼土粒含有。

所見：当窯跡は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。須恵器工房と判断される11号住の南側5m程に位置している。当窯跡の構造は、焼成部が長方形を呈している。しかし、詳細に観察すると、前庭部との接続構造からは、改修された結果によることが窺知出来る。廃棄段階窯体は横長方形であるが、北東・南東壁側から前庭部との間には円形状の部分的な壁が認められ、この円形状を切り横長方形の窯体が掘り込まれた状態であり、双方の窯体（焼成室）底面には、横長方形の窯体が後行して掘り込まれた痕跡を示す比高差が認められる。この推定される改修以前の円形状窯体（焼成室）構造は、第2・3号窯跡でも認められている。また、窯底直上の奥壁際で出土した木炭は、燃焼材料の炭化と考えられる。この燃料材が炭化した状態は3号窯でも認められている

土坑

第1号土坑

層序：(基準線標高値106.80m) 1. 濁暗褐色土：粒状C軽石混入。

第2号土坑

層序：(基準線標高値106.80m) 1. 濁暗褐色土：粒状C軽石混入。

第3号土坑

層序：(基準線標高値107.10m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。

第4号土坑

層序：(基準線標高値107.10m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。

第13号土坑

層序：(基準線標高値106.60m) 1. 黒色土：粒状C軽石混入。 2. 黒褐色土：粒状C軽石少量含。

第14号土坑

層序：(基準線標高値106.60m)

1. 黒色土：粒状C軽石少量。
2. 黒色土：粒状C軽石細粒状少量・塊状ローム少量。
3. 黒色土：粒状焼土少量・粒状C軽石少量。

第15号 a 土坑

層序：(基準線標高値106.60m)

1. 黒色土：粒状C軽石少量。
2. 黒色土：微粒状C軽石微量。
3. 黒色土：微粒状C軽石微量・塊状ローム含有。

第15号 b 土坑

層序：(基準線標高値106.60m) 1. 黒色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有。

第16号土坑

層序：(基準線標高値106.60m) 1. 黒色土：粒状C軽石含有。

第26号土坑

層序：(基準線標高値109.10m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム少量。

第27号土坑

層序：(基準線標高値109.10m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム斑。

第32号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム。

第33号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有・塊状ローム少量。

第34号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入。

第36号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム斑。

第37号土坑

層序：(基準線標高値109.10m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム多量。

第38号土坑

層序：(基準線標高値109.10m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム。

第39号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム斑。

第40号土坑

層序：(基準線標高値109.20m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。

第41号土坑

層序：(基準線標高値109.20m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石少量。

第43号土坑

層序：(基準線標高値109.30m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム斑。

第68号土坑

層序：(基準線標高値109.20m) 1. 茶褐色粒状C軽石微量・カーボン少量。 2. 茶褐色カーボン含有。

第69号土坑

層序：(基準線標高値109.20m) 1. 茶褐色カーボン含有。

第73号土坑

層序：(基準線標高値109.20m) 1. 塊状ローム主。

第74号土坑

層序：(基準線標高値109.20m) 1. 黒褐色土：粗粒状ローム多量。 2. 粒状ローム含有。

第76号土坑

層序：(基準線標高値106.30m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。

第81号土坑

層序：(基準線標高値105.50m) 1. 黒褐色土と塊状ロームの混土。

第83号土坑

層序：(基準線標高値105.50m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。

第84号土坑

層序：(基準線標高値105.50m)

1. 粒状ローム多量・粒状C軽石少量。 2. ローム。 3. 粒状ローム少量。 4. 塊状ローム。 5. 粒状ローム含有。
6. 粒状ローム微量。 7. 粒状ローム多量。 8. 粒状ロームない。 9. 粒状ローム少量。 10. 粒状ロームない。
11. 粒状ローム含有。 12. 発色褐色気味・粒状ローム多量。 13. 粒状ローム含有。 14. 粒状ローム混入。
15. 塊状ローム少量・粒状ローム少量 16. 塊状ローム微量。

第103号土坑

層序：(基準線標高値109.80m) 1. 暗褐色土：粒状ローム少量。 2. 茶褐色土：塊状ローム少量。

第104号土坑

層序：(基準線標高値109.80m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。 2. 暗褐色土：白色パミス少量。 3. 暗茶褐色土：白色パミス微粒。

第105号土坑

層序：(基準線標高値109.80m)

1. 暗褐色土：白色パミス含有。 2. 暗褐色土：白色パミス少量。 3. 暗茶褐色土：暗褐色塊状含有。
4. 暗茶褐色土：暗褐色塊状少量。 5. 濁褐色土：暗褐色塊状少量・ブラウンパミス含有。
6. 濁褐色土：暗褐色塊状少量・塊状ローム多量。 7. 暗褐色土：白色パミス少量。 8. 塊状ローム。
9. 濁褐色土：暗褐色土塊状少量。

第110号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・ローム土含有。 2. 黒褐色土：塊状ローム含有。

第111号土坑

層序：(基準線標高値109.00m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量・ローム土含有。 2. 黒褐色土：粒状C軽石少量。 3. 黒褐色土：pp若干・粒状ローム少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム少量。 5. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム少量。

第112号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・ローム土含有。 2. 黒褐色土：粒状C軽石混入。

第113号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：塊状ローム混入。

第115号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粒状ローム少量。

第116号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム少量。

第117号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム少量。

第118号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。

第119号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・カーボン少量。 2. 黒褐色土：粒状ローム混入。

第127号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 暗褐色土：白色パミス少量・粒状ローム含有。

第128号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 黒色土：粒状C軽石含有。 2. 黒色土：塊状ローム多量。

第129号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 暗褐色土：塊状ローム少量。 2. 暗褐色土：塊状ローム含有。

第130号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 暗褐色土：白色パミス微量。

第138号土坑

層序：(基準線標高値106.00m) 1. 濁茶褐色土：塊状ローム多量斑状。

第140号土坑

層序：(基準線標高値108.70m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム少量。

第141号土坑

層序：(基準線標高値108.70m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム多量。

第142号土坑

層序：(基準線標高値108.70m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。

第145号土坑

層序：(基準線標高値109.20m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム含有。

第151号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 暗褐色土。

第152号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 暗褐色土。

第153号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 暗褐色土。

第154号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 暗褐色土。

第155号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 黒褐色土。

第156号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 黒褐色土：細粒状白色粒子含有。

第169号土坑

層序：(基準線標高値103.20m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量・粗粒炭化物微量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・炭化物、炭はない。
3. 焼土：濁った発色の橙。
4. 焼土：明るい発色・橙～橙黄。

第172号土坑

層序：(基準線標高値103.50m) 1. 黒色土：粒状C軽石含有・粗粒状焼土多量・灰少量。

第173号土坑

層序：(基準線標高値103.50m) 1. 黒色土：粒状C軽石含有・細粒状少量・塊状灰白褐色地山土含有。

第174号土坑

層序：(基準線標高値103.20m)

1. 黒色土：粒状C軽石顆粒・粒状細粒微量。
2. 黒色土：粒状C軽石少量・粒状細粒混入・カーボン含有。
3. 黒色土：粒状C軽石少量・粒状細粒若干。
4. 黒色土：粒状C軽石微量・粒状細粒少量。

第170号土坑

層序：(基準線標高値103.20m)

1. 主・焼土。
2. 塊状焼土混入。
3. 粒状細粒含有。
4. 主・灰。
5. 塊状焼土含有・粒状細粒混入。

富田漆田遺跡 諸元

6. 塊状焼土少量・粒状細粒少量 7. 6近質。 8. 塊状焼土混入。

倒木

第1倒木

層序：(基準線標高値105.50m)

1. 暗褐色土。 2. 暗黄褐色土。 3. ブラウンパスマミ含有。 4. ローム土。 5. ローム土。 6. ローム土。
7. ローム土。 8. 少黒褐色土：塊状ローム。 9. 塊状ローム主・暗褐色土極少。 10. 暗褐色土：少量塊状ローム。
11. 暗褐色土：塊状ローム。

第2倒木

層序：(基準線標高値105.50m) 1. ソフトローム。 2. 黒褐色土。 3. 暗褐色土。

富田漆田遺跡北側調査区土坑一覧表(1)

土坑番号	位置		主軸方位	形状	規模			摘要
	地区	グリッド			長	幅	深さ	
1号土坑	5	38-O-1	北-50°-東	円形か	0.67+ α	0.69	0.18	9~10世紀
2号土坑	5	38-O-1	北-52°-西	円形か	1.70	1.46	0.27	9~10世紀
3号土坑	5	28-N-20	北-48°-西	楕円形	1.10	0.78	0.31	9~10世紀
4号土坑	5	28-N-20	0	円形	0.37	0.34	0.18	9~10世紀
5号土坑	5	28-N-19	0	円形	0.27	0.27	0.14	9~10世紀
6号土坑	5	28-M-20						攪乱
7号土坑	5	28-M-20						攪乱
8号土坑	5	38-L-2	北-48°-西	円形	0.28	0.23	0.11	9~10世紀
9号土坑	5	38-K-2	北-44°-西	円形	0.27	0.25	0.09	9~10世紀
10号土坑	5	38-K-1	北-28°-東	隅丸方形	0.38	0.26	0.22	9~10世紀
11号土坑	5	38-J-2	北-51°-西	円形	0.27	0.24	0.17	9~10世紀
12号土坑	5	38-J-2	北-62°-西	不整円形	0.32	0.25	0.22	9~10世紀
13号土坑	5	38-K-7	北-120°-東	不整円形	1.30	1.00	0.51	9~10世紀
14号土坑	5	38-K-7	北-24°-東	不整楕円形	2.07	0.77	0.27	9~10世紀
15a号土坑	5	38-K-7	北-33°-東	不整楕円形か	1.27	0.80	0.26	9~10世紀
15b号土坑	5	38-K-7	北-42°-東	不整円形か	0.60	0.61	0.23	9~10世紀
16号土坑	5	38-K-7	北-106°-東	円形	0.76	0.63	0.21	9~10世紀
17号土坑	5	38-F-6	北-68°-西	楕円形	1.38	0.88	0.24	9~10世紀
18号土坑	5	38-F-7	北-60°-西	楕円形	1.50	0.92	0.27	9~10世紀
19号土坑	5	38-F-7	北-16°-東	楕円形	0.98	0.58	0.35	9~10世紀
20号土坑	5	38-F-6	0	円形	0.17	0.16	0.13	
21号土坑	5	38-F-5						攪乱
22号土坑	5	38-E-11	0	円形	0.21	0.19	0.20	9~10世紀
23号土坑	5	38-E-11	北-15°-東	楕円形	0.44	0.36	0.20	9~10世紀
24号土坑	5	38-D-11	北-34°-西	楕円形	0.98	0.74	0.24	9~10世紀
25号土坑	5	38-E-9	北-38°-西	円形	0.92	0.86	0.22	9~10世紀
26号土坑	5	38-E-8	不詳	不整形か	1.58	0.97	0.23	9~10世紀
27号土坑	5	38-D-8	北-11°-東	不整方形	1.83	1.24	0.23	9~10世紀
28号土坑	5	38-E-9	北-22°-東	不整方形	0.87	0.65	0.18	9~10世紀
29号土坑	5	38-E-9	北-92°-東	不整楕円形	0.72	0.43	0.17	9~10世紀
30号土坑	5	38-E-9	北-49°-東	不整方形か	0.58	0.52	0.19	9~10世紀
31号土坑	5	38-E-9	北-0°	円形	0.19	0.18	0.04	9~10世紀
32号土坑	5	38-D-8	北-97°-東	楕円形	0.64	0.49	0.22	9~10世紀
33号土坑	5	38-D-8	北-20°-西	円形か	0.66+ α	0.58	0.25	9~10世紀
34号土坑	5	38-D-8	北-0°	円形	0.70	0.68	0.24	9~10世紀
35号土坑	5	38-D-8	北-10°-西	円形	0.30	0.21	0.20	9~10世紀
36号土坑	5	38-D-8	北-51°-東	円形	0.80	0.70	0.16	9~10世紀
37号土坑	5	38-D-9	北-50°-東	楕円形	0.93	0.73	0.05	9~10世紀
38号土坑	5	38-D-8	北-9°-西	円形	0.74	0.60	0.05	9~10世紀
39号土坑	5	38-D-8	北-45°-東	楕円形	0.82	0.46	0.18	9~10世紀
40号土坑	5	38-D-8	0	円形	0.42	0.38	0.18	9~10世紀
41号土坑	5	38-D-8	0	円形	0.8	0.78	0.16	9~10世紀
42号土坑	5	38-D-8	北-72°-西	円形	0.27	0.23	0.09	9~10世紀
43号土坑	5	38-D-8	北-41°-西	円形	0.49	0.43	0.11	9~10世紀
44号土坑	5	38-C-7	北-41°-西	楕円形	0.90	0.61	0.20	9~10世紀
45号土坑	5	38-C-8	北-31°-西	円形	0.58	0.48	0.22	9~10世紀
46号土坑	5	38-D-7	北-35°-西	円形	0.48	0.44	0.50	9~10世紀
47号土坑	5	38-D-7	北-45°-西	円形	0.74	0.61	0.19	9~10世紀
48号土坑	5	38-D-7	北-50°-東	不整方形	0.61	0.61	0.49	9~10世紀
49号土坑	5	38-C-6	北-46°-東	円形	0.69	0.58	0.33	9~10世紀
50号土坑	5	38-E-6	北-30°-東	楕円形	0.65	0.46	0.35	9~10世紀
51号土坑	5	38-D-6	北-43°-西	円形	0.24	0.22	0.31	9~10世紀
52号土坑	5	38-D-6	北-44°-西	楕円形	0.43	0.24	0.27	9~10世紀
53号土坑	5	38-D-5	北-20°-東	円形	0.37	0.22	0.32	9~10世紀
54号土坑	5	38-D-5	北-31°-東	円形	0.28	0.24	0.07	9~10世紀
55号土坑	5	38-D-5	北-83°-西	円形	0.47	0.29	0.36	9~10世紀
56号土坑	5	38-D-5	0	円形	0.34	0.32	0.46	9~10世紀
57号土坑	5	38-D-5	北-3°-東	円形	0.26	0.22	0.10	9~10世紀
58号土坑	5	38-D-4	北-55°-西	円形	0.26	0.22	0.07	9~10世紀

富田漆田遺跡北側調査区土坑一覧表(2)

土坑番号	位置		主軸方位	形状	規模			摘要
	地区	グリット			長	幅	深さ	
59号土坑	5	38-D-5	北-22°-東	円形	0.20	0.15	0.07	9~10世紀
60号土坑	5	38-D-5						攪乱
61号土坑	5	38-D-5	北-50°-東	円形	0.30	0.23	0.19	9~10世紀
62号土坑	5	38-B-5						攪乱
63号土坑	5	38-B-5						攪乱
64号土坑	5	38-B-6						攪乱
65号土坑	5	38-A-7	北-35°-西	楕円形	0.46	0.40	0.40	9~10世紀
66号土坑	5	38-A-7		円形	0.35	0.35	0.18	9~10世紀
67号土坑	5	37-S-2						攪乱
68号土坑	5	37-S-2	北-7°-東	楕円形	1.72	0.80	0.44	9~10世紀
69号土坑	5	37-S-2	北-16°-西	円形	0.48	0.38	0.43	9~10世紀
70号土坑	5	37-S-2		円形	0.29	0.27	0.21	9~10世紀
71号土坑	5	37-S-2		円形	0.26	0.25	0.17	9~10世紀
72号土坑	5	37-S-2	北-15°-西	円形	0.67	0.58	0.15	9~10世紀
73号土坑	5	37-S-2	北-4°-東	不整隅丸方形	1.18	0.76	0.21	9~10世紀
74号土坑	5	37-S-1		円形	1.01	0.98	0.25	9~10世紀
75号土坑	5	37-S-1		円形か	1.08+ α	0.67+ α	0.37	9~10世紀
76号土坑	5	27-R-14	北-40°-東	円形か	1.19	0.76	0.09	9~10世紀
77号土坑	5	27-R-13	0	円形	0.41	0.39	0.26	9~10世紀
78号土坑	5	27-R-12	北-1°-東	方形	0.39	0.30	0.64	中世後半
79号土坑	5	27-R-12	0	方形	0.33	0.29	0.41	中世後半
80号土坑	5	27-R-12	0	方形	0.22	0.21	0.24	中世後半
81号土坑	5	27-S-13	0	円形	0.86	0.76	0.10	9~10世紀
82号土坑	5	27-S-13	0	方形	0.23	0.23	0.22	中世後半
83号土坑	5	27-R-12	北-18°-東	円形	0.70	0.58	0.14	9~10世紀
84号土坑	5	27-S-12	北-56°-東	楕円形	1.91	1.57	0.80	9~10世紀
85号土坑	5	27-S-12	0	方形	0.30	0.28	0.39	9~10世紀
86号土坑	5	27-S-12	北-4°-西	方形	0.36	0.30	0.30	中世後半
87号土坑	5	27-S-12	北-2°-東	不整方形	0.35	0.33	0.28	中世後半
88号土坑	5	27-S-12	北-1°-東	不整方形	0.56	0.48	0.36	中世後半
89号土坑	5	27-S-12	北-43°-西	円形	0.30	0.30	0.20	9~10世紀
90号土坑	5	27-S-12	0	方形	0.23	0.20	0.24	9~10世紀
91号土坑	5	27-S-12	0	隅丸方形	0.38	0.37	0.55	9~10世紀
92号土坑	5	27-S-12	北-45°-西	隅丸方形	0.35	0.29	0.41	9~10世紀
93号土坑	5	27-S-12	北-10°-東	隅丸方形	0.34	0.33	0.36	9~10世紀
94号土坑	5	27-S-12	北-45°-西	隅丸方形	0.40	0.39	0.42	9~10世紀
95号土坑	5	27-S-12	北-46°-西	方形	0.30	0.29	0.21	9~10世紀
96号土坑	5	27-S-12						攪乱
97号土坑	5	27-S-12	北-53°-西	円形	0.28	0.27	0.09	9~10世紀
98号土坑	5	27-S-12	北-72°-西	円形	0.36	0.26	0.08	中世後半
99号土坑	5	27-S-12	北-37°-東	隅丸方形	0.40	0.33	0.30	9~10世紀
100号土坑	5	27-T-12						攪乱
101号土坑	5	37-T-7	北-0°	円形か	0.98+ α	0.52+ α	0.28	9~10世紀
102号土坑	5	37-T-7	北-0°	円形か	0.77+ α	0.49+ α	0.17	9~10世紀
103号土坑	5	37-T-7	北-169°-南	楕円形	0.98	0.62	0.29	縄文時代中期
104号土坑	5	37-T-7	不詳	楕円形	1.30+ α	1.22	0.41	縄文時代中期
105号土坑	5	37-T-7	北-108°-南	不整楕円形	2.60	1.56	1.29	縄文時代中期
106号土坑	5	37-R-5						攪乱
107号土坑	5	37-R-5						攪乱
108号土坑	5	37-S-4	北-28°-東	円形か	0.8+ α	1.01	0.36	9~10世紀
109号土坑	5	37-S-4						攪乱
110号土坑	5	28-B-19	北-4°-東	隅丸長方形	0.55	0.41	0.26	9~10世紀
111号土坑	5	28-B-19	北-58°-東	隅丸長方形	0.97	0.50	0.50	9~10世紀
112号土坑	5	28-B-19	北-0°	円形	0.38	0.37	0.37	9~10世紀
113号土坑	5	28-B-19	北-0°	不整円形	0.37	0.32	0.13	9~10世紀
114号土坑	5	28-A-19	北-19°-東	不整円形	0.90	0.71	0.29	9~10世紀
115号土坑	5	27-T-20	北-100°-東	楕円形	0.81	0.58	0.28	9~10世紀
116号土坑	5	27-T-20	北-0°	円形	0.63	0.57	0.20	9~10世紀
117号土坑	5	27-S-20	北-0°	円形	0.41	0.36	0.34	9~10世紀

富田漆田遺跡北側調査区土坑一覧表(3)

土坑番号	位置		主軸方位	形状	規模			摘要
	地区	グリッド			長	幅	深さ	
118号土坑	5	28-A-19	0	円形	0.48	0.41	0.04	9～10世紀
119号土坑	5	27-T-19	0	不整円形	0.40	0.38	0.75	9～10世紀、掘立ピットか。
120号土坑	5	27-T-19	0	不整円形	0.38	0.38	0.25	9～10世紀
121号土坑	5	27-T-19	0	円形	1.00	0.95	0.16	9～10世紀
122号土坑	5							攪乱
123号土坑	5	27-S-15	0	不整円形	1.01	0.95	0.55	9～10世紀
124号土坑	5	27-R-14	0	円形か	0.39	0.39		9～10世紀
125号土坑	5	27-R-13	0	円形	0.54	0.54	0.61	9～10世紀
126号土坑	5	27-Q-13	0	円形	0.39	0.35	0.49	9～10世紀
127号土坑	5	27-S-9	0	円形	0.50	0.48	0.17	縄文時代(前期か)
128号土坑	5	27-T-9	北-49°-東	円形	0.57	0.48	0.26	9～10世紀
129号土坑	5	27-T-8	北-51°-東	円形	0.80	0.78	0.36	縄文時代(前期か)
130号土坑	5	27-T-9	北-77°-西	円形	0.43	0.37	0.08	縄文時代(前期か)
131号土坑	5	27-T-7	北-20°-西	楕円形	0.46	0.28	0.37	縄文時代(前期か)
132号土坑	5	28-A-8	北-6°-東	楕円形	0.75	0.52	0.78	縄文時代(前期か)
133号土坑	5	28-A-10	0	円形	0.35	0.35	0.28	9～10世紀
134号土坑	5	27-T-11	0	円形	0.28	0.24	0.31	9～10世紀
135号土坑	5	27-T-11	0	円形	0.29	0.28	0.18	9～10世紀
136号土坑	5	27-Q-14		円形か	1.90	1.45+ α	0.29	9～10世紀
137号土坑	5	28-A-12	北-71°-西	不整楕円形	0.52	0.39	0.33	9～10世紀
138号土坑	5	27-T-13	北-33°-西	長方形	1.96	0.58	0.24	現代
139号土坑	5	27-R-13	0	円形	0.44	0.44	0.12	9～10世紀
140号土坑	5	28-B-16	0	円形	0.55	0.54	0.68	9～10世紀、掘立ピットか。
141号土坑	5	28-B-17	0	不整方形	0.79	0.77	0.83	9～10世紀、掘立ピットか。
142号土坑	5	28-B-17	北-72°-西	楕円形	0.64	0.48	0.35	9～10世紀
143号土坑	5	27-S-20	北-7°-西	不整楕円形	0.64	0.50	0.19	9～10世紀
144号土坑	5	27-S-19	北-26°-東	不整方形	0.55	0.52	0.42	9～10世紀
145号土坑	5	37-S-1	0	円形	0.38	0.36	0.30	9～10世紀
146号土坑	5	27-R-20	0	円形	0.41	0.40	0.27	9～10世紀
147号土坑	5	27-R-19	北-26°-東	不整方形	0.43	0.41	0.18	9～10世紀
148号土坑	5	27-O-14	0	円形	0.33	0.33	0.29	9～10世紀
149号土坑	5	27-O-14	0	円形	0.33	0.32	0.19	9～10世紀
150号土坑								欠番
151号土坑	5	27-S-9	0	円形	0.28	0.28	0.20	縄文時代(前期か)
152号土坑	5	27-S-9	0	円形か	0.26+ α	0.26	0.25	縄文時代(前期か)
153号土坑	5	27-S-9	0	円形	0.40	0.38	0.20	縄文時代(前期か)
154号土坑	5	27-S-9	0	円形	0.38	0.34	0.15	縄文時代(前期か)
155号土坑	5	27-S-8	北-36°-東	円形	0.47	0.43	0.16	縄文時代(前期か)
156号土坑	5	27-S-8	北-35°-西	不整円形か	0.44	0.37+ α	0.09	縄文時代(前期か)
157号土坑	5	28-A-8						攪乱
158号土坑	5	27-T-11	北-44°-西	円形	0.4	0.35	0.43	9～10世紀
159号土坑	5	38-E-11	北-12°-東	円形	0.25	0.23	0.38	9～10世紀
160号土坑	5	38-D-11	北-60°-西	円形	0.31	0.25	0.30	9～10世紀
161号土坑	5	38-D-11	北-18°-東	楕円形	0.24	0.17	0.12	9～10世紀
162号土坑	5	38-E-11	0	円形	0.13	0.12	0.12	9～10世紀
163号土坑	5	38-D-11	北-29°-東	円形	0.48	0.42	0.13	9～10世紀
164号土坑	5	38-D-10	北-38°-西	円形	0.90	0.82	0.34	9～10世紀
165号土坑	5	38-D-10	北-65°-西	楕円形	0.55	0.37	0.26	9～10世紀
166号土坑	5	38-E-10						倒木跡
167号土坑	5	38-K-2	北-43°-東	不整円形	0.35	0.28	0.15	9～10世紀
168号土坑	5	38-K-2	北-21°-東	円形	0.29	0.28	0.22	9～10世紀
169号土坑	5	27-P-7	北-33°-西	円形	0.93	0.85	0.15	9～10世紀
170号土坑	5	27-S-5	北-45°-西	不整形	1.10	0.93	0.20	9～10世紀
171号土坑	5	27-P-9	北-19°-東	円形	0.74	0.72	0.18	9～10世紀
172号土坑	5	27-S-5	北-54°-東	不整形か	0.70	0.46	0.18	9～10世紀
173号土坑	5	27-T-5	0	不整形か	1.36	0.54+ α	0.29	9～10世紀
174号土坑	5	27-P-7	北-30°-西	円形か	0.84	0.55	0.23	9～10世紀

富田漆田遺跡北側調査区出土遺物観察表

溝状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00542	縄文土器 深鉢	5溝覆土内 破片	厚1.1	並・酸・並・透明鉱物粒子・黒色鉱 物粒子	R1原体を縦転施文する。	
10-00543	須恵器 7溝覆土内 破片	7溝覆土内 破片	厚0.6	並・還・締・灰・黒色粒子・シルト 質・器外面自然釉付着。	紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛て具は素 文。自然釉は厚目。	秋間産
10-00544	焼締陶器 大甕	7溝覆土内 破片	厚1.1	密・酸・締・白色鉱物粒子	内外面撫で整形。	
20-00143	打製石器 削器	8溝覆土内 破片		珪質頁岩	片側縁に加工を施す。	
10-00545	土師器 10溝覆土内 破片	10溝覆土内 破片	厚1.0	並・酸・並・黄橙・黒色鉱物粒子 (角 粒状)・白色粒子	紐作り。口縁部中位は肥厚する。器外面は横撫で整形。	粘土化ローム
10-00546	土師器 10溝覆土内 破片	10溝覆土内 破片	厚0.6	並・酸・並・器面黒褐・断鈍橙黒色 鉱物粒子 (角粒状)・β石英	頸部上位の破片。形状から「コ」の字状口縁を呈すると思 われる。	粘土化ローム
10-00547	須恵器 10溝覆土内 破片	10溝覆土内 破片	厚0.3	並・還・軟・灰・夾雑物少量	轆轤成整形右回転。器厚は非常に薄い。	東毛産
10-00548	施釉陶器 灰釉 瓶	10溝覆土内 破片	厚0.3	密・還・締・灰 釉調=オリープ灰	少瓶の肩部破片。施釉は薄い。轆轤成整形左回転。	猿投産
10-00549	土師器 11溝覆土内 破片	11溝覆土内 破片	底(6.0)	並・酸・軟・浅黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英・黒色粒子	紐作り。器外面・底面は寛削り。器内面は撫で整形。	粘土化ローム
10-00550	土師器 11溝覆土内 破片	11溝覆土内 破片	底(7.0)	並・酸・軟・浅黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英・石英	紐作り。器外面は寛撫で、底部は上げ底気味で、粗い板目 の圧痕が認められる。器内面は風化が顕著。	粘土化ローム
10-00551	施釉陶器 灰釉 瓶	11溝覆土内 破片	厚0.7	密・還・締・白灰 釉調=薄いオリープ灰	紐作り後轆轤右回転成整形。	
10-00552 57	土師器 高坏	12溝覆土内 脚端部欠損	基部3.6	並・酸・並・鈍橙・赤褐色粒子・黒 色鉱物粒 (角粒状)・黒色粒子	紐作り。器外面は横位の寛撫で後縦位の寛撫で整形。器内 面は押り痕。坏の接合縮痕が残る。	粘土化ローム
10-00553	縄文土器 深鉢	12溝覆土 破片	厚0.8	並・酸・並・暗褐・白色粒子	尖底時の口縁部。口唇部は肥厚する。縦位に単軸絡条体 を縦転する。	
40-00054 57	鉄滓 碗状滓	12溝覆土 破片	残長6.3 幅4.0 厚2.1	重103	碗状滓の断片。磁力。	
10-00554	須恵器 12溝覆土内 破片	12溝覆土内 破片	厚1.1	並・還・締・黒灰・β石英	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は青海波文。器 内面に薄く自然釉付着。	東毛産
10-00555	土師器 13溝覆土内 破片	13溝覆土内 破片	口(13.2)	並・酸・並・橙・夾雑物微量・シル ト質	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は寛撫でによ る外稜を表出。体部に型膚を残し、底部は寛削り。	東毛産
10-00556	土師器 小形壺か	13溝覆土内 破片	口(12.0)	並・酸・並・橙・黒色鉱物粒子 (角 粒状)・β石英	紐作り。頸部器外面小刻みに寛削り整形。口縁部器外面横 撫で後縦位に寛撫でを施す。器内面刷毛・寛撫で。	粘土化ローム
10-00557	土師器 高坏	13溝覆土内 破片	基部(4.0)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子 (角 粒状)・透明鉱物粒子	体部器外面は刷毛撫で、口縁部は縦位の寛撫で。器内面は 2本一単位の放射状暗文。	粘土化ローム
10-00558	土師器 13溝覆土内 破片	13溝覆土内 破片	口(25.2)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子 (角 粒状)・白色鉱物粒子	紐作り。器外面寛撫で後横撫でを施し外稜を表出。器内面 口唇部直下に横撫でに伴う浅い窪みが廻る。	粘土化ローム
10-00559	須恵器 13溝覆土内 破片	13溝覆土内 破片	厚0.5	密・酸・軟・白灰・夾雑物微量	轆轤成整形右回転。口唇部は煮寺格外反する。	東毛産 雷電山か
10-00560	土師器 14溝覆土内 破片	14溝覆土内 破片	厚0.6	並・還・硬・鈍橙・夾雑物微粒・黒 色鉱物粒子 (角粒状)	粘土紐の単位は認められないが、粘土の引き上げ痕が認め られる。	粘土化ローム
10-00561	須恵器 14溝覆土内 破片	14溝覆土内 破片	天井部(3.0)	密・還・締・白灰・夾雑物微量	轆轤成整形左回転。摘部は当初より作られてない。天井部 は回転寛削り。	東毛産 雷電山か
10-00562	須恵器 14溝覆土内 破片	14溝覆土内 破片	厚0.6~0.7	密・還・締・黒灰・夾雑物無し	瓶の肩部。轆轤成整形右回転。肩部に刷毛による轆轤回転 による条痕施文が認められる。	東海産 尾張産か
10-00563	須恵器 14溝覆土内 破片	14溝覆土内 破片	底(15.2)	密・還・締・暗灰・白色鉱物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。底面に荒縄状の圧痕が認めら れる。	吉井産か
10-00564	須恵器 14溝覆土内 破片	14溝覆土内 破片	厚1.2	密・還・締・黒灰・夾雑物微量	低部底面片。底面に自然釉付着。軸調は非悪の鮮やかなオ リーブ灰を呈している。	東毛産 雷電山か
10-00565	須恵器 14溝覆土内 破片	14溝覆土内 破片	厚0.9	密・還・締・暗灰・白色鉱物粒子微 量	紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛て具は素 文。器外面自然釉付着。	太田産
10-00566	施釉陶器 灰釉 折皿	14溝覆土内 破片	口(13.0)	並・還・締・白灰 釉調=オリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は内面にやや厚目。	

第1号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00567	土師器 10溝覆土内 破片	10溝覆土内 破片	口(12.0)	並・酸・並・橙・微粒状長石・可塑 性は強い	型作り。口縁部は横撫でを施す。体部に型膚を残す。器厚 は薄い。	吉井・藤岡産 か
10-00568	土師器 10溝覆土内 破片	10溝覆土内 破片	厚0.5	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・白色粒子	「コ」の字状口縁と思われる。器内面横撫で整形を施す。器 外面に「墨書」が認められるが、文字の判読は不能。	東毛産 墨書-45
10-00569	須恵器 10溝覆土内 破片	10溝覆土内 破片	口(15.0)	並・還・軟・白灰・夾雑物少量	轆轤成整形右回転。器面は風化している。	東毛産
10-00570	須恵器 10溝覆土内 破片	10溝覆土内 破片	底(7.2)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・微粒状・β石英・P	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。	東毛産
10-00571	施釉陶器 灰釉 碗	10溝覆土内 破片	底(7.0)	並・還・締・白灰 釉調=オリープ灰	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。施釉は不詳。	

第54号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00572	須恵器 坏	覆土内 3/4	口(13.0)	粗・中・軟・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・白色粒子	轆轤成整形右回転。器厚はやや厚目で口唇部はやや肥厚 する。当遺跡での生産製品と推定される。	漆田窯産
10-00573	須恵器 坏	覆土内 破片	底(5.6)	粗・中・軟・黄灰・チャート・黒色 鈹物粒子(角粒状)	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。当遺跡か近隣での生 産製品と推定される。	漆田窯産
10-00574	須恵器 塊	覆土内 破片	底(6.8)	粗・中・軟・黄灰・黒色鈹物粒子(角 粒状)・白色粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。当遺跡での生産製品 と推定される。	漆田窯産
10-00575	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口(24.0) 鈹(2.60)	粗・酸・軟・鈍橙・礫片・β石英	紐作り後轆轤右回転成整形。当遺跡か近隣での生産製品と 推定される。	
10-00576 57	須恵器 横瓶	電燃焼部 破片	厚1.2~2.0	粗・中・軟・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・白色粒子石英・β石英	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は器面の風化に より不詳。	東毛産
10-00577	施釉陶器 灰釉 碗	床面直上 破片	底(7.6)	並・還・締・白灰 釉調=オリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は浸掛け。	
10-00578 57	施釉陶器 灰釉 碗	床面直上 破片	口(14.0) 底7.2 高4.4	並・還・締・白灰 釉調=オリブ灰	轆轤成整形右回転。施釉は浸掛け。施釉は厚目。	
40-00055 57	鉄滓	覆土内 破片	残長2.8 幅3.6 厚2.0 重25			図中裏面上半部が比較的磁力(磁力3)を呼ぶ。

第2号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01327	土師器 甕	電内 3/4	口19.6 頸18.2 肩22.2	密・酸・硬・明黄褐・夾雑物少量・ C生地土	作りの詳細は不詳。器厚は薄い。頸部は内傾気味立ち上 がり、立ち上がりきつい。甕削りはシャープ。作りは上手。	東毛産
10-00579 57	土師器 甕	電内 1/2	口20.0 頸17.1 肩 21.0 底4.0 高26.5	並・中・並・橙・黒色鈹物粒子(角 粒状)・白色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部は強い横位の撫で整形2段。「コ」 の字は寛撫で成型。全体に寛撫で整形が顕著。	東毛産
10-00580	土師器 甕	電内 破片	口(20.0) 頸(17.4) 肩(23.0)	並・酸・並・橙・細粒砂(細粒状 石英)・黒色鈹物粒子(角粒状)	作りの詳細は不詳。肩部周辺は斜位に削り上げ、頸部直下 で横位に転進する。	東毛産
10-00581	土師器 甕	電内(煙道) 3/4	口(20.0) 頸(18.0) 肩(21.6)	並・酸・並・橙・β石英・黒色鈹物粒 子(角粒状)・半透明細粒状礫・	作りの詳細は不詳。肩部周辺は斜位に削り上げ、頸部直下 で横位に転進する。作りは非常に丹精。	東毛産
10-00582 57	土師器 甕	電内 破片	口(21.2) 頸(19.7) 肩(23.2)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈹物粒子 (角粒状)・細粒砂	口縁部直下に型目を残す。肩部周辺は斜位に削り上げ、頸 部直下で横位に転進する。縦横の寛撫が多い。	東毛産
10-00583 57	土師器 甕	電内 1/4	底(4.3)	並・酸・並・鈍橙・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英	型作り。縦位の甕削りを4単位に施す。	東毛産
10-00584	須恵器 坏	覆土内 1/3	口(12.7) 底(5.8) 高4.0	並・還・硬・灰・白色鈹物粒子・黒 色粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器厚は薄い作り。	東毛産
10-00585 57	須恵器 坏	電上層 1/2	口12.9 底(6.2) 高3.2	並・還・並・灰白・黒色鈹物粒子(角 粒状)・黒色粒子・β石英	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器高が低く口縁部は 開く。器内外面焼成時の焼りが認められる。	東毛産
10-00586 57	須恵器 坏	覆土内 1/2	口(16.1) 底6.3 高5.4	並・還・並・灰白・黒色鈹物粒子(角 粒状)・長石粒	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。体部二段に引き上げ られ長い。	漆田窯産
40-00056 57	鉄器 鎌	覆土内 破片	残長5.6 幅4.3 厚0.25 重36		鎌の着装部分の残存。反りが強い。刃部に研減が認められ る。	
20-00144	石製品 砥石	覆土内 部分欠損	残長9.6 幅2.7 厚2.1 重67	砥沢石	手持砥。両端に向かい使い減りが顕著。	
10-00587	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.3	並・酸・並・黄橙・黒色鈹物粒子	低部内面に墨痕が認められる。墨書の可能性も有る。	東毛産 墨書-46
10-00588 57	須恵器 塊	覆土内 1/3	坏底(7.4)	並・還・並・灰・白色鈹物粒子・β石 英	轆轤成整形右回転。轆轤目が多い。高台は欠損(付け高台)。	東毛産

第53号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00589 57	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 1/2	口(17.2) 底8.2 高5.0	並・還・締・白灰 釉調=オリブ灰	轆轤成整形右回転。腰部は回転甕削り。高台は付け高台。 施釉は刷毛塗り。	東毛産
10-00590	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	底(7.3)	並・還・締・白灰 釉調=オリブ灰	轆轤成整形右回転。腰部は回転甕削り。高台は付け高台。 施釉は浸掛け。	東毛産

第3号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00591 57	土師器 坏	電焚口直上 3/4	口12.2 底6.0 高4.7	並・酸・並・橙・シルト質・夾雑物 微量	型作り。口縁部は寛撫で、体部は斜位の甕削り。口縁部に 型膚を残し、器外面に粘土板の接合痕を残す。	東毛産
10-00592	土師器 坏	電左壁 破片	口(13.0) 底(8.6)	並・酸・並・橙・白色粒子・黒色鈹 物粒子(角粒状)	型作り。口縁部上半が屈曲するように外反する。口縁部下半 は指撫で、体部は横位の寛撫で。口唇部有機質が付着する。	東毛産
10-00593	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.3	並・酸・並・橙・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英	底面に型目を残す。内面は撫で整形。	東毛産
10-00594	土師器 甕	覆土内 破片	口(18.6) 頸(15.0)	並・酸・並・黄橙・黒色鈹物粒子(角 粒状)・白色粒子	最大径を口縁部に採る。頸部直下は横位の甕削りを施す。 口縁部は上下二段の撫で整形。	東毛産
10-00595	土師器 甕	覆土内 破片	口(24.4) 頸(22.0) 肩(24.0)	並・酸・並・暗褐・黒色鈹物粒子(角 粒状)・白色粒子	肩の張る器形に短く口縁部は立ち上がる。頸部直下は横位 の甕削り後斜位等の寛撫で。器内面は横位の撫で整形。	東毛産
10-00596	土師器 甕	覆土内 破片	口(18.0) 頸(16.2) 肩(20.7)	並・酸・硬・鈍橙・黒色鈹物粒子(角 粒状)・白色粒子	器外面下位からの掻き上げ状の甕削りが口縁部直下で横位 に転進する。器内面は横位の撫で整形。	東毛産
10-00597	土師器 甕	覆土内 破片	底(4.0)	並・酸・並・橙・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英・白色粒子	型作り。器外面は斜上方向からの撫で整形。内面は横位の撫 で後、斜上方向方向への寛撫で整形を施す。	東毛産
10-00598	土師器 台付甕	覆土内 破片	基部(4.8)	並・酸・並・鈍橙・白色粒子・黒色 鈹物粒子(角粒状)・β石英	胴部は下位から上方向に甕削り・寛撫を施す。基部周辺 は短い寛撫で後脚の接合部に横撫でを施す。	東毛産
10-00599 57	須恵器 坏	床直層 底 部底面欠損	口13.0 底3.0 高4.1	並・中・軟・白灰・黒色鈹物粒子(角 粒状)・白色粒子	轆轤成整形右回転。底部底面は摩滅・欠損するため轆轤か らの切り離し技法は未確認。	東毛産
10-00600 57	須恵器 塊	床面直上 3/4	口(14.6) 底7.0 高6.0	並・酸・並・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・軽石	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布拭きを施 す。	東毛産
10-00601	須恵器 坏	掘方埋土内 破片	口(12.2)	並・還・軟・灰白・黒色鈹物粒子(角 粒状)・白色粒子	轆轤成整形右回転。轆轤の条痕数は多い。	東毛産

第3号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00602	須恵器 塊	掘方埋土内 破片	口(12.2)	並・酸・並・器外面/黒褐・器内面/ 灰・黒色鈹物粒子(角粒状)・軽石	轆轤成整形右回転。復元器形は口縁部が開き気味、元々の 歪みに原因すると思われる。	東毛産
10-00603	須恵器 内黒塊	床直層 1/2	底(7.3)	並・酸・硬・鈍黄橙・黒色鈹物粒子 (角粒状)・白色粒子・夾雑物少量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は摩滅により、 研磨の単位は認められない。	東毛産
10-00604	須恵器 広口瓶	覆土下層 破片	底(16.6)	並・還・硬・器内面/灰・器外面/暗 灰・白色鈹物粒子	紐作り。器内外面は無で整形。轆轤整形痕が見られない。	吉井・栗附産
10-00605	須恵大甕 用紡錘車	床面直上 完形	径6.1 孔径0.8~0.9	並・還・硬・灰・白色鈹物粒子(隠 微晶質)	胴部破片を転用している。縁辺は磨き整形を施し円形に設 けている。	栗附産か
20-00145	礫器	覆土内 破片	残長4.5 幅8.4 厚1.6 重37	粗粒輝石安山岩	礫片に鉄分が厚く付着する。人為か自然に摺る作用かは不 分明。	
20-00146	石製品 砥石	掘方埋土内 破片	残長10.2 幅5.4 厚5.7 重716	砥沢石	面は整っていないが、使用に伴う面の摩滅が認められる。 大形の砥石。	
20-00147	礫器	甕右袖 完形	長28.1 幅17.8 厚8.8 重6,600	粗粒輝石安山岩	上端小口を一部欠損。表裏面が摩滅している。	
20-00148	礫器	甕右袖 完形	長27.7 幅18.6 厚7.2 重5,198	石英閃緑岩	出土時は2点に割れていた。割れ口は一撃の状態。片面に 槌打痕が認められる。	

第4号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00606	土師器 壺	P ₁ 内 破片	口(18.2)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈹物粒子 (角粒状)・白色微粒子	紐作り後轆轤右回転整形か。回転条痕は単位が長く均質。 最大径は胴部。口縁部は内傾短くやや外反する。	東毛産
10-00607	須恵器 環	床直・甕 口縁部欠	口11.4 底6.0 高3.8	並・中・並・黄灰・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は布挽き再整 形。器内外面焼成時の煙りが認められる。	漆田窯産
10-00608	須恵器 環	床面直上 部分欠損	口11.2 底6.3 高3.4	並・中・並・黄灰・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は布挽き再整 形。焼成時の煙りが認められる。器外面墨書「内」。	漆田窯産墨書 -47
10-00609	須恵器 環	床面直上 1/4	口(11.6) 底(5.6) 高4.1	並・中・軟・黄灰・黒色鈹物粒子(角 粒状)	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は布挽き再整 形。器内外面焼成時の煙りが顕著。	漆田窯産
10-00610	須恵器 環	床面直上 底部面欠	口12.1 底6.4 高3.8	並・酸・並・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・β石英・赤褐色粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は布挽き再整 形。器厚は厚目でスングリした作り。	漆田窯産
10-00611	須恵器 環	覆土内 1/3	口(12.2) 底(7.6) 高3.4	並・中・並・黄灰・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は布挽き再整 形。器内外面焼成時の煙りが顕著。	漆田窯産
10-00612	須恵器 環	床直+甕口 縁部欠	口12.4 底6.4 高3.8	並・酸・並・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・β石英・赤褐色粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は布挽き再整 形。	漆田窯産
10-00613	須恵器 環(黒色土器)	床面直上 完形	口12.6 底6.7 高3.7	並・酸・並・黒褐・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英・白色粒子	轆轤成整形右回転底部は回転糸切。口縁部は短く外反。器 内面は布挽き再整形。全体が黒色に焼かれている。	漆田窯産
10-00614	須恵器 環	床面直上 2/5	口(12.9) 底(6.8) 高3.9	並・酸・並・器外面/暗褐・器内面/ 橙・黒色鈹物粒子(角粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は布挽き再整 形。器内外面焼成時の煙りが顕著。	漆田窯産
10-00615	須恵器 環	覆土上層 破片	口(13.0) 底(6.0) 高3.3	並・還・並・黒褐/灰・黒色鈹物粒子 (角粒状)・β石英	轆轤成整形右回転底部は回転糸切。器内面は布挽き再整形。 器内外面焼成時の煙りが顕著。器外面墨書「内」。	漆田窯産墨書 -48
10-00616	須恵器 塊	床直層 部分欠損	口12.3 底6.9 高4.6	並・中・並・黄白・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内外面煙りが顕著 に認められる。	漆田窯産
10-00617	須恵器 塊	甕左袖 完形	口13.2 底6.2 高5.3	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈹物粒子 (角粒状)・β石英・石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。直線的に立ち上がる。 坏部はやや深め。漆田窯産ではない。	東毛産
10-00618	須恵器 塊	床面直上 完形	口13.1 底7.1 高4.8	並・中・並・灰黄・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器面は煙りが顕著。 端部は直線的に立ち上がり口縁部は短く外反する。	漆田窯産
10-00619	須恵器 塊	床直層 完形	口13.1 底7.0 高4.8	並・還・並・白灰・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内外面煙りが認め られる。	漆田窯産
10-00620	須恵器 塊	甕口直上 1/2	口(13.2) 底7.0 高4.9	並・中・並・黄灰・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。体部中位がやや張り、 口縁部は短く外反する。全体に煙りが顕著。	漆田窯産か
10-00621	須恵器 塊	床面直上 部分欠損	口13.5 底7.4 高4.9	並・酸・並・黄白~明黄褐・黒色鈹 物粒子(角粒状)・β石英・石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。端部は直線的に立ち 上がり、口縁部は短く外反する。	漆田窯産
10-00622	須恵器 塊	焚口+床直 完形	口13.7 底7.7 高4.8	並・還・並・橙~灰~黒褐・黒色鈹 物粒子(角粒状)・白色微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器厚は厚いが、器内 面は布挽きが認められない。	東毛産
10-00623	須恵器 塊	床直層 2/3	口13.9 底6.9 高5.5	並・酸・並・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・白色微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。端部は直線的に立ち 上がり、口縁部は短く外反する。	漆田窯産
10-00624	須恵器 塊	床面直上 完形	口14.1 底6.8 高5.2	並・還・硬・灰・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英・石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器形の歪みが顕著。	東毛産
10-00625	須恵器 塊	煙道部 1/3	口(15.4) 底(8.1) 高5.3	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈹物粒子 (角粒状)・β石英・白色微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器面は煙り認められ る。端部は直線的に立ち上がり、口縁部は短く外反する。	漆田窯産か
10-00626	須恵器 塊	床直層 2/3	口(16.2) 底7.8 高6.1	並・酸・並・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・白色粒子・赤褐色粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。体部は長く直線的に 立ち上がり、口縁部は短く外反する。	東毛産
10-00627	須恵器 塊	甕右袖 破片	底7.6	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈹物粒子 (角粒状)・白色微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。甕内で二次焼成か、 色変が顕著。器外面に墨痕。	漆田窯産墨書 -49
10-00628	須恵器 環乃至	床面直上 破片	口(14.8)	並・酸・並・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・β石英・微粒状長石	轆轤成整形右回転。口縁部は短く外反する。器内面は布挽 き。	漆田窯産
10-00629	須恵器 羽釜	甕左袖 1/2	口(17.6) 胴部(21.4) 胴部(21.3)	並・酸・並・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・少・夾雑物少量	紐作り後轆轤右回転成整形。胴部下半は縦位、上半は斜位 ~横位の転進の寛削りを施す。	東毛産
10-00630	須恵器 羽釜	甕右袖 1/4	口(17.4) 胴部(20.8) 胴部(21.5)	並・酸・並・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・少・夾雑物少量	紐作り後轆轤左回転成整形。上半は紐作り単位の凹凸が残 る。縦位の寛削り、下半は縦位の寛削りを施す。	東毛産
10-00631	須恵器 羽釜	煙道部 破片	底(4.6)	並・酸・並・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・少・夾雑物少量	器外面斜位の寛削り。器内面は横位の寛削り。底面は回転 糸切。胎土は10-00629と同質10-00629と同一個体か。	東毛産
10-00632	須恵器 羽釜	焚口 破片	底(6.4)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈹物粒子 (角粒状)・少・夾雑物少量	器外面斜位・縦位の寛削り。器内面は横位の寛削り。底面 は寛削りを施す。	東毛産
10-00633	須恵器 羽釜	床面直上 破片	底(6.0)	並・酸・並・黄橙・黒色鈹物粒子(角 粒状)・白色微粒子	器外面斜位の寛削り。器内面は横位の寛削り。底面は回転 糸切。	東毛産
10-00634	須恵器 羽釜	右袖 破片	底(6.4)	並・酸・並・浅黄橙・黒色鈹物粒子 (角粒状)・白色粒子・赤褐色粒子	器外面斜位の寛削り。器内面は横位の寛削り。底面は回転 糸切。	東毛産
10-00635	須恵器 長頸瓶	床直層 破片	口(12.0)	並・中・並・灰黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・透明鈹物粒子多量	紐作り後轆轤左回転成整形。器内面に有機質が付着する。	東毛産か

第4号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00636 58	須恵器 長頸瓶	床直層 破片	底10.4	並・還・硬・暗灰・透明鉱物粒子・ 白色鉱物粒子	紐作り後轆轤左回転成整形。器内面に有機質が付着する。	東毛産か
10-00637 10-00638	土製品 羽口	掘方内 破片	径≒6.0	並・酸・並・明赤褐・白色微粒子・ 黒色鉱物粒子(角粒状)若干	竹を編み物状にした物で巻き込んでいる。脆い。	東毛産
20-00149	礫器	燃焼部 完形	長29.7 幅34.2 厚12.4 重12,300	粗粒輝石安山岩	片面に大きな凹が10箇所に認められる。裏面は平坦。燃焼部を仕切る状態で出土している。	

第5号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00639	土師器 甕	床直層 破片	口(18.2) 頸(16.6)	並・酸・硬・赤褐・黒色鉱物粒子(角 粒状)・黒色鉱物粒子・β石英	「コ」の字状口縁。頸部は垂直に立ち上がる。上半は短く外傾して立ち上がる。	東毛産
10-00640	土師器 甕	覆土内 破片	口(21.0) 頸(19.4)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英	擬似「コ」の字状口縁。肩部から斜位に立ち上がり、口縁部に寛撫で沈線状に施す。上位は短く外傾する。	東毛産

第6号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00641 58	土師器 坏	覆土内 3/4	口11.6 底8.7 高3.4	並・酸・並・鈍黄橙・β石英・黒色鉱 物粒子	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残す。底面は寛削りを施す。	東毛産
10-00642 58	土師器 坏	床直 1/2	口(11.2) 底(7.0) 高3.5	並・酸・並・橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・白色粒子・夾雑物少量	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残す。器外面に墨書「上」及び墨痕の可能性ある。	東毛産 墨書-50
10-00643	土師器 坏	床直層 破片	口(12.0) 底(9.4)	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・透明鉱物粒子	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残す。器外面に墨書乃至墨痕の可有。	東毛産 墨書-51
40-00057 58	鉄器 鎌	6号住No.7 破片	残長7.1 幅4.9 厚0.25 重55		錆化が顕著。研減り等は確認出来なかった。耳部は先端側がやや俯く、変換点が柄の装着部の厚味か。	東毛産

第7号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00644	土師器 坏	掘方埋土内 破片	口(12.0) 底(5.4) 高4.4	並・酸・並・明黄褐・黒色鉱物粒子 (角粒状) 多量・赤褐色粒子	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残す甘い撫でを施す。	東毛産 墨書-52
10-00645	土師器 甕	掘方埋土内 破片	口(17.2) 頸(15.8) 肩(15.6)	並・酸・並・黄橙・橙・黒雲母・黒 色鉱物粒子(角粒状)・β石英	「コ」の字状口縁。型作り。口縁部は横撫でを施す。肩部は横位の寛削りを施す。器内面は横撫で整形。	笠懸か太田産か
10-00646	須恵器 坏	掘方埋土内 破片	口(13.8)	並・酸・軟・鈍黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状) 微粒・β石英微粒	轆轤成整形右回転。器厚が非常に薄い。	東毛産
20-00150	礫器 擦石	覆土内 完形	長18.2 幅7.5 厚6.1 重1,361	粗粒輝石安山岩	平坦面の両面が摩擦する。裏面側は浅い給刃を磨いだかの様に内側がやや低く摩擦する。	

第8号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00647	土師器 台付甕	竈左壁 破片	口(12.0) 頸(11.2) 胴(12.8)	並・酸・並・橙・黒色鉱物粒子(角 粒状) 白色微粒子	型作りか。口縁部は肥厚し「く」の字状に外反。頸～肩部にかけては寛撫でを施す。胴部中位までは横位の寛削り。	東毛産
10-00648	土師器 台付甕	竈左壁 破片	台底(8.0) 基部3.8	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英・白色微粒子	紐作り後轆轤右回転成整形か。土器の中心を軸として高速回転で整形している。	東毛産
10-00649	土師器 甕	竈内+覆土 内 破片	口(22.0) 頸(20.0)	並・酸・並・明黄褐～橙・黒色鉱物 粒子(角粒状)・軽石・赤褐色粒子	型作り。口縁部は横撫でを施す。頸部より下位は横位の寛削りを施す。口縁部は土器中心を軸として高速回転成整形。	東毛産
10-00650 58	土師器 甕	電燃焼部 1/2	口20.8 頸(19.4) 胴(23.6)	並・酸・並・鈍黄橙～灰黄・金雲母・ 白色粒子・黒色鉱物粒子	型作り。口縁部は横撫で。頸部より下位は横位、胴部は縦位の寛削りを施す。口縁部は土器の中心を軸として高速回転成整形。	東毛産
10-00651 58	須恵器 坏	床直 完形	口12.4 底6.0 高4.1	並・還・並・暗褐・黒色鉱物粒子(角 粒状)・白色微粒子	轆轤成整形左回転。底部は回転糸切。轆轤目は粗い。	東毛産
10-00652 59	須恵器 甕	床直層 完形	口11.1 底6.7 高5.4	並・中・並・白灰・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・夾雑物少量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。体部は丸みを帯び立ち上がり、口唇部が短く外反する。	東毛産
10-00653 59	須恵器 甕	床直 完形	口12.0 底6.9 高4.9	並・酸・並・黒褐・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。器面の大半が吸炭している。	東毛産
10-00654 59	須恵器 甕	床直 完形	口12.0 底6.9 高4.8	並・酸・並・明黄褐・鈍橙・黒褐・ 鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白色微粒子	轆轤成整形左回転。高台は付け高台。立ち上がりは直線的で体部口縁部はやや丸味を帯びる。焼成時の煙りが顕著。	東毛産
10-00655	須恵器 羽釜	電燃焼部 1/4	口(20.0) 胴部(23.8) 胴部(23.0)	並・酸・硬・茶褐・黒色鉱物粒子(角 粒状)・石英	紐作り後器外面は斜位、器内面は横位の刷毛撫で整形。整形は正位の状態で行っている。	東毛産
10-00656	施釉陶器 灰釉 瓶	掘方 破片	頸12.6	密・還・綿・灰 釉調=オリープ灰	紐作り後轆轤右回転成整形。器外面回転寛削りは轆轤左回転。	東毛産
20-00151	礫器 叩き石	電燃焼部 完形	長12.0 幅12.5 厚4.8 重843	粗粒輝石安山岩	縁辺部に集中打痕が認められる。	

第9号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00657 59	土師器 坏	竈左袖 完形	口12.9 底7.4 高4.1	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残し、底面にも型膚を残す。口縁部は沈線状の撫で整形。	東毛産
10-00658 59	土師器 坏	覆土内 3/4	口12.5 底8.1 高3.9	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残し、底面にも型膚を残す。口縁部は沈線状の撫で整形。	東毛産
10-00659 59・138	土師器 甕	床直・床直 層 1/2	口20.2 頸17.2 胴(21.1)	並・酸・並・暗褐・黒色鉱物粒子・ 軽石	「コ」の字状口縁。肩部は横位、胴中位から肩部にかけては斜位に撫き上げ、底部は斜位に寛削りを施す。	東毛産
10-00660 59	須恵器 坏	覆土下層 部分欠損	口13.3 底6.2 高3.4	並・中・硬・灰黄・β石英(微粒) 夾雑物微粒	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。体部は丸みを帯び、口縁部短く外反する。器面の大半が燻されている。	東毛産
10-00661 59	須恵器 坏	床直 部分欠損	口(13.2) 底7.2 高3.4	並・中・並・灰黄・白色粒子・夾雑 物微粒	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。	東毛産

第9号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00662 59	須恵器 塊	床直層 部分欠損	口(14.2) 底7.8 高5.1	並・中・並・灰黄・白色粒子・軽石	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面側は布挽きのため、轆轤目は痕跡程度。	東毛産

第10号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00663	土師器 塊	覆土内 上半欠損	底6.5	並・酸・並・明赤褐・黒色鉾物粒子 (角粒状)・β石英・チャート	高台は付け高台。体部は篋削りを施す。内面は磨施を施す。煙し焼成は認められない。	東毛産
10-00664	土師器 内黒塊か	掘方 破片	口(14.0)	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子 (角粒)・β石英	型作り。口縁部は横撫で。口縁部直下に型膚を残す。内面は磨施を施す。煙し焼成の焼き戻りがある。	東毛産
10-00665	土師器 坏	覆土内 1/4	口(13.0) 底(7.4) 高4.1	並・酸・並・黄橙・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・赤褐色粒子	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残す。底部・体部は篋削りを施す。	東毛産 墨書-53,54
10-00666	土師器 坏	覆土内 破片	口(17.0)	並・酸・並・橙・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・β石英	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残す。腰部は篋削りを施す。器形は内黒。	東毛産
10-00667	土師器 甕	覆土内 破片	口(19.0) 頸(17.2) 肩(20.2)	並・酸・並・明黄褐・β石英・白色粒 子・軽石	「コ」の字状口縁。頸部上端は横位の指撫で整形により「コ」の字を表出させている。	東毛産
10-00668	土師器 甕	電掘方 破片	口(19.4) 頸(17.6)	並・酸・並・暗茶褐・赤褐色粒子・ 軽石・黒色鉾物粒子 (角粒状)	「コ」の字状口縁。器厚厚い。頸部上端・口縁部は横位の指撫で整形により器形を表出。10-00669と同一個体か。	東毛産
10-00669	土師器 甕	電掘方 破片	厚(0.6)	並・酸・並・橙・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・β石英・白色粒子	「コ」の字状口縁。器厚厚い。頸部上端・口縁部は横位の指撫で整形により器形を表出。10-00668と同一個体か。	東毛産

第11号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00670 59	須恵器 坏	床直層 1/3	口(12.1) 底(6.7) 高3.2	並・酸・並・黒褐・β石英・黒色鉾物 粒子・白色鉾物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は短く外反する。器厚は厚い。	漆田窯産
10-00671 59	須恵器 坏	甕右袖 完形	口12.2 底5.8 高3.6	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉾物粒子 (角粒状)・β石英・黒色鉾物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。体部は丸味を帯、口縁部は短く外反する。内面布挽きが認められる。	漆田窯産
10-00672 59	須恵器 坏	床直層 完形	口12.6 底6.4 高4.2	並・酸・並・明黄褐・黒色鉾物粒子 (角粒状)・β石英・赤褐色粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。体部は直線的、口縁部は短く外反する。外面に墨書「内」。器厚は厚い。	漆田窯産 墨書-55
10-00673 59	須恵器 塊	床直層 1/2	口(11.4) 底(7.6) 高4.5	並・酸・軟・淡橙・シルト質・赤褐 色粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器厚は厚い。体部上半で屈曲するし口縁部は緩やかに外反する。	漆田窯産
10-00674 59	須恵器 塊	床面直上 一部欠損	口12.1 底6.5 高4.4	並・還・並・白灰・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器厚は厚い。体部は緩やかに丸味を帯びる。	漆田窯産
10-00675 59	須恵器 塊	甕右袖 1/3	口(12.6) 底(7.2) 高5.8	粗・酸・軟・浅黄橙・黒色鉾物粒子 (角粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器厚は薄い。轆轤目は細かい。	東毛産
10-00676	須恵器 塊	床面直上 1/4	口(13.3) 底(7.2) 高4.6	並・酸・軟・浅黄橙・黒色鉾物粒子 (角粒状)・β石英・赤褐色粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器厚は薄い。轆轤目は粗く4段。内面は布挽きか。風化が顕著。	東毛産
10-00677	須恵器 塊	掘方 破片	底6.6	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉾物粒子 (角粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面に内黒線の磨施認められる。	漆田窯産
10-00678 59	須恵器 皿	床面直上 3/4	口(12.0)	並・還・並・黒褐~灰黄・黒色鉾物 粒子 (角粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器厚は薄目。器内外面に焼成時の煙りが認められる。	漆田窯産
10-00679 59	須恵器 皿	床面直上 1/2	口12.2 底7.3 高3.4	並・中・並・暗灰・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器厚は厚い。器内外面に焼成時の煙りが認められる。	漆田窯産
10-00680	須恵器 小形甕	掘方 破片	口(15.4) 頸(14.4) 肩部径(16.8)	並・酸・硬・黄灰・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・黒色鉾物粒子・β石英	紐作り後轆轤左回転 (正位) 成整形。器面の風化が顕著。	東毛産か漆田 窯産
10-00681	須恵器 甕	甕左袖 破片	口(19.6) 頸(17.4)	並・還・並・浅黄橙・黒色鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子 (角粒状)	紐作り後轆轤左回転 (正位) 成整形。回転糸痕は篋等の工具によると考えられる。	東毛産
10-00682	須恵器 羽釜	床面直上 破片	口(19.0) 頸部(21.8) 胴部(22.8)	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉾物粒子 (角粒状) 夾雑物微	紐作り後轆轤左回 (正位) 転成整形。胴部は斜位・横位の篋削りを施す。	東毛産か漆田 窯産

第12号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00683	須恵器 塊	甕左袖 破片	口(13.2) 坏底(6.2) 高(4.7)	粗・還・締・灰・白色鉾物粒子・β石 英	轆轤成整形右回転。高台は欠損(付け高台)。高台の剥離面には、坏部の立ち上がり認められる。	東毛産
10-00684	須恵器 羽釜	甕左壁 破片	口(21.4) 頸部(24.4) 胴部(23.2)	並・酸・並・明黄褐・黒色鉾物粒子 (角粒状)・β石英	紐作り後轆轤右回転成整形。胴部は斜位で下位からの篋削りを施す。	東毛産
10-00685	須恵器 羽釜	覆土下層 破片	口(21.4) 頸部(24.4) 胴部(23.2)	粗・酸・並・鈍橙・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・β石英・白色鉾物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。胴部は斜位で下位からの篋削りを施す。	東毛産
10-00686	須恵器 羽釜	甕右壁 破片	底5.8	並・酸・並・橙・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・β石英・白色鉾物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。胴部は斜位の篋削りを施す。底面は回転糸切。外面は縦・斜位の篋削り。	東毛産
10-00687	須恵器 羽釜	甕左壁 破片	底(5.0)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉾物粒子 (角粒状)・β石英・白色鉾物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。胴部は斜位の篋削りを施す。底面は回転糸切。外面は縦・斜位の篋削り。	東毛産

第13号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00688	土師器 台付甕	掘方+甕内 破片	口(11.2) 頸(10.3) 胴(12.6) 基(4.0)	並・酸・並・鈍橙・夾雑物微・微粒 雲母・微粒長石	型作りか。「コ」の字状口縁。口唇部直下に沈線により強調する。内面基部には付加粘土が多い。	太田産か
10-00689	土師器 甕	甕内 破片	底(3.2)	並・酸・硬・橙・夾雑物微・微粒雲 母・微粒長石	篋削りはシャープ。45度程度で立ち上がり下半部は開く器形。	太田産か
10-00690	土師器 甕	P ₁ 内 破片	底(4.0)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉾物粒子・ 軽石	篋削りにシャープさを欠く。立ち上がりは55度程度で窄まる器形か。	東毛産
10-00691	土師器 甕	掘方 破片	口(15.8) 頸(14.2)	並・酸・硬・鈍橙・夾雑物微・微粒 雲母・微粒長石	「コ」の字状口縁。頸部は垂直に立ち上がる。頸部には型膚を残す。作りは非常に丁寧。	太田産か

第14号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00692	土師器 環	覆土内 破片	厚(0.4)	並・酸・並・橙・黒色鉾物粒子(角 粒状)・β石英	型作り。口唇部周辺は横位の撫で整形。撫での直下に型膚を残す。	東毛産

第15号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00693	土師器 環	覆土内 破片	口(13.0) 底(8.0) 高3.5	並・酸・並・橙・赤褐色粒子・白色 粒子・黒色鉾物粒子・夾雑物少量	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残す。器厚は薄い。	東毛産
10-00694	土師器 環	覆土内 破片	口(14.4)	並・酸・硬・明黄褐・黒色鉾物粒子・ 赤褐色粒子	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残す。器形は開く。	東毛産
10-00695	須恵器 環	覆土内 破片	口(12.6) 底(5.6) 高3.9	並・中・並・黄灰・黒色鉾物粒子・ 白色粒子・緻密	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内外面に焼成時の燻りが認められる。	東毛産
10-00696	土師器 台付甕	床直層 破片	口(21.6) 頸(19.0) 肩(20.0) 胴(21.8)	並・酸・並・明黄褐・赤褐色粒子・ 黒色鉾物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部は2段成整形。胴部上半は横位の篋削りを施し、下半部は縦位の篋削りを施す。	東毛産
10-00697	土師器 台付甕	覆土内 破片	口(20.6) 頸(19.0) 胴(22.5)	並・酸・硬・鈍橙・夾雑微・白色微 粒子・黒色鉾物(角粒状)・β石英	型作り。「コ」の字状口縁。口縁部は肥厚し、器内外面に沈線を1条施す。	東毛産
10-00698	土師器 台付甕	竈内 破片	口(21.0) 頸(19.4) 肩(23.2)	並・酸・硬・橙・白色粒子・夾雑物 少量	型作り。「コ」の字状口縁。口縁部部の作りは0130同様。肩部は横位の篋削り、胴部は縦位の篋削りを施す。	東毛産

第16号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00699 59	須恵器 環	掘方 1/4	口(12.0) 底(6.0) 高3.3	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉾物粒子 (角粒状)・白色微粒子・β石英	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器厚は薄目、口縁部が緩やかに外反する。内外面に燻りが認められる。	漆田窯産
10-00700	須恵器 環	床面直上 1/4	口(12.0) 底(5.8) 高3.9	並・還・並・灰・黒色鉾物粒子・白 色微粒子・黒色粒子	轆轤成整形右回転底部は回転糸切。器厚は厚く、口縁部が短く外反する。器内外面に焼成時の燻り。	漆田窯産
10-00701 59	須恵器 環	床直層 1/3	口(12.0) 底(5.2) 高4.1	並・中・並・灰～浅黄橙・黒色鉾物 (角粒状)・β石英・白色微粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器厚は厚く、口縁部が短く外反する。器内外面に焼成時の燻りが認められる。	漆田窯産
10-00702 59	須恵器 環	床面直上 部分欠損	口13.1 底6.8 高5.4	並・還・粗・灰白・黒色粒子・白色 粒子・夾雑物少量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。口縁部は短く外反する。轆轤目は立っている。	東毛産
10-00703 59	須恵器 脚付瓶	床面直上 全周	底11.7 基部9.0	並・中・並・黄灰・黒色鉾物粒子(角 粒状)・β石英	紐作り後轆轤右回転成整形。瓶類の脚部と考えられる。	漆田窯産
10-00704	須恵器 羽釜	床直層 1/5	口(18.8) 頸部(21.4) 胴部(21.2) 底(5.2)	並・酸・並・明黄褐・白色粒子・黒 色鉾物粒子(角粒状)・β石英	紐作り後轆轤右回転成整形。頸部直下は横位、胴部は縦位の篋削りを施す。器内外面ハゼが顕著。	東毛産 高23.8
10-00705 59	施釉陶器 灰釉 碗	床直層 1/4	口16.0 底(6.8) 高5.3	密・還・締・灰 釉調=白濁	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器厚は薄い。体部は回転篋削りを施す(左)、逆位の場合は右回転。	東海産
20-00152	石製品 紡錘車	層位不詳 完形	径4.4 厚1.08 孔径0.8 重38	蛇紋岩	素材は扁平で薄い。	

第17号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00706 59	須恵器 皿	床面直上 部分欠損	口(10.7) 底(5.0) 高2.8	並・酸・並・明黄褐・黒色鉾物粒子 (角粒状ヤヤ熔変)	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。立ち上がりは丸味を強く帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。	東毛産
10-00707 59	須恵器 環	P ₁ 内 1/2	口(13.1) 底(5.6) 高4.5	並・中・並・黒褐～黄灰・黒色鉾物 粒子(角粒状)・白色微粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。体部は丸味を強く帯びる。口縁部は短く外反気味に立ち上がる。	東毛産
10-00708 59	須恵器 環	床直層 部分欠損	口11.4 底7.2 高5.1	並・中・並・灰・黒褐・黒色鉾物粒 子(角粒状)・白色微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内外面に焼成時の燻りが顕著に残る。	東毛産
10-00709	須恵器 内黒環	覆土内 破片	口(13.2)	並・酸・硬・黄灰・黒色鉾物粒子(角 粒状)・軽石・白色微粒子	轆轤成整形右回転。高台は欠損(付け高台か)。内面は横位に丁寧な磨施を施す。器内面燻り焼成。	東毛産
10-00710 59	須恵器 環	床直層 1/3	口(14.6) 底(7.6) 高5.8	並・還・並・灰・黒褐・黒色鉾物粒 子(角粒状)・白色微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。体部は丸味を帯びるが、口縁部は直線的に立ち上がる。	東毛産
10-00711 59	須恵器 環	床面直上 完形	口14.8 底(7.8) 高5.8	並・酸・粗・鈍橙・黒色鉾物粒子(角 粒状)・白色微粒子	轆轤成整形右回転。高台は乾燥舞に欠損。欠損部を再整形している。体部は丸味が強く、口縁部は短く強く外反する。	東毛産
40-00058 60	鉄滓	17号住Na11 完形	長6.0 幅7.4 厚3.7 重84		流動状の部分認められる。僅かな磁力(磁力5)を呼ぶ。	
10-00712 59	土師器 甕	竈内 1/2	口(21.2) 頸(19.4) 肩(21.4)	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉾物粒子 (角粒状)・軽石・白色粒子	紐作り後縦位の篋撫で整形。内面は横位の篋撫で整形を施す。口縁部は5段に棒状等の工具に成整形を施す。	東毛産
10-00713	須恵器 羽釜	竈煙道 破片	口(24.7) 頸(22.6) 肩(24.0)	並・酸・並・橙・黒色鉾物粒子(角粒 状)・β石英・軽石・紋胎	紐作り後縦位の篋撫で整形。内面は横位の篋撫で整形を施す。器厚は厚い。口縁部は短く外反する。	東毛産
10-00714	土師器 鉢	竈燃焼部 破片	口(23.2) 頸(22.2) 胴(22.0)	並・酸・並・橙・黒色鉾物粒子(角 粒状)・β石英・白色粒子	紐作り後縦位の篋撫で整形。内面は横位の篋撫で整形を施す。器内外面に紐積み痕が残る。口縁部は短く外反する。	東毛産
10-00715 60	須恵器 羽釜	竈内 1/2	口(24.0) 頸部(27.7)	並・酸・並・黄橙・黒色鉾物粒子(角 粒状)・黒色鉾物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。胴部中に上下の接合痕が認められ土師器の手法を用いる。器厚は厚い。	東毛産
10-00716	土製品 土鍾	覆土内 完形	長4.5 幅1.8 孔径0.28 重10.5	並・還・並・橙・夾雑物微量	全体に作りは丁寧い。縦位方向に丁寧な撫で整形を施す。	東毛産
10-00717	須恵器 羽釜	床直層 破片	口(27.2) 頸部(29.0)	並・酸・並・黄灰・黒色鉾物粒子(角 粒状)・β石英	紐作り後轆轤右回転成整形。口径が大きい器厚は比較的薄く、端正なつくりをしている。	東毛産

第18号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00718 60	須恵器 環	竈+竈掘方 1/2	口(12.4) 底(5.6) 高4.8	並・酸・硬・外面暗灰/内面黒褐・白 色鉾物粒子・白色粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器厚は薄い。口縁部は緩やかに外反する。	東毛産
10-00719	須恵器 環	床直層 破片	口(13.6) 底(7.1) 高5.0	並・酸・硬・黒褐・白色微粒子・黒 色鉾物粒子(角粒状)・夾雑物少量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器厚は厚目。体部は丸味を帯びる。口縁部は短く屈曲するように外反する。	東毛産
10-00720 60	須恵器 環	竈燃焼部 口縁部欠	底7.5	粗・還・締・灰～白灰・白色粒子・ 黒色粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。高台はやや高目で厚いつ作り。	東毛産

第19号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00721	須恵器 坏	甕内 破片	底(7.0)	密・還・硬・明黄褐・黒色鉾物粒子 (角粒状)・夾雑物微量	轆轤成整形右回転。底径が広い大きな器形。胎土は非常に よく精選されている。搬入品とは考えられない。	東毛産
10-00722	土師器 小型甕	床直層 破片	口(14.9) 胴部(15.6)	並・酸・硬・黒褐・鈍橙・白色粒子・ 黒色鉾物粒子 (角粒状)	紐作り。外面は縦位の寛撫で、内面は横位の寛撫で。外面 には紐作りの単位が認められる。	東毛産
10-00723	土師器 甕	甕内 破片	口(22.0) 頸(19.6)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・白色粒子	型作りか。頸部は下端に棒状工具1段の回転成整形。口唇 部は肥厚させている。頸部下は横位の寛削りを施す。	東毛産
10-00724	土師器 甕	甕覆土内 破片	口(22.2) 頸(20.2) 肩(23.6)	並・酸・並・灰白～黄褐・黒色鉾物 粒子 (角粒状)・β石英・白色粒子	型作りか。頸部は棒状工具4段の回転成整形。口唇部は肥 厚させている。頸部下は横位の寛削りを施す。	東毛産
10-00725	土師器 甕	甕内 破片	胴部(8.4) 厚1.3	並・酸・並・鈍橙・白色粒子・黒色 鉾物粒子 (角粒状)	紐作り。外面は寛撫でを縦位に施す。内面は横位に寛撫で を施す。	東毛産
10-00726	須恵器 羽釜	甕燃焼部 破片	口(21.2) 頸部(14.0) 胴部(22.4)	並・酸・並・鈍黄橙・白色鉾物粒子・ 黒色鉾物粒子・β石英	紐作り後轆轤右回転成整形、頸部は貼り付け後轆轤成整形。 胴部に4条の沈線。吉井型羽釜甲老種呂類。	吉井産

第20号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00727	土師器 小型鉢	甕掘方内 破片	口(10.0) 頸(9.6)	並・酸・並・黒褐・白色粒子・黒色 鉾物粒子 (角粒状)	紐作り。口縁部は短く外傾する。外面口縁部直下は横位の 寛削り、胴部は縦位の寛削り、内面は「横位の寛撫で」。	東毛産
10-00728	土師器 鉢	甕燃焼部 破片	口(16.2) 頸(16.0)	並・酸・並・暗褐～黒褐・白色微粒 子・黒色鉾物粒子 (角粒状)	紐作り。口縁部は外傾する。外面頸部周辺は横位の寛撫で、 下半は斜位の寛削りを施す。内面は横位の寛撫で。	東毛産
10-00729	土師器 甕	覆土内 破片	口(19.6) 頸(19.6) 肩(22.8)	並・酸・並・橙・白色粒子・黒色鉾 物粒子 (角粒状)・夾雑物微量	紐作り。口縁部は直立する。外面は横位の寛削りを施す。 内面は横位の寛撫でを施す。	東毛産
10-00730	須恵器 60 坏	床面直上 破片	口(17.0) 底(8.0) 高5.1	並・酸・軟・明褐灰・シルト質・黒 色鉾物粒子 (角粒状)・夾雑物微量	轆轤成整形右回転。底部は回転成整形。口縁部の器厚は厚い。 25住甕掘方内出土の破片と接合している。	東毛産
10-00731	土師器 小型甕	覆土下層 破片	口(11.4) 頸(10.1) 肩(12.6)	並・酸・並・黄橙・赤褐色粒子・黒 色鉾物粒子 (角粒状)	紐作り。肩部より上位は回転台等上での回転撫で整形。肩 部周辺に型目が残る。	東毛産
10-00732	須恵器 浄瓶か	甕内 破片	胴部(10.1) 底(15.0)	並・還・硬・灰・白色粒子・白色粒 子	紐作り後轆轤右回転成整形。胴部3条の横線施す。	東毛産
20-00153	石製品 砥石	覆土内 破片	残長5.8 幅3.6 厚0.3 重64	砥沢石	研減った砥石を半載し、中央川の薄く減った部分に孔を 穿っている。下げ砥石。	

第21号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00733	土師器 台付甕	覆土下層 破片	底(8.0) 基(4.3)	並・酸・硬・橙・細粒白色鉾物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形か。高速回転による粘土の引き 上げ痕(断面)が認められる。	東毛産 (太田か)
10-00734	須恵器 坏	覆土下層 破片	口(11.8)	並・還・並・白灰・黒色鉾物粒子多 量	轆轤成整形右回転。器内面は布挽き再整形。器外面轆轤目 は強い。	漆田産
10-00735	須恵器 横瓶	覆土下層 破片	厚(0.8)	密・還・締・灰・白色微粒子少量	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は青海波文か。	栗附産

第22号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00736	土師器 坏	覆土内 破片	口(15.2)	並・酸・硬・橙・β石英・軽石・黒 色鉾物粒子	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型痕を残す。 端部は寛削りを施す。	東毛産
10-00737	土師器 小形甕	覆土内 破片	口(11.2) 頸(10.2)	並・酸・並・明黄褐・黒色鉾物粒子・ 白色微粒子・夾雑物少量	紐作り。口縁部は短く外反して立ち上がる。頸部直下の破 片寛削りは強い。器内面は横位の撫で整形。	漆田産か
10-00738	土師器 小形甕	覆土内 破片	口(14.4) 頸(13.2) 胴(15.0)	並・酸・硬・外鈍橙・内暗褐・白色 微粒子・黒色鉾物粒子・夾雑物少量	口縁部は短く立ち上がる。頸部直下まで横位の撫で整形。 胴部は横位の寛削り。器面全体に焼痕が認められる。	東毛産 ルーム系
10-00739	土師器 甕	覆土内 破片	口(20.2) 頸(18.4) 胴(20.0)	密・酸・硬・橙・石英雲母片岩・白 色鉾物粒子・長石	口縁部は未整形部分が多く、成形時の器面状態が観察出来 る。頸部直下は横位の寛削りを施す。	東毛産 陶土系
10-00740	須恵器 60 坏	床直層 2/3残	口13.3 底5.8 高4.2	並・中・並・黄灰～白灰・黒色鉾物 粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転成整形。口縁部は直線的に立 ち上がる。	漆田産
10-00741	須恵器 坏	覆土内 完形	口11.5 底5.8 高3.4	並・還・硬・灰・黒色鉾物粒子・透 明鉾物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転成整形。外面に墨書「内」か 「門」を施す。内外面焼成時の焼痕が認められる。	東毛産 墨書-56
10-00742	須恵器 坏	ピット内 部分欠損	口13.1 底6.2 高4.5	並・中・軟・外黄灰/内灰黄・黒色鉾 物粒子・溶解黒色鉾物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転成整形。器内面は布挽き整形。	漆田産か
10-00743	須恵器 坏か	覆土内 破片	口(11.6)	並・還・並・灰・黒色粒子 (溶解黒 色鉾物粒子)・白色微粒子	轆轤成整形右回転。轆轤目は凹凸が顕著。小形の製品であ る。	東毛産
10-00744	須恵器 坏か	覆土内 破片	口(13.2)	並・酸・並・明黄褐・黒色鉾物粒子・ 赤褐色粒子	轆轤成整形右回転。轆轤目は凹凸が顕著。丸みを帯びた体 部から口縁部は短く外反する。	漆田産
10-00745	須恵器 60 塊	覆土下層 完形	口13.1 底6.5 高4.9	並・中・軟・白灰・黒色鉾物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転成整形。口縁外面に判読不能 墨書。器内外面に焼成時の焼痕が認められる。	漆田産 墨書-57
10-00746	須恵器 60 塊	覆土下層 部分欠損	口13.2 底7.0 高4.4	並・中・並・白灰・黒色鉾物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。切り替えし上に器内 外面焼成時の焼痕が認められる。	漆田産
10-00747	須恵器 60 塊	覆土内 破片	底(6.6)	並・酸・並・明黄褐・白色微粒子・ 黒色鉾物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。口唇部は欠損する。 轆轤目は細かい。	漆田産
10-00748	須恵器 60 塊	床直層 2/3残	口16.0 底7.0 高5.8	並・酸・軟・鈍橙～鈍黄橙・夾雑物 微量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器厚は薄い。体部か ら口縁部は緩やかな丸みを帯び、口唇部は外反する。	東毛産 佐位産か
10-00749	須恵器 60 塊	覆土内 破片	底(8.4)	並・還・硬・灰・黒色粒子 (黒色鉾 物粒子の溶解物)	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器厚は厚く高台の作 りも大作り。	漆田産
10-00750	土師器 羽釜	覆土内 破片	口(15.4) 頸部(18.4) 胴部(17.2)	並・酸・並・明黄褐・黒色鉾物粒子・ 赤褐色粒子・被熱発泡黒曜石	紐作り後頸部直下は横位の寛削り。頸部は貼り付。口縁部 内外面横撫で整形。器内面は胴部は横位の寛撫整形。	漆田産か
10-00751	土師器 羽釜	床直層 破片	口(17.2) 頸部(20.2) 胴部(21.6)	並・中・軟・黄灰・シルト粗粒子・ 黒色鉾物粒子・β石英	紐作り後胴部は縦位の寛削り。頸部は貼り付。口縁部内外 面横撫で整形。器内面は胴部は横位の寛撫整形。	東毛産 ルーム系
10-00752	土師器 羽釜	覆土内 破片	口(17.6) 頸部(21.6) 胴部(21.8)	並・酸・並・明黄褐・黒色鉾物粒子・ 白色微粒子・夾雑物少量	紐作り後胴部は縦位の寛削り。頸部は貼り付。口縁部内外 面横撫で整形。器内面は胴部は横位の寛撫整形。	漆田産か
10-00753	土師器 羽釜	覆土内 破片	口(20.8) 頸部(23.2) 胴部(23.4)	並・酸・並・明黄褐・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子・夾雑物少量	紐作り後頸部直下は横位の深い寛削り。頸部は貼り付。口 縁部内外面横撫で整形。器内面は胴部は横位の寛撫整形。	漆田産か

第22号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00754	土師器 羽釜	床直 破片	口(21.2) 頸部(24.4) 胴部(24.6)	並・酸・並・黄橙・赤褐色粒子・透 明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	紐作り後頸部直下は横位の寛削り。頸部 内外面横撫で整形。器内面は胴部は横位の寛撫整形。	漆田産か
10-00755	土師器 羽釜	覆土内 破片	口(21.4) 頸部(24.5) 胴部(23.4)	並・酸・軟・浅黄橙・黒色鉱物粒子・ 夾雑物少量	紐作り後頸部直下は横位の深い寛削り。頸部は貼り付。口 縁部内外面横撫で。胴部内面は寛撫整形。	漆田産か
10-00756	土師器 羽釜	覆土内 破片	底(5.8)	並・酸・並・鈍橙・軽石・白色微粒 子	紐作り。器外面は縦位・斜上方向からの寛削り。器内面は 寛撫で整形。	漆田産か
10-00757	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(13.0)	密・還・締・灰 釉調=オリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は不詳。	搬入品

第23号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00758	土師器 坏	覆土内 小破片	口(12.0)	並・酸・並・橙・黒色鉱物粒子・透 明鉱物粒子	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残し、 底部は寛削りを施す。	東毛産
10-00759	須恵器内黒 坏か碗	覆土内 小破片	厚(0.4)	密・酸・硬・内外黒褐・夾雑物微	轆轤成整形。回転方向は不詳。	東毛産

第24号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00760	土師器 坏	竈底面 1/2残	口(12.2) 底(5.4) 高4.4	並・酸・並・鈍橙/黒褐・黒色鉱物粒 子多量・透明鉱物粒子多量	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残す。 底部は離砂を残す。	東毛産 墨書-58
10-00761	土師器 羽釜か甕	覆土内 破片	底(6.0)	並・酸・並・橙・黒色鉱物粒子多量・ 透明鉱物粒子多量	紐作り。底面に離砂の痕跡が認められる。器外面は寛削り。 器内面は寛の小口(刷毛)撫で整形。	東毛産
10-00762	須恵器 坏か碗	覆土内 破片	口(11.4)	並・酸・並・黄橙・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・夾雑物少量	轆轤成整形右回転。口縁部は強く外反する。	漆田産

第25号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00763	土師器 甕	竈底面 部分欠損	口21.0 頸19.0 胴23.4 高26.5	並・酸・並・内明黄褐/外鈍黄橙・黒 色鉱物粒子(角粒状)・β石英	下半部は型作り。上半部は不詳。口唇内面は肥厚し玉縁状。 肩部は横位、胴部・底部は縦位の寛削り。底部離砂。	東毛産
10-00764	土師器 甕	傍竈坑内 破片	口(18.4) 頸(15.8) 胴(19.2)	並・酸・並・明黄褐・黒色鉱物粒子 微量・白色粒子少量	紐作り。口縁部は外傾する。頸部は寛撫でを沈線状に施し 肩部と区分する。外面は横位の寛削り。	東毛産
10-00765	土師器 甕	覆土内 破片	口(18.4) 頸(17.2) 胴(23.6)	並・酸・並・浅黄橙・赤褐色粒子・ 黒色鉱物粒子	紐作りか。口縁部は外反する。胴部は丸みを帯びる。外面 に未整形部分が認められる。	東毛産
10-00766	土師器 甕	覆土内 破片	口(20.0) 頸(18.0) 胴(21.8)	並・酸・硬・橙(胴)黄灰(口縁) ・黒色鉱物粒子・β石英・白色粒子	下半部は型作り。上半部紐作り。頸部直下に未整形部分 を残す。胴部寛削りは肩部寛削りに後行する。	東毛産
10-00767	土師器 甕	竈覆土内 破片	底(7.0)	密・酸・並・浅黄褐・赤褐色粒子・ 白色粒子	作りの詳細は不詳。外面は縦位の寛削り整形を施し、器内 面は横位の寛撫でを施す。底部は離砂。	東毛産
10-00768	須恵器 坏	竈覆土内 破片	厚0.5	並・還・軟・白灰・夾雑物微粒	轆轤成整形右回転。器内面に墨痕乃至墨書が認められる。	東毛産 墨書-59
10-00769	須恵器 坏	竈覆土内 破片	口(10.2) 底(2.8) 高3.5	並・還・硬・白灰・白色鉱物粒子少量	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部・口縁部は直線 的に立ち上がる。	東毛産
10-00770	須恵器 坏	覆土内 1/2	口(13.2) 底(6.6) 高4.7	並・酸・硬・鈍橙/暗褐色・安山岩の 細粒・黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。静止糸切。底部・口縁部は丸みを帯び 立ち上がる。	東毛産か
10-00771	須恵器 坏	床直層 部分欠損	口10.1 底5.3 高3.5	並・中・並・白灰/黄灰・粗砂粒(チャ ート円礫・他)	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部は丸味を帯び、 口縁部は直線的に立ち上がる。	東毛産か
10-00772	須恵器 甕	床直層 3/4	口(13.7) 底(8.3) 高6.2	並・中～酸・並・内黄灰/外黄褐・赤 褐色粒子・黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。腰部・口縁部は直線 的に立ち上がる。見込みに寛撫「今丸」。	東毛産か
10-00773	須恵器 甕	床直 3/4	口(14.0) 底(6.9)	粗・酸・軟・黄褐/浅黄橙・黒色鉱物 粒子・β石英・白色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。高台端部を欠損する が、坏に転用して使用している。	東毛産
40-00059	鉄器 釘	覆土内 破片	残長3.7 幅0.9 厚0.5 重13		錆化が顕著。頭部と先端側を欠損する。断面横長方形を呈 する。	

第26号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00774	須恵器 坏	床直層 1/2	口(12.1) 底(6.2) 高3.9	並・還・並・灰/黒褐・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は布挽き。器 内外ほぼ全体に面焼成時の曇りが認められる。	漆田産
10-00775	土師器 甕	覆土内 破片	口(20.4) 頸(18.6)	並・酸・並・鈍黄橙・白色微粒子若 干	紐作り。頸部は直立気味で口縁部は短く外反する。口唇部 は器内面側で肥厚し玉縁状、整形は寛撫で表出。	東毛産
10-00776	須恵器 坏	覆土内 3/4	口(12.0) 底(5.4) 高2.9	並・還・軟・灰・白色粒子・白色微 粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器高が低く体部・口 縁部は開いて立ち上がる。	東毛産
10-00777	須恵器 耳皿	覆土内 部分欠損	長径6.80 幅5.50 底3.80 高2.10	並・還・硬・灰・黒色粒子(熔解黒 色鉱物粒子)	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。両端を器内面に押し 曲げる。	漆田産
40-00060	鉄滓	覆土内 部分欠損	残長8.5 幅9.0 厚4.9 重308		二重に積み重なった状態。底面には炉床の一部が付着する。 若干の磁力(磁力5)を呼ぶ。	
10-00778	施釉陶器 灰釉 瓶	覆土内 破片	厚0.3	密・還・締・灰 釉調=オリープ灰	轆轤成整形右回転。器厚は薄く径は大きい。施釉は外面の み。	東海産
10-00779	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	厚0.4	密・還・硬・灰 釉調=かせた白	轆轤成整形右回転。体部は回転寛削り。	東海産
20-00154	礫器 叩き石	床直層 完形	長18.5 幅7.5 厚5.0 重879	溶結凝灰岩	側縁に集中打痕が認められる。	

第27号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00780	土師器 環	覆土内 破片	口(12.0) 底(9.2)	並・酸・並・黄橙・黒色鉱物粒子若干・白色微粒子若干・C生地土	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫で整形。	太・笠・雷周 辺か
10-00781	土師器 環	覆土内 2/3	口12.2 底8.2	並・酸・硬・橙・黒褐色・黒色鉱物粒子・透明鉱物粒子・C粘土	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫で整形。	東毛産
10-00782	須恵器 小皿	覆土内 破片	口(9.5) 底(6.0) 高1.9	粗・酸・並・浅黄橙・黒色鉱物粒子(角粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。短く立ち上がった口縁の口唇部は尖り気味。	東毛産
10-00783	須恵器 環	覆土内 破片	口(10.0) 底(5.0) 高3.2	粗・酸・並・浅黄橙・黒色鉱物粒子(角粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部は張り出し、口縁部は直線的に立ち上がり。	東毛産
10-00784	須恵器 環	覆土内 1/3	口(12.6) 底(6.0) 高3.4	並・還・締・灰・軽石(非群馬給源か)・黒色粒子(熔黒色鉱物粒子)	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部は張り、口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部は尖る。	南多摩産か
10-00785	須恵器 環	床直層 部分欠損	口14.3 底7.0 高5.1	並・還・軟・鈍橙～灰褐・雲母石英片岩	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器高は高く器厚も器厚は薄い。藤岡畑土に似る生土。	埼玉北部産か
10-00786	須恵器 塊	傍竈坑内 1/2	口(14.6) 底(7.0) 高5.3	並・還・軟・灰/黒褐・黒色鉱物粒子・雲母石英片岩	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器高は高く器高も薄作り。内面布挽き。内外面に焼成時の燻る。	埼玉北部産か
10-00787	須恵器 環か塊	覆土内 破片	口(12.0)	並・酸・硬・浅黄橙・雲母石英片岩・赤褐色粒子	轆轤成整形右回転。体部は丸みを帯び立ち上がる。口縁部は強く外反する。	吉井産か埼玉 北部
10-00788	土師器 壺	覆土内 破片	底推定5.8	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白色微粒子	型作りか。底面に離砂の痕跡と思われる。外面は縦位の篋削り、器内面は横位の強い撫で整形。	東毛産
10-00789	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚0.8	密・還・締・灰・黒色融出物(熔黒色鉱物粒子か)	紐作り後轆轤右回転成整形。外面肩部直下まで自然釉の付着が認められる。	太田産
40-00061	鉄器 釘	覆土内 破片	残長5.0 幅0.4 厚0.4 重6		先端側がクランク状に曲がる。断面正方形を呈する。	
40-00062	鉄器 不詳	覆土内 破片	残長3.0 幅2.3 厚0.4・重8		全体を錆化が包む。部分的な破片・断片と考えられ、旧状の推定は困難である。	
20-00155	礫器 礫石	床直 完存	長10.5 幅11.3 厚5.8・重702	粗粒輝石安山岩	礫面の平坦面に摩滅が認められる。	

第28号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00790	土師器 壺	床直層 破片	口(20.0) 頸(19.6)	並・酸・並・明黄褐・夾雑物微粒子・C生地土	頸部より上位は粘土紐一本で積み上げ、頸・口唇部は挽き上げている。口唇部は外側に挽き上げ成形。	太・笠・雷周 辺か
10-00791	須恵器 環	覆土内 破片	底(7.0)	並・還・軟・灰・黒色鉱物粒子少量・白色微粒子少量	轆轤成整形右回転。底部周縁は回転篋削り。器厚は薄い。	東毛産
10-00792	須恵器 環	覆土内 破片	底(7.0)	密・還・締・暗灰・白色微粒子少量	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切後周縁に回転篋削りを施す。器厚は薄い。	埼玉南～多摩 産か
10-00793	土師器 環	覆土内 破片	厚0.5	密・酸・並・橙・黒色鉱物粒子少量・石英少量	型作り。内外面に「武」の異体字「」を墨書する。	東毛産 墨書-60.61
10-00794	須恵器 塊	覆土内 破片	底(7.6)	並・還・軟・灰白・石英(花崗岩起源か)・黒雲母・岩片	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器厚は薄く、高台も端整。渡良瀬水系の生地土か。	東毛産か栃木 産
10-00795	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(11.6)	密・還・締・灰・夾雑物無し	轆轤成整形右回転。端部は折り返す。非常に緻密な生地土。搬入品か。	産不詳
10-00796	須恵器 蓋	覆土内 破片	厚0.5	並・還・並・灰白・黒色粒子	轆轤成整形右回転。端部は折り返す。内外面に薄い緑釉調の自然釉が付着する。	東毛産か
10-00797	須恵器 コップ形	覆土内 完形	口4.5 底3.4 高3.9	並・還・締・暗灰・石英少量	轆轤成整形右回転。底面は回転篋削り乃至回転篋起し。体部は轆轤回転の篋撫で整形。	太田産
10-00798	須恵器 壺	覆土内 破片	厚0.8	並・還・締・灰・石英・白色微粒子	紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛て具は青海波文。下半は轆轤右回転整形。	太・笠・雷周 辺か
10-00799	須恵器 壺	覆土内 破片	厚0.7	並・還・締・灰・石英	紐作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面宛て具は青海波文。	葉附産か
10-00800	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	厚0.4	並・還・硬・灰 釉調=白濁	轆轤成整形右回転。体部は回転篋削り。施釉は不詳。	搬入品
40-00063	鉄器 鎌	覆土内 完形	長21.8 幅2.2～4.6 厚0.2 重128	反り3.2/21.6=14.8% 力点5.0/13.8=36.23%	研減りにより先細り状の姿。柄の装着幅は、研減りの位置aまで付近と考えられる。	
20-00156	石器 スタンプ形	覆土内 完形	長11.8 幅5.2 厚5.0 重432	変質安山岩	小口の片側の使用面が認められ、扁平面の1面が摩滅している。側部の一部には集中槌打痕が認められる。	

第41号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00801	土師器 環	覆土内 破片	口(12.0) 底(10.2)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子・透明鉱物粒子・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は篋削り。	太・笠・雷周 辺か
10-00802	土師器 環	覆土内 破片	口(12.2) 底(11.0)	並・酸・並・鈍黄橙/断明黄褐・微粒 黒色鉱物粒子若干・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを2段施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は篋削り。	太・笠・雷周 辺か
10-00803	土師器 環	覆土内 破片	口(12.2) 底(7.4) 高3.0	並・酸・硬・赤褐/橙・黒色鉱物粒子(角粒状)・β石英・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は篋削り。	東毛産
10-00804	土師器 羽釜か	覆土内 破片	厚0.8	並・酸・硬・浅黄橙/黒褐・軽石若干・黒色鉱物粒子少量・C生地土	外面に靨の匠痕が2箇所認められる。	太・笠・雷周 辺か
10-00805	土師器 壺	覆土内 破片	口(20.6) 頸(18.0)	並・酸・硬・鈍橙/断黄橙・黒色粒子(クロ)・細粒状石英・C生地土	口縁部は強い横撫でにより「く」の字状口縁に成形する。	太・笠・雷周 辺か
10-00806	須恵器 環	覆土内 破片	底(8.4)	並・還・硬・外黒褐/内灰黄・夾雑物無	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部は落ちた作り。	笠懸産
10-00807	須恵器 環	覆土内 破片	口(12.4) 底(7.8) 高4.0	並・還・硬・灰・夾雑物微量	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。体部は気持ち丸みを帯び立ち上がる。口縁部は直線的に立ち上がる。	笠懸産
10-00808	須恵器 環	覆土内 破片	底(6.6)	並・酸・並・鈍橙・微粒透明鉱物粒子多量・C生地土	轆轤成整形右回転。底部は切り離しは不明。内面は布挽き。	産不詳
10-00809	須恵器 塊	覆土内 破片	口(17.8) 底(7.0) 高5.1	並・還・軟・灰・白色微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。口縁部直下が張る。口唇部は玉縁状。器形は吉井に類似。	笠懸産
10-00810	須恵器 塊	覆土内 破片	底(7.2)	並・還・硬・灰・黒色粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。腰部は轆轤回転篋撫で再整形を施す。外縁は強い。	秋間産

第41号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00811	須恵器 蓋	覆土内 破片	厚0.5	並・還・並・灰・白色微粒子	轆轤成整形右回転。口径は大きい。器厚は薄い。	笠懸産
10-00812	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚1.3	並・還・締・黒灰・暗灰・白色鈹物 粒子	紐作り後叩き整形。外面は板目(柎目か)叩き、宛具は青 海波文。	吉井・乗附産

第29号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00813	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.5	並・酸・硬・橙・黒色粒子(熔黒色 鈹物粒子)・C生地土	型作り。底面は篋削りを施す。外面に墨書があるが判読不 明。「米田」の可能性も考えられる。	雷電山産か太田 産墨書-62,63
10-00814 61	土師器 坏	覆土内 1/4	口(11.8) 底(9.4) 高2.8	密・酸・硬・橙・微粒状長石微量・ C生地土	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す 甘い撫で整形。底部は篋削りを施す。	雷電山産か太 田産
10-00815	土師器 甕	覆土内 破片	口(21.4) 頸(18.0)	並・酸・並・橙・細粒状石英多量・ 黒色鈹物粒子	紐作り。外反口縁。内外面は横撫で整形。	東毛産
10-00816	須恵器 坏	覆土下層 口縁欠損	底7.6	密・還・締・灰・微量微量	轆轤成整形右回転。底部は回転篋削り。	搬入品か
10-00817	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.2) 底(5.6)	密・還・締・灰・白色微粒子	轆轤右回転整形。器厚は薄い。体部は丸みを帯び、器高は 低い。	埼玉南部か多 摩産
10-00818	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	厚0.6	密・還・締・灰・夾雑物無し	轆轤成整形右回転。	搬入品
40-00064 61	鉄滓	覆土内 部分欠損	長4.9残 幅7.8 厚2.1 重93		全体に磁力を呼ぶ。図中右上半部は比較的強く磁力を呼び (磁力3)、中央部(磁力4)・左端側(磁力5)である。	

第30号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00819	須恵器 坏	覆土内 1/4	口(13.0) 底(6.0) 高4.3	並・中・軟・黄灰・黒色鈹物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。轆轤目は強い。器内 面は布挽き。	漆田産
10-00820	土師器 甕	覆土内 破片	口(20.0) 頸(18.4) 胴(22.4)	並・還・並・鈍黄橙・黒色鈹物粒子・ 細粒状石英	下半は型作り。胴部最大径部分に未整形(縦位の篋のアタ リはある)粘土を挽き上げながら外傾させている。	東毛産
10-00821	須恵器 塊	床直 1/4	口(14.0) 底(7.2) 高5.3	粗・酸・硬・鈍橙・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。腰部に回転篋削りが 認められる。轆轤目は極度に強く口唇部は強く外反する。	産不詳埼玉北 部か
10-00822	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(15.0)	密・還・締・灰・白色微粒子	轆轤成整形右回転。端部は折り返す。器厚は薄い。	笠懸産か搬入
10-00823	須恵器 瓶	覆土内 破片	底(9.0)	密・還・締・暗灰・赤色様石英	紐作り後轆轤右回転成整形。高台は付け高台。外面厚い自然 釉付着。	太田産
10-00824	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚1.0	密・還・締・灰・白色微粒子	紐作り。内面は横位の撫で整形。外面は細かい本一単位の 波状文の平行叩き。	太・笠・雷周 辺か
10-00825	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚0.8	密・還・締・灰白・黒色粒子微量・ 白色微粒子微量	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は青海波文。外 面の叩きの目は細かい。	秋間産
10-01328	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.5	並・還・並・明黄褐・赤褐色粒子・ 黒色鈹物粒子	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は篋削り。外 面に墨書、判読不能(「田」か)。	東毛産

第31号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00826 61	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.0)	並・酸・硬・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・β石英・1種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施し、横位の篋削り整形。	東毛産
10-00827	土師器 坏	覆土内 1/4	口(12.4) 底(5.4) 高3.9	並・酸・並・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・β石英・1種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施し、横位の篋削り整形。	東毛産
10-00828	土師器 坏	覆土内 破片	口(13.2)	並・酸・硬・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施し、斜位の篋削り整形。	東毛産
10-00829	土師器 坏	覆土内 破片	口(14.0)	並・酸・並・明黄褐・黒色粒子若干・ 黒色鈹物粒子若干・1種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫で。口縁部直下は型膚を 残す甘い撫で。体部下半は篋撫で。外面に墨書「内」か	東毛産 墨書-64
10-00830 61	土師器 塊	覆土内 部分欠損	口13.7 底6.0 高4.2	並・酸・硬・鈍/鈍黄橙/黒褐・凝灰 片・黒色粒子(熔黒色鈹物粒子)	型作り。内面及び口縁部は横撫で。口縁部直下は型膚を残 す甘い撫で後斜位の篋削り整形。破損後被二次焼成。	東毛産C生地 土
10-00831	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.6	密・酸・硬・灰褐・夾雑物微量	「コ」の字状口縁。頸部はやや外傾気味。口縁部は強い横撫 で成形。	漆田産か
10-00832	土師器 台付甕か	覆土内 破片	口(12.2) 頸(11.6)	並・酸・並・明黄褐/黒褐・黒色鈹物 粒子少量・C生地土	紐作りか。口縁部は直線的に立ち上がる。頸部は肥厚する。 外面は横位の篋削り、器内面は横位の篋撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-00833 61・138	土師器 甕	覆土内 1/3	口(16.6) 頸(14.8) 胴最(19.6)	並・中/還・硬・灰白/浅黄橙・黒色 鈹物粒子微量・夾雑物微量	紐作り。器内面に接合帯が無い。器厚は厚く頸部は肥厚気 味。肩部の篋削りは長い。胎土は漆田産須恵器坏と同じ。	漆田産
10-00834	土師器 甕	覆土内 破片	口(21.0) 頸(19.4)	並・酸・硬・黄橙・夾雑物微量・C 生地土	頸部は強い横撫で成形により直立させ、口縁部も強い横撫 で成形により外傾させている。	太・笠・雷周 辺か
10-00835	土師器 甕	覆土内 破片	口(18.0)	密・酸・硬・明黄褐・夾雑物微量	「く」の字状口縁。口縁上半部に細い沈線を巡らせ「コ」の 字状口縁に見せている。	漆田産か
10-00836	土師器 甕	覆土内 破片	口(18.0)	密・酸・硬・明黄褐・夾雑物微量	「く」の字状口縁。立ち上がり部に沈線状の強い横撫で成形 を残す。	漆田産か
10-00837	土師器 甕	覆土内 破片	厚(0.3~00.5)	密・酸・並・明黄褐・黒色鈹物粒子	縦位の篋削りが持ち替えにより方向を変えている。	漆田産か
10-00838	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.3~0.8	並・還・並・外面明黄褐/内面灰・頸 部	縦位の篋削りが持ち替えにより方向を変えている。	漆田産か
10-00839	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.3	並・酸・並・橙・黒色鈹物粒子・赤 褐色粒子	胴部細片の一部に墨痕認められる。文字の一部の可能性は 判断できない。	東毛産 墨書-65
10-00840 61	須恵器 坏	P,内 一部欠損	口11.7 底5.6 高3.8	粗・中・軟・明黄褐/灰黄・黒色鈹物 粒子多量・白色粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。底部の器厚は厚く、 口縁部は薄い。器内外面に焼成時の燻る。	漆田産か
10-00841 61	須恵器 坏	P,内 完形	口12.4 底5.4 高3.9	並・還・並・白灰・黒色粒子(熔黒 色鈹物粒子)	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器厚は厚い。口縁部 は強く外反して立ち上がる。	漆田産
10-00842	須恵器 坏	覆土内 破片	口(11.2) 底(7.0) 高3.5	並・還・硬・外面白灰/内面灰/断白 灰黒色粒子・白色微粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器厚は薄い。等当遺 跡で希少な秋間産須恵器坏である。	秋間産

第31号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00843	須恵器 坏か境	壁溝内 破片	口(12.0)	並・還・軟・灰・黒色粒子(熔黒色 鉱物粒子)	轆轤成整形右回転。腰部は丸みを帯び立ち上がる。口縁部 は薄く外反して立ち上がる。内外面に燻る。	漆田産か
10-00844	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.0) 底(6.4) 高4.4	並・酸・粗・鈍橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施し、斜位の寛撫で整形。	東毛産 墨書-66
10-00845	土師器 坏	覆土内 破片	口(13.2)	並・酸・並・黄橙・赤褐色粒子・黒色 鉱物粒子・白色粒子	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。外面に墨書判読不明。	東毛産 墨書-67
10-00846	土師器 坏	覆土内 破片	口(13.4)	並・酸・並・明黄褐・黒色鉱物粒子 若干・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。外面墨書「男」か。	太・笠・雷周 辺か墨書-68
10-00847	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.3	密・酸・硬・橙・夾雑物無し・C生 地土	型作り。器内面及び外面口縁部は横撫で整形。外面体部は 甘い撫で整形。外面に墨書乃至墨痕。	太田産か雷電 山産墨書-69
10-00848	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.4	並・酸・粗・鈍橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。10-00844の同 一固体か。	東毛産 墨書-70
10-00849	須恵器 坏	覆土内 破片	底(8.0)	密・還・並・灰・石英雲母片岩	轆轤成整形右回転。底部は回転削り。腰部が非常に張る 形状を呈する。	太田産か
10-00850 61	土師器 境	覆土内 1/4	口(13.2) 底(6.4) 高6.0	密・酸・並・黄橙・夾雑物無し・C 生地土	型作り。内面及び口縁部は横撫で。口縁部直下は型膚を残 す甘い撫で後斜位の削り整形。外面墨書か。	太・笠・雷周 辺か墨書-71
10-00851	須恵器 境	床直層 1/4	口(14.0) 底(6.4) 高4.8	密・酸・並・黄灰・黒色粒子(熔黒 色鉱物粒子)・白色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。腰部・体部は緩やか な丸みを帯び立ち上がる。	東毛産
10-00852	土師器 内黒坏	覆土内 破片	厚0.4	並・酸・硬・外面鈍橙・夾雑物無し	型作り。内面及び口縁部は横撫で。口縁部直下は型膚を残 す甘い撫でを施す。器内面は研磨を施し燻し焼成。	東毛産
10-00853	土師器 坏	覆土内 破片	底(5.4)	密・酸・並・明黄褐・夾雑物微量・ C生地土	型作り。底面に離砂痕が認められる。	太・笠・雷周 辺か
10-00854	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口(20.8) 胴部(24.6) 胴部(24.6)	並・酸・硬・外面鈍橙/黒褐・内面黄 橙・石英門粒・長石・黒色鉱物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。胴部は貼り付け。口縁部の内 傾は強く胴部は短い。吉井羽釜甲1種呂類。	吉井産

第32号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00855	土師器 甕	床直層 破片	口(17.4) 頸(15.8)	並・酸・硬・橙・黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	紐作りか。頸部は肥厚する。口縁部は強い横撫で(篋)に より「く」の字状口縁に成形する。口唇部は内側に突出。	東毛産
10-00856	須恵器 坏	覆土内 破片	口(11.2) 底(5.4) 高3.3	密・還・締・暗灰/鈍赤褐・明灰白色 岩片・C生地土	轆轤成整形右回転。底部は回転削り。腰部はやや張り気味。 口縁部は直線的に立ち上がる。	不詳
10-00857	須恵器 坏	P内 1/3	口(12.0) 底(5.4) 高3.7	並・還・軟・黄灰・微粒石英多量・ 凝灰岩片・C生地土	轆轤成整形右回転。底部は回転削り。器厚は薄い。腰部は 丸みを帯び立ち上がり、口縁部は緩やかに外反する。	太・笠・雷周 辺か墨書-72
10-00858	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.8	並・還・並・灰・黒色鉱物粒子・C 生地土	轆轤成整形右回転。外面の轆轤目の単位は細かい。外面に 墨書が認められる。	東毛産 墨書-73
10-00859	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(13.6)	密・還・締・灰・黒色粒子(熔黒色 鉱物粒子)・凝灰岩片・C生地土	轆轤成整形右回転。端部は折り返す。摘部を欠損。器厚は 薄い。	不詳

第33号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00860	土師器 坏	覆土内 破片	口(13.0)	並・酸・硬・橙・黒色鉱物粒子・2 種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	東毛産
10-00861	土師器 甕	床直層 破片	口(20.8) 頸(18.8)	密・酸・硬・鈍橙・赤褐色粒子若干・ 黒色鉱物粒子微量・C生地土	「コ」の字状口縁。頸部は長く直立する。口縁部は強い横撫 で成形により外傾する	太・笠・雷周 辺か
10-00862	須恵器 皿	覆土内 破片	口(13.0)	並・還・粗・白灰・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	轆轤成整形右回転。内面は布挽き。	漆田産

第34号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00863	土師器 坏	覆土内 破片	口(11.0) 底(7.0) 高2.9	並・酸・並・鈍橙・夾雑物無し・C生 地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は削り。	太・笠・雷周 辺か
10-00864	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.0)	並・酸・並・鈍橙・夾雑物無し・C生 地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か墨書-74
10-00865	土師器 坏	覆土内 破片	口(13.2) 底(10.0) 高3.5	並・酸・硬・橙・赤褐色粒子・黒色 鉱物粒子・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は削り。	東毛産 墨書-75
10-00866	土師器 坏	甕内 破片	口(12.4) 底(6.6) 高3.0	密・酸・硬・鈍橙・砂粒・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は削り。	太・笠・雷周 辺か
10-00867	土師器 坏	覆土・甕内 1/2	口(12.0) 底(8.2) 高3.2	密・酸・硬・橙・黒色鉱物粒子・C 生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は削り。	太・笠・雷周 辺か
10-00868	土師器 台付甕	甕口掘方 破片	口(11.4) 頸(11.0) 胴(14.0)	密・酸・硬・橙・夾雑物無し・C生 地土	胴部は丸みが強い。頸部・口縁部は直立して立ち上がる。 外面は横位の削り。内面は横位の寛撫で。	太・笠・雷周 辺か
10-00869	土師器 甕	床直層 破片	口(19.6) 頸(18.4)	密・酸・並・黄橙・黒色鉱物粒子・ 夾雑物微量・C生地土	頸部はやや内傾し、口縁部は短く外傾する。肩部の削り は横位で長く削られている。器厚は薄い。	太・笠・雷周 辺か
10-00870	須恵器 坏	覆土内 破片	底(8.6)	並・還・並・白灰・微粒少量	轆轤成整形右回転。底部は回転削り。器内外焼成時の燻 しが認められ、秋間産の特徴的な発色を呈する。	秋間産
10-00871	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.5	並・酸・硬・明黄褐・白色微粒子・ C生地土	轆轤成整形右回転。内面は横位の研磨を施すが、燻し焼成 未処理が、被二次焼成か破片のため判断は着けがたい。	東毛産 墨書-76
10-00872	須恵器 内黒坏	覆土内 破片	底(6.0)	並・還・並・明黄褐・白色微粒子・ C生地土	轆轤成整形右回転。底部は回転削り。器内面に横位の研磨 施し燻し焼成処理を行う。	笠懸産か
10-00873	須恵器 小形甕	覆土内 破片	口(11.4) 頸(10.6)	並・還・締・灰・白色微粒子・黒色 粒子・2種生地土	紐作り後轆轤右回転成整形。胴部に2条の横線を施文する。 外面に自然釉が認められる。	東毛産か
20-00157	石器 蔽石	覆土内 部分欠損	残長12.0 幅5.7厚 4.7 重506	粗粒輝石安山岩	礫の側面とに利器等の当たり痕が認められる。	
20-00158	石製品 砥石	床直層 1/2以上	残長11.7 幅5.6 厚3.0~1.2 重174	砥沢石	砥面の縁辺に緩やかな使い減りが認められる。研磨主体は 大身の利器(刀等)と思われる。	

第35号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00874	土師器 台付甕	覆土内 破片	口(10.4) 頸(9.2) 胴(10.6)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子・ 赤褐色粒子・2種生地土	球形の胴部から頸部は垂直に立ち上がり、口縁部は強く外傾する。頸部は厚く肥厚する。	東毛産
10-00875	土師器 甕	床直層 破片	口(17.8) 頸(16.8)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子・ 夾雑物微量・C生地土	紐作り。頸部は内傾し口縁部は外反して立ち上がる。しながら立ち上がる。	太・笠・雷周 辺か
10-00876	土師器 甕	覆土内 破片	口(16.8)頸(15.6) 胴(20.0)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・1種生地土	球形の胴部から、頸部は内傾して立ち上がり、口縁部は強く外傾して立ち上がる。器厚は厚い。	東毛産
10-00877	須恵器 環	覆土内 1/4	口(13.6) 底(6.0) 高3.5	並・中・並・黄灰・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・1種生地土	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部が張りり体部・口縁部は直線的に立ち上がる。外面に判読不能墨書。	東毛産 墨書-77
10-00878	須恵器 環	覆土内 破片	口(13.8) 底(6.0) 高4.7	密・酸・硬・鈍橙・雲母微量・C生 地土	轆轤成整形右回転。高台は付け高台で、坏部の底面に貼り付ける。腰部・体部は丸みを帯び立ち上がる。	太・笠・雷周 辺か
10-00879	須恵器 環か塊	覆土内 破片	口(14.6)	粗・還・軟・白灰・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	轆轤成整形右回転。腰部がやや張り気味。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。器高は深め。	東毛産
10-00880	須恵器 小瓶	覆土内 破片	底(4.4)	密・還・締・外面暗灰/断面茶褐・夾 雑物微量・C生地土	轆轤成整形右回転。器厚は薄い。	栃木か東海産
40-00065 61	鉄器 鏝か	35号住 覆土破片	残長5.3 幅0.75 厚0.5 重12		寛度は断面長方形を呈する。鏝面部分は不明瞭な点がある。両端共に旧欠。	

第36号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00881	土師器 環	覆土内 破片	口(12.4) 底(8.4)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子・ 凝灰岩片・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は土層を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-00882	土師器 甕	覆土内 破片	口(13.4) 胴(13.0) 底(4.0)	並・中・並・灰黄・細粒状角礫・チャ ート円礫	型作りか。底部は丸底状。胴部がやや張っている。口縁部は強く外反して立ち上がる。外面粗い刷毛撫で整形。	搬入品
10-00883 62・138	土師器 甕	覆土/掘方 電掘/破片	口(18.8) 頸(17.4) 胴(21.2)	並・酸・並・橙・微粒白色鉱物粒子 微量・夾雑物微量・C生地土	下半部は型作り。上半部は紐作りか。頸部は軽い撫で整形で度目(?)を残す。口唇部は寛撫でにより二重。	太・笠・雷周 辺か
10-00884 62・137	土師器 甕	床直/掘方 電掘/破片	口(19.6) 頸(18.0) 胴(21.4)	密・酸・硬・黄橙・石英・赤褐色粒 子・砂粒・C生地土(0315同土)	下半部は型作り。上半部は紐作りか。頸部は回転寛撫で整形。口縁部に粘土紐の積み上げ痕が認められる。	太・笠・雷周 辺か
10-00885 62・137	土師器 甕	電掘道/電 掘破片	口(20.0) 頸(18.2) 胴(22.6+α)	密・酸・硬・黄橙・石英・赤褐色粒 子・砂粒・C生地土(0315同土)	上半部は紐作りか。頸部は回転撫(指か)で整形。口唇部は寛撫でにより二重になっている。	太・笠・雷周 辺か
10-00886	土師器 甕	覆土/掘方 電掘/破片	口(20.4) 頸(19.4)	並・酸・並・鈍橙・赤褐色粒子・黒 色鉱物粒子微量・C生地土	下半部は型作り。上半部は紐作りか。頸部は軽い撫で整形で度目(?)を残す。口唇部は寛撫でによる幅が広い。	太・笠・雷周 辺か
10-00887	土師器 甕	床直/掘方 電掘/破片	口(20.6) 頸(18.4)	密・酸・硬・鈍橙・白色粒子・白色 微粒子・夾雑物微量・C生地土	下半部は型作り。上半部は紐作りか。頸部は軽い撫で整形で度目(?)を残す。口唇部は寛撫でによる幅が広い。	太・笠・雷周 辺か
10-00888 62・137	土師器 甕	床直/覆土/ 電掘1/4	口(20.6) 頸(19.0) 胴(23.2)	密・酸・硬・黄橙・石英・赤褐色粒 子・砂粒・C生地土	下半部は型作り。上半部は紐作りか。頸部は回転撫(指か)で整形。口唇部は寛撫でにより二重になっている。	太・笠・雷周 辺か
10-00889	土師器 甕	覆土内 破片	底(4.0)	並・酸・硬・暗褐・赤褐色粒子・細 粒石英・黒色鉱物粒子・C生地土か	型作り。底面にハゼ。外面は斜位の寛削り、内面は横位の寛撫で。	太・笠・雷周 辺か
10-00890	土師器 甕	覆土内 破片	底(3.4)	粗・酸・並・橙・黒色鉱物粒子・石 英・軽石・2種生地土	型作り。底面は離砂。外面は斜位の寛削り、内面は横位の寛撫で。	東毛産
10-00891	須恵器 皿	覆土内 破片	底(7.0)	並・還・硬・灰・石英片岩	轆轤成整形右回転。器厚は薄い。底部は直線的に立ち上がる。轆轤目が強い。	埼玉北部か吉 井産
10-00892	須恵器 皿	床直層 1/3	口(14.0) 底(7.2)	粗・還・締・暗灰・石英片岩・高2.4	轆轤成整形右回転。器厚は薄目。底部は直線的に立ち上がる。	埼玉北部か
10-00893	須恵器 瓶	床直層 破片	底(14.2)	並・還・締・暗灰・石英・黒色粒子 (熔黒色鉱物粒子)	紐作り後轆轤右回転成整形。高台は付け高台。外面は左回転寛撫で再整形。	伊勢崎上植木 か
10-00894	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.6	並・還・締・灰白・夾雑物無	回転寛起こしの底面片。	伊勢崎か
10-00895	須恵器 大甕	床直層 破片	厚0.9	密・還・締・灰・白色微粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は素文か。内面は薄く粘土が貼られている。	笠懸産か
40-00066 62	鉄器 刀子	覆土内 破片	残長16.0 身幅1.8 厚0.3 茎幅0.8 重29		錆化・調査後の欠損が顕著。刃関がしっかりしているが、全体には研滅った姿。	
40-00067 62	鉄器 鏝か	覆土内 破片	残長3.0 幅0.6 厚0.5 重10		上端側は旧欠。断面長方形を呈する。詳細不分明。	
40-00067 62	鉄器 釘	覆土内 破片	残長8.0 幅0.5 厚0.5 重10		先端は調査後の欠損。頭部は叩き潰した状態で、釘としての完成した状態ではない。	
40-00068 62	鉄器 刀子	覆土内 破片	残長7.0 身幅1.1 茎 幅0.8 茎厚0.2 重13		茎尻・刀身側は調査後の欠損。錆化が顕著。茎は尻側でやや俯く。	
40-00069 62	鉄器 刀子	覆土内 破片	残長1.7 幅1.0 厚0.2 重2		錆化が顕著。刀身部の破片。詳細不分明。	
20-00159	礫器 擦石/敲石	床直層 完存	長9.8 幅7.0 厚5.8 重652	変質玄武岩	両小口・凸面側に集中打痕。側部・平坦面側に摩滅が認められる。	
20-00160	礫器 擦石	覆土内 完形	長9.1 幅5.5 厚2.5 重160	粗粒輝石安山岩	表裏面に使用痕が認められ、図表面の摩滅が顕著。小口と側部に槌打痕が認められる。	

第37号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00896 62	土師器 甕	床直層 破片	口(18.8) 頸(17.0)	並・酸・並・鈍橙・夾雑物微量・細 粒砂・C生地土	頸部は内傾気味に立ち上がり、口縁部は強く外傾して立ち上がる。立ち上がり部は強い窪の当たりが認められる。	太・笠・雷周 辺か
10-00897	土師器 甕	床直層 破片	口(19.4) 頸(17.4)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子微 量・夾雑物微量・C生地土	頸部は外傾気味に立ち上がる。口縁部には、粘土紐積み上げ時の刷毛状工具の撫で整形痕が認められる。	太・笠・雷周 辺か
10-00898	土師器 甕	床直層 破片	厚0.8	並・酸・硬・明黄褐・黒色鉱物粒子 微量・夾雑物微量・C生地土	頸部上半部まで寛削りが及んでいる。器厚は厚い。	太・笠・雷周 辺か
10-00899	須恵器 環	床直層 破片	底(7.0)	密・還・締・灰・白色針状鉱物	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部は回転寛削りを施す。	埼玉比企産
10-00900	須恵器 塊	覆土内 破片	底(9.2)	密・還・硬・灰・丸みを帯びた石英 片岩	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。内面は摩滅している。	東毛産
10-00901	須恵器 塊	覆土内 破片	厚0.4	密・還・締・灰(断/茶褐)・白色鉱 物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。非常に焼き締まっている。	栃木・三義産 か

富田漆田遺跡 諸元

第37号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00902	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	厚0.4	並・還・締・白灰 釉調=薄く、発色が認められない。	轆轤成整形右回転。施釉方法は不詳。	搬入品
10-00903 62	施釉陶器 灰釉平瓶	床直 一部欠損	口(3.8) 底(7.3) 高7.9	密・還・締・灰 釉調=オリーブ灰	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。体部は回転篋撫でを 施す。把手を欠損する。	搬入品
40-00070 62	鉄器 釘	37号住居土 破片	残長3.7 幅0.5 厚0.3 重7			
20-00161	礫器 擦石	床直層 部分欠損	長10.0 幅4.2 厚3.6 重185	粗粒輝石安山岩	扁平面が摩滅する。側部周辺が欠損。	

第38号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00904	土師器 環	覆土内 破片	厚0.8	並・酸・軟・黄橙・シルト質・赤褐 色粒子・黒色鉱物粒子・凝灰岩片	型作りか。内面に螺旋暗文を施す。	藤岡産か
10-00905 62	土師器 環	P ₁ 内 完形	口9.6 底6.3 高3.4	並・酸・硬・暗褐・黒色鉱物粒子・ β石英・白色粒子・2種生地土	型作りか。外面は小単位で横位の篋撫で。内面は横位の撫 で整形。	東毛産
10-00906 62	土師器 環	P ₁ 内 高台欠損	口15.4 坏底7.8残 高4.7	並・酸・硬・鈍橙・黒色鉱物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生地土	型作り。須恵器環を型にしている可能性がある。外面篋撫 で、内面横位の撫で整形。	東毛産
10-00907	土師器 甕	覆土内 破片	厚1.1	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	紐作り。内外面共に横位の撫で整形。	東毛産
10-00908	土師器 小型甕	覆土内 破片	口(11.4) 頸(10.6)	並・酸・並・黒色鉱物粒子 (角粒状)・ β石英・2種生地土	紐作りか。作りは10-00915に同じ。頸部に1条の沈線を巡 らせる。頸部・口縁部は肥厚する。	東毛産
10-00909 63・137	土師器 甕	焚口 破片	口(15.4) 頸(15.2) 胴(17.2)	並・酸・粗・東毛産・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	紐作り。頸部直下に未整形部分を残り沈線を巡らせる。口 縁部は短く外反する。被熱風化が顕著。	東毛産
10-00910	土師器 甕	覆土内 破片	口(18.2) 頸(16.4)	並・酸・並・黒色鉱物粒子 (角粒状)・ β石英・2種生地土	紐作りか。作りは10-00915に同じ。頸部に2条の沈線を巡 らせる。口唇部は肥厚する。	東毛産
10-00911 63・137	土師器 甕	甕内・覆土 破片	口20.0 頸18.6	並・酸・並・鈍橙・黒褐・黒色鉱物 粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	紐作りか。作りは10-00915部分的に二重口唇になっている。	東毛産
10-00912	土師器 甕	床直層 破片	口(20.2) 頸(18.2)	並・酸・並・鈍橙・黒褐・黒色鉱物 粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	紐作りか。作りは10-00915に同じ。頸部に2条の沈線を巡 らせる。口唇部は肥厚する。	東毛産
10-00913	土師器 甕	電覆土内 破片	口(21.2) 頸(18.8)	並・酸・並・黒色鉱物粒子 (角粒状)・ β石英・2種生地土	紐作りか。作りは10-00915に同じ。頸から口縁部に3条の 沈線を巡らせる。口唇部は肥厚する。	東毛産
10-00914 63	土師器 甕	甕内・覆土 破片	口(24.2) 頸(23.0) 胴(24.8)	並・酸・並・明黄褐・チャート円粒・ 角砂礫・C生地土	紐作りか。器形は鉢形に類するか。口縁部は立ち外傾する。 外面は縦位の篋撫で。内面は横位の撫で整形。	太・笠・雷周 辺か
10-00915 63・137・138	土師器 甕	P ₁ 内 完形	口21.8 頸20.5 胴 24.0 底6.2 高26.8	並・酸・並・鈍橙・黒褐・黒色鉱物 粒子少量・石英少量・2種生地土	下半部は型作り。胴中位接合帯部分は乾燥がある程度進ん だ後に上位を製作。頸部は沈線2条を施す。	東毛産
10-00916	土師器 甕か	甕左壁 破片	底(7.0)	並・酸・並・黒色鉱物粒子 (角粒状)・ β石英・2種生地土	底部の器厚は厚い。外面は斜位の篋撫で。内面は横位の篋 撫整形 (刷毛状)。底面は離砂。	東毛産
10-00917	土師器 甕か	甕内・覆土 破片	底7.0	並・酸・並・鈍橙・黒褐・白色粒子微量・ C生地土	底部の器厚は厚い。外面は斜位の篋撫で。内面は横位の篋 撫整形 (刷毛状)。底面は未整形。	太・笠・雷周 辺か
10-00918	土師器 甕	覆土内 破片	底(7.8)	並・酸・並・黒色鉱物粒子 (角粒状)・ β石英・2種生地土	底径は大きく器厚は厚い。外面は斜位の篋撫で。内面は横 位の篋撫整形 (刷毛状)。底面は離砂。	東毛産
10-00919	土師器 甕か	電覆土内 破片	底(8.6)	並・酸・並・黒色鉱物粒子 (角粒状)・ β石英・2種生地土	底径は大きく器厚は厚い。外面は斜位の篋撫で。内面は横 位の篋撫整形 (刷毛状)。底面は離砂。	東毛産
10-00920 63	須恵器 環	床直層 完形	口11.2 底6.0 高3.2	並・酸・硬・黄橙・黒色鉱物粒子・ 角粒状黒色礫・2種生地土	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。底部はやや丸みを帯 び立ち上がる。底面は棚落ちしている。	東毛産
10-00921 63	須恵器 環	甕右袖 2/3	口12.2 底5.2 高3.1	密・還・締・暗灰・石英片岩多量	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部が落ちた作り。 体部がやや張り、口縁部は緩やかに外反する。	埼玉北部末野 産か
10-00922 63	須恵器 環	床直 部分欠損	口12.4 底5.8 高4.0	並・酸・粗・黄橙・黒色鉱物粒子・ 2種生地土	轆轤成整形右回転。内外面は布挽き。底部は回転糸切。底 部は丸みを帯び口縁部は短く外反。内面は荒れている。	東毛産
10-00923 63	須恵器 環	焚口 1/2	口(11.9) 底(5.5) 高4.2	粗・酸・軟・黄灰・黒色鉱物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生地土	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部が落ちた作り。 体部がやや張り、口縁部僅かは丸みを帯び立ち上がる。	太・笠・雷周 辺か
10-00924	須恵器 環	覆土内 破片	底5.8	並・酸・粗・鈍橙・黒色鉱物粒子・ 2種生地土	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰の落ちた作り。	太・笠・雷周 辺か
10-00925 63	須恵器 甕	P ₁ 内 3/4	口12.1 底7.0 高5.1	並・酸・粗・明黄褐・黒色鉱物粒子 多量・2種生地土	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。腰部が落ちた作り。 体部・口縁部は直線的に立ち上がる。	太・笠・雷周 辺か
10-00926 63	須恵器 甕	甕左壁 3/4	口11.6 底(7.2) 高4.7	並・酸・軟・黄橙・黒色鉱物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生地土	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。体部は丸みが強く、 口縁部は外傾する。内外面は布挽きされている。	東毛産
10-00927	須恵器 環	P ₁ 内 破片	口(12.8)	粗・酸・軟・黄灰・黒色鉱物粒子・ 2種生地土	轆轤成整形右回転。体部は丸みが強く口縁部は稜を作りな がら外傾して立ち上がる。器厚は厚い。	東毛産か
10-00928 63	須恵器 甕	焚口 高台欠損	口15.2 坏底7.6 坏高7.6	粗・酸・軟・明黄褐・灰黄・黒色鉱 物粒子・β石英・2種生地土	轆轤成整形右回転。高台欠損、付け高台。体部はやや張り 口縁部は短く外反する。器厚は厚い。	東毛産
10-00929 63	須恵器 甕	焚口底直層 完形	口15.9 底9.0 高6.8	粗・酸・軟・明黄褐・黄橙・黒色鉱 物粒子・β石英・2種生地土	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。10-00928と同一器形。	東毛産
10-00930	須恵器 甕	甕覆土内 破片	底7.8	粗・酸・軟・鈍橙・橙・黒色鉱物粒 子・2種生地土	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。坏部底部は腰部が落 ちた作り。高台は高目。	太・笠・雷周 辺か
10-00931	須恵器 甕	甕覆土内 破片	底(8.2)	並・酸・軟・内面黒褐/外面白灰・黒 色鉱物粒子・白色粒子・2種生地土	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。腰部直線的に立ち上 がる。器厚は厚い。	漆田産
10-00932	須恵器 甕	覆土内 破片	口(15.2)	並・酸・粗・黄橙・橙・黒色鉱物粒 子・微粒雲母・破碎石英・D生地土	轆轤成整形右回転。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。 器厚は厚い。	不詳
10-00933 63・138	土師器 羽釜	電燃焼部 完形	口19.4 罎23.0 胴 22.6 底7.2 高27.0	密・酸・硬・明黄褐・角粒砂・C生 地土	紐作りか。外面上半部は縦横位の刷毛撫で、下半部は縦位 の篋撫で整形。内面は縦横位の刷毛撫で整形。	東毛産
10-00934 64・138	土師器 羽釜	電燃焼部 完形	口19.1 罎24.7 胴 23.7 底7.1 高26.8	並・還・粗・鈍橙・細粒石英・β石英・ 黒色鉱物粒子・2種生地土	紐作りか。外面は縦位の刷毛撫で後斜位の篋撫で。内面は 横位の刷毛撫で整形。工人は左利きか。	東毛産
10-00935 64	土師器 片口鉢	甕左壁 部分欠損	口(22.0) 底11.8 高13.0	並・酸・硬・明黄褐・赤褐色粒子・ 黒色鉱物粒子・β石英・2種生地土	基本成形は不詳。外面は篋撫で整形。内面は刷毛撫で整形 後再撫で整形。口縁部は高速回転による撫で整形。	東毛産
10-00936	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	厚0.5	密・還・締・灰・シルト粗粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。肩部より上位は自然釉が付着。 釉調はオリーブ灰。	搬入品栃木か
10-00937	須恵器 広口瓶	覆土内 破片	底(19.0)	密・還・締・暗灰・黒色粒子・C生 地土	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、内面は横位の撫で整 形により宛具は不明。	秋間産か

第38号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00938 64	施釉陶器 灰釉 皿	床直 一部欠損	口12.4 底6.6 高2.4	並・還・締・白灰 釉調=薄く透明	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。外面体部には回転寛 削りが認められない。器内面が摩滅する。	搬入品
10-00939	施釉陶器 灰釉 皿	覆土内 破片	口(14.0)	密・還・締・灰黄 釉調=薄く透明	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	搬入品
10-00940	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	底(7.2)	密・還・締・灰 釉調=オリーブ灰・白濁	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。下半部は回転寛撫 でを施す。器内面が摩滅する。	搬入品
10-00941	施釉陶器 灰釉 輪花碗	覆土内 破片	口(17.4)	密・還・締・灰 釉調=白濁	轆轤成整形右回転。輪花を施す。施釉は浸し掛け。	搬入品
10-00942	施釉陶器 灰釉 碗	左壁 破片	底8.0	密・還・締・灰 釉調=オリーブ灰	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。	搬入品
10-00943 64	施釉陶器 灰釉 碗	床直 1/2	口(16.6) 底(9.5) 高6.1	密・還・締・灰 釉調=白濁	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。高台は三日月高台。 施釉は浸し掛け。	搬入品
20-00162	礫器 擦石	覆土内 部分欠損	長23.0 幅7.1 厚5.1	粗粒輝石安山岩	全体が摩滅し、小口に打撃による剝離が認められる。	
20-00163	礫器 擦石	覆土内 部分欠損	残長10.3 幅10.3 厚4.2	粗粒輝石安山岩	扁平面の両面が摩滅する。	
20-00164	石器 叩き石	覆土内 完形	長12.9 幅8.1 厚7.5 重911	粗粒輝石安山岩	全体に欠損部分が多い。集中端打痕が広範囲に認められる。	

第39号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00944	土師器 壺	覆土内 破片	口(18.8) 頸(16.4)	並・酸・硬・鈍橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	紐作りか。口縁部は強い横撫で整形により、轆轤目状の 整形痕が残る。肩部直下は横位の寛削り。	東毛産
10-00945	土師器 壺	床直層 破片	口(19.6) 頸(17.4) 胴(21.0)	並・酸・硬・黄橙・赤褐色粒子・微 粒透明鉱物粒子・C生地土	型作り。口縁部・頸部は寛撫で。外面胴部は縦位の寛撫で と寛削り。肩部は救い上げる寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-00946	土師器 壺	電掘方 破片	底(4.4)	並・酸・並・外面鈍橙・内面赤橙褐・ 微粒石英微量・C生地土	型作り。器厚は薄い。外面は縦位を基調とする寛削り。内 面は丁寧な撫で整形仕上げになっている。	太・笠・雷周 辺か
10-00947	須恵器 皿	覆土内 破片	底(7.0)	並・還・締・灰白・白色微粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転系切。器厚は薄い。器形は 大身。	笠懸産か
10-00948 64	須恵器 壺	覆土内 1/4	口(14.8) 底(7.8) 高5.5	並・還・軟・白灰・黒色鉱物粒子・ β石英・2種生地土	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。体部が長く器高が高 い。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。	東毛産
10-00949	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(13.0)	並・還・締・灰・黒色粒子	轆轤成整形右回転。天井部は回転寛削り。	秋間産
10-00950	須恵器 壺	覆土内 破片	厚0.7	並・還・締・暗灰・白色微粒子・ 白色微粒子	紐作り後叩き整形。外面は素文叩き、宛具は素文。外面に 部分的に寛撫で。内面に轆轤条痕が認められる。	乗附産
10-00951	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(16.4)	密・還・締・灰 釉調=オリーブ灰	轆轤成整形右回転。高台の基部まで残存する。施釉は浸し 掛け。	搬入品
10-00952	須恵器 塊転用円盤	床直 完形	径7.0 底6.8	密・還・硬・黒褐・夾雑物無	黒色土器の底部を転用する。打撃剝離により成形する。	産不詳
20-00165	石製品 紡錘車	床直 一部欠損	径5.2 厚0.95 孔径0.8~0.95	蛇紋岩	作りは薄い。表裏面は磨き仕上げで細かな擦痕が認められ る。側部は多面体整形は認められない。	
40-00071 64	銅器 蓋か	覆土上層 部分欠損	残存長径5.0 厚0.1 推定径5.6		鋳造製品と考えられる。表面側が窪む。中央に把手を陽出 している。	

第40号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00953	土師器 環	覆土内 破片	口(10.6) 底(8.4)	並・酸・硬・橙・透明鉱物粒子・A 乃至1種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	東毛産
10-00954	土師器 環	掘方内 破片	口(12.0) 底(9.8)	並・酸・硬・鈍橙・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-00955	土師器 環	掘方内 破片	口(13.2) 底(9.4)	並・酸・硬・鈍橙・黒色鉱物粒・透 明鉱物粒・夾雑物微量・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	東毛産
10-00956	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.4	並・還・締・灰白・夾雑物無	轆轤成整形右回転。外面に大きな文字を墨書する。墨書の 判読は不能。	墨書- 東毛産
10-00957	須恵器 環	壁溝内 1/4	口(12.0) 底(6.0) 高3.6	並・還・硬・外面黒褐/内面灰白・黒 色粒子・白色微粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転系切。轆轤目が立つ。体部 は丸みを帯び、口縁部は短く外反する。	東毛産
10-00958	須恵器 環	覆土内 破片	底(6.0)	並・還・締・黒灰・白色微粒子・黒 色粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転系切。腰部が落ちた作り になっている。	笠懸産か
10-00959	須恵器 環	覆土内 破片	底(6.0)	並・還・締・灰・白色微粒子・黒色 粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転系切。腰部が落ちた作り になっている。	笠懸産か
10-00960	須恵器 環	覆土内 破片	底(7.2)	並・還・軟・内外面黒褐/断面白灰・ 夾雑物無	轆轤成整形右回転。底部は回転系切。内外面は燻し焼成 により、黒褐色を呈する。断面は白灰を呈する。	秋間産
10-00961	須恵器 環	覆土内 破片	底(6.6)	並・還・締・灰・白色微粒子・黒色 粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転系切。腰部が落ちた作り になっている。	笠懸産か
10-00962	須恵器 環	覆土内 破片	底(7.6)	粗・還・硬・灰・黒色粒子・白色微 粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転系切。腰部が落ちた作り になっている。	笠懸産か
10-00963	須恵器 蓋	覆土内 破片	径4.0	密・還・締・灰黄・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子微量	轆轤成整形右回転。天井部は回転寛削りを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-00964	須恵器 短頸壺	壺内 破片	口(11.8) 頸(11.4)	並・中・締・灰黄・白色微粒子微量	紐作り後轆轤右回転成整形。口唇部を一部欠損する。肩部 の器厚は厚い。	太・笠・雷周 辺か

第59号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00965 64	須恵器 皿	覆土内 1/2	口(14.2) 底(9.4) 高2.6	並・還・並・灰白/黄灰・白色微粒子 少量・褐色粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。作りは端整。	東毛産

第42号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00966 64	土師器 坏	覆土下層 部分欠損	口(14.0) 底(13.8) 高6.6	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に 型目を残す。底面は篋削り後横撫で整形。	東毛産
10-00967 64	土師器 坏	床直層 部分欠損	口(12.5) 底(3.5) 高6.3	並・酸・並・橙・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生地土	作りは不詳。外面は小単位の篋撫で整形を施す。口縁部内 外面は横撫で整形を施す。	東毛産
10-00968 64	土師器 埴	床直層 部分欠損	口12.1 頸10.8 肩11.4 底3.8	並・酸・並・橙・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生地土	作りは不詳。外面は全体に燻り、小単位の篋撫で整形を施 す。口縁部内外面は横撫で整形を施す。	東毛産
10-00969 64	土師器 短頸壺	床直 1/2	口(10.0) 頸(9.6) 肩(9.6) 胴(11.0)	並・酸・並・橙・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子・2種生地土	上半部は紐作り2段。口縁部は直立気味。外面は小単位の 篋撫で。内面は粗い縦位の篋撫で整形。	東毛産
10-00970 64	土師器 短頸壺	覆土下層 一部欠損	口10.3 頸9.6 肩14.0 底5.9	並・酸・並・橙・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生地土	胴中位より上位は紐作り。下半部は型作りか。外面は小単 位の篋撫で。内面は粗い縦位の篋撫で整形。	東毛産
10-00971 64	土師器 短頸壺	床直層 破片	口(10.4) 頸(9.8) 肩(11.0)	並・酸・並・橙・クロ粒・砂粒・2 種生地土	作りは不詳。外面は刷毛撫で後小単位の篋撫で。内面は粗 い斜位の篋撫で整形。	東毛産
10-00972	土師器 埴	覆土内 破片	口(7.0) 頸(5.8)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉾物粒子・ 透明鉾物粒子・2種生地土	紐作り。口縁部は外傾して立ち上がる。外面は刷毛撫で横 位の撫で整形。内面は横位の刷毛撫で後横撫で整形。	東毛産
10-00973	土師器 壺	覆土下層 破片	口(15.0) 頸(10.8)	並・酸・並・明黄褐・黒色鉾物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	紐作り。口縁部は「く」の字状に外傾して立ち上がる。外 面は刷毛撫で後縦位の篋撫で。内面頸部基部に絞り痕。	東毛産
10-00974	土師器 高坏	覆土内 破片	口(16.0)	並・酸・並・橙・黒色鉾物粒子・細 粒状角礫・Aか1種生地土	器内面に放射状暗文を施す。外面口縁部直下には丁寧な指 撫でを施す。口縁直下に未整形部分が見られる。	東毛産
10-00975	土師器 高坏	覆土内 破片	口(20.0)	並・酸・並・橙/黄橙・黒色鉾物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	内外面に暗文を配する。内面は斜格子状に施す。外面は 細片の為詳細不詳。	東毛産
10-00976 65	土師器 脚付短頸壺	覆土内 部分欠損	口(13.8) 頸10.1 胴 13.9 脚12.0 高20.8	並・酸・並・橙/黄橙・黒色鉾物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	脚上に短頸壺を乗せる状態で接合したものと考えられる。 外面は研磨を施す。内面は横位の篋撫で整形を施す。	東毛産
10-00977 65	土師器 高坏脚部	床直層 坏部欠損	脚端13.0 高7.0	並・酸・硬・鈍橙・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・2種生地土	紐作り。乾燥以前に脚端部に亀裂が入り、その補修痕が残 る。亀裂は脚中位にまで達していたと考えられる。	東毛産
10-00978 65	土師器 高坏脚部	床直層 坏部欠損	脚端14.0 高9.7	並・酸・硬・鈍橙・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生地土	紐作り。6段認められる。外面は縦位の研磨を施す。基部 は坏部が離脱後二次焼成。	東毛産
10-00979 65	土師器 壺	床直層 完形	口17.2 頸13.0 胴22.1 底5.6	並・酸・並・赤褐・黒色鉾物粒子・ β石英・2種生地土 (赤ネバ)	球形胴を呈する。外面は斜位・縦位の篋削り以前に丁寧な 指撫で整形が施しをいる。内面の指撫で仕上げも丁寧。	東毛 (赤城山 中)
10-00980 65	土師器 壺	床直層 完形	口17.2 頸13.6 胴 22.2 底6.4 高25.1	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉾物粒子・ 軽石・透明鉾物粒子・2種生地土	紐作り。「く」の字状口縁。球形胴を呈する。外面上半部は 刷毛撫で。下半は篋撫で。内面は刷毛撫で。	東毛産
10-00981 65	土師器 壺	床直層 完形	口20.0 頸15.7 胴 22.3 底5.1 高23.8	並・酸・並・鈍橙/鈍黄橙・黒色鉾物 粒子微量・石英微量・2種生地土	紐作り。球形胴を呈する。外面は篋撫で整形仕上げになっ ているが、頸部には、刷毛撫で整形の痕跡が認められる。	東毛産
10-00982	土師器 壺	覆土下層 1/3	口(18.4) 頸(15.0) 胴(23.0)	並・酸・並・明黄褐・黒色鉾物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	球形胴を呈する。口縁部は外反気味。外面は刷毛撫で・篋 撫で・研磨の順で整形されている。内面は篋撫で。	東毛産
10-00983 65	土師器 壺	覆土下層 破片	底6.2 高25.6	並・酸・硬・赤褐・黒色鉾物粒子・ β石英・2種生地土 (赤ネバ)	球形胴の底部周辺。外面は横位調の篋撫で。内面は斜位 基調篋撫で整形。下半は型作りか。	東毛 (赤城山 中)
10-00984 65	土師器 壺	覆土下層 破片	底6.4	並・酸・並・鈍橙・軽石・黒色鉾物 粒子	紐作りか。外面は斜位の篋削りを施し部分的に篋撫でが認 められる。内面は縦横の篋撫で整形を施す。	東毛産
10-00985 66	土師器 甕	覆土内 破片	底8.2 孔径(1.4)	並・酸・並・暗赤橙・黒色鉾物粒子・ 白色粒子・透明鉾物粒子	作りは不詳。外面は縦横の篋撫で。内面は横位の篋撫で。 底部には6個の穴を穿ている。上半部の器厚は薄い。	東毛産 赤ネバ
20-00166	石製品 勾玉	覆土下層 完形	長2.1 幅1.3 厚0.4	蛇紋岩	多面構成の仕上げ。丸みが強く古式の様相を呈している。 全体に扁平な作り。	
40-00072 66	鉄器 刀子	覆土内 破片	残長5.0 闊幅1.3	身重ね0.3/茎ね0.8/茎厚0.25/重6	棟関は認められないのか。切先側は廃棄段階の旧欠。茎は 調査後の欠損。	

第43号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00986	土師器 壺	覆土内 破片	口(19.0) 頸(14.4)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉾物粒子・ 赤褐色粒子・2種生地土	紐作り。内面に縦横み痕が3条認められる。外面は丁寧な 指撫で整形を施す。	東毛産

第44号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00987 66	土師器 坏	覆土内 1/2	口(12.4) 底(9.6) 高2.3	並・酸・並・鈍黄橙・夾雑物無・C 生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型目を残す甘い撫でを施す。底面は篋削り。	太・笠・雷周 辺か
10-00988	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.0)	並・還・締・灰・白色微粒子微量	轆轤成整形右回転。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。 腰部は落ちた作り。	産不詳 界外か
10-00989	須恵器 甕か横瓶	覆土内 破片	厚1.1	並・還・締・灰・夾雑物無	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は素文。外面に 自然釉付着。	秋間産か乗附 産
10-00990	須恵器 甕	覆土内 破片	口(26.6) 頸(16.0)	密・還・締・口黒褐/胴灰・黒色粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は素文。器厚は 薄く作りは端整。	秋間産
40-00073 66	鉄器 鏃	覆土内 鋒部残存	残長3.7 身幅2.4	篋被幅0.7/篋被重ね0.3/重23	有茎広鋒三角形腹扶式。篋被の大半・茎を欠損する。	
20-00167	石製品 砥石	覆土内 破片	残長4.0 幅2.0 厚1.0 重11.0	砥沢石	裏面に成形面が残存する。縦位方向に左右の使い減りが認 められる。大きさから研磨主体は小さな利器か。	

第51号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00991	土師器 小形壺	覆土内 破片	口(14.6) 頸(10.0)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生地土	紐作り。口縁部は外反が強く、上半部は肥厚する。	東毛産
10-00992	土師器 短頸壺	覆土内 破片	厚0.4	並・酸・並・鈍橙・黒色鉾物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生地土	胴部は比較的直線的に、口縁部は外傾して立ち上がる。胴 部外面は刷毛撫で整形後縦位の撫で再整形。	東毛産
10-00993	土師器 手柄	覆土内 口縁部欠損	胴3.7 底2.7	並・酸・並・鈍橙・黒色鉾物粒子微 量・重い・C生地土	外面はヒビと亀裂が認められる。内面は横撫で整形。	東毛産
10-00994	土師器 高坏	炉底面 破片	口(16.8)	並・酸・並・鈍橙・白色粒子・赤褐 色粒子・C生地土	紐作りか。口縁部の横撫で整形が強く端部側は起き上がる。 内外面に暗文を施す。	東毛産
10-00995	土師器 高坏	床直層 破片	口(18.0)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉾物粒子 多量・赤褐色粒子・2種生地土	紐作り。内外面横撫で整形。	東毛産

第51号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00996	土師器 高环	覆土内 破片	口(20.0)	並・酸・並・鈍橙・黒色鈹物粒子(角粒状)・β石英・2種生地土	紐作り。外縁部は寛(刷毛)の小口で刺突状態で整形している。器内面に格子暗文を施す。	東毛産

第45号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00997 66	土師器 环	覆土内下層 1/2	口(11.0) 底(7.8) 高3.8	並・酸・並・黒褐・黒色鈹物粒子・透明鈹物粒子・C生地土	型作り。口縁部は横撫でを施す。内部は横撫で。底面は型目。14号土坑出土遺物と接合。	太・笠・雷周 辺か
10-00998 66	土師器 环	床直 部分欠損	口12.0 底8.5 高3.5	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈹物粒子・透明鈹物粒子・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か墨書-78
10-00999	土師器 环	覆土内 破片	口(12.0) 底(8.6)	並・酸・並・鈍橙・黒色鈹物粒子・白色粒子・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-01000 66	土師器 环	床直 3/4	口13.1 底8.9 高4.3	並・酸・並・鈍橙・クロ(黒色粒子)・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-01001	土師器 环	覆土内 1/4	口(12.0) 底(8.4) 高3.3	並・酸・並・黄褐・夾雑物微量・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-01002 66	土師器 环	竈焚口 2/3	口(12.2) 底(9.4) 高3.4	並・酸・並・黄橙・夾雑物微量・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-01003	土師器 环	覆土内 破片	口(13.4) 底(9.8)	並・酸・並・黄橙・黒色鈹物粒子・透明鈹物粒子・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-01004 66	土師器 环	竈焚口 1/4	口(12.2) 底(10.8) 高3.8	並・酸・並・橙・透明鈹物粒子多量・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-01005	土師器 环	掘方内 破片	口(12.0) 底(11.4)	並・酸・硬・鈍橙・微粒透明鈹物粒子・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-01006	土師器 环	覆土内 破片	口(11.0) 底(9.2)	密・酸・硬・鈍黄橙・夾雑物無・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-01007 66	土師器 环	覆土内 部分欠損	口11.6 底9.5 高3.5	密・酸・硬・黄橙・夾雑物無・土師器環と同一生地土・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-01008	土師器 环	覆土内 破片	口(12.6) 底(10.4)	並・酸・並・黒色鈹物粒子・透明鈹物粒子・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-01009	土師器 環	覆土内 破片	口(24.0) 頸(20.8) 胴(24.6)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈹物粒子・底面・茶褐色粒子・C生地土	「く」の字状。器厚は薄い。寛使いは出土遺物のなかで一番上手い。	太・笠・雷周 辺か
10-01010	須恵器 环	床直層 1/3	口(12.2) 底(6.6) 高3.2	並・還・硬・暗灰・細粒状石英の結晶・微粒石英多量	轆轤成整形右回転。丸みを帯び立ち上がり口縁部は短く外反する。	南関東産か
10-01011	須恵器 环	覆土内 破片	口(12.3) 底(5.6) 高3.5	並・還・締・暗灰/茶褐・細粒状石英の結晶・微粒石英多量	轆轤成整形右回転。腰部が落ちた作りに近い。作りは丁寧。	南関東産か
10-01012	須恵器 环	覆土内 破片	口(12.4) 底(7.8) 高3.8	並・還・締・外黒灰/内白灰・夾雑物無	轆轤成整形右回転。腰部が落ちた作りに近い。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。内面に自然釉付着。	搬入品か
10-01013 66	須恵器 环	覆土内 1/2	口12.7 底6.2 高4.0	並・還・並・灰・白色鈹物粒子・黒色粒子	轆轤成整形右回転。腰部が張る。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。	搬入品か
10-01014	須恵器 环	覆土内 破片	底(6.0)	並・還・硬・灰・白色鈹物粒子・黒色粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転系切。器内面に赤色顔料塗彩。	搬入品か
10-01015	須恵器 环	床直層 破片	底7.2	並・還・並・黒灰/灰・黒色鈹物粒子・白色微粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転系切後周辺を回転寛削りをする。	笠懸産か
10-01016	須恵器 塊	覆土内 破片	口(11.0) 底(8.2) 高3.7	密・還・締・暗灰/黒灰・夾雑物無	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。腰部は角張り、体部・口縁部は直線的に立ち上がる。	栃木三義産か
10-01017	須恵器 内黒塊	覆土内 破片	口(14.2) 坏高(4.2) 坏底(7.0)	密・酸・並・外橙/内黒・夾雑物無	轆轤成整形右回転。高台は欠損(付け高台)。内面の磨研は非常に丁寧に単位が確認しがたい。	不詳
10-01018	須恵器 黒色土器塊	覆土内 破片	底(7.0)	並・酸・粗・外黒/断灰・黒色鈹物粒子・透明鈹物粒子・2種生地土	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。前面を燻し焼成。	東毛産
10-01019	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(13.2)	密・酸・並・外灰/断茶褐・夾雑物無	轆轤成整形右回転。天井部は回転寛削り。摘部は焼成段階で亀裂が入っていた可能性がある。	栃木三義産か
10-01020	須恵器 盤	覆土内 破片	底(14.2)	並・還・硬・灰・黒色粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。内外面の轆轤目は立つ。	雷電山産か
10-01021	須恵器 甕	床直 破片	口(22.1) 頸(16.6)	並・還・並・灰・夾雑物無	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は青海波文。口縁部は低く強く外反する。	太田産か乗附 産
10-01022 01023 01024	須恵器 大甕	覆土内・床 直層 破片	厚1.0~1.3	粗・還・締・暗灰・白色鈹物粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は素文。口縁部内外面は5本一単位の波状文を2段以上巡らす。	太田産
10-01025	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.8	並・還・締・暗灰・白色鈹物粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は青海波文。	乗附産
10-01026	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.8~1.0	並・還・締・白灰・夾雑物無	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は素文。44号住10-00989と同一固体。	秋間産か乗附 産
10-01027	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.6	並・還・締・灰・黒色粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は木目。	搬入品か
10-01028	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.8	並・還・締・灰・黒色粒子	紐作り後叩き整形。外面叩き具は寛撫で等の整形により不詳。宛具は素文。	秋間産
20-00168	礫器 擦石	床直層 完形	長12.0 幅6.4 厚4.2 重499	石英閃緑岩	礫の扁平面が摩擦する。	
40-00074 66	鉄器 飾り釘か	45号住覆土 先端欠損	残長3.9 頭1.7 幅0.4 重14		頭部は熱圧着か。叩き潰しの頭部とは異なる。「L」字上に折れている。断面は正方形。	
40-00075 66	鉄器 鐔	45号住覆土 完形	長径5.8 幅4.0 厚0.3	重36/茎横長2.8/同幅0.5	欠損部は調査後、茎部下半部に鑄の括れが認められることから、鑄造の太刀の鐔であることが推定される。	

第46号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01029	土師器 环	覆土内 破片	口(13.2)	並・酸・並・鈍黄橙・透明鈹物粒子・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か

第46号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01030	土師器 環	覆土内 破片	口(13.2)	並・酸・並・橙・透明鉱物粒子・C 生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-01031 66	土師器 甕	床直 2/3	口20.6 頸18.0 胴22.0	並・酸・並・鈍橙・白色微粒子・透 明鉱物粒子・C生地土	作りの詳細は不分明。外面は粗い単位の横撫で整形を施す が、技術的にかなりの熟達が見える。	太・笠・雷周 辺か
10-01032	土師器 甕	床直層 破片	底13.6	並・酸・並・鈍黄橙・透明鉱物粒子 少量・黒色鉱物粒子少量・C生地土	作りの詳細は不分明。胴部は横位の寛削り。底部は摩擦に より寛削りの詳細は不分明。	太・笠・雷周 辺か
10-01033	須恵器 盤	覆土内 破片	口(20.2) 底(15.2) 高4.9	並・還・締・灰・白色粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。体部緩やかな丸みを 帯び立ち上がる。	雷電山産か
20-00169	石製品 砥石	覆土内 破片	残長5.5 幅4.7 厚2.9 重81.4	砥沢石	置砥と思われる。表裏面に使用面が認められる。20-00169 と同一固体か。	
20-00170	石製品 砥石	覆土内 1/2	残長9.5 幅5.2 厚4.7 重222	砥沢石	置砥。表裏面に使用面が認められる。20-00168と同一個 体か。	

第47号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01034	土師器 環	覆土内 1/4	口(11.6) 底(7.4)	並・酸・並・黄橙・黒色鉱物粒子少 量・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01035 66	土師器 環	覆土内 1/3	口(12.3) 底(9.4) 高3.4	並・酸・並・鈍橙・夾雑物微量・C 生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01036	土師器 環	覆土内 1/3	口(14.2) 底(11.6)	並・酸・並・鈍橙・クロ・透明鉱物 粒子・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01037	土師器 環	覆土内 破片	口(12.0) 底(10.0)	並・酸・並・鈍橙・透明鉱物粒子・ C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01038	土師器 環	覆土内 破片	口(11.0) 底(9.8)	並・酸・並・鈍橙・白色粒子・C生 地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01039 66	土師器 環	覆土下層 1/3	口(13.0) 底(9.8)	並・酸・並・黄橙・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01040	土師器 環	覆土内 破片	口(11.8) 底(8.6)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子・ β石英・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	東毛産
10-01041	土師器 環	覆土内 破片	口(12.0) 底(9.4)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子・ β石英・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	東毛産
10-01042	土師器 環	覆土内 破片	口(13.2) 底(11.0)	並・酸・並・鈍黄橙・クロ・C生地 土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01043	土師器 環	覆土内 1/4	口(10.8) 底(6.4) 高(3.3)	並・酸・並・鈍黄橙・夾雑物微量・ C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01044	土師器 甕	覆土内 破片	口(13.0) 胴(15.3)	並・酸・並・赤橙・白色粒子・透明 鉱物粒子・C生地土	作りの詳細は不詳。口縁部は内傾後外反気味に立ち上がる。 器面は剝離風化している。	太・笠・雷周 辺か
10-01045 66	土師器 甕	床直層 1/4	口(21.0) 頸(18.6) 胴(22.2)	並・酸・並・橙/鈍黄橙・透明鉱物粒 子・茶褐色粒子・C生地土	作りの詳細は不詳。口縁部は一度垂直に立ち上がり外傾し て立ち上がる。外面は横撫で整形仕上げ。作りは丁寧。	太・笠・雷周 辺か
10-01046	土師器 甕	覆土内 破片	底4.6	並・酸・並・黄褐・黒色鉱物粒子・ 白色微粒子・C生地土	型作り。器厚は薄い。外面は縦位の寛削り。内面は丁寧な 横撫で(単位は判定しがたい)を施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01047 66	須恵器 環	床直 完形	口12.9 底7.2 高4.1	並・還・締・白灰・透明鉱物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部がやや張り体・ 口縁は直線的に立ち上がる。内面に攪り。外面が焼成時。	雷電山産か
10-01048	施軸陶器 灰軸小瓶	覆土内 破片	底(6.0)	密・還・締・灰	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。施軸が認められない。	搬入品
10-01049	須恵器 環か	覆土内 破片	底(7.0)	密・還・締・灰・黒色粒子(熔黒色 鉱物粒子)	轆轤成整形右回転。底部は回転寛削り。器厚は薄い。	搬入品か
10-01050	須恵器 環	覆土内 破片	底7.4	並・還・硬・灰・白色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。10-01051と同じ胎土。	埼玉北部産か
10-01051	須恵器 環	掘方内 破片	口(12.4)	並・還・硬・灰・白色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。器厚は薄く轆轤目は多い。腰部がやや 張る器形。10-01050と同じ胎土。	埼玉北部産か
10-01052	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(17.2)	並・還・軟・白灰・黒色粒子・安山 岩片	轆轤成整形右回転。天井部は回転寛削り。	東毛産か
10-01053	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	頸(8.4)	密・還・締・灰・夾雑物無	紐作り後轆轤右回転成整形。口縁部はほぼ垂直に立ち上 がる。外面に厚い自然釉は付着する。	東海産か
10-01054	須恵器 短頸壺	掘方内 破片	頸(10.0)	密・還・締・暗灰・シルト縞	紐作り後轆轤右回転成整形。口縁部は外傾して立ち上がる。	栃木三義産か
10-01055	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	頸(11.0)	密・還・締・暗灰・シルト縞	紐作り後轆轤右回転成整形。外面自然釉が付着する。	栃木三義産か
10-01056	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚1.0	並・還・硬・灰・黒色粒子・白色微 粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。肩部に2条の平行頸部に2条 の沈線を巡らせる。	大赤橙
10-01057	須恵器 大甕	甕内 破片	厚1.5	並・還・締・灰/暗灰・白色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き後撫でによる再整形、 宛具は青海波文。	埼玉北部産か
10-01058	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.9	並・還・締・灰・白色微粒子	紐作り後叩き整形。外面は細かな平行叩き、宛具は青海波 文。	栗附産か東海 産
20-00171	礫器 叩き石	覆土内 完形	長5.0 幅5.0 厚1.8 重57	粗粒輝石安山岩	小口に3箇所打による使用痕が認められる。	
20-00172	礫器 擦石	覆土内 完形	長11.4 幅5.2 厚3.5 重336	石英閃緑岩	扁平面に摩擦が認められる。	
40-00076 66	鉄器 刀子	床直 両端欠損	残長11.2 刀身長4.6	身重 ≈ 0.3 /関幅1.6/茎重 $\approx 0.3 \sim 0.2$ /重24	切先・茎尻は調査後の欠損。刀身の研滅りは顕著。茎は比 較的幅が広いことからすれば、大刀子か。	

第48号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01059	土師器 環	覆土内 破片	口(10.4) 底(7.8)	並・酸・並・黄橙・透明鉱物粒子・ C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01060	土師器 環	覆土内 破片	口(12.2) 底(9.4)	並・酸・並・黄橙・夾雑物無・C生 地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か

第48号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01061 67	土師器 環	覆土内 1/3	口(12.2) 底(9.8) 高3.5	並・酸・並・橙・灰褐・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子微量・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01062 67	土師器 環	覆土内 部分欠損	口(12.4) 底10.6 高3.6	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・ クロ・透明鉱物粒子・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01063 67	土師器 甕	覆土下層 1/2	口(14.0) 頸(12.9) 胴(15.4) 基(2.8)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・クロ・C生地土	「コ」の字状口縁。作りの詳細は不詳。外面頸部直下は横 位、胴部は斜位の匏削りを施す。内面は横位の撫で整形。	太・笠・雷周 辺か
10-01064	土師器 甕	覆土内 破片	口(20.4) 頸(18.5)	並・酸・並・橙・黒色鉱物粒子微量・ 角粒砂・C生地土	類「コ」の字状口縁。器厚は薄い。黒色鉱物粒子頸部は横 位の匏撫で、口縁部は横撫。内面は横位の撫で整形。	太・笠・雷周 辺か
10-01065	土師器 甕	覆土内 破片	底(4.8)	並・酸・並・明褐・黒色鉱物粒子・ 角粒砂・C生地土	外面は縦位の匏削りを施す。内面に離砂状圧痕が認められ る。器厚は薄い。	太・笠・雷周 辺か
10-01066 67	須恵器 環	床直 1/2	口(12.8) 底6.6 高3.9	並・還・硬・灰・黒色鉱物粒子少量・	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。体部がやや丸みを帯 び、口縁部は直線的に立ち上がる。器厚は薄い。	埼玉北部墨書 -79
10-01067	須恵器 環	覆土内 1/3	口(13.0) 底(8.0) 高3.5	密・還・締・内灰/外暗灰・黒色粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。体部がやや丸みを帯 び、口縁部は直線的に立ち上がる。器厚は薄い。	産不詳雷電山 産か
10-01068	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(14.2)	並・還・締・灰白・黒色粒子・軽い	轆轤成整形右回転。天井部は回転匏削り。	秋間産か
10-01069	須恵器 盤	覆土内 1/3	底(17.8)	並・還・硬・灰・白色微粒子少量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。高台の接合面には挿 破は認められない。	雷電山産
40-00077 67	鉄器 釘か	覆土内 破片	残長4.3 幅0.4 厚0.4 重4		上端側は廃棄の欠損。下端側は調査後の欠損。断面正方形 を呈する。	

第49号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01070	土師器 短頸壺	覆土内 破片	口(8.6) 頸(8.2) 胴(9.0)	並・酸・並・黒色鉱物粒子(角粒状)・ β石英・2種生地土(山ノノ)	作りの詳細は不詳。口縁部はやや外傾して立ち上がる。内 面はハゼが顕著。	東毛産
10-01071	土師器 高環	床直層 破片	口(18.4) 基5.2	並・酸・並・黄橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	粘土板上に粘土紐を積み上げる。外面は撫で整形。内面は 雑な撫で整形後に放射状暗文を施す。	東毛産
10-01072	土師器 環	掘方内 破片	口(12.0) 底(5.8) 高2.5	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子 微量・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01073	土師器 環	覆土内 破片	口(12.5) 底(11.6)	並・酸・並・鈍黄橙・透明鉱物粒子 少量・C生地土	型作り。器内面・口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型 膚を残す甘い撫でを施す。内面に焼成後の刻書「田?」。	太・笠・雷周 辺か
10-01074	土師器 環	覆土内 破片	口(14.0) 底(13.0)	並・酸・並・黄橙・透明鉱物粒子微 量・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01075 67	土師器 環	電燃焼部 部分欠損	口(12.4) 底(10.5) 高3.1	並・酸・並・橙・角粒砂・(土師器甕の 胎土に同じものがある)・C生地土	型作り。器内面・口縁部は横撫で。口縁直下は甘い撫で。 口縁部に成形時の粘土の積み・歪が認められる。	太・笠・雷周 辺か
10-01076	土師器 環	覆土内 破片	口(13.6) 底(12.6)	並・酸・並・黄橙・透明鉱物粒子若 干・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01077	土師器 環	覆土内 破片	口(15.1) 底(13.6)	並・酸・並・鈍黄橙・夾雑物無・C 生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01078	土師器 甕か	覆土内 破片	厚0.9	粗・酸・軟・明黄褐・火山ガラス・ 黒色鉱物粒子・2種生地土か	作りの詳細は不詳。口縁部は短く外反する。	東毛産か
10-01079	土師器 甕	覆土内 破片	口(22.0) 頸(19.4)	並・酸・並・鈍橙・石英雲母片岩・ 石英・透明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	作りの詳細は不詳。口縁部は厚く頸部直下の削りこみは深 い。口縁部に粘土紐の接合痕が認められる。	埼玉北部か吉 井産
10-01080	土師器 甕	覆土内 破片	口(26.0) 頸(22.6)	並・酸・並・鈍黄橙・透明鉱物粒子・ 角粒砂	作りの詳細は不詳。口縁部は直線的な作りで外傾して立ち 上がる。頸部は強い横位の撫で成形が認められる。	埼玉北部か吉 井産
10-01081	須恵器 蓋	覆土下層 破片	口(18.0)	並・還・並・灰白・黒色粒子・白色 粒子	胎土・焼成・色調が10-01082の蓋と同一のため、双方で一 対を成すと考えられる。	産不詳
10-01082 67	須恵器 高台環	床直 1/2	口(17.5) 底(14.0) 高4.1	並・還・並・灰白・黒色粒子・白色 粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。高台の接合には挿破 が認められない。高台の作りはシャープ。	産不詳
10-01083	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	頸(11.8)	並・還・硬・暗灰・白色粒子少量	紐作り後轆轤右回転成整形。肩部に2条の横線を施す。	雷電山産か大 胡産
40-00078 67	鉄器 刀子	床直 完形	残長8.5 闊幅1.1	重ね0.25/茎長4.5/茎幅0.6/茎重ね 0.2/重7	茎は完存する。刀身は研減りが顕著。錆化が顕著。	
40-00079 67	鉄器 刀子	覆土内 破片	残長9.5 闊幅2.1 重ね0.3 重14		刀身には大きく2回の研減りが認められる。茎は、刃部を 研ぎ出し、再利用して居る。茎の研減りも顕著。	
40-00080 67	鉄器 槍鉋か	覆土内 破片	残長6.5 幅0.45 厚0.35 重7		茎側を欠損する。刃部は丸くなっている。	
40-00081 67	鉄器 鎌	床直 完形	長17.6 幅2.3 厚0.3	重52/反2.0/17.0=0.1176	反りは少ない(2.0cm)。鋒側の研減り後付け根側を裏面側を 研ぎ使用している。	
20-00173	礫器 擦石	完存 床直層	長9.0 幅4.5 厚3.7 重226	粗粒輝石安山岩	礫面の扁平面が摩滅する。	
20-00174	礫器 叩き石	完存 床直	長10.5 幅7.0 厚4.4 重40	変質安山岩	小口的一方が打撃による欠損が認められる。	

第50号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01084 67	土師器 環	P ₁ 内 部分欠損	口13.2 底2.7高 6.0	並・酸・並・橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	作りの詳細は不詳。底部の器厚は厚い。外面には焼成時の 赤橙斑が認められ、内面には鉄錆(紫色)が被覆する。	東毛産
10-01085	土師器 環	覆土内 破片	口(11.2)	並・酸・並・鈍橙・白色粒子・赤褐 色粒子・2種生地土(赤ネバ)	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。体部は撫でが主体。	東毛産
10-01086	土師器 環	P ₃ 内 1/4	口(13.6) 頸(12.4) 底(5.6) 高7.1	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。体部は撫でが主体。	東毛産
10-01087	土師器 埴	床直 部分欠損	口10.5 頸7.1 胴9.7 底3.0 高11.5	並・酸・硬・橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	底部は上底。底部・体部は横位の匏撫で整形。頸部は強め の撫で整形。口縁部は縦位の撫で後横撫で整形。	東毛産
10-01088 67	土師器 小形壺	床直 完形	口13.8 頸12.1 胴 15.0 底5.8 高13.6	並・酸・粗・外黄橙/内赤褐・岩片・ 2種生地土(地山還元ローム土)	口縁は短く外傾する。全体に器厚は厚い。外面底部は匏削 り、胴部より上部は撫で整形。内面は撫で整形。	漆田産か
10-01089 67	土師器 高環	床直 部分欠損	口(17.2) 基3.8 脚径(13.0) 高12.9	並・酸・並・橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	脚部内面には紋りが認められる。環部の接合は長いヘソを 有している。脚外面・環部内外面に暗文を施す。	東毛産

第50号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01090 67	土師器 高坏	床直脚・ 口縁部欠	口17.4 基3.8	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	外面基部周辺・坏部内面は刷毛撫で後篋撫で整形。外面口 縁部は横位の撫で整形。口唇部直下に沈線を巡らす。	東毛産
10-01091 67	土師器 高坏	床直 脚部欠損	口20.0 基4.5	並・酸・硬・橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	口縁部は内湾気味。基部のヘソは長目。内外面刷毛撫で後 撫で整形を施す。	東毛産
10-01092	土師器 高坏	床直 破片	口(20.2) 基(5.2)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	口縁部は若干外反。口唇部は強く立ち上がり、内外面撫で 整形。外面基部周辺は篋削り。内面に放射状暗文。	東毛産
10-01093 68	土師器 高坏	床直 坏部欠損	脚13.8 基3.4	並・酸・硬・橙・白色粒子・C生地 土	内面基部付近に絞りが認められ、中位には絞りと異なるシ ワ状圧痕が認められる。号道は暗文を施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01094 68	土師器 高坏	床直 坏部欠損	脚(15.6) 基(4.0)	並・酸・硬・黄橙・黒褐・黒色鉱物粒 子・白色微粒子・C生地土	内面は上位側を篋撫で整形を施し下半は未整形。脚端部は 横位の撫で整形を施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01095 68	土師器 坏	床直 部分欠損	口15.6 底4.5 高4.9	並・酸・硬・橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫で後放射状暗文を施す。 体部に型膚を残す甘い撫でを施す。	東毛産
10-01096 68	土師器 浅鉢	床直 部分欠損	口18.8 底6.7 高6.0	並・酸・並・橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	内外面撫で整形。器内面に放射状暗文。外面には焼成時の 赤斑が認められる。	東毛産
10-01097 68	土師器 甕	床直 破片	胴(23.0) 底6.8	並・酸・並・黄橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	外面は縦横の撫で整形。内面は篋撫で整形。	東毛産
10-01098 68	土師器 甕	床直 口縁欠損	胴24.0 底7.2	並・酸・粗・鈍橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	胴部下半・底部は撫で整形後篋撫で整形。胴部上半は刷毛 撫で整形。内面は篋撫で整形。	東毛産
20-00175	礫器 擦石	炉床面 2/3	残長10.5 幅6.2 厚4.5 重413	砂岩	扁平面がやや摩滅する。割れ口も燻れている。	
10-01329	土師器 甕	床直 胴部上半	胴最()	並・酸・並・黒色鉱物粒子・透明鉱 物粒子	紐作り後撫で整形。撫で整形は指・篋・刷毛の三種の使い 分けがある。	東毛産

第52号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01099	土師器 坏	覆土内 破片	口(121.2) 底(9.2)	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・C生地土か	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01100	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.8) 底(10.6)	並・酸・並・黄橙・夾雑物微量・C 生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01101	土師器 甕	床直層 破片	口(18.2) 頸(17.2)	並・酸・並・赤褐・雲母・角粒砂・ C生地土か	作りの詳細は不詳。頸部外面は一次整形の粗い撫でを残し ている。器厚は薄い。上作である。	
10-01102 69	土師器 甕	覆土内 下層	底4.5	並・酸・並・鈍黄橙・白色粒子・赤 褐色粒子・C生地土か	型作りか。外面は縦位・斜位の篋削りを施す。内面は横位 の篋撫で整形。篋は小口を用いている。	太・笠・雷周 辺か
10-01103	須恵器 坏	覆土内 1/3	口(13.3) 底(7.6) 高3.4	並・還・締・灰・白色微粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部が落ちる作り。 口縁部は直線的に立ち上がる。	太・笠・雷周 辺か
10-01104	須恵器 坏	覆土内 破片	口(14.3)	並・還・締・暗灰・白色微粒子	轆轤成整形右回転。轆轤の回転は遅く、轆轤条痕が非常に 多い。	笠懸産か
10-01105 69	須恵器 坏	覆土内 下層	口(12.6) 底(6.8) 高3.5	並・還・硬・灰・黒色粒子・白色微 粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。糸切りが不調のため、 持ち上がった状態になっている。	雷電山産か 北野
10-01106	須恵器 坏	覆土内 破片	口(16.0)	並・還・硬・暗灰・白色微粒子	轆轤成整形右回転。特に器厚は薄い。体部は直線的に立ち 上がるが。口縁部は短く外反する。	北埼玉
10-01107	須恵器 甕	床直層 破片	頸(14.0)	並・還・締・白灰・黒色粒子・白色 粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は青海波文。内 外面轆轤右回転の再整形の条痕が認められる。	東毛産
10-01108	須恵器 甕	床直層 破片	頸(16.6)	並・還・締・灰・白色粒子・黒色粒 子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は素文。内面は 横撫で再整形により宛具は部分的にしか認められない。	東毛産
10-01109	土製品 不詳	覆土内 破片	外径(12.0) 内径(8.0)	密・酸・締・浅黄橙・夾雑物無	外面は未確認の何らかのものに巻き付け整形したものと思 われる。内径が大きいため羽口ではないと思われる。	
20-00176	石製品 砥石	床直 破片	残長2.8 残幅5.2 残厚1.6 重38.76	砥沢石	残存状態から置砥と思われるが、詳細不詳である。	

第56号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01110 69	土師器 坏	P ₁ 内 部分欠損	口11.9 底6.0 高3.9	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉱物粒子・ 石英・岩片・2種生地土	型作り。内面・口縁部は横撫で。口縁直下は型膚を残す甘い 撫で。高台は付け高台。外面に墨書「内」「丙」か。	東毛産 墨書-80
10-01111	土師器 坏	覆土内 破片	口(15.6) 坏底(6.6) 坏高4.6	並・酸・並・黄橙・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	型作り。内面・口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚 を残す甘い撫でを施す。高台は付け高台。外面に墨書。	東毛産 墨書-81
10-01112 69	土師器 坏	P ₁ 内 1/3	口(13.2) 底(5.8) 高3.6	並・酸・並・明黄褐・透明鉱物粒・ 赤褐色粒・チャート・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は篋削り。	東毛産
10-01113	土師器 坏	覆土内 破片	底(5.0)	並・酸・並・暗褐/黄橙・黒色鉱物粒 子・透明鉱物粒子・2種生地土	外面は横位・斜位の篋削り・篋撫で整形。内面は横位の撫 で整形。底面は籾砂(黒色鉱物粒子主体)。	東毛産
10-01114	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.4	並・酸・並・明黄褐・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・C生地土	内面は横撫で整形。外面は篋削りを施す。外面に墨痕乃至 墨書。	墨書-82
10-01115	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.5	粗・酸・軟・明黄褐・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	外面は斜位の篋削りを施す。外面に墨痕。	東毛産 墨書-83
10-01116	土師器 甕	床直 破片	口(17.2) 頸(15.0)	並・酸・並・黄橙/明黄褐・黒色鉱物 粒子・1種生地土	紐作り。口縁部は「く」の字状。頸部直下は未整形部分を 残す。内面は横位の篋撫で整形。	漆田産か
10-01117	土師器 甕	床直 破片	口(18.0) 頸(17.2) 胴(21.4)	並・酸・並・黄橙・黒色鉱物粒子極 多量・β石英・2種生地土	「コ」の字状口縁。胴部は球形を帯、頸部は短い。内外面は 篋撫で整形。	東毛産
10-01118 69	須恵器 坏	床直層 2/3	口(11.7) 底5.6 高4.1	並・還・粗・白灰・軽石・黒色鉱物 粒子少量	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は布挽き再整 形。外面の轆轤目は強い。	漆田産
10-01119 69	須恵器 坏	覆土内 1/2	口(12.0) 底(5.6) 高3.3	粗・還・軟・黄灰・軽石・黒色鉱物 粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は布挽き再整 形。外面の轆轤目は強い。	漆田産
10-01120 69	須恵器 坏	P ₁ 内 部分欠損	口12.4 底6.4 高4.2	粗・還・軟・灰・P ₁ 内・黒色鉱物粒 子・β石英	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は布挽き再整 形。外面の轆轤目は強い。	漆田産
10-01121	須恵器 坏か塊	覆土内 破片	厚0.5	粗・還・軟・白灰・黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。内面判読不能墨書。	漆田産 墨書-84
10-01122	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.0)	並・還・並・灰/黄灰・黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。底面墨書が認められ るが判読不能。	漆田産か墨書 -85

第56号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01123 69	須恵器 坏	床直 2/3	口(11.9) 底5.6 高3.7	粗・還・軟・白灰・夾雑物微量・1 種生地土	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は布挽き再整形。外面の轆轤目は強い。外面に判読不能墨書。	漆田産 墨書-86
10-01124 69	須恵器 坏	床直 口縁欠損	底5.8	並・還・粗・白灰・白色粒子微量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。外面の轆轤目は強い。	漆田産
10-01125 69	須恵器 坏	P ₁ 内 口縁欠損	底6.7	並・還・並・灰/明褐・夾雑物少量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。外面の轆轤目は強い。見込みに判読不能墨書。	漆田産 墨書-87
10-01126 69	須恵器 坏	P ₁ 内 口縁欠損	底7.0	並・還・並・灰白・黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。外面の轆轤目は強い。	漆田産
10-01127 69	土師器 内黒 坏	覆土下層 口縁欠損	底(6.2)	並・酸・並・黄灰・黒色鉱物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫で、内面に暗文。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。高台は付け高台。	東毛産
10-01128	須恵器 羽釜	床直 破片	厚0.7	並・還・硬・灰/暗灰・白色鉱物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。吉井型羽釜甲種。	吉井産
10-01129	土師器 甕	覆土内 破片	底(6.0)	並・酸・粗・黒色鉱物粒子・透明鉱 物粒子・白色粒子・C生地土	外面は縦位の寛削り・寛撫で整形。内面は横位・斜位の寛撫で整形。	太・笠・雷周 辺か
10-01130	土師器 甕	P ₁ 内 破片	底(4.0)	並・酸・粗・黄橙・黒色鉱物粒子・ 白色粒子・2種生地土	作りの詳細は不詳。外面は縦横の寛削り・寛撫で整形を施す。内面は横位主体の寛撫で整形。	東毛産
10-01131	土師器 羽釜か	覆土内 破片	底7.0	並・酸・粗・鈍黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	外面は横位の寛撫で整形。内面は横位の撫で整形。底面は型目か。	東毛産
10-01132	須恵器 長頸瓶	床直層 破片	頸(5.8) 肩(16.4) 底(9.6)	並・還・締・灰・暗黒色鉱物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。高台は欠損(付け高台)。	雷電山産
10-01133	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	厚0.9	並・還・並・灰/断鈍橙・白色鉱物粒 子・雲母・微粒状長石	紐作り後轆轤右回転成整形。	藤岡産か中之 条産
10-01134	須恵器 大甕	甕右壁 破片	胴(49.2)	並・還・締・暗灰/黒灰・白色鉱物粒 子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、宛具は青海波文。	吉井産か末野 産
10-01135	施釉陶器 灰釉 碗	床直 破片	口(16.8)	並・還・締・白灰 釉調=オリープ灰	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗りか。	搬入品
10-01136	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	厚0.3	密・還・締・灰 釉調=内面灰オリープ・外面白濁	轆轤成整形右回転。施釉は不詳。	搬入品
10-01137 69	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 口縁欠損	底6.7	並・還・締・黄灰 釉調=内外面白濁	轆轤成整形右回転。内面施釉範囲は重ね焼痕に重複する。施釉は不詳。	搬入品
40-00082 69	鉄器 不明	覆土内 完形	残長4.8 幅0.6 厚0.6 重11		錆化が顕著。断面正方形を呈する。両端共に調査後の欠損。	
40-00083 69	鉄器 釘	覆土内 破片	長4.6 幅0.35 厚0.3 重2		比較的小きな釘。頭部は叩き潰し。頭部側の断面は長方形で先端側は正方形を呈する。	
40-00084 69	鉄塊	覆土内	長3.2 幅2.0 厚0.8 重11		錆化が顕著。全体に磁力(磁力1)を強く呼ぶ。錆化が特に顕著な鉄器も考慮される。	

第57号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01138	土師器 甕	床直層 破片	口(19.0) 頸(17.0) 胴(20.9)	並・酸・硬・橙・白色微粒子・透明 鉱物粒子・C生地土	作りの詳細は不詳。器厚は薄く作りは上手。外面は横位・下方からの寛削り。内面は横位の寛撫で整形。	太・笠・雷周 辺か
10-01139	土師器 甕	甕右袖 破片	口(19.0) 頸(17.8)	並・還・並・黒色鉱物粒子・透明鉱 物粒子・C生地土	作りの詳細は不詳。器厚は薄く作りは上手。頸部下端には寛削り時の寛の先端掻き削りが連続する。	太・笠・雷周 辺か
10-01140	須恵器 坏か	覆土内 破片	口(13.4)	並・還・軟・黄灰・透明鉱物粒子極 多量	轆轤成整形右回転。器厚は薄い。	東毛産
10-01141	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.0) 底(5.0) 高4.2	並・還・軟・灰白・白色微粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。	雷電山産か
10-01142	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.0) 底(6.2) 高4.2	並・還・並・灰・黒色粒子・白色微 粒子微量	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。	雷電山産か

第60号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
20-00177	石器 鎌	覆土内 部分欠損	残長6.2 幅2.9 厚0.4	黒色安山岩	平根三角形腹袂式。鋒・と片側の腹袂を欠損する。	
10-01143	須恵器 坏	床直層 破片	底(6.2)	並・中・並・灰黄/黄灰・白色粒子微 量	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。体部が極度に膨らんだ状態。別器種も考慮される。	東毛産 墨書-88
10-01144	土師器 甕	床直層 破片	口(21.7) 頸(20.2) 胴(23.4)	並・酸・粗・明黄褐・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	紐作り。外面は横位の寛削りを施す。内面は横位の寛撫(小口)で整形。	東毛産
10-01145	土師器 甕か羽釜	P ₁ 内 破片	底(6.0)	粗・酸・硬・鈍橙・白色粒子・黒色 鉱物粒子・アイサイト・2種生地土	外面は斜位の寛撫で整形主体。内面は横位の撫で整形。	東毛産
40-00085 69	鉄滓	覆土内 完形	長2.8 幅3.8 厚2.0 重29		図上中央から右側の上半部分が磁力(磁力2)を呼ぶ。	

第61号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01146 69	須恵器 内黒 坏	覆土内 1/4	口(12.4) 底(5.0) 高4.3	密・酸・硬・明黄褐・赤褐色粒子若 干	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面に細い暗文を施す。体部は丸味を帯び立ち上がり深い。	産不詳 墨書-89
10-01147 69	須恵器 皿	覆土/甕 覆土内 破片	底(7.4)	密・酸・硬・橙/黒褐・黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。外面体部下半に横位の研磨が認められる。燻し焼成は確認できない。	産不詳
10-01148	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	厚0.3	密・還・締・灰 釉調=白濁	轆轤成整形右回転。施釉は浸し掛け。	搬入品

第62住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01149	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.7	密・酸・硬・黄橙・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	外面は刷毛撫で整形を施し、赤色顔料塗彩を施す。内面は 上位が横位の寛撫で整形、下半は刷毛撫で整形。	東毛産

第63住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01150	縄紋土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	並・酸・硬・橙/黄橙・黒色鈹物粒子・ 石英・デイスイト・2種生地土	口縁部無紋帯直下に横位の隆帯を施文する。隆帯下位に Lr 原体を横転施文する。	東毛産
10-01151	縄紋土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.0	並・酸・硬・橙・黒色鈹物粒子・石 英・2種生地土	口唇部は無紋。外面は Lr 原体を横転施文する。内面は横位 の研磨を施す。	東毛産
10-01152	縄紋土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.8		10-01155同一固体。	東毛産
10-01153	縄紋土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9			
10-01154	縄紋土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.0			
10-01155 69	縄紋土器 深鉢	覆土内 破片	底6.0	並・酸・硬・白色微粒子(微細石英)・ 透明鈹物粒子	外面は縦位の寛撫で整形。内面は横位の撫で整形。	東毛産
20-00178	石器 削器	覆土内 破片	長5.4 幅6.4 厚0.7 重24	黒色頁岩	表面は礫面、裏面の剥片剥離面の縁辺に微細な剥離が認め られる。	
20-00179	石器 叩き石	覆土内 破片	長8.2 幅5.6 厚5.0 重274	変質玄武岩	小口に打撃による剥離が認められる。	

第64号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01156 69	土師器 環	床直 4/5	口12.8 底6.6 高4.7	並・酸・粗・鈍黄橙・黒色鈹物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下・ 体部に甘い撫でを施す。底面は離砂で未調整。	東毛産
10-01157 69	土師器 環	床直層 4/5	口12.9 底5.9 高3.6	並・酸・粗・鈍黄橙・黒色鈹物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下・ 体部に甘い撫でを施す。底面は未調整。	東毛産
10-01158 69	須恵器 塊	竈燃焼部 口縁欠損	底6.2 高1.8	並・酸・並・鈍黄橙・白色微粒子・ 赤褐色粒子・2種生地土	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。体部の上位を打ち欠 いて再成形している。	東毛産
10-01159 69	須恵器 耳皿	竈左壁 完形	口7.2 底3.8 高2.4	並・還・並・灰白・白色微粒子・黒 色鈹物粒子・2種生地土	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。両端を折り曲げている	漆田産
40-00086 69	鉄器 不詳	覆土内 破片	残長4.1 幅3.5 厚0.4 重10		雁又鋸の様な構造。「Y」字上の下側の断面は長方形を呈し ている。3本の端部は廃棄時の欠損。	
40-00087 69	鉄滓	覆土内 完形	長3.6 幅4.8 厚3.5 重37		図中の下半部が磁力を強く呼ぶ(磁力2)。	

第65号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01160	土師器 環	竈焚口底面 破片	口(12.6) 底(8.8) 高4.1	密・酸・硬・橙・白色微粒子・C生 地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は篋削り。	東毛産
10-01161 69	土師器 環	覆土内 完形	口12.9 底6.1 高4.1	並・酸・並・黄橙・黒色鈹物粒子(角 粒状)・β石英・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 未整形。型側の凹凸を残す。底面は離砂を残す。	東毛産 墨書-90
10-01162	土師器 甕	竈覆土内 破片	口(18.4) 頸(17.2)	並・酸・並・橙・白色微粒子・透明 鈹物粒子(赤ネバ)	作りの詳細は不詳。短い「コ」の字状口縁。外面はおいの 篋削り。内面は横位の寛撫で整形。	東毛産
10-01163 69	土師器 甕	竈燃焼部 1/4	口(129.2) 頸(14.0) 胴(19.6)	密・酸・硬・橙・白色微粒子・透明 鈹物粒子・C生地土	作りの詳細は不詳。「コ」の字状口縁。外面は強い篋削り。 頸部に斜位の絞り(?)痕。内面は横位の寛撫で整形。	太・笠・雷周 辺か
10-01164 69	土師器 甕	竈内 1/4	口(19.7) 頸(18.0) 胴(21.2)	並・酸・硬・黄橙・白色微粒子・黒 色鈹物粒子・β石英・良質2種生地土	作りの詳細は不詳。外面の横位篋削りは長い。内面は横撫 で整形で一単位が非常に長い。轆轤使用か。	東毛産
10-01165	須恵器 環	覆土内 破片	底(5.8)	並・酸・硬・鈍赤褐・黒色鈹物粒子・ 透明鈹物粒子・C生地土か	型作りか。外面は勢いの強い縦位・斜位の篋削りを施す。 内面は横位の寛撫で整形。	太・笠・雷周 辺か
10-01166	須恵器 環	覆土内 破片	口(12.8) 底(8.0) 高4.0	密・還・締・灰・黒色粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転篋起こし後周縁を回転篋削 りにより整形。	雷電山産か
10-01167	須恵器 環	覆土内 破片	底(6.0)	並・還・並・灰・黒色粒子・白色微 粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部が落ちた作り。 器厚は薄い。	笠懸産か
10-01168 69	須恵器 塊	覆土内 1/2	口(13.6) 底(6.9) 高4.5	並・還・粗・白灰・白色微粒子・黒 色粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。内面は布挽き。器形 の歪は高台の付設位置がずれていることに起因。	漆田産か
10-01169 70	須恵器 環	P ₁ 内 1/3	口(14.8) 底(5.7) 高5.1	並・中・軟・灰白・黒色鈹物粒子極 多量・β石英・2種生地土	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。内外面に焼成時の燻 りが残る。10-01170・1172と同一胎土。	東毛産か埼玉 北部
10-01170 70	須恵器 環	P ₁ 内 1/2	口(15.0) 底(5.8) 高4.8	並・中・軟・灰白・黒色鈹物粒子極 多量・β石英・2種生地土	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。内外面の全体に焼成 時の燻りが残る。10-01169・01172と同一胎土。	東毛産か埼玉 北部
10-01171	須恵器 塊	P ₁ 内 破片	口(14.0) 底(7.0) 高5.6	並・還・粗・黒褐・白色粒子・白色 微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。断面を含め全体に燻 れている。被二次焼成か。	産不詳 墨書-91
10-01172	須恵器 黒色土器 環	P ₁ 内 破片	口(14.6)	並・還・並・灰・黒色鈹物粒子極多 量・β石英・2種生地土	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。内外面の全体に燻さ れている。10-01169・01170と同一胎土。	東毛産か埼玉 北部
40-00088 70	鉄滓	覆土内 完形	長5.5 幅8.0 厚4.0 重129		全体に孔状の窪みが認められる。全体に僅かに磁力(磁力 5)を呼ぶ。	
40-00089 70	鉄器 紡錘車	床直層 部分欠損	残長7.0 幅0.5~0.4 径5.6~5.8 重44		軸棒の両側を調査後に欠損している。紡錘部には軸棒貫通 時の歪みが残る。錆化が顕著。	
10-01173	須恵器 瓶	覆土内 1/3	口(24.0) 肩(37.0) 底(17.4)	並・還・締・灰・夾雑物無	紐作り後轆轤右回転寛撫で整形後叩き整形。外面は平行叩 き、宛具は青海波文。	雷電山産か
20-00180	礫器 擦石	覆土下層 完形	長14.8 幅6.6 厚4.5 重763	石英閃緑岩	礫面の2面に摩擦が認められ、部分的に塙打痕が認められ る。	
20-00181	礫器 擦石	覆土下層 完形	長15.7 幅7.5 厚5.0 重686	粗粒輝石安山岩	礫面の平坦側に摩擦が認められ、小口・片側縁に打撃剥離 が認められる。	
20-00182	礫器 擦石	覆土内 完形	長15.7 幅12.1 厚3.8 重1,093	石英閃緑岩	表裏の扁平面が顕著に摩擦する。部分的に塙打痕が認めら れる。	

第65号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
20-00183	礫 玩具か	覆土内 完形	長1.9 幅1.7 厚0.5 重2.64	溶結凝灰岩	使用痕等は認められない。	

第66号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01174 70	土師器 台付壺	P ₁ 内 部分欠損	口12.3 頸11.1 胴14.3 基5.2 残高14.3	並・酸・硬・鈍橙・アイサイト・黒色鉱物粒子・2種生地土	作りの詳細は不詳。外面は胴部下半まで横位の篋削り。内面は横位の長い整形が上半部に認められる。轆轤使用か。	東毛産
10-01175 70	須恵器 壺	P ₁ 内 完形	口14.4 底7.5 高4.9	並・還・粗・白灰・黒色鉱物粒子・白色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。	漆田産
40-00090 70	鉄滓	床直層 部分欠損	残長10.0 幅11.6 厚2.8 重362		出土鉄滓の中では最も大きな部類に属する。全体に若干磁力(磁力5)を呼ぶ。	
20-00184	礫器 擦石	覆土内 完形	長4.5 幅4.2 厚3.4 重87.06	粗粒輝石安山岩	器面全体に摩滅は認められるが、顕著な摩滅ではない。	

第67号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01176	土師器 環	覆土内 破片	口(12.2) 底(9.4) 高3.0	並・酸・硬・鈍橙・黒色鉱物粒子若干・C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを。口縁直下は型膚を残す甘い撫で。底面は篋削り。体部に補修粘土。	太・笠・雷周 辺か
10-01177	土師器 台付壺	覆土内 破片	口(12.0) 頸(10.8)	並・酸・硬・鈍赤褐・白色微粒子微量・角粒砂・C生地土	紐作りか。緩やかに外傾して立ち上がる。内外面横位の丁寧な撫で整形。	太・笠・雷周 辺か
10-01178	土師器 壺	覆土内 破片	口(20.0) 頸(18.2) 胴(21.8)	並・酸・硬・鈍黄橙・赤褐色粒子・細粒砂・C生地土	作りの詳細は不詳。肩はナセ肩で口唇部は受け口状。外面の篋削りは豪胆だが上手である。	太・笠・雷周 辺か
10-01179	土師器 壺	覆土内 破片	口(17.6) 頸(14.8)	並・酸・並・黄橙・白色粒子・黒色鉱物粒子・赤褐色粒子・C生地土か	作りの詳細は不詳。口縁部の整形は回転条痕が強い。轆轤使用も考えられる。	太・笠・雷周 辺か
10-01180	須恵器 環	覆土内 破片	口(12.2) 底(6.0) 高3.7	並・還・並・灰・白色微粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部が落ちる作り。	雷電山産か
10-01181	須恵器 環	覆土内 破片	口(12.8) 底(7.6) 高3.8	並・還・締・灰・黒色粒子若干	轆轤成整形右回転。底部は回転篋起こし。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。	雷電山産か
10-01182	須恵器 環	覆土内 破片	口(13.0) 底(8.0) 高3.3	密・還・締・白灰・黒色粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。轆轤目は目立たない。粘土の挽き上げが強い。	産不詳
10-01183	須恵器 環	覆土内 破片	底(7.0)	密・還・締・外灰/断灰褐・白色粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転篋起こし。	栃木三義産か
10-01184	須恵器 環	覆土内 破片	口(11.6)	並・酸・軟・外黒褐/断黄褐・白色粒子・黒色鉱物粒子・β石英少量	轆轤成整形右回転。腰部が落ちる作り。	東毛産
10-01185	須恵器 環	覆土内 破片	口(12.0)	密・酸・並・灰・白色微粒子	轆轤成整形右回転。腰部が落ちる作り。	東毛産
10-01186	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口(16.2)	密・還・締・外黒褐/断灰・黒色粒子少量・白色鉱物粒子少量	紐作り後轆轤右回転成整形。長頸瓶としては大形。	産不詳
10-01187	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	厚0.8	並・還・締・灰・白色微粒子微量・熔黒色鉱物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。肩部に2条の横線を施す。	雷電山産か
10-01188	須恵器 壺	覆土内 破片	厚0.7	密・還・締・白灰・黒色粒子微量	紐作り後叩き整形。外面は正格子叩き、宛具は青海波文。粘土の挽き上げが強い。	産不詳
40-00091 70	鉄器 刀子	67号住居土 破片	残長10.7 身幅1.5 重12	茎重ね0.2/重ね0.3/茎残長6.8	刀身半分と茎の一部を欠損する。刃間は研減りが認められる。錆化が顕著。	
20-00185	石製品 紡錘車	覆土内 完形	長5.3 幅5.1 厚1.3 重54.22 孔径0.8	蛇紋岩	面取り成形後磨き仕上げ。表裏面に線刻状のものが認められるが、文字とは思われない。	

第68号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01189 70	土師器 環	床直層 完形	口11.9 底11.1 高5.1	並・酸・硬・橙・赤褐色粒子・黒色鉱物粒子(角粒状)・β石英	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は篋削り整形。	東毛産
10-01190 70	土師器 環	床直層 部分欠損	口12.5 底11.5 高4.1	並・酸・硬・橙・β石英・夾雑物微量・良質の2種生地土	型作り。器内面は暗文を施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は篋削り整形。風化顕著。	東毛産
10-01191 70	土師器 環	覆土内 部分欠損	口13.5 底12.1 高5.8	粗・酸・硬・鈍黄橙・白色粒子・黒色鉱物粒子・β石英・2種生地土	型作り。口縁部は短く外傾する。器内面は暗文を施す。口縁部直下は型膚を残す。底面は篋削り整形。風化顕著。	東毛産
10-01192 70	土師器 環	床直層 完形	口14.3 底13.8 高5.6	並・酸・硬・橙・白色粒子・β石英・夾雑物微量・良質の2種生地土	型作り。内面は暗文を施す。外面体部は篋削り整形。外縁は強い篋削りにより器面に沈線を描き込み表出。	東毛産
10-01193 70	土師器 環	床直層 部分欠損	口12.8 底13.0 高6.4	密・酸・硬・橙・白色微粒子・夾雑物極微量・C生地土	型作り。器厚は極薄い。口縁部は長く直立する。外縁直下に型膚を残す。底面は篋削り整形。	太・笠・雷周 辺か
10-01194	土師器 短頸壺	床直層 破片	口(13.4) 頸(11.8) 胴(13.6)	並・酸・並・橙/鈍黄橙・黒色鉱物粒子(角粒状)・β石英・2種生地土	上半部は紐作り。外面は横位の篋削り後、横位の篋削り整形。内面は暗文を施す。	東毛産
10-01195 70	土師器 短頸壺	床直層 破片	口(11.6) 頸(9.8) 胴(13.5)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・赤褐色粒子・白色微粒子・2種生地土	上半部は紐作り。口縁は短く外傾。頸部から刷毛撫で整形を施した後、撫で再整形を施す。	東毛産
10-01196	土師器 短頸壺	床直層 破片	口(13.6) 頸(11.6) 胴(14.2)	並・酸・軟・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白色粒子・2種生地土	上半部は紐作り。外面は横位の篋削り整形。内面は暗文を施す。は横位から斜上方向への撫で整形。	東毛産
10-01197 70	土師器 壺	覆土下層 部分欠損	口15.3 頸13.8 胴14.7 高9.7	並・酸・並・橙/鈍黄橙・β石英・黒色鉱物粒子・良質の2種生地土	体部以下は型作り。口縁部は短く外傾する。頸部から刷毛撫で整形を施した後、撫で再整形を施す。	東毛産
10-01198	土師器 埴 口縁欠損	覆土下層 口縁欠損	頸5.1 胴8.8 底3.3	並・酸・並・黒色鉱物粒子・β石英・透明鉱物粒子・2種生地土	算盤球を呈する。上半部は横位の撫で整形を施す。下半部は横位乃至斜位の篋削り整形を施す。	東毛産
10-01199	土師器 小形壺	床直層 1/4	口13.0 頸12.0 胴13.0 底(5.0)	並・酸・並・鈍橙/鈍黄橙・白色粒子・黒色鉱物粒子・β石英・2種生地土	器形の歪が顕著。紐作りか。口縁部は横位の撫で整形。内外面は斜位の撫で整形。	東毛産
10-01200	土師器 小形壺	床直層 1/4	口(14.6) 頸(12.4) 胴(14.9)	粗・酸・硬・鈍橙・白色粒子・黒色鉱物粒子・β石英・2種生地土	紐作り。胴部に最大径。口縁部は「く」の字状に外傾し、口唇部は俯く。内外面共に篋削り整形。	東毛産
10-01201 70	土師器 小形壺	床直層 1/3	口(13.0) 底(4.4) 胴(18.5) 高22.7	並・酸・硬・黒褐・黒色鉱物粒子(角粒状)・β石英・2種生地土	紐作り。外面は縦位の弱い刷毛撫で整形。内面は暗文を施す。は横位の撫で整形(単位不詳)。	東毛産

第68号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01202 71	土師器 小形甕	床直 1/3	口(13.6) 頸(11.0)	並・酸・硬・橙/黄橙・黒色鈹物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	紐作り。胴部に最大径。口縁部は「く」の字状に外傾する。外面は刷毛撫で後篋撫で整形、刷毛撫で整形。	東毛産
10-01203 71	土師器 小形甕	床直 部分欠損	口15.0 頸13.0 胴 19.7 底5.5 高22.3	並・酸・並・黒褐/鈍橙・黒色鈹物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	紐作り。「く」の字状口縁。胴部に最大径。底部は下位からの篋撫で整形。胴部は縦位の撫で整形と横位の篋削り。	東毛産
10-01204 71	土師器 甕	床直層 1/2	口(16.8) 頸(13.0)	並・酸・硬・黄灰/黄橙・白色粒子・ 黒色鈹物粒子・β石英・2種生地土	紐作り。口縁部は外傾して立ち上がる。内外面は風化により整形面が不鮮明。	東毛産
10-01205 71	土師器 鉢	床直層 2/3	口(27.2) 頸(14.0) 胴(27.6)	並・酸・硬・明黄褐・黒色鈹物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	紐作り。口縁部は外反して立ち上がる。内外面共に篋撫で整形。	東毛産
10-01206 71	土師器 甕	竈内 破片	底(9.2)	並・酸・硬・明黄褐・石英・チャ ート粒	紐作り。器厚は薄い。外面は縦位の指撫で後、縦位に篋撫で整形し、横位の篋削りを施す。	東毛産
10-01207 71	土師器 甕	床直 1/4	胴(19.0) 底(7.5)	粗・酸・硬・鈍黄橙/赤褐・白色粒子・ 黒色鈹物粒子・2種生地土か	紐作り。外面は縦位の篋撫で整形を施し、胴部最大径部分では横位の篋削りを施す。	東毛産
10-01208 71	土師器 鉢	床直層 1/3	口(26.0) 頸(22.6) 胴(25.2)	並・酸・硬・黄灰/黄橙・白色粒子・ 黒色鈹物粒子・β石英・2種生地土	紐作り。器厚は薄い。外面は縦位の指撫で後、縦位に篋撫で整形し、横位の篋削りを施す。内面は横位の篋撫で整形。	東毛産
20-00186	石製品 勾玉	床直層 部分欠損	残長2.7 幅1.05 厚0.77 重4.12	滑石	「コ」の字形。頭部の孔の部分から欠損する。横断面が鶏卵状を呈する。	
20-00187	石製品 砥石	床直 2/3	残長9.6 幅5.7 厚4.1 重306	流紋岩	置砥・手持砥兼用か。素材は赤褐色の縞が認められる。砥面は残存部の中央部が使用が少ない。	

第69号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01209	土師器 甕	覆土内 破片	口(24.0) 頸(22.2)	並・酸・並・鈍黄橙/赤褐色粒子・ 白色微粒子・C生地土	紐作りか。口縁部の横撫で整形は強く轆轤条痕状。轆轤の使用も考慮される。	太・笠・雷周 辺か
10-01210	須恵器 坏か塊	覆土内 破片	厚0.3	並・還・軟・灰白・白色鈹物粒子若 干・黒色粒子	轆轤成整形右回転。器面の摩滅が顕著だが、軟質に原因するかもしれない。	東毛産
10-01211	須恵器 塊	床直層 底部のみ	底6.0	並・還・硬・黒褐・白色微粒子・透 明鈹物粒子・黒色鈹物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。体部を打撃剝離している。	東毛産

第1号窯

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01212 72	須恵器 耳皿	前庭直層 覆土内 完形	口8.7 底5.2 高2.7~2.0	粗・中・硬・灰/灰黄・熔黒色鈹物粒 子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は布挽き。両側を揃み成形している。生地土の境界温度の焼成。	漆田産
10-01213 61	須恵器 坏	覆土内 破片	口(13.4) 底(6.4) 高4.2	粗・中・軟・黄灰・黒色鈹物粒子・ 石英	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。腰部から口縁部下半までは直線的。口縁部が強く外傾する。	漆田産
10-01214 72	須恵器 塊	前庭部 覆土内	口12.5 底6.8 高5.1	粗・中・締・灰/灰黄・熔黒色鈹物粒 子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。内面は布挽き。底面に亀裂。生地土の境界焼成温度を超えている。	漆田産
10-01215 72	須恵器 塊	覆土下層 口1/4欠	口(14.1) 底7.4 高5.2	密・中・締・灰/灰黄・黒色鈹物粒子 少量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。11号住内壁直下で出土白色粘土が生地土と考えられる。粘土は凝灰岩ベースで採集されているものと考えられる。	漆田産
10-01216	須恵器 塊	竈底直層 破片	底(6.6)	粗・中・締・灰/灰黄・熔黒色鈹物粒 子・熔長石	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。内面は布挽き。底面に亀裂。生地土の境界焼成温度を超えている。	漆田産
10-01217	須恵器 塊	竈底直層 破片	底(6.7)	粗・中・締・灰/灰黄・熔黒色鈹物粒 子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。内面は布挽き。底面に亀裂。生地土の境界焼成温度を超えている。	漆田産
10-01218	須恵器 塊	竈底直層 口・体欠	底(7.9)	粗・中・締・灰/灰黄・熔黒色鈹物粒 子・熔長石	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。内面は布挽き。底面に亀裂。生地土の境界焼成温度を超えている。	漆田産
10-01219	須恵器 塊	覆土内 破片	計測不能	粗・還・硬・灰・黒色粒子(熔黒色 鈹物粒子)・2種生地土	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。全谷作りは厚い。	漆田産
10-01220	須恵器 皿	覆土内 破片	口(14.0)	粗・還・並・外面灰白/内面黒褐・黒 色鈹物粒子・白色微粒子・2種生地土	轆轤成整形右回転。器厚は特に厚い。直線的に立ち上がった体部から、口縁部は強く外反する。内面は焼り残る。	漆田産
10-01221	須恵器 瓶	覆土内 破片	頸(8.0)	並・還・並・白灰・黒色鈹物粒子・ 透明鈹物粒子・白色微粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。大身の広口瓶。	漆田産

第2号窯(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01222	須恵器 坏	覆土内 1/4	口(10.9) 底(6.2) 高3.7	並・還・並・白灰・白色微粒子・黒 色鈹物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。内外断面焼成時の焼り吸炭が顕著。	漆田産
10-01223	須恵器 坏	前庭底直層 3/5	口(11.2) 底(6.0) 高3.9	並・還・硬・黄灰/灰黄・黒色鈹物粒 子少量・白色微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。内外断面焼成時の焼り吸炭が顕著。	漆田産
10-01224	須恵器 坏	覆土内 破片	口(11.6) 底(7.2) 高3.6	並・中・並・灰黄・白色微粒子・黒 色鈹物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。内外断面焼成時の焼り吸炭が顕著。	漆田産
10-01225 72	須恵器 坏	覆土内 3/4	口12.0 底7.1 高3.9	並・中・並・黄灰/灰黄・白色粒子微 量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。腰は落ちる作り。内外断面焼成時の焼り吸炭が顕著。	漆田産
10-01226	須恵器 坏	竈底直層 破片	口(12.0) 底(6.0) 高3.6	並・中・並・黄灰・白色微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。内外断面焼成時の焼り吸炭が顕著。	漆田産
10-01227	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.2) 底(6.4) 高3.6	並・中・並・内黄灰/外暗褐・白色微 粒子・黒色鈹物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。内外断面焼成時の焼り吸炭が認められる。	漆田産
10-01228 72	須恵器 坏	前庭覆土 口縁欠多	口(12.6) 底(6.4) 高4.8	並・中・並・黄灰・透明鈹物粒子微 量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は丁寧な布挽き再整形。轆轤目は均質。生地土は搬入の可能性あり。	漆田産
10-01229	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.6) 底(7.0) 高3.4	並・中・軟・黄灰・白色粒子・白色 微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。内外断面焼成時の焼り吸炭が顕著。	漆田産
10-01230	須恵器 坏	覆土内 破片	口(13.4) 底(6.4) 高(4.5)	並・中・軟・白灰・夾雑物無	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。腰部はやや張る。轆轤目は立つが間隔が粗い。	漆田産
10-01231 72	須恵器 坏	覆土内 1/3	口(13.8) 底(7.2) 高4.0	並・中・軟・黄灰・熔黒色鈹物粒子・ 赤褐色粒子・2種生地土	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。外面は再調整されている。	漆田産
10-01232 72	須恵器 塊	壁崩落部覆 土 3/4	口12.8 底(7.4) 高4.7	並・還・締・白灰・熔黒色鈹物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。焼締による亀裂がある。部分的に焼りが認められる。	漆田産

第2号窯(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01233 72	須恵器 埴	前庭覆土内 1/2	口(13.2) 底(7.2) 高4.6	並・中・硬・灰白・白色微粒子少量・ 発泡鉱物(長石か)	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。見込みに焼成時の燻りが認められる。器形は直線的。	漆田産
10-01234	須恵器 埴	覆土内 破片	口(13.2)	並・酸・並・黄灰/鈍黄褐・白色微粒子・ 黒色鉱物粒子・赤褐色粒子	轆轤成整形右回転。高台は欠損。器内面は布挽き再整形。内外断面焼成時の燻り吸炭が顕著。	漆田産
10-01235 72	須恵器 埴	壁際覆土内 完形	口13.5 底7.3 高4.6	並・還・硬・灰黄・白色微粒子・黒色 鉱物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。内外断面焼成時の燻り吸炭が顕著。器厚は厚い。	漆田産
10-01236	須恵器 埴	覆土内 破片	口(15.2)	並・中・硬・灰/黄灰・白色微粒子・ 熔黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。布挽き焼成乃至製作時に歪が生じている。大身の埴。	漆田産
10-01237	須恵器 埴	覆土内 破片	底(7.0)	並・還・硬・灰・白色微粒子・熔黒色 鉱物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。内外断面焼成時の燻り吸炭が顕著。	漆田産
10-01238	須恵器 埴	覆土内 破片	底(7.4)	並・還・並・灰白・白色微粒子・黒色 鉱物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。内外断面焼成時の燻り吸炭が顕著。	漆田産
10-01239	須恵器 埴	覆土内 破片	底(7.6)	並・中・粗・黄灰・白色微粒子・白色 微粒子・黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。内外面に焼成時の燻りが淡く認められる。	漆田産
10-01240	須恵器 皿	前庭底直層 2/3	口(13.0) 底(7.5) 高3.4	並・還・並・灰黄・白色微粒子・黒色 鉱物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。内外断面焼成時の燻り吸炭が顕著。器厚は厚い。	漆田産
10-01241	須恵器 皿	覆土内 破片	口(14.0)	並・中・硬・灰黄/黄灰・白色微粒子・ 黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。器内面は布挽き再整形。轆轤目は粗い。	漆田産
10-01242	須恵器 埴	覆土内 破片	口(17.6)	並・酸・軟・明黄褐・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・赤褐色粒子	轆轤成整形右回転。著しく外反する。皿の可能性あり。器内面は布挽き再整形。胎土が異なる。漆田以外の製品か。	漆田産か東毛産
10-01243	須恵器 蓋	覆土内 破片	天(8.0)	並・還・軟・白灰・黒色鉱物粒子少量・ 透明鉱物粒子少量	轆轤成整形右回転。天井部は回転削り。器内面は布挽き再整形。断面に吸炭が認められる。	漆田産
10-01244	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	口(16.0)	並・還・締・灰/暗灰・白色微粒子・ 熔黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。器厚は薄い。短い口縁部が「く」の字状に外傾して立ち上がる。	漆田産

第3号窯

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01245 72	須恵器 埴か	覆土内 破片	口(12.4)	並・中・軟・灰白/黄灰・細粒状黒色 鉱物粒子	轆轤成整形右回転。底部を欠損する。器内面が一枚刺離する風化状態。内面焼成時の燻り吸炭が認められる。	漆田産
10-01246	須恵器 埴	覆土内 破片	底(7.6)	並・還・並・灰・黒色鉱物粒子・白色 微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。腰部は落ちる作り。内外断面焼成時の燻り吸炭が顕著。	漆田産
10-01247 72	須恵器 皿	窯底直上層 2/3	口(13.0) 底7.2 高4.2	並・中・並・灰黄/暗褐・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・白色微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。内外面に吸炭が認められるが、焼成時かその後の被二次焼成か不分明。	漆田産
10-01248	須恵器 皿	覆土内 破片	口(13.0) 底(6.2) 高2.4	並・還・軟・灰・黒色鉱物粒子・白色 微粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。高台は製作段階から付けられていない。内外面に吸炭が認められる。	漆田産
10-01249	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口(16.2) 頸(9.8)	並・中・軟・灰・白色微粒子・黒色 鉱物粒子・赤褐色粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。焼締がされていない。液体物を入れることはできない焼き上がり。	漆田産

第5号窯

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01250	須恵器 坏か	覆土内 破片	口(12.8)	並・還・硬・外灰/内黒褐・白色微粒子・ 熔黒色鉱物粒子・白色微粒子	轆轤成整形右回転。轆轤目は強く粗い。	漆田産
10-01251	須恵器 坏か	覆土内 破片	口(13.4)	並・還・軟・白灰/黒褐・白色微粒子・ 黒色鉱物粒子・透明鉱物粒子	轆轤成整形右回転。轆轤目は弱い。絵内外断面焼成時の燻り吸炭が顕著。	漆田産
10-01252	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.4)	並・還・硬・白灰/黒褐・白色微粒子・ 黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。内外断面焼成時の燻り吸炭が顕著。	漆田産
10-01253	須恵器 埴	覆土内 破片	口(14.0)	並・酸・硬・明黄褐・黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。轆轤目は強く粗い。	漆田産
10-01254	須恵器 埴	覆土内 破片	底(6.4)	並・還・硬・白灰/黒褐・白色微粒子・ 黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。内外断面焼成時の燻り吸炭が顕著。	漆田産
10-01255	須恵器 内黒坏か	覆土内 破片	口(13.0)	並・酸・硬・黄橙・熔黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。器内面に研磨を施し燻し処理を施す。使用に伴う摩滅等が認められない。漆田産か。	漆田産か東毛産
10-01256	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	口(17.0)	並・酸・硬・黄灰/黄橙・白色微粒子 少量	紐作り後轆轤右回転成整形。整形痕の摩滅が認められない。漆田産と判断される。	漆田産

第1号埋設土器

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01257 72	縄文土器 深鉢	埋土内 破片	厚0.7	並・還・硬・赤褐・石英・チャート・ 透明鉱物粒子・C粘土か	地文にR1原体を横転施文し、半截竹管の押し引き文を横位施文する。	大・笠・雷周辺か
10-01258	縄文土器 深鉢	埋土内 胴部	残存胴部径(19.2)	並・還・硬・暗赤・β石英多量・黒色 鉱物粒子微量・赤ネバ	地文にR1原体を横転施文し、無節原体の付加結節(軸縄は不詳)を地文の間隙に横転施文する。	東毛産

第2号埋設土器

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01259 72	縄文土器 深鉢	埋土内 胴部下半	残存胴部径(16.6)	並・還・硬・赤暗・夾雑物微量・含 繊維・C粘土か	複節R1原体を横転施文する。	大・笠・雷周辺か

第1号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01260	須恵器 内黒埴	覆土内 破片	底(5.4)	並・酸・並・鈍黄橙/黒褐・黒色鉱物 粒子・白色微粒子・透明鉱物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は研磨を施し燻し処理を施す。燻りが外面にも及んでいる。	笠懸産か

第2号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01261	須恵器 坏	覆土内 破片	厚1.0	並・還・並・灰白・透明鉱物粒子・ 白色微粒子・黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は研磨を施し 燻し処理を施す。	漆田産 墨書-92
10-01262	須恵器 内黒塊	覆土内 破片	底(5.4)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器内面は研磨を施し 燻し処理を施す。	笠懸産か墨書 -93
10-01263	須恵器 羽釜	覆土内 破片	厚0.8	並・酸・軟・黄灰・シルト質・軽い・ C生地土	紐作り後轆轤右回転成整形、罅部は貼り付け後轆轤成整形。 秋間産の胎土に類似。	産不詳
10-01264	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	口(14.4)	密・還・締・灰 釉調=灰オリーブ	轆轤成整形右回転。施釉は刷毛塗り。	搬入品
10-01265	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	底7.2	密・還・締・灰 釉調=灰オリーブ	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。施釉は浸し掛け。	搬入品

第3号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01266	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.0)	並・中・並・黒褐・白色微粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。	漆田産
10-01267	施釉陶器 灰釉 碗	覆土内 破片	厚0.4	密・還・締・灰 釉調=灰オリーブ	轆轤成整形右回転。口唇部は折れ口状で尖る。施釉は不詳。	搬入品

第6号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01268	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.4	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。体部は縦位の寛撫で整形。	東毛産

第13号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01269	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.2~0.3	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・C生地土か	作りの詳細は不詳。外面は縦位の寛削り。内面は暗文を施 す。は丁寧な撫で整形。	太・笠・雷周 辺か
10-01270	須恵器 瓶	覆土内 破片	肩(19.0)	並・酸・軟・外黒褐/内・断鈍黄橙・ 微粒雲母・粗粒長石	紐作り。外面は轆轤右回転整形。内面は暗文を施す。は叩 き整形後寛撫で整形。	太田東部産か

第14号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01271 72	須恵器 塊	覆土下層 2/3	口(13.7) 底7.0 高5.4	並・還・軟・白灰・黒色鉱物粒子多 量・石英多量	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器面の風化が顕著。	東毛産

第36号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01272	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.4	並・酸・硬・鈍橙・黒色鉱物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生地土	型作り。外面外縁は寛撫で表出。器内面及び口縁部は横撫 でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。	東毛産

第43号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01273	須恵器 坏か	覆土内 破片	厚0.4	並・還・並・白灰・黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。	漆田産

第69号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01274	須恵器 坏か	覆土内 破片	厚0.3	並・還・並・白灰・黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。	漆田産か

第71号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01275	須恵器 坏	覆土内 破片	口(9.0) 歪顕著	並・還・硬・黄灰・白色微粒子	轆轤成整形右回転。轆轤目は強い。	漆田産

第72号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01276	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉱物粒子	R1 原体の横転施文。	産不詳
10-01277	須恵器 坏か塊	覆土内 破片	厚0.7	並・酸・並・黄橙/黄灰・黒色鉱物粒 子少量	轆轤成整形右回転。轆轤目は強い。	漆田産

第74号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01278	須恵器 塊	覆土内 破片	底((7.0))	並・酸・硬・鈍黄橙・黒色鉱物粒子 (角粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。	東毛産

第75号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01279	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚0.8	並・還・締・内灰白/外断白灰・夾雜物無	作りの詳細は不明。底面の摩滅顕著。	雷電山か

第76号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01281	土師器 坏	覆土内 破片	口(11.0) 底(9.7)	並・酸・硬・橙・透明鉱物粒子若干・C生地土	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残す。端部は寛削り。	東毛産 M1類
10-01282	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.6	並・酸・並・橙・透明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	作りの詳細は不明。口縁部は横位の丁寧な撫で整形。	東毛産
10-01283	土師器 甕	覆土内 破片	口(18.0) 頸(14.6)	並・酸・硬・黄橙・透明鉱物粒子・C生地土	作りの詳細は不明。頸部は「コ」の字状口縁の傾向が認められる。	太・笠・雷周 辺か
10-01284	土師器 甕	覆土内 破片	口(20.1) 頸(16.4)	並・酸・硬・黄橙・透明鉱物粒子・C生地土	作りの詳細は不明。頸部は「コ」の字状口縁の傾向が認められる。	太・笠・雷周 辺か
10-01285	須恵器 坏	覆土内 破片	口(13.0)	並・還・締・灰・白色微粒子少量・軽い	轆轤成整形右回転。轆轤目は弱い。	秋間産か
10-01286	須恵器 坏	覆土内 破片	口(13.2)	並・酸・硬・暗褐/暗茶褐・白色微粒子・白色粒子	轆轤成整形右回転。腰部は落ちる作りになっている。	笠懸産
10-01287	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.6)	並・還・締・灰白・白色微粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転不切。腰部は落ちる作りになっている。	笠懸産

第83号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01288	須恵器 坏か塊	覆土内 破片	口(12.0)	並・酸・粗・明黄褐・透明鉱物粒子・黒色鉱物粒子・2種生地土	轆轤成整形右回転。体部・口縁部は丸みを帯び立ち上がる。	東毛産
10-01289	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.5	並・酸・粗・暗褐・石英・黒色鉱物粒子・2種生地土	紐作りか。頸部は横位の寛撫で整形。肩部は横位の寛削り。	東毛産

第84号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01290	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.4	並・酸・硬・橙・黒色鉱物粒子微量・透明鉱物粒子微量・C生地土	型作り。口縁部は横撫でを施す。口縁部直下に型膚を残す。底部は寛削り。	太・笠・雷周 辺か
10-01291	土師器 甕	覆土内 破片	口(19.4) 頸(17.6)	並・酸・並・黄橙・透明鉱物粒子・C生地土	作りの詳細は不明。口縁部は丁寧な横位の撫で整形。	太・笠・雷周 辺か
10-01292	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.0) 底(6.0) 高(4.2)	並・還・締・灰・白色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転不切。器厚は薄い。	埼玉北部
10-01293	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.4)	並・還・締・暗灰/灰・白色粒子	轆轤成整形右回転。口唇部は尖り肥厚する。	南埼玉か多摩 産

第93号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01294	須恵器 塊	覆土内 破片	底(5.0)	並・酸・硬・浅黄橙・黒色鉱物粒子(角粒状)・β石英	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。細片のため詳細不明。	東毛産

第103号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01295	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	口(43.6)	並・酸・並・黄橙・黒色鉱物粒子・デイスait・チャート	内湾形態の波状口縁の深鉢。口唇部はうつ向き気味で横撫で整形。直下に細い隆帯を巡らせる。波頂部には、板状の粘土板を成形した橋状把手を4箇所に付けると思われる。胴部紋様は、波頂部の直下から無紋帯で囲む「S」字状の隆帯区画を配し、隆帯の区画内にR1原体を充填施文する。波頂部には、無紋帯との縦位界線内にR1原体を充填施文する。	東毛産
10-01296			厚1.2			
10-01297			厚1.1			
10-01298	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	口(16.0)	並・酸・並・暗褐・黒色鉱物粒子・β石英・白色粒子・2種生地土	内湾形態で4単位の波状口縁。口唇部は無紋で横撫で、直下に細い隆帯を巡らせ、直下にLr原体を充填施文する。	東毛産
20-00188	打製石器 打製石斧	覆土内 1/2	残長5.8 幅7.5 厚2.2 重120.1	黒色頁岩	分胴形乃至撥形の先端側の破片と考えられる。上半部を欠損する。	

第110号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01299	須恵器 坏か	覆土内 破片	厚0.2	密・還・締・灰・白色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。器厚は極薄い。	埼玉北部

第111号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01300	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(13.4)	並・還・硬・灰・黒色粒子	轆轤成整形右回転。端部は折り返す。天井部は回転寛削りが行われていない。	
10-01301	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.4) 底(7.4) 高4.7	密・還・締・灰・熔黒色鉱物粒子少量	轆轤成整形右回転。底部は回転寛削り。轆轤目は非常に浅い。秋間古窯跡の製品とも思われる。	雷電山産か

富田漆田遺跡 諸元

第112号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01302	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.5	並・還・硬・内明黄褐/外上鈍褐・外 下橙・黒色鉱物・β石英・2種生地土	外面は刷毛撫で整形後撫での再整形。上半部は焼成時の色 変が認められる。内面は刷毛撫でが認められる。	東毛産

第114号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01303	土師器 坏	覆土内 破片	口(11.0) 底(9.2)	並・酸・並・黄橙・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・2種生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は篋削り。	東毛産
10-01304	須恵器 瓶	覆土内 破片	残存最大径(18.2)	並・還・締・灰・熔黒色鉱物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。	東毛産

第117号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01305	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.0)	並・酸・並・明黄褐・石英・2種生 地土	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器厚は厚い。	東毛産

第118号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01306	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.2	並・還・硬・橙・夾雑物微量・C生 地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01307	須恵器 坏	覆土内 破片	底(5.4)	並・還・締・灰・白色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。器厚は薄い。	太田産

第124号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01280	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.0) 底(10.2)	並・酸・並・橙・白色粒子・C生 地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は篋削り。	太・笠・雷周 辺か

第128号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01308	須恵器 坏	覆土内 破片	底(8.0)	並・還・並・内灰白/外黒褐・夾雑物 無	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。外面は燻しにより黒 褐を呈する。	太・笠・雷周 辺か
10-01309	須恵器 塊	覆土内 破片	底(6.4)	粗・還・軟・白灰・熔黒色鉱物粒子・ 軽石	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器厚は厚い。	漆田産

第140号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01310	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.4)	密・還・締・内灰白/外黒褐・夾雑物 無	轆轤成整形右回転。底部は回転篋起こし。	雷電山産か

第141号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01311	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.0) 底(10.2)	並・還・並・鈍橙・白色粒子・C生 地土か	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は篋削り。	東毛産
10-01312	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.0) 底(10.2)	並・還・並・橙・透明鉱物粒子少量・ C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は篋削り。	東毛産
10-01313	土師器 坏	覆土内 破片	口(13.6) 底(11.8)	並・還・並・橙・透明鉱物粒子・C 生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。底面は篋削り。	東毛産
10-01314	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.0) 底(7.2) 高4.7	密・還・締・灰白・黒色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転篋起こし。器厚は極薄い。	東毛産

第169号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01317	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.5	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子微 量・透明鉱物粒子微量・2種生地土	「コ」の字状口縁。頸部直下は横位の篋削り。口縁部は横位 の撫で整形。	東毛産
10-01318	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.4	並・酸・鈍黄橙・黒色鉱物粒子微量・ 透明鉱物粒子微量・2種生地土	10-01317と同一個体。縦位の篋削り整形。	東毛産
10-01319	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.6	並・中・並・灰黄・黒色鉱物粒子・ 白色鉱物粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切。	東毛産

第170号土坑(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01320	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.3	並・酸・硬・黄橙・透明鉱物粒子・ C生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は 型膚を残す甘い撫でを施す。	太・笠・雷周 辺か
10-01321	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.4	並・酸・並・鈍橙・黒色鉱物粒・透 明鉱物粒・白色鉱物粒・2種生地土	「コ」の字状口縁。口唇部の撫で整形がやや強く内傾状態に なっている。	東毛産
10-01322	土師器 甕	覆土内 破片	厚0.4	粗・酸・軟・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・2種生地土	紐作りか。器形は肩が非常に張る壺形態に近い。作りは粗 雑な感がある。	東毛産か漆田 産

第170号土坑(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01324	土師器 台付甕	覆土内 破片	基(5.2)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈳物粒子 (角粒状)・β石英・2種生地土	底部は縦位の篋削り。基部は横位の撫で整形。内面は丁寧な横位の篋撫で整形。	東毛産

第174号土坑

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-01315	須惠器 坏か	覆土内 破片	口(13.0)	並・選・締・灰・白色微粒子	轆轤成整形右回転。歪により立ち上がりが寝ている。	笠懸産
10-01316 72	須惠器 埴	覆土内 破片	口14.8 底6.1 高6.1	並・選・締・灰白・黒色粒子・白色 微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。体部が長い。腰部が落ちた作り。体部は直線的に立ち上がる。	東毛産
10-01323	土師器 壺	覆土内 破片	胴(13.6)	並・酸・粗・外暗褐/断赤褐・黒色鈳 物粒子・透明鈳物粒子・2種生地土	紐作り。外面は横位の撫で・篋撫で整形。また、器面の剥落が多い。内面は縦横の撫で整形。	東毛産

富田漆田遺跡 諸元

漆田・度目値一覧表

資料番号	器種	計測値				度目値		度目値		摘要
		口径	底径	器厚	<坏高>	口径/器高	底径/器高	<口径/器高>	<底径/器高>	
10-00585	坏	12.9	(6.2)	3.2	—	4.031	1.937	—	—	2号住居
10-00586	坏	16.1	(6.3)	5.4	—	2.981	1.166	—	—	2号住居
10-00607	坏	11.5	6.0	3.9	—	2.948	1.538	—	—	4号住居
10-00609	坏	11.6	(5.6)	4.1	—	2.829	1.365	—	—	4号住居
10-00610	坏	12.1	(6.4)	3.8	—	3.184	1.684	—	—	4号住居
10-00611	坏	12.2	(7.6)	3.4	—	3.588	2.235	—	—	4号住居
10-00612	坏	12.4	6.4	3.8	—	3.263	1.684	—	—	4号住居
10-00613	坏	12.6	6.7	3.7	—	3.405	1.8108	—	—	4号住居
10-00614	坏	12.9	(6.8)	3.9	—	3.307	1.743	—	—	4号住居
10-00615	坏	13.0	(6.0)	3.3	—	3.94	1.820	—	—	4号住居
10-00616	堿	12.95	6.9	4.6	—	2.815	1.876	3.083	1.369	4号住居
10-00618	堿	13.1	7.1	4.8	—	2.729	1.479	3.333	1.641	4号住居
10-00619	堿	13.1	7.0	4.8	—	2.729	1.794	3.333	1.794	4号住居
10-00620	堿	13.2	7.0	4.9	—	2.693	1.428	3.069	1.441	4号住居
10-00621	堿	13.5	7.4	4.9	—	2.755	1.510	3.068	1.681	4号住居
10-00623	堿	13.9	6.9	5.5	4.9	2.527	2.014	2.836	1.306	4号住居
10-00625	堿	15.4	(8.1)	5.3	5.0	2.9056	1.528	3.800	1.360	4号住居
10-00670	坏	12.1	(6.7)	3.2	—	3.781	2.093	—	—	11号住居
10-00671	坏	12.2	5.8	3.6	—	3.388	1.611	—	—	11号住居
10-00672	坏	12.6	6.4	4.2	—	3.000	1.523	—	—	11号住居
10-00673	堿	11.4	(7.6)	4.5	4.0	2.533	1.688	2.850	1.750	11号住居
10-00674	堿	12.1	6.5	4.4	3.9	2.75	1.477	3.102	1.538	11号住居
10-00679	堿	12.2	7.3	3.4	—	3.588	2.147	2.370	4.518	11号住居
10-00699	坏	12.0	(6.0)	3.3	—	3.636	1.818	—	—	16号住居
10-00700	坏	12.0	(5.8)	3.9	—	3.076	1.487	—	—	16号住居
10-00701	坏	12.0	(5.2)	4.1	—	2.936	1.268	—	—	16号住居
10-00740	坏	13.3	5.8	4.2	—	3.166	1.380	—	—	22号住居
10-00742	坏	13.1	6.2	4.5	4.2	2.911	1.377	—	—	22号住居
10-00745	堿	13.1	6.5	4.9	4.0	2.673	1.326	3.192	1.476	22号住居
10-00746	堿	13.2	7.0	4.4	5.0	2.025	1.590	3.300	1.600	22号住居
10-00747	堿	14.2	(6.6)	5.7	—	2.491	1.157	2.840	1.240	22号住居
10-00774	坏	12.1	6.2	3.9	—	3.102	1.589	—	—	26号住居
10-00819	坏	13.0	(6.0)	4.3	—	3.023	1.395	—	—	30号住居
10-00840	坏	11.7	5.6	3.8	—	3.078	1.473	—	—	31号住居
10-00841	坏	12.4	5.4	3.9	—	3.179	1.384	—	—	31号住居
10-01118	坏	11.7	(5.6)	4.1	—	2.853	1.365	—	—	56号住居
10-01119	坏	12.0	5.6	3.3	—	2.142	1.696	—	—	56号住居
10-01120	坏	12.4	6.4	4.2	—	2.952	1.523	—	—	56号住居
10-01123	坏	11.9	5.6	3.7	—	3.216	1.513	—	—	56号住居
10-01168	堿	13.6	6.9	5.7	4.5	2.385	1.210	2.385	1.210	65号住居
10-01175	堿	14.4	7.5	4.9	4.3	2.938	1.530	3.348	1.627	66号住居
10-01214	堿	12.5	6.8	5.1	4.8	2.450	1.333	2.604	1.166	1号窯
10-01213	坏	13.4	(6.4)	4.2	—	3.190	1.523	—	—	1号窯
10-01215	堿	14.1	(7.4)	5.2	5.0	2.711	1.423	2.820	1.480	1号窯
10-01222	坏	10.9	(6.2)	3.7	—	2.945	1.621	—	—	2号窯
10-01224	坏	11.6	(7.2)	3.6	—	3.222	2.000	—	—	2号窯
10-01225	坏	12.0	7.1	3.9	—	3.076	1.820	—	—	2号窯
10-01228	坏	12.6	(6.4)	4.8	—	2.625	1.333	—	—	2号窯
10-01223	坏	11.2	(6.0)	3.9	—	2.871	1.538	—	—	2号窯
10-01226	坏	12.0	(6.0)	3.6	—	3.333	1.666	—	—	2号窯
10-01227	坏	12.2	(6.4)	3.6	—	3.388	1.777	—	—	2号窯
10-01229	坏	12.6	(7.0)	3.4	—	3.705	2.058	—	—	2号窯

資料番号	器種	計測値				度目値		度目値		摘要
		口径	底径	器厚	<坏高>	口径/器高	底径/器高	<口径/器高>	<底径/器高>	
10-01230	堿	13.4	6.4	—	4.5	—	—	2.977	1.422	2号窯
10-01233	堿	13.2	(7.2)	4.6	4.0	2.869	1.565	3.300	1.650	2号窯
10-01232	堿	12.8	(7.4)	4.7	4.2	2.723	1.574	3.047	1.571	2号窯
10-01235	堿	13.5	7.3	4.6	4.0	2.934	1.586	3.375	1.575	2号窯
10-01231	坏	13.8	(7.2)	4.0	—	3.450	1.800	—	—	2号窯
10-01240	皿	13.0	7.5	3.4	—	3.823	2.205	—	—	2号窯
10-01247	堿	13.0	7.2	3.4	3.4	3.092	1.714	3.823	—	3号窯
10-01248	坏	13.0	(6.2)	—	—	5.4166	2.5833	—	—	3号窯

富田下大日遺跡遺構諸元



富田下大日遺跡遺構諸元

溝状遺構

第1号溝状遺構

層序：(基準線標高値110.00m)

A-A'・B-B'

1. 黒色土：As-B 多量。
2. 黒色土：As-B 多量・塊状ローム少量。
3. 黒色土：As-B 混入・塊状ローム含有。

層序：(基準線標高値108.50m)

C-C'

1. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 暗褐色土：粒状C軽石少量。
4. 暗褐色土：粒状C軽石無し。
5. 茶褐色土：粒状C軽石無し。

所見：当溝状遺構は台地の縁辺部を巡る位置で発見されていることから、土地利用上の施設と考えられる。As-Bを多量に混入するII層土ベースであることから、時期は中世以降と考えられる。

第2号溝状遺構

層序：(基準線標高値110.00m)

1. 黒色土：粒状C軽石少量。
2. 黒色土：粒状C軽石含有。
3. 暗褐色土：粒状C軽石少量。
4. 暗褐色土：粒状C軽石無し。
5. 茶褐色土：粒状C軽石無し。

所見：当溝状遺構は、富田漆田遺跡の12号溝と同様に台地の走行方向に対して直角に交わる状態で、台地縁辺で発見されている。溝底面は硬化した部分が所々で認められている。この状況から当該の溝状遺構も道跡ことが推定される。時期はAs-Bが覆土中位に堆積が認められたことから、時期的にはこのAs-B降下直前までが下限として考えられる。

第3号溝状遺構

層序：(基準線標高値m)

所見：当溝状遺構は、富田漆田遺跡と当遺跡間の低地部分で発見されている。この低地部には現在悪水路が流走している。本来は小河川の流路に当たるが、現在はこの悪水路が存在するに過ぎない。低地部では古代の遺構面として、As-B降下した水田跡が発見されている。当該の溝状遺構はこの水田跡の下大日側を台地の縁辺をなぞり流下しており、平面状では蛇行状態である。溝状遺構の幅は大凡2m程で深さ60～40cm程である。溝底は砂礫が硬くしまった状態で、溝底から30cm程の堆積土中にAs-Bの降下が確認出来る。このAs-Bの堆積状態は所々で異なり、流路が蛇行する部分では、As-Bの二次堆積を含めて堆積量が多い。特に低地部中央の蛇行部分では、二次堆積のAs-Bがオーバーフローする状態であった。

当該の溝状遺構はAs-Bに掛け流す水路の役割おも含んでいたと考えられ、As-B下水田跡はこの水路側から割付ている状態にも看取される。

第6～8号溝状遺構

層序：(基準線標高値110.00m)

1. 灰褐色土：旧表土に酸化鉄分が混入。
2. 砂層。
3. 濁茶褐色粘質土。
4. 濁黒灰褐色土：攪拌を受けている。
5. 塊状ローム。
6. 黄茶褐色土：酸化鉄分による染色が顕著。
7. 濁黒褐色土。
8. 7同質。
9. 濁灰黒褐色土：旧表土層。
10. 6近質。
11. 10同質。
12. 濁暗茶褐色土：塊状ローム混入。
13. 暗褐色土：As-B混入。

14. 濁暗褐色土：溝状遺構か。 15. 7号溝：濁暗灰褐色土：As-B混入。 16. 6号溝：濁暗茶褐色土：As-B褐色土。
17. II層土。 18. As-B（上半は追分火砕流）。 19. VI層土。 20. 濁黄褐色土：塊状ローム多量。

所見：当溝状遺構は、台地の西側斜面から低地部分にかかる状態で発見されている。

6号溝はAs-Bの降下により埋没が確認されている。低地部分の黒色土面にはやはりAs-Bが降下していた。調査段階では、As-B降下水田跡の存否を考慮したが、遺構の確認は出来なかった。

7・8号溝は土地改良により埋設以前されている。

住居跡

第1号住居跡

位置：60-B・C-20/70-B・C-1。 形状：矩形。 規模：3.90m×4.20m。 主軸方位：北-28度→南。

所見：当該住居跡は表土層除去直後にVII層土（茶褐色土層）中の平面精査を実施した段階で確認させた落ち込みである。覆土は暗褐色土の溝状に確認された。この溝状の内側は確認面同様の茶褐色土で、遺物を含む当の状況は看取されなかったが、周囲の遺物包含層の遺物出土状況等を勘案して住居跡認定をした。しかし、一冬の風雨・降雪・降霜により次年度に再度平面精査を実施した段階ではこれらが確認されなかった。図化掲載した図は、平面精査直後の概念図（1：100）から作成した。

第2号住居跡

位置：59-S・T-13・14。 形状：梯形。 規模：4.24m×2.5m×3.3m。 主軸方位：北-112度→南。

所見：第1号住居跡と同様。

第3号住居跡

位置：59-O・P-10。 形状：梯形。 規模：m×m。 主軸方位：北-一度→南。

所見：

第4号住居跡

位置：59-N・O-7。 形状：不詳。 確認範囲の規模：3.70m×2.98m。 主軸方位：北-59度→西。

所見：当住居跡は、表土層除去直後にIX層土の確認面で発見されている。遺構確認面は、あまたの攪乱・採土により、現地表面直下30cm程でIX層土面に達している。当住居跡は、この確認面に認められた住居跡の床面と考えられた範囲を以って遺構認定を行った。以下の経緯は第1号住居跡と同様である。

第5号住居跡

位置：38-N・O-20/48-N・O-1グリッド。 形状：矩形。 規模：3.92m×3.66m。 主軸方位：北-一度→南。 基準辺：北西壁・南西壁。 竈規模：全長1.90m×袖部幅1.30m×燃烧部幅0.40m。

層序：(基準線標高値109.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状IV層土含・塊状炭化物多量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量。
5. 3類似。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
7. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状炭化物混入。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状灰褐色粘質土多量。
9. 暗褐色：塊状VI層土少量。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状焼土混入・灰混入。
11. 暗褐色：細粒状C軽石含有・粗粒状ローム含有・焼土粒含有。
12. 黒褐色土：塊状V層土含有・焼土粒含有。
13. 暗褐色：塊状焼土微量。

所見：当住居跡は南側暖斜面部の東寄りに位置している。比較的整った矩形を呈し壁溝も認められている。竈は東壁中央よりやや南東隅部よりでしっかりした左袖の基部は地山を削り出している。傍竈坑はピット状である。掘方は住居跡中央部で不正形状の土坑状の掘り込みが認められるが、縄文時代の土坑の可能性も考慮される。埋土は暗褐色である。出土遺物は、住居跡の中央よりやや北壁に寄った部分から10-00026土師器甕が覆土内から、10-00027須恵器壺が南壁沿いの覆土内から出土している。時期は9世紀中頃と考えられる。

第6号住居跡

位置：38-N・O-18・19。 形状：横長方形。 規模：3.20m×4.76m。 主軸方位：北-118度→東。 基準辺：北西壁。 竈規模：全長1.90m×袖部幅1.80(約1.20)m×燃烧部幅0.80m。ピット1：-0.51m・ピット2：-0.20m・ピット3：-0.20m・ピット4：-0.08m・ピット5：-0.20m・ピット6：-0.21m・ピット7：-0.20m・ピット8：-0.29m。

層序：(基準線標高値108.90m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状IV層土少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状IV層土多量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム多量・粗粒状ローム多量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粗粒状ローム少量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム混入・粗粒状ローム混入。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム多量。
8. 塊状ローム主体。
9. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒含有。
10. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量・焼土粒微量。
11. 黒褐色土：微粒状C軽石若干・塊状ローム多量・塊状焼土少量・塊状褐色粘質土微量。
12. 黒褐色土：微量C軽石微量・塊状焼土混入・塊状炭化物混入・塊状褐色粘質土少量。
13. 暗褐色：粒状ローム混入・焼土粒少量。
14. 暗褐色：粒状ローム若干・焼土粒微量。

所見：当住居跡は5号住に近接し、7号住を切り構築している。形状は竈周りがやや特殊である。南側隅部と竈の間を大きく掘残し、竈右袖が巨大化した如くの状態にしてある。このため、左袖は右袖に長さを合せているため、長い舌状で屋内に突出する形になっている。傍竈坑は極めて小規模なピット状である。また、P₂は床面で確認できたが、掘方面では濁った褐色土を多く含む土で埋設された状態であった。P₇は床面上では礫が部分的に出土していたが、大半の部分がこのピットに埋まった状態で、調査時は掘方に伴うピットとして調査実施した。時期は9世紀中頃と判断される。

第7号住居跡

位置：38-N・O-18・19。 形状：矩形か。 規模：3.28+ α m×3.60m。 主軸方位：北-144度→東。 基準辺：北東壁。 竈規模：第6号住居跡により破壊消滅。

層序：(基準線標高値108.90m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム混入。
3. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム含有・粒状ローム混入。

所見：当住居跡は竈周りを6号住に切られ竈を失っている。出土遺物も殆ど得られず、掘方も認められなかった。このため住居跡の時期は不分明である。

第8号住居跡

位置：38-N-15・16。 形状：横長方形。 規模：2.62m×3.54m。 主軸方位：北-131度→東。 基準辺：北西壁。 竈規模：全長0.44+ α m×袖部幅1.02m×燃烧部幅0.50m。

層序：(基準線標高値108.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 黒褐色土：細粒状C軽石少量。
4. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状炭化物含有。
5. 黒褐色土：微粒状C軽石微量。
6. 暗褐色：微粒状C軽石微量。
7. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・塊状ローム少量。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量。

9. 黒褐色土・微粒状C軽石微量・粒状焼土多量。 10. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒多量・塊状褐色土。
11. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒含有。

所見：当住居跡は南暖斜面部の南端、地形もほぼ平坦になった部分に占地している。竈の煙道側調査区外に延びている。この煙道部分は調査区界を境に公道が通っていたため拡張は断念した。住居跡の構造は、傍竈坑は認められず、西隅部にピットが発見されている。竈は上述の如く全容は知れていないが、竈掘方は認められなかった。両袖は地山を掘り残して小規模化している。出土遺物は、小形化した坏10-00043・00044と器厚の厚い土師器甕10-00045・00046がある。時期は、傍竈坑が失われ西隅部にピットを設けていることと、出土遺物から10世紀中頃と考えられる。

第9号住居跡

位置：38-O-15/38-P-14・15。 **形状：**横長方形。 **規模：**2.60m×3.98m。 **主軸方位：**北-129度→東。 **基準辺：**北西・北東壁。 **竈規模：**全長1.18m×袖部幅0.75m×燃焼部幅0.40m。

層序：(基準線標高値108.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状ローム少量。
4. 細粒状C軽石微量・塊状褐色土。
5. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒含有。
6. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・塊状褐色土多量。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・灰褐色粘質土含有。
8. 暗褐色：粒状C軽石少量・塊状褐色土含有。
9. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・粒状ローム少量・塊状褐色土混入。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム少量・塊状褐色土混入。
11. 灰褐色粘土層。
12. 塊状褐色土主体。
13. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム少量・塊状褐色土多量・灰褐色粘質土含有。
14. 黄褐粘質土・塊状ローム・塊状焼土の混入。
15. 暗褐色：微粒状C軽石微量・焼土粒含有・粒状炭化物含有。
16. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入・粒状ローム混入。

所見：当住居跡も南暖斜面部の南端で、地形も平坦になった部分で23号住を切り占地している。このため、住居跡はローム層を掘り込んではいなかった。そして、調査段階は、覆土と地山土の識別が困難であったことから、南東壁側を大きく掘り過ぎたため南東壁を失っている。住居跡は竈が南隅部寄りに構築され、傍竈坑も形骸化した皿状の浅い構造で、西隅部にオーバーハングするピットを備えている。出土遺物は、内黒土師器碗10-00050と暗文土師器碗(内面未燻し)10-00051、須恵器碗類10-00052～00055、土師器甕10-00056、獣脚付き鍋の足部10-00058～00060等が出土している。獣脚付き鍋の足部は、43号住10-00414が図上復元出来ている個体と同一胎土の個体で県外からの搬入品である。これらの出土遺物は当遺跡で最も新し要素を備える一群である。これらの点から、当住居の時期は10世紀前半と考えられる。

第10号住居跡

位置：39-A・B-16・17。 **形状：**矩形。 **規模：**3.22m×3.58m。 **主軸方位：**北-129度→東。 **基準辺：**北西壁。 **竈規模：**全長0.8m×袖部幅1.14m×燃焼部幅0.40m。

層序：(基準線標高値108.90m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム斑状混。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石微量。
8. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状ローム若干・粒状ローム含有。
9. 黒褐色土粒状C軽石混入・焼土粒含有。
10. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状焼土主体。
11. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒少量。
12. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・粗粒焼土含有。
13. 黒褐色土：粒状C軽石若干・焼土粒含有・塊状焼土少量・粒状炭化物含有。
14. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム多量・粒状ローム混入。

所見：当住居跡は南側暖斜面部に占地する。確認段階は縦長形状の住居跡と判断していたため、セクション設定位置を縦長形状の想定で設定した。しかし、調査の進行に伴い、当住居跡は矩形状を呈することが判明し

た。このためセクション。位置が北西壁側に偏った。位置になってしまっている。住居跡形状は、竈が南隅部に寄った。位置に設定され、竈右袖は傍竈坑に接続する。位置になっている。また、西隅部にもピットの掘り込みが認められる。出土遺物は少なかったが、漆田産須恵器塊を含んでいる。時期は9世紀末～10世紀初頭と考えられる。

第11号住居跡

位置：39-C-16。 形状：横長方形。 規模：2.66m×3.24m。 主軸方位：北-131度→東。 基準辺：北西壁・南西壁。 竈規模：全長0.70m×袖部幅1.20m×燃焼部幅0.70m。

層序：(基準線標高値108.80m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
5. 塊状ローム層。
6. 暗褐色：粒状C軽石少量・粒状ローム含有。
7. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒少量。
8. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状焼土含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土混入・焼土粒含有。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状焼土少量・焼土粒含有・粒状炭化物含有。
11. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状焼土少量・焼土粒若干・粒状炭化物含有。
12. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム多量。

所見：当住居跡は南暖斜面部に占地している。住居跡はP₄以外の掘方は竈以外に認められなかった。竈は小規模で南隅部寄りに構築している。また、掘方は外形線の内側（燃焼空間部分）で若干認められた程度で、底面でも掘方は認められなかった。傍竈坑は小形ピット状である。また西・北隅部でもピットの施設を伴っている。出土遺物は、漆田産塊類が出土している。時期は9世紀後半～10世紀初頭頃と考えられる。

第12号住居跡

位置：38-S・T-15・16。 形状：横長方形。 規模：2.92m×3.67m。 主軸方位：北-143度→東。 基準辺：北西壁・北東壁。 竈規模：全長1.08m×袖部幅1.26m×燃焼部幅0.26m。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
5. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状ローム多量。
6. 塊状黒褐色土・塊状ローム混土層。
7. 黒褐色土粒状C軽石含有・焼土粒若干。
8. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状灰褐色粘質土含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石少量・灰褐色粘質土混入。
10. 塊状焼土層。
11. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・塊状焼土少量・粒状炭化物少量。
12. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状焼土少量・粒状炭化物含有。
13. 灰褐色粘質土層。
14. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有。
15. 黒褐色土：粒状C軽石少量住居跡・塊状ローム少量・焼土粒混入。

所見：当住居跡は南側暖斜面部に占地する。住居跡は床面に炉・台石を伴う事から小鍛冶の住居跡と推定される。住居跡の構造は、竈がやや南隅部に寄っていることと、傍竈坑の上端は住居上端と共有する状態で、さらに西隅部にもピットを伴っている。竈の両袖は大きめで燃焼空間の幅は狭く奥行きがある。この燃焼部は大きく4カ所に据えられている礫により構成されている。この内側は概ね30cm程度の円筒を支える空間になっている。土師器甕の最大径は大体20～23cm、出土している10-00091の最大径は23cmである。この土師器甕をこの燃焼部に架けるにはやや広い。何らかの別な支えの必要性がある。

出土遺物は、退化段階の「コ」の字状口縁土師器甕や漆田産に擬せる須恵器塊の出土もある。住居跡の時期は9世紀後半を含め10世紀前半頃と考えられる。

第13号住居跡

位置：38-A-14・15/39-T-14・15。 形状：横長方形基調。 規模：2.99～2.60m×1.56m。 主軸方位：

北-119度→東。 基準辺：北西壁。 竈規模：全長1.10m×袖部幅1.19m×燃焼部幅0.37m。

層序：(A-A'・B-B' 基準線標高値108.40m) (竈基準線標高値108.30m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量・粗粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粒状ローム少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石多量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム少量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒含有。
6. 黒褐色土：粒状C軽石。
7. 粒状C軽石微量・塊状ローム混入。
8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入。
10. 黒褐色土：塊状ローム・塊状褐色土混入。
11. 塊状焼土層。
12. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状焼土混入・焼土粒多量・塊状ローム少量。
13. 塊状焼土主体層。
14. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム含・塊状焼土含有。
15. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有・塊状ローム混入。
16. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有・粒状ローム混入。
17. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状黒褐色土混入。塊状焼土含有。

所見：当住居跡は南側暖斜面部の地形がやや平坦になった部分に占地している。東側には12号住が近接し、東隅部側が15号住を切っている。また、同部分が歪んだ状態になっているが、これは掘り過ぎに原因するのでは無く、既に住居跡廃棄段階での状況である。住居跡形状は、小形である事もあるが竈は傍竈坑に寄っている。竈は燃焼空間の短い形態で、数次にわたる改築が確認できる。傍竈坑は上端が住居跡の南隅部の上端と重複する状態である。隅部のピットは西で小規模で北で傍竈坑に匹敵する規模で設けている。出土遺物は、退化段階の「コ」の字状口縁土師器甕10-00110・00111、漆田産坏10-00112、同塊10-00113が出土している。また、傍竈坑周辺の床面直上層から鉄槌40-00014が出土している。小鍛冶が隣接する12号住であり、小鍛冶ではない当住居跡から出土するのは不可解であるが、竈の形態を見る限りは当住居跡が12号住より新しい要素を備えている。このことから、当住居跡が12号住より新しいと考えられ、鉄槌は12号住廃棄後に当住居跡に持ち込まれた可能性が推定される。住居跡の時期は住居跡形態(竈)・出土遺物から9世紀末～10世紀初頭と考えられる。

第14号住居跡

位置：38-S-14・15/38-T-15。 形状：縦長方形。 規模：4.02m×2.82m。 主軸方位：北-141度→東。 基準辺：北西壁か。 竈：未発見。

層序：(基準線標高値108.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入・塊状焼土微量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム含有。
5. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石含有・粒状ローム混入。

所見：当住居跡は竈を備えないことから、遺構種として住居跡を冠せないが、調査進行段階での遺物収納等の問題もあり名称変更は行わなかった。新旧関係では15号住を切る事が平面精査により明らかになっている。竈以外では、比較的床面がはっきりしていたことから、単なる土坑とも異なると判断できる。抽象的には縦穴状遺構である。出土遺物も少量が出土しただけである。出土遺物の中では10-00123土師器台付小形甕は10世紀中頃が推定され、須恵器坏10-00124は9世紀前半頃と推定される。前者を採れば10世紀中頃が時期の目安と考えられる。

第276号土坑

位置：38-S-14。 形状：楕円形。 規模：1.48m×0.74m×0.40m。 主軸方位：北-28度→東。

層序：(基準線標高値)

1. 暗褐色：白色軽石含有・塊状褐色土混入。
2. 暗褐色：白色軽石含有・粒状ローム含有。

第15号住居跡

位置：38-S・T-14・15/39-A-15。 形状：正方形。 規模：7.23m×7.21m。 主軸方位：北-83度→

東。 基準辺：南・西壁。 竈規模：全長1.30m×袖部幅0.80m×燃焼部幅0.37m。

層序：(基準線標高値108.30m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 暗褐色：粒状C軽石少量。
3. 暗褐色：粒状C軽石少量・塊状ローム斑状混入。
4. 暗褐色：粒状C軽石含有・塊状ローム含有。
5. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
7. 暗褐色：粒状C軽石微量・塊状ローム含有・粗粒状ローム混入。
8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
9. 暗褐色：粒状C軽石微量・塊状ローム少量・塊状褐色土含有。
10. 暗褐色：塊状ローム主体。
11. 暗褐色：塊状ローム含有。
12. 暗褐色：塊状ローム混入・粒状ローム混入。
13. 暗褐色：塊状ローム主体。
14. 暗褐色：塊状ローム含有・粒状ローム混入。
15. 暗褐色：塊状ローム含有・粒状ローム含有。
16. 塊状ローム・塊状暗褐色土の混土(塊状ローム主体)。
17. 暗褐色：粒状C軽石少量・小塊状灰褐色粘質土含有。
18. 暗褐色：粒状C軽石微量・灰褐色粘質土混入・焼土粒含有。
19. 暗褐色：小塊状灰褐色粘質土混入・炭化物少量・焼土粒含有。
20. 灰層。
21. 灰褐色粘質土。
22. 暗褐色と灰褐色粘質土の混土。
23. 粒状灰褐色粘質土。
24. 塊状焼土・塊状灰褐色粘質土主体・灰含有。
25. 暗褐色・塊状ロームの混土・焼土粒含有。
26. 暗褐色・灰褐色粘質土の混土・小塊状ローム含有。

所見：当住居跡は南側暖斜面部が平坦気味になる部分に占地する。重複関係では、12～14号住に切られ、この中で14号住は竈部分で重複している。このため、竈の遺存がやや不良になっている。住居跡は支柱穴4本と南東隅部に平面正方形基調の貯蔵穴を伴っている。竈は左袖を僅かに地山を掘残し、煙道部を若干屋外側に掘り込んである。使用時はこれに灰褐色粘質土で被覆し器設部を設けたと思われる。袖は屋内側に長く延び、先端部に土師器甕を倒立させ、焚口部天井にはやはり土師器甕を架けている。燃焼部の中央程には礫による支脚を据えている。掘方面では、この支脚の据え方ピットが発見されている。住居の掘方では、中央部と竈部分周辺を平坦に掘残し南北西壁下の部分を深く掘り込んでいる。この様子は当時の地上面に4壁の辺を設定後、この地上面に引かれた線に従って掘り込んだ事が推定出来る。出土遺物は多く、竈周辺に集中する傾向が認められた。住居跡の時期は、住居跡の平面形状と出土遺物から6世紀中頃と考えられる。

第16号住居跡

位置：39-C・D-14・15。 形状：横長方形。 規模：3.24m×5.50m。 主軸方位：北-110度→東。 基準辺：北・東壁。 竈規模：全長0.86m×袖部幅1.30m×燃焼部幅1.00m。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 暗褐色：粒状C軽石含有・塊状焼土・被熱シルトの混土(竈廃材の投棄か)。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒微量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量塊状ローム混入・塊状焼土混入。
5. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状褐色土混入。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量・塊状ローム混入。
7. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状褐色土斑状混。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状褐色土混入。
9. 暗褐色：粒状C軽石微量・塊状ローム多量。
10. 暗褐色：粒状C軽石少量・塊状褐色土含有。
11. 黒褐色土・塊状ロームの混土。
12. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒微量。
13. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状褐色土混入・焼土粒微量。
14. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状ローム少量。

所見：当住居は暖斜面部の西端で南隅部側が調査区外に延びている。形状は当遺跡で最も横長な長方形を呈している。竈は小形で、掘方も顕著ではなく右袖の基部部分が地山を掘り残している。使用面でも焼土等の使用痕跡が少なく、比較的短期間の使用とも思われる。掘方は竈の前方部分で土坑状の掘り込みが発見され、同部分周辺での貼床状の造床土が認められただけである。また、北側隅部側に寄った部分では、確認面直下(覆土上層)で、同一面的に礫が集中して出土している。調査段階では、当該以外の新しい時期の住居跡の竈を想定し調査したが、被熱、掘方等の状況は未確認であった。この調査段階の所見では、廃棄された礫と判断した。出土遺物は破片類のみで詳細な時期を知る手掛かりには成らなかったが、住居跡形状等から概ね9世紀末～10世紀初頭頃と思われる。

第17号住居跡

位置：39-B・C-13・14。形状：横長方形。規模：2.95m×3.26m。主軸方位：北-114度→東。基準辺：北東壁か。竈規模：全長1.33m×袖部幅1.28m×燃烧部幅0.32m。

層序：(基準線標高値108.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状炭化物多量・粗粒状炭化物含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土混入。
4. 暗褐色：粒状C軽石若干・塊状褐色土含有。
5. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・粒状炭化物若干。
6. 暗褐色：粗粒状ローム含有。
7. 塊状ローム。
8. 暗褐色・塊状ロームの混土。
9. 塊状焼土・灰等の混土。
10. 黒褐色土・塊状焼土の混土。
11. 黒褐色土：焼土粒含有・塊状焼土若干。

所見：当住居跡は西側1/3程が調査区外に延びている。住居跡は27号住と重複している。住居跡は比較的小形で横長方形を呈すると考えられる。南隅部は調査区外に延びており、傍竈坑の存否に就いては未確認であった。竈周辺の状況では、少なくとも露呈された床面上では痕跡等の状況も認められない。更に調査区外に延びている可能性も考慮される。竈は、礫を多用し燃烧部壁の補強を行っている。また、底面では双脚の支脚が発見され、並架式の器設構造であることが窺知される。燃烧空間は奥壁までの奥行きが短い形で、煙道孔口部には扁平な礫を据え、熱の遮断を意図したことが推測され、並架式の特長とも言い得る。富田漆田遺跡17号住と共に並架式の竈構造典型であろう。出土遺物は土師器甕10-00166が竈滝口付近の床面直上から床面直上層、10-00167・00168が燃烧部内で出土している。また、住居跡内全面の床面直上層には、ワラ状の炭化物を多量に含み、この床面直上層中から有袋鉄斧40-00020が出土しその周辺から鎖尺20-00021や棒状の鉄器が出土している。鎖尺は一つの鎖の長さが概ね3cmで、分銅部分も高さ3cmである。鎖は痕跡等から9連1分銅で復元長30.0cmである。この復元長は1尺に相当している。恐らく、水深を測る様なことに用いられたものと考えられる。住居跡の時期は出土から9世紀後半ころと推定される。

第18号住居跡

位置：39-A・B-13。形状：横長方形。規模：2.58m×3.33m。主軸方位：北-98度→東。基準辺：不詳。竈：表層の攪乱により殆どが消滅する。掘方の一部のみ残存。

層序：(基準線標高値108.20m)

1. 暗褐色：細粒状C軽石含有・塊状焼土含有。
2. 暗褐色：細粒状C軽石少量・塊状粘土多量。
3. 暗褐色：細粒状C軽石微量・塊状ローム少量。

所見：当住居跡は25号住に切られている。そして、出土した住居跡自体非常に浅いことから遺存状態が非常に不良である。竈も僅かな痕跡程度ある。出土遺物も自ずと状況は悪く破片類しか出土していない。この点で時期は下限が25号住として、遺物からは9世紀中頃と思われる。

第19号住居跡

位置：39-B・C-12・13。形状：正方形か。規模：2.62+ α (4.30mか) m×4.30m。主軸方位：北-50度→東。基準辺：四辺か。竈規模：全長1.22m×袖部幅0.95m×燃烧部幅0.56m。

層序：(基準線標高値108.00・108.60・108.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状褐色土混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 黒色土：粒状C軽石多量 (IV層土近質)。
5. 黒色土：粒状C軽石少量・粒状ローム少量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土多量・粒状ローム少量。
7. 黒褐色土：粒状ローム多量・塊状褐色土多量。
8. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・粒状ローム少量。
9. 塊状ローム主体・塊状黒褐色土少量。
10. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状褐色土含有・塊状ローム少量・塊状焼土少量。
11. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム多量。
12. 焼土層。
13. 黒褐色土・塊状焼土の混土。
14. 黒褐色土・灰の混土。
15. 灰層。

16. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量・粒状ローム多量・塊状褐色土微量・塊状焼土含有。 17. 灰褐色粘質土。
18. 黒褐色土：小塊状ローム混入。 19. 9近質。

所見：当住居跡は西側半分が調査区外に延びている。住居跡は4本支柱・貯蔵穴を伴う構造と推定される。柱間は2m弱、36cm尺では6単位が推定される。規模・形状では20号住と同規模である。竈は壁際に煙道孔を設け、屋内側に主体部分を備える構造である。掘方は竈前縁側で不定形な雷電山産か上の掘り込みが多く、その意図は不分明である。出土遺物は少量の土師器と須恵器隼1点が出土している。時期は6世紀中頃と考えられる。

第20号住居跡

位置：38-T-12・13/39-A-12・13。 形状：正方形。 規模：4.60m×4.70m。 主軸方位：北-69度50分→東。 基準辺：4壁。 竈規模：全長1.00m×袖部幅1.33m×燃烧部幅0.49m。

層序：(基準線標高値108.20m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状IV層土含有・塊状ローム含有・塊状褐色土混入・塊状灰褐色粘質土含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状IV層土混入・塊状褐色土含有。 3. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土多量。
4. 塊状V層土・VI層土。 5. 暗褐色：細粒状C軽石微量・塊状褐色土含有。 6. 黒褐色土・塊状ローム混土。
7. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状褐色土含有。
8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状褐色土微量・塊状焼土少量・塊状灰褐色粘質土少量。 9. 塊状灰褐色粘質土：塊状焼土含有。
10. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状IV層土含有・塊状褐色土混入・塊状ローム微量。 11. 塊状灰褐色粘質土：塊状焼土混入。
12. 灰褐色粘質土。 13. 暗褐色：小塊状ローム混入・塊状褐色土混入。

所見：当住居跡は暖斜面部の末端で、ほぼ平坦になった部分で発見されている。住居跡の構造は、4本支柱・貯蔵穴を伴う構造である。柱間は2m弱、36cm尺では6単位が推定される。規模・形状では19号住の復元値と同規模である。掘方は竈前縁部分が最も高く西・南側が低く掘り込まれている。出土遺物は皆無で、覆土の大半は埋設されている。時期は19号住と同時代の6世紀中頃と推定される。

第21号住居跡

位置：38-T-10・11/39-A-10・11。 形状：横長方形。 規模：(4.50m)×(3.40m)。 主軸方位：北-20度→東。 基準辺：不詳(東壁か)。 竈規模：全長1.46m×袖部幅1.10m×燃烧部幅0.62m。

層序：(基準線標高値108.10m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量。 2. 黒褐色土：粒状C軽石混入。 3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土含有。
4. 暗褐色土：細粒状C軽石含有・塊状褐色土多量。 5. 暗褐色土：細粒状C軽石少量・塊状褐色土少量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム少量。 7. 硬質粘質ローム土。 8. 暗褐色土：細粒状C軽石若干・塊状褐色土多量。
9. 黒褐色土：粒状C軽石多量・焼土粒微量。 10. 黒褐色土：rv含有・塊状暗茶褐色粘土含有。
11. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状暗茶褐色粘土・被熱塊状暗茶褐色粘土。 12. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒少量。
13. 暗褐色土：焼土粒含有。 14. 22号住居跡覆土。 15. 縄文土坑か。

所見：当住居跡は暖斜面部の末端で、ほぼ平坦になった部分で発見されている。住居跡は22号住を切り構築している。調査段階では平面精査を行ったものの、形状の把握は出来なかった。このため、22号住の形状を優先して土層断面位置の設定を行い調査した。このため、掲載図は土層断面から復元した状態である。このため、詳細に就いては不明である。出土遺物も土師器類である。しかし、この状況下覆土下層に傾く状態で鉄製鋤先40-00023が出土している。鋤先の先端側は既に研減が進んだ状態で緩やかな曲線を描いている。そして、この鋤先の砥石と考えられる輝石安山岩が竈右袖材に転用されている。住居跡の時期は、竈形状・出土遺物から概ね9世紀中頃と考えられる。

第22号住居跡

位置：38-T-10・11/39-A-10・11。 形状：正方形基調。 規模：5.70m×5.90m。 主軸方位：北-67度40分→東。 基準辺：北西壁。 竈規模：21号住居跡の破壊により詳細不詳。

層序：(基準線標高値108.10m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状褐色土少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土混入。
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒少量・粒状ローム含・粒状炭化物含有。
5. 暗褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム含有・粒状ローム少量。
6. 暗褐色土：粒状C軽石少量・小塊状ローム少量。
7. 暗褐色土：細粒状C軽石微量・塊状白灰色粘質土含有。
8. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒少量(21号住居跡竈掘方)。
9. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・焼土粒少量・塊状焼土含有。
10. 塊状灰褐色粘土。
11. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム混入。
12. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム混入・塊状焼土含有。
13. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状灰褐色粘土少量・塊状焼土少量。
14. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状褐色土含有。
15. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土混入。
16. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状ローム少量・粒状ローム含有。
17. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状ローム混入。

所見：当住居跡は暖斜面部の末端で、ほぼ平坦になった部分で21号住に切られて発見されている。住居跡の構造は、4本支柱・貯蔵穴を伴う構造である。柱間は2.5m強、36cm尺では7単位が推定される。掘方は住居跡の中央部が高く、四壁下側に向かい深く掘り込まれている。古墳時代の住居掘方の典型である。出土遺物はP₁貯蔵穴で土師器坏集類が中して出土している。また、覆土内では口縁直下に孔を穿つ須恵器泉瓦、長脚1段透かしの高坏片が出土している。住居跡の時期は6世紀前半頃と推定される。

第23号住居跡

位置：38-P・Q-14・15。 形状：矩形。 規模：3.16m×3.52m。 主軸方位：北-121度→東。 基準辺：北西壁。 竈規模：9号住に切られ消滅。

層序：(基準線標高値108.40m)

17. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
18. 黒褐色土：粒状C軽石若干。
19. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム含有・粒状ローム少量。
20. 黒褐色土：塊状ローム含有・粒状ローム混入。

所見：当住居跡は9号住に切られ竈周りを失っている。このため、住居跡の構造は不明な事が多い。出土遺物は大半が破片であった。この中で10-00072は形骸化した「コ」字状口縁土師器台付小形甕である。時期は、この土師器台付小形甕から推定すれば10世紀前半頃と考えられるが、9号住との新旧関係に矛盾が生ずる。層位的には9号住より古期の9世紀代と考えられる。

第24号住居跡

位置：38-M・O-15・16。 形状：横長方形。 規模：2.90m×3.94m。 主軸方位：北-133度→南。 基準辺：北西・南西壁。 第2竈規模：全長1.12m×袖部幅1.50m×燃焼部幅0.70m。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土含有・焼土粒微量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土含有・焼土粒含有。
6. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状灰褐色粘土少量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状灰褐色粘土多量。
8. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒若干。
9. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状暗褐色土含有。
11. 暗褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土多量。
12. 暗褐色土：微粒状C軽石若干・塊状褐色土多量。
13. 暗褐色土：微粒状C軽石微量・塊状褐色土少量。
14. 灰褐色粘土。
15. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土多量・焼土粒含有。
16. 黒褐色土：粒状C軽石完形・焼土粒含有。
17. 塊状被熱灰褐色粘土・焼土粒層。
18. 塊状焼土。
19. 暗褐色土：焼土粒含有。
20. 1近質。
21. 黒褐色土：細粒状C軽石少量。
22. 褐色粘質土主体。
23. 暗褐色土：褐色粘質土。
24. 黒褐色土：粒状C軽石褐色土。
25. 黒褐色土：塊状灰褐色粘土多量。
26. 塊状焼土・塊状灰褐色粘土の混土。
27. 暗褐色土：微粒状C軽石若干・細粒状焼土粒少量。

所見：当住居跡は暖斜面部の末端で、ほぼ平坦になった部分で1号溝に切られて発見されている。住居跡は坑窓が二箇所で見られている。第1竈は南隅部で、第2竈は南東壁中央で見られている。第1竈は、住居存続中に廃棄され、同部分を修築住居の隅部に設え直している。第2竈は、2段階の状況が推定される。第2竈構築当初は、隅部を意識し、第1竈修築後の壁の崩壊を恐れてか屋外側に隅部を作り出す状態にしている。その後、第2竈の改築に伴い同部分を埋設し、改めて竈を構築している。この段階では右袖が、隅部を切り崩す状態になっている。恐らくこの状況から、隅部を埋設したものと推測される。調査段階で露呈できた竈は、コジンマリとした作りである。出土遺物は土師器甕10-00243が第2竈内から出土している。また鉄器鋤先の土師器が覆土内から出土している。住居跡の時期は10世紀初頭前後と思われる。

第25号住居跡

位置：39-B-12・13。 形状：横長方形。 規模：3.18m×3.84+ α m。 主軸方位：北-127度→東。 基準辺：南東壁。 竈規模：全長1.15m×袖部幅1.46m×燃烧部幅0.76m。

層序：(基準線標高値108.20m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状褐色土斑状混。
2. 黒褐色土：粒状C軽石多量・塊状褐色土混入・塊状IV層土含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土混入・塊状ローム微量。
4. 2同質。
5. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土多量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム多量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状褐色土少量。
9. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土混入・褐色塊状粘土少量・塊状焼土微量。
10. 褐色塊状粘土主体。
11. 10同質。
12. 黒褐色土：粒状C軽石若干・焼土粒少量・褐色塊状粘土少量。
13. 黒褐色土・褐色塊状粘土の混土。
14. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム含有。
15. 塊状ローム主体・塊状暗褐色含有。
16. 黒褐色土・粒状C軽石微量・褐色軽石混入。

所見：当住居跡は暖斜面部の末端で19号住を切り構築されている。住居跡は南東壁中央に竈を備えている。竈は「コ」の字の燃烧部に単脚の支脚を備えている。傍竈坑は南隅部でも南西壁下部分い備えている。位置では富田漆田遺跡の第VII段階の位置になっている。また、傍竈坑の深度は深く床面下-32cmほどに底面を設けている。掘方は北隅部側に向かう壁下で顕著で、東隅部では土坑状に掘り込まれたP₂が出土している。出土遺物では土師器杯10-00250、酸化焙焼成の須恵器杯・埴10-00251~00253が出土し、鉄器では研滅により痩せた鎌の破片が出土している。住居跡の時期は10世紀前半頃と考えられる。

第27号住居跡

位置：39-B・C-13・14。 形状：横長方形か。 規模：3.06m×2.80+ α m。 主軸方位：北-一度114→南。 基準辺：北東壁か。竈は17号住の破壊により消滅。

層序：(基準線標高値108.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量・粒状ローム多量・塊状褐色土含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状ローム多量・粗粒状ローム少量・塊状褐色土少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム多量・小塊状ローム若干。
4. 黒褐色土・塊状ロームの混土。

所見：当住居跡は暖斜面部で17号住に完全なまでに重複している。調査段階では1軒の住居跡ではないか幾度も平断面の精査を行ったが、17号住の範囲までは極度に炭化物を含む覆土であるの対して、当該住居跡に認定した部分では、炭化物は一切含まれない状態であった。このことから、当該住居跡を認定した。形状等は17号住の重複により判然としない部分が多い。時期は概ね9世紀代と思われる。

第29号住居跡

位置：38-Q・R-17・18。 形状：横長方形。 規模：2.60m×4.82m。 主軸方位：北-125度→南。 基

準辺：不詳。 **竈規模**：全長0.70m×袖部幅（1.50）m×燃烧部幅0.66m。

層序：（基準線標高値109.00m・108.60m）

1. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・焼土粒含有・粒状炭化物少量。
2. 暗褐色土：粒状ローム多量・焼土粒混入。
3. 暗褐色土：焼土粒含有。

所見：当住居跡は暖斜面部が平坦気味になった部分に占地している。住居跡は、縄文遺構の確認トレンチを調査中に発見された。当初の確認精査段階でも住居跡の存在は疑われていたが、斜面部末端の複雑な土層堆積により無理な認定は控えた。このため、トレンチ調査の段階で確認された住居跡である。このため、住居跡はトレンチにより破壊してしまった部分がやや多い。住居跡は横長方形を呈し、長短辺の比率は16号住に類似している。竈は南隅部寄りに位置し、傍竈坑は未発見である。竈は縄文時代の礫器類を多く使用し、袖部分の補強に主に用いられている。また、左袖が屋内側に長めに延びている。燃烧空間は屋外側には張り出さず、奥壁までは短かい状態で立ち上がる。出土遺物は竈部分にのみ認められている。住居跡の時期は形状と遺物から10世紀前半頃と思われる。

第30号住居跡

位置：38-R-S-15・16。 **形状**：矩形。 **規模**：2.94m×3.12m。 **主軸方位**：北-129度→南。 **基準辺**：北東壁・南東壁か。 **竈規模**：全長1.11m×袖部幅1.60m×燃烧部幅0.55m。

層序：（基準線標高値108.60m）

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石S・塊状褐色土斑状混。
3. 茶褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土斑状混。・塊状ローム含有。
4. 茶褐色土：粒状C軽石認められない。
5. 暗褐色土：塊状ローム斑状混。
6. 4同質。
7. 暗褐色土：粒状C軽石認められない・塊状ローム含有。
8. 黄褐色土：塊状ローム多量（主体）。
9. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒微量。
10. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土若干・焼土粒含有。
11. 暗褐色土：塊状灰褐粘質土少量・塊状焼土含有・焼土粒含有。
12. 暗褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土少量。
13. 暗褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土斑状混。
14. 灰褐粘質土。
15. 13同質。
16. 暗褐色土：細粒状C軽石微量。
17. 黒褐色土：細粒状C軽石少量。
18. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム含有。

所見：当住居跡は暖斜面部が平坦気味になる部分の占地である。確認時の状況は29号住と同様である。住居跡は竈を南東壁の中央からやや南隅部に寄った部分に構築している。竈は左右の袖が屋内側に大きい。傍竈坑は南隅部直下でピット状で小規模である。また、北隅部直下でもピット状の掘り込み含繊維・発見されている。出土遺物は竈・東隅部側に寄った部分でやや集中する傾向で、床面から遊離した状況が多い。出土須恵器坏・碗は漆田産の製品が多く、羽釜類も漆田産と考えられる製品である。住居跡の時期は住居跡形状では9世紀中頃に推定されるが、出土遺物に漆田産が漆田産浮く含まれることから、長期に亘る住居の使用も考えられる。

漆田産の須恵器の年代観では、9世紀末～10世紀初頭頃である。

第31号住居跡

位置：38-S-16・17。 **形状**：横長方形。 **規模**：3.20m×4.06m。 **主軸方位**：北-129度→南。 **基準辺**：南西・北西壁か。 **竈規模**：全長1.00m×袖部幅1.66m×燃烧部幅0.14m。

層序：（基準線標高値108.60m）

1. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状褐色土斑状混。
3. 黒褐色土：微粒状C軽石微量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
5. 暗褐色土：粒状C軽石微量・塊状褐色土斑状混・塊状ローム含有。
6. 茶褐色土：粒状C軽石認められない・塊状褐色土斑状混。
7. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム少量。
8. 黒褐色土・塊状ローム・の混土。
9. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状浅黄褐色粘土混入。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒少量。
11. 焼土粒・塊状焼土主体。
12. 黒褐色土：粒状C軽石微量・焼土粒多量・粒状炭化物混入。
13. 焼土層。

所見：当住居跡は暖斜面部が平坦気味になる部分の占地である。確認時の状況は29号住と同様である。住居跡は床面の起伏が顕著。竈は南東壁の中央部分に構築している。小規模気味な竈ではあるが、燃焼部の奥壁は短めで立ち上がり、燃焼部左右の壁は礫による補強がされている。底面下には顕著な焼土層と裏込めにも塊状焼土を用いることから、据換えが確認出来る。傍竈坑は南隅部に設けている。掘方は北東壁・南西壁下側が顕著で、北隅部周辺から北東壁直下で壁柱穴が7箇所で見られている。また、中央周辺には土坑状の掘り込みが目立つが、特異な状況は確認出来なかった。時期は住居跡形状では9世紀を色濃く残し、竈は9世紀末葉、出土遺物は10世紀前半頃の特徴を示している。

第32号住居跡

位置：38-1・T-16・17。 **形状：**矩形。 **規模：**4.20m×(3.65)m。 **主軸方位：**北-125度→南。 **基準辺：**北東壁。 **竈規模：**全長1.16m×袖部幅0.8m×燃焼部幅0.45m。

層序：(基準線標高値109.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 暗褐色土：粒状C軽石少量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状炭化物含有。
6. 1近質。

所見：当住居跡は暖斜面部の中位程に占地している。当住居も確認時の状況は29号住と同様である。住居跡の平面形は梯形を呈しているが、南西側乃至北西壁側壁の掘削不足か、北隅部の過剰な掘り過ぎに原因している。また、東隅部に見られる礫は地山内の礫で、当時掘削時に露呈されたままで取り残してそのままの状態で使用している。竈は南東壁中央からやや南隅部に寄っている。傍竈坑は長方形にやや傾く形状で南西壁下側に寄った状態である。出土遺物は竈・傍竈坑周辺で出土が多い。土師器甕10-00303～00305は、頸部の成整形に棒状工具を多用している。須恵器埴10-00297には足高高台の傾向が現れている。また、鉄器では40-00036～00039が束ねられた状態で出土している。この4本の鉄器は、刀子3本・鉋1本で、恐らく布・皮等に包まれていたことが推定出来る。このほか、10-00040は、姿が刀を思わせるが重ねが薄いことから刀とは思えない。刃部の重ねが薄いことから、紙等の厚みの無い物を切っていたと考えられる。時期は10世紀前半頃が推定される。

第33号住居跡

位置：38-T-20/39-A-20。 **形状：**横長方形。 **規模：**2.86m×3.57m。 **主軸方位：**北-99度→南。 **基準辺：**西・北壁。 **竈規模：**全長0.86m×袖部幅0.74m×燃焼部幅0.50m。

層序：(基準線標高値109.80m)

1. 黒褐色土：粗粒状C軽石多量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
3. 茶褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム多量・粗粒状ローム多量。
4. 粒状ローム多量。
5. 暗褐色土：微粒状粒状C軽石微量。
6. 塊状ローム主体・茶褐色土含有。
7. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
8. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色粘土含有。
9. 褐灰色粘質土。
10. 被熱焼土。
11. 暗褐色土：焼土粒微量。
12. 暗褐色土：焼土粒多量・塊状焼土多量。
13. 暗褐色土：焼土粒微量。
14. 暗褐色土：焼土粒含有。
15. 灰・炭化物層。
16. 褐灰色粘質土層。

所見：当住居跡は暖斜面部中位部分で縄文時代の34号住を切っている。当住居も確認時の状況は29号住と同様である。住居跡は東壁側が曲線を描く状態である。竈は東壁中央からやや南東隅部に寄った位置で傍竈坑に接し、屋外側に突出する状態で構築されている。左右の袖は、殆ど見られず小瘤状の状態である。土遺物は竈・傍竈坑周辺で出土している。須恵器杯・埴類は孰れも酸化焙焼成である。住居跡の時期は10世紀前半頃と考えられる。

第34号住居跡

位置：49—E・F—4・5。 形状：横長方形。 規模：3.72m×4.24m。 主軸方位：北—80度→東。 基準辺：西・北壁。 竈規模：全長1.62m×袖部幅1.14m×燃燒部幅0.54m。

層序：(基準線標高値110.90m)

1. 塊状IV層土。
2. 黄褐色土：塊状ローム主体・粒状C軽石若干。
3. 暗褐色土：塊状ロームS・粒状C軽石若干。
4. 暗褐色土：塊状ローム若干・粒状C軽石若干。
5. 茶褐色土：大塊状ローム斑状混・粒状ローム多量・粒状C軽石微量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム微量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム少量。
8. 茶褐色土：粒状ローム多量・塊状ローム含有。
9. 茶褐色土：塊状ローム斑状混・粒状ローム混入。
10. 暗褐色土：焼土粒多量・塊状焼土少量粒状炭化物含有・粒状C軽石微量。
11. 茶褐色土：塊状ローム多量。
12. 暗褐色土：細粒状C軽石含有。
13. 暗褐色土：細粒状C軽石含有・塊状ローム含有。
14. 塊状暗褐色土の被熱土。
15. 暗褐色土：微粒状C軽石微量・塊状焼土混入・焼土粒混入。
16. 塊状焼土・焼土粒層。
17. 黒褐色土：粒状炭化物多量。

所見：当住居跡は台地上に占地している。住居の形状は隅丸を強く帯びている。顕著な掘方は認められないが、竈前面から中央部にかけて皿状に浅く認められる。竈の掘方は殆ど認められず、改築は無かったか有っても1回程度と考えられる。

第35号住居跡

位置：48—R・S—4・5。 形状：楕円形。 規模：5.60m×4.60m。 主軸方位：北—105度→南。 基準辺：なし。 炉規模：長0.82m×幅0.9m。

層序：(基準線標高値111.00m)

1. IV層土。
2. 暗褐色土：白色軽石少量・黄褐色粒子含有。
3. 茶褐色土：白色軽石少量・粒状ローム含有。
4. 褐色土：白色軽石少量。

所見：当住居は暖斜面部中位部分に占地する。住居跡はトレンチ調査により断面で確認された。中央部周辺は、暗褐色土の堆積が認められるもの、壁に向いローム質に近い発色になる。この傾向は縄文時代の住居跡に共通する傾向である。床・壁とも明瞭な特徴は看取されなかった。また、床面精査を何度も実施したが、柱穴等の施設は未発見であった。

第36号住居跡

位置：48—S・T—2・3。 形状：円形基調。 規模：軸長5.00m・最大径5.40m。 主軸方位：北—172度→東。 基準辺：なし。 炉規模：径0.75m×深度0.17m。

層序：(基準線標高値110.60m)

1. 暗褐色土。
2. 茶褐色土：白色軽石少量。
3. 濁褐色土：塊状濁褐色土・白色軽石含有。粒状ローム含有。
4. 茶褐色土。
5. 褐色土。
6. 濁褐色土・焼土粒微量。
7. 暗褐色土：粒状ローム若干・を微量。
8. 濁褐色土：塊状ローム若干・白色軽石少量。

所見：当住居は暖斜面部中位部分に占地する。住居跡はトレンチ調査により断面で確認された。立ち上がりは明確には看取されなかったが、覆土のやや濁った発色の褐色土が切れるところを立ち上がりとした。炉跡は部分的に礫が欠落するが、トレンチ調査に原因するものではなく、住居の廃棄遺構に抜き取られたと考えられる。

第37号住居跡

位置：48—Q・R—2・3。 形状：隅丸五角形。 規模：5.72m×5.10m。 主軸方位：北—117度→南。 基準辺：なし。 炉規模：長 $0.64 + \alpha$ m×幅0.74m。

層序：(基準線標高値110.40m)

1. 褐色土：塊状暗褐色土少量。
2. 暗褐色土：白色軽石少量・塊状褐色土少量。
3. 褐色土：塊状、暗褐色土含有・白色軽石少量。
4. 茶褐色土：白色軽石少量・塊状ローム含有・粒状ローム含有焼土粒微量。
5. 茶褐色土：塊状ローム少量。
6. VIII層土。
7. VIII層土：塊状ローム混入。
8. IX層土（ローム土）。
9. 3同質。
10. 茶褐色土：白色軽石少量・焼土粒少量・粒状炭化物微量。
11. 褐色土：焼土粒含有・粒状炭化物少量。

所見：当住居は暖斜面部中位部分に占地する。住居跡はトレンチ調査により断面で確認された。立ち上がりは明確には看取されなかったが、覆土のやや濁った発色の褐色土が切れるところを立ち上がりとした。炉跡は部分的に礫が欠落するが、トレンチ調査に原因するものではなく、住居の廃棄遺構に抜き取られたと考えられる。支柱穴を伴う。軸方向頂部側の柱穴は未発見であるが、住居形状にそぐう5本五角形の配置だと推定される。また、P₄・P₅は住居の中心方向に向い内傾した状態であった。上屋構造を支える物理的な処置であったと考えられる。

第38号住居跡

位置：38—P・Q—20/48—P・Q—1。 **形状：**隅丸胴張り正方形。 **規模：**4.70m×4.72m。 **主軸方位：**北—189度→南。 **基準辺：**なし。 **炉規模：**長0.57m×幅0.60m。

層序：(基準線標高値109.80m)

1. 暗褐色土：白色軽石少量・粒状ローム微量。
2. 茶褐色土：白色軽石少量・塊状ローム少量。
3. 褐色土：粒状ローム含有。
- 4・5. VII層土。
6. VIII層土。
7. 暗褐色土：白色軽石少量・塊状褐色土含有・塊状ローム少量・焼土粒少量。
8. 暗褐色土：焼土粒少量・塊状褐色土含有。
9. 茶褐色土：焼土粒少量・粒状炭化物少量。

所見：当住居は暖斜面部中位部分に占地する。住居跡はトレンチ調査により断面で確認された。立ち上がりは明確には看取されなかったが、覆土のやや濁った発色の褐色土が切れるところを立ち上がりとした。炉跡は部分的に礫が欠落するが、トレンチ調査に原因するものではなく、住居の廃棄遺構に抜き取られたと考えられる。支柱穴を伴うが、深度の良好なピットはP₂・P₅・P₇の3本である。この3本の配置からは、葺き降ろしの円錐形状の上屋構造が想定される。また、床面直上で出土している礫は敷石を推測させるが、配列・配置を早期させる状況は認められなかった。

第39号住居跡

位置：38—N・O—20/48—N・O—1。 **形状：**楕円形。 **規模：**5.72m×4.20m。 **主軸方位：**北—210度→南。 **基準辺：**なし。 **炉規模：**径0.98m。

層序：(基準線標高値109.30m)

1. 茶褐色土：塊状褐色土多量・白色軽石微量・塊状ローム少量・粒状ローム少量。
2. 暗褐色土：塊状褐色土斑状混入・白色軽石少量・塊状ローム若干・粒状ローム少量。
3. 茶褐色土：粗粒状粒状ローム混入。
4. 黄橙褐色土：塊状焼土含有。

所見：当住居は暖斜面部中位部分に占地する。住居跡はトレンチ調査により断面で確認された。斜面部の低地寄りに占地する。このために、覆土は当該期の住居跡の中では覆土の発色が最も暗く、暗褐色土の堆積も多かった点が他の住居跡とは大きく異なっている。

炉跡は軸よりやや東偏している。ほぼ中央南北に炉石を据えるが、1石しか発見できなかった。また、他の石の抜き取りが有ったのか、その確認を行ったが、具体的な状況は未確認であった。支柱穴は壁沿いに出土したピットの中の深度で判断されようが、顕著な差異も無く分明に限定することは困難であるとする。出土遺物は当該期の中でも比較的多いが、大半の遺物は中央に集中し、床面より遊離するものが大半であった。

第40号住居跡

位置：49-A-2・3。 形状：横長方形。 規模：3.60m×2.78m。 主軸方位：北一度118→南。 基準辺：北東・北西壁。 竈規模：全長0.86m×袖部幅0.98m×燃烧部幅0.61m。

層序：(基準線標高値110.70m)

1. 暗褐色土：粒状C軽石含有。
2. 暗褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有・粒状炭化物含有。
3. 暗褐色土：細粒状C軽石少量・粒状ローム含有。
4. 暗褐色土：微粒状C軽石微量・粒状炭化物含有。
5. 暗褐色土：微粒状C軽石若干・粒状炭化物含有・塊状ローム含有。
6. 茶褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒少量。
8. 暗褐色土：粒状C軽石微量。
9. 褐色土：粒状炭化物含有・焼土粒含有・塊状ローム含有。
10. 褐色土：塊状ローム含有。
11. 茶褐色土：粒状炭化物含有。
12. 黄褐色土：塊状ローム多量。

所見：当住居は暖斜面部中位部分に占地する。住居跡の床面は平坦である。立ち上がりは、廃棄遺構の壁の崩壊を想起させるほど緩やかな状態であるが、覆土に壁の崩壊を示す様子は認められなかった。掘方では、浅い小規模の土坑状の掘り込みが認められた。また、当該期の住居跡では最も高所に占地している34号住居跡に形状の類似が認められる。

第41号住居跡

位置：39-B-20。 形状：不整形円形。 規模：長軸4.58m×幅3.8+ α m。 主軸方位：北一度6→南。 基準辺：なし。 炉規模：長0.57m×幅0.54m×深度0.40m。

層序：(基準線標高値110.00m)

1. VI層土（暗褐色土層）に同質。
2. 黄茶褐色土：白色軽石少量。
3. 茶褐色土：粒状炭化物少量・塊状褐色土含有。
4. 暗褐色土：粒状炭化物含有・白色軽石少量・塊状褐色土斑状混。
5. 暗褐色土：粒状炭化物少量。
6. 茶褐色土：塊状褐色土含有。
7. 茶褐色土：塊状褐色土少量。
8. 褐色土：粒状ローム少量。

所見：当住居は暖斜面部中位部分に占地する。当住居跡は、33号住の調査段階で炉跡が壁面に露呈、これにより当跡の存在が明らかになった。平面形状は歪んだ状態だが、採算に亘る平面精査により決定した。また、立ち上がりは僅かなローム土が認められ、これにより壁認定を行った。炉跡は石囲炉で完存状態であった。炉の礫は、南・北・西は掘り込みに埋め込む状態のしっかりした据え方をしているが、東面は生活面上に置いた状態である。これは、炉内部の清掃を容易にするためと推測させる。

第42号住居跡

位置：48-K・L-1・2。 形状：横長方形。 規模：1.90m×3.50m。 主軸方位：北-128度→南。 基準辺：北西・北東壁。 竈規模：全長1.06m×袖部幅1.04m×燃烧部幅0.56m。

層序：(基準線標高値109.00m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 暗褐色土：細粒状C軽石若干・塊状褐色土斑状混。
5. 暗褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土少量。
6. 浅黄橙：被熱粘質土。
7. 暗褐色土：焼土粒少量。
8. 塊状焼土多量被熱粘質土。
9. 黒褐色土：塊状焼土含有・焼土粒多量・粒状炭化物混入。
10. 暗褐色土：粒状C軽石微量・粗粒状ローム。

所見：当住居跡は台地縁辺に占地している。住居跡は床・壁ともに地山、暗褐色土を使用しており、住居掘方は未発見であった。同様に竈も掘方は認められず、天井部の被覆粘土が被熱状態で発見されている。この竈以外の施設は未発見であった。また、床面下で発見されている5号土坑は、当住居の床面も当該部には殆ど窪み状態になっていないため、当住居の構築以前には埋没状態であったと考えられる。

第43号住居跡

位置：38-K・L-19。 形状：横長方形。 規模：2.22+ α m×3.74m。 主軸方位：北-約130度→南。

基準辺：北西・北東壁か。 竈：未発見。

層序：(基準線標高値108.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 黒褐色土：細粒状C軽石若干。
4. 暗褐色土：微粒状C軽石微量。

所見：当住居跡は台地縁辺に占地している。住居跡の東側半分程は道路・電柱支柱により調査不能であった。被覆土には、As-Bの下層(追分火砕流)が残存していた。調査区内でAs-Bが確認出来たのは当住居跡の土層断面だけであった。また、台地縁辺に構築された住居は、床面にローム土を用いず、暗褐色土層中に構築している。当該住居跡も床面は、暗褐色土で掘方は認められなかった。

第44号住居跡

位置：38-K-8・19。 形状：矩形。 規模：2.58m×3.00+ α m。 主軸方位：北-135度→東。 基準辺：

北東壁。 竈規模：全長1.28m×袖部幅1.04m×燃焼部幅0.50m。

層序：(基準線標高値108.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状炭化物住居跡・焼土粒微量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒含有。
5. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・粒状炭化物含有・焼土粒混入。
6. 暗褐色土：細粒状C軽石微量。

所見：当該住居跡も台地縁辺に構築する住居である。床面は暗褐色土を用い、掘方は認められなかった。竈も表土層の攪乱が部分的に達していたため、状態はあまり良好とはいえない状態であった。

第45号住居跡

位置：49-B・C-13・14。 形状：正方形基調。 規模：5.65m×5.84m。 主軸方位：北-78度→南。

基準辺：四壁。 竈規模：全長1.35m×袖部幅1.08+ α m×燃焼部幅0.42m。

層序：(基準線標高値111.70m)

1. 黒色土：粗粒状C軽石多量。
2. 黒色土：細粒状C軽石多量。
3. 黒色土：粒状C軽石・粗粒状ローム含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム斑状混。
5. 塊状ローム主体・黒褐色土勸誘含有。
6. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム含有。
7. 5同質。
8. 黒褐色土：粒状C軽石含有塊状ローム多量。
9. 黒色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石含有。
11. 茶褐色土：粒状C軽石含有。
12. 茶褐色土：粒状C軽石含有。
13. 塊状黒褐色土・塊状ローム・粒状ロームの混土。
14. 黒褐色土：塊状ローム含有。
15. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
16. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状灰色シルト主体。
17. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状焼土多量・粗粒状焼土混入。
18. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状焼土多量。
19. 灰色シルト。
20. 被熱灰色シルト。
21. 焼土化灰色シルト。

所見：当住居跡は確認段階でIV層土の残存としている部分と認識しているため、旧石器の試掘調査時に確認された。そのため、南側を破壊している。

住居跡は北壁と南壁の規模に40cm程の差異があり、平面形状が梯形状を呈している。しかし、南壁が他の壁に比較して40cm長い造りになっているだけで、元来は5.70m前後の規模の正方形であったことが推測される。竈は器設部に甕2個体を据えた状態で発見され、燃焼部に転倒するかの状態の小形甕が、焚口天井の補強に甕2個体を用いている。調査の断面観察所見では、廃棄以前に最低1回以上の改築が施された状況が看取されている。また、左袖は攪乱により袖の左半分を失っている。この左袖は、東壁の中央に当たっている。出土遺物は、上述の竈内のほかに、右袖の基部周辺に坏と胴部を欠損する甕が逆位で出土しており、P₁(貯蔵穴)と東壁の間から、甕・小形甕・甌・須恵器坏蓋が出土している。この竈及び竈周辺以外では、北壁寄りで脚付きの短頸

壺が出土している。住居の掘方は、隅部で掘り込み含繊維、認められている。

住居の平面規格は主柱穴の配置が壁から4単位(尺)の位置に設定している。しかし、南北壁の規模の相違は、主柱穴の配置状態から、元来、16単位(尺)の構造で規格があったことが判断でき、上述の一辺5.70m前後の規模の規格であったことが窺知出来る。

第46号住居跡

位置：49-K・L-15・16。 形状：隅丸縦長方形。 規模：4.00m×2.95m。 主軸方位：北-28度→南。

基準辺：東壁。 竈規模：全長0.75m×袖部幅0.80m×燃焼部幅0.43m。 炉規模：全長0.83m×幅0.45m

層序：(基準線標高値111.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 茶褐色土：微粒状C軽石少量。
4. 暗褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土若干・焼土粒含有。
5. 暗褐色土：粒状C軽石少量・小塊状ローム少量・焼土粒含有。
6. 茶褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒含有。
7. 暗褐色土：細粒状C軽石若干・粒状ローム少量。
8. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒混入。
9. 被熱粘質土：(a：鈍黄橙・b：濁灰褐シルト)。
10. 茶褐色土：(被熱土)粒状C軽石混入・焼土粒混入。
11. 鈍黄橙被熱土：焼土粒含有(ソフトローム状)。
12. 濁灰褐シルト(やや被熱)。
13. 濁灰褐シルト。
14. 茶褐色土：濁灰褐シルト多量。
15. 被熱焼土。
16. 暗茶褐：粒状C軽石少量・焼土粒少量。
17. 茶褐色土：塊状焼土微量・焼土粒少量。
18. 10同質。
19. 濁灰褐シルト。
20. 塊状ローム。
21. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒混入。
22. 赤褐色：顕著な被熱層。
23. 赤橙褐色：被熱層。

所見：当住居跡は台地稜線より西側斜面に占地する。主軸をほぼ南北に採る唯一の住居跡である。当住居跡の特徴は、炉と竈を併用することである。炉は、屋内中央に主軸方向に長軸を採る長楕円状を呈しているが、瓢形状にもとれ、2時期の重複とも思われる。断面では、北側の被熱層が厚く、移設を推測させる。竈は、屋外への掘り込みが認められない初期の様相で、馬蹄形状を呈している。支脚には、高坏の坏部を逆位にして据えている。

第47号住居跡

位置：48-T・S-5・6。 形状：楕円形か(詳細不明)。 規模：(4.88)m×(4.2)m。 主軸方位：

北-115度?→南。 基準辺：なし。 炉規模：長0.54m×幅0.62m。

層序：(基準線標高値110.70m)

1. 茶褐色土：焼土粒少量・白色軽石若干。
2. 暗褐色土：粒状ローム含有・小塊状ローム含有。

所見：当住居跡はトレンチ調査の段階で確認された。トレンチ調査の段階では、住居周辺の上層に当たる部分でやや出土遺物が多かったため、途中で調査方針を変えた。しかし、トレンチ内はローム面露呈に掛かっていたことから床面の確認作業に主眼を置いた。図中に示した範囲は、やや濁った茶褐色土の範囲をもって住居跡の大凡の範囲とした。

第48号住居跡

位置：49-D・F-7・8。 形状：不整形。 規模：4.48m×4.00m。 主軸方位：北-14度→南。 基

準辺：なし。 炉：未発見。

層序：(基準線標高値111.60m)

1. 茶褐色土：白色軽石含有・粒状ローム少量。
2. 茶褐色土：粒状ローム含有小塊状ローム若干。

所見：当住居は台地上に占地する。トレンチ調査時に遺物の集中分布が認められたため、トレンチを拡張して地山面まで掘り下げ平面精査を行った。この結果、不整形形状の落ち込みが確認出来た。

第49号住居跡

位置：38-Q-15・16。 形状：矩形（横長方形）。 規模：2.50m×2.98m。 主軸方位：北-115度→南。
基準辺：北西・北東壁。 竈規模：全長1.12m×袖部幅1.14m×燃烧部幅0.50m。

層序：(基準線標高値108.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。 2. 黒褐色土：粒状C軽石少量。 3. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有。 5. 黒褐色土：細粒状C軽石微量。 6. 暗褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム少量。
7. 塊状ローム主体。 8. 黒褐色土：粒状C軽石含有。 9. 褐色粘質土。10褐色粘質土の被熱。

所見：当住居は南暖斜面部の平坦気味になった縁辺部に位置する。住居跡はIV層土の遺構確認面では確認出来なかったため、縄文遺構の確認トレンチと平行してトレンチ確認調査に移行して確認された。トレンチで確認後は周辺をV層土面まで掘り下げ平面確認を実施して調査に至った。新旧関係では、当住居の北隅部が50号住居跡に切られている。住居は横幅がやや短い造りで矩形上を呈する。又、形状も比較的整っていて、四壁の下端は朝鮮走行している。

第50号住居跡

位置：38-Q-16・17。 形状：横長方形。 規模：2.90m×4.0m。 主軸方位：北-121度→南。 基準辺：北西・北東壁。 竈規模：全長1.00m×袖部幅1.30m×燃烧部幅1.00m。

層序：(基準線標高値108.70m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。 2. 黒褐色土：粒状C軽石少量。 3. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
4. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・粒状ローム含有。 5. 黒褐色土：細粒状C軽石少量。 6. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
7. 茶褐色土：粒状C軽石含有焼土粒若干。 8. 塊状焼土主体・焼土粒混入。

所見：当住居は南暖斜面部の平坦気味になった縁辺部に位置する。IV層土の遺構確認面では確認出来なかったため、縄文遺構の確認トレンチと平行してトレンチ確認調査に移行して確認された。トレンチで確認後は周辺をV層土面まで掘り下げ平面確認を実施して調査に至った。新旧関係では、49号住居跡の北隅部を竈が切っている。

住居跡は比較的整った形状で、四壁の下端は直線走行している。竈は最終使用面の構造が全体に幅が広く大幅な改築が成されたことが窺知される。

第51号住居跡

位置：39-A・B-19・20。 形状：円形か。 規模：4.70m×4.50m。 主軸方位：北-59度→西。 基準辺：なし。 炉規模：全長0.85m×幅0.72m×深度0.2m。

層序：(基準線標高値108.90m)

1. 暗褐色土：白色軽石微量・焼土粒微量。 2. 茶褐色土：塊状褐色土少量・塊状焼土少量。
3. 茶褐色土：塊状ローム少量・焼土粒少量・塊状焼土若干。 4. 茶褐色土：塊状ローム少量・焼土粒少量。

所見：当住居跡は南側暖斜面部に占地する。住居跡は縄文時代の包含層を掘り下げ作業中に炉石を確認したことで住居跡の認定を行った。確認後周辺の平面精査を実施したが、明確な形状は確認出来なかった。特に東側から南側は地形の傾斜に沿っているため、可能性のある範囲を推定した。柱穴は床面をやや下げて確認した。このため、図中の住居断面の床面は実際にはより高い位置にあたり、図より5cm程上位に当る。

第52号住居跡

位置：48-Q-1・2。 形状：楕円形。 規模：4.98m×(3.8)m。 主軸方位：北-1度→西。 基準辺：

なし。 炉規模：長0.8m×0.59m×深さ0.24m。

層序：(基準線標高値109.80m)

1. 暗褐色土：白色軽石少量・塊状褐色土混入・塊状ローム少量。
2. 暗褐色土：焼土粒微量・塊状褐色土混入。
3. 茶褐色土：焼土粒含有・塊状褐色土少量。
4. 茶褐色土：塊状ローム少量焼土粒少量。

所見：当住居跡は南側暖斜面部に占地する。住居跡は縄文時代の包含層・遺構確認を含めたトレンチ調査の段階でトレンチ断面で確認されている。当住居跡の場合は、断面に炉跡が確認されたことにより住居跡認定に至った。立ち上がりは低く、VII層土の内での僅かな差異による状態であった。

掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡

位置：38-T-12・13/39-A・B-13。 形状：長方形・東西棟。 規模：6.30m (7尺/3間)×4.80m (8尺/2間)・40.32㎡。 主軸方位：北-112度50分→東。

層序：(基準線標高値108.20m)

覆土は全て黒褐色土。

- a. 粒状C軽石多量。
- b. 粒状C軽石多量・塊状ローム混入。
- c. 粒状C軽石多量・塊状ローム含有。
- d. 粒状C軽石多量・塊状ローム少量。
- e. 粒状C軽石混入。
- f. 粒状C軽石混入・塊状ローム混入。
- g. 粒状C軽石混入・塊状ローム含有。
- h. 粒状C軽石混入塊状ローム少量。
- i. 粒状C軽石含有。
- j. 粒状C軽石含有・塊状ローム混入。
- k. 粒状C軽石含有・塊状ローム含有。
- l. 粒状C軽石含有・塊状ローム少量。
- m. 粒状C軽石少量。
- n. 粒状C軽石少量・塊状ローム混入。
- o. 粒状C軽石少量・塊状ローム含有。
- p. 粒状C軽石少量・塊状ローム少量。
- q. 粒状C軽石微量。
- r. 粒状C軽石微量・塊状ローム混入。
- s. 粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
- t. 粒状C軽石微量・塊状ローム少量。

土坑

第86号土坑

層序：(基準線標高値111.20m) 1. 黄茶褐色土：炭化粒含有。 2. 暗黄褐色土：粒状ローム少量。 3. 黄茶褐色土。

第94号土坑

層序：(基準線標高値111.80m) 1. 暗褐色土：軽石多量・炭化粒含有・塊状ローム含有・塊状褐色土斑状多量。

第294号土坑

層序：(基準線標高値111.80m) 1. 暗褐色土：炭化物少量・軽石含有・塊状褐色土斑状混入。

第301号土坑

層序：(基準線標高値111.80m)

1. 暗褐色土：塊状ローム主体。
2. 暗褐色土：炭化物多量・軽石混入。
3. 暗褐色土：塊状褐色土斑状混入。
4. 暗褐色土：塊状ローム多量。

第120号土坑

層序：(基準線標高値111.80m)

1. 暗褐色土：塊状ローム主体。
2. 暗褐色土：炭化粒多量・軽石混入。
3. 暗褐色土：炭化粒少量。
4. 暗褐色土：塊状褐色土斑状混入。
5. 暗褐色土：塊状ローム多量。

第305号土坑

層序：(基準線標高値112.00m) 1. 橙褐色土：塊状ローム混入。

第125号土坑

層序：(基準線標高値111.60m)

1. 黒色土：粒状C軽石含有。
2. 黒色土：粒状C軽石少量。
3. 茶褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入。
4. 茶褐色土：粒状C軽石含有。
5. 暗褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム混入。

第126号土坑

層序：(基準線標高値111.70m)

1. 暗褐色土：塊状ローム斑状。
2. 暗褐色土：軽石混入・炭化粒含有・塊状褐色土混入・塊状ローム少量。
3. 暗褐色土：炭化粒少量・塊状褐色土含有・粒状ローム混入。

第144号土坑

層序：(基準線標高値111.40m)

1. 暗黄茶褐色土：粒状ローム多量・炭化粒少量。
2. 暗褐色土：塊状褐色土混入・塊状ローム少量・炭化粒含有・粘性あり。

第156号土坑・第157号土坑

層序：(基準線標高値111.20m) 1. 暗茶褐色土：暗い。 2. 暗茶褐色土：明るい・塊状ローム含有。

第186号土坑

層序：(基準線標高値111.40m)

1. 暗褐色土：炭化粒混入。
2. 暗褐色土：塊状褐色土斑状混入・炭化粒含有・軽石混入。
3. 暗褐色土：塊状褐色土多量・炭化粒少量。
4. 暗褐色土：粘質。

第188号土坑

層序：(基準線標高値111.30m) 1. 暗黒茶褐色土：炭化粒含有・軽石混入。

第212号土坑

層序：(基準線標高値110.90m)

1. 濁った黒褐色土：As-B多量・塊状ローム少量。
2. As-B混入・塊状ローム多量・やや粘質。

第213A・第213B号土坑

層序：(基準線標高値110.60m)

1. 鈍い黒褐色土：As-B多量・塊状ローム混入。
2. 鈍い黒褐色土：As-B混入。
3. 鈍い黒褐色土：As-B混入・塊状ローム混入・やや粘質。

第214号土坑

層序：(基準線標高値110.70m) 1. 暗褐色土：塊状V層土層・塊状ローム混入。

第215号土坑

層序：(基準線標高値110.60m) 1. 暗褐色土：塊状V層土層。

第219号土坑

層序：(基準線標高値109.40m)

1. 粒状C軽石混入・IV塊状混入・塊状褐色土含有・塊状ローム含有。
2. 粒状C軽石微量・粒状ローム多量・塊状褐色土含有・黒色土塊状含有。

第220A・220B号土坑

層序：(基準線標高値109.60m)

1. 粒状C軽石少量・塊状褐色土含有。
2. 粒状C軽石無し・暗褐色B混入・地上ソフトローム。

第224号土坑

層序：(基準線標高値108.80m)

1. 粒状C軽石多量・IV塊状含有・塊状褐色土混入・炭化物微量。
2. 粒状C軽石少量・塊状褐色土少量・焼土粒微量。
3. 粒状C軽石微量・塊状褐色土混入・塊状ローム少量・塊状焼土混入。
4. 粒状C軽石微量・塊状ローム混入・塊状褐色土混入。
5. 粒状C軽石無し・塊状ローム多量。(壁 崩落土)

第240号土坑

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 粒状C軽石含有・塊状褐色土少量。

第255号土坑

層序：(基準線標高値108.20m)

1. 粒状C軽石多量・塊状褐色土斑状。
2. 粒状C軽石多量・IV塊状含有。
3. 粒状C軽石含有・塊状ローム多量・IV塊状少量・塊状褐色土少量。
4. 粒状C軽石含有・塊状褐色土斑状。
5. 粒状C軽石含有。
6. 粒状C軽石少量・塊状褐色土斑状。
7. 粒状C軽石少量。
8. 粒状C軽石含有。
9. 粒状C軽石微量・塊状褐色土斑状。
10. 粒状C軽石無し・塊状ローム混入。

第256号土坑

層序：(基準線標高値108.10m)

1. 粒状C軽石多量・塊状褐色土斑状微量。
2. 粒状C軽石含有・塊状褐色土少量。

第258号土坑

層序：(基準線標高値108.20m)

1. 粒状C軽石多量・塊状褐色土斑状微量。

第260号土坑

層序：(基準線標高値108.20m)

1. 粒状C軽石多量・塊状褐色土斑状微量。

第284号土坑

層序：(基準線標高値108.20m)

1. 粒状C軽石多量・塊状褐色土斑状微量。
2. 粒状C軽石含有・塊状褐色土少量。

第279A・279B号土坑

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 粒状C軽石少量・塊状褐色土混入。
2. 粒状C軽石含有・塊状褐色土含有・塊状焼土微量。

第282号土坑

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 粒状C軽石混入・塊状褐色土混入・IV塊状含有。
2. 粒状C軽石微量・塊状褐色土含有・塊状ローム混入・粒状ローム混入・粘性あり。

第286号土坑

層序：(基準線標高値108.10m) 1. 粒状C軽石少量・塊状褐色土混入。

第12001号土坑

層序：(基準線標高値111.80m)

1. 暗褐色土：白色パミス含有。
2. 暗褐色土：白色パミス含有・カーボン含有。
3. 暗茶褐色土：白色パミス含有・塊状褐色土含有。

第12004号土坑

層序：(基準線標高値111.70m) 1. 茶褐色土：白色パミス含有・塊状褐色土多量。

第12005号土坑

層序：(基準線標高値111.70m)

1. 暗褐色土：白色パミス含有。
2. 暗茶褐色土：白色パミス含有・塊状褐色土含有・塊状ローム。

第12008号土坑

層序：(基準線標高値111.80m)

1. 暗褐色土：白色パミス含有。
2. 暗茶褐色土：白色パミス含有・塊状褐色土含有。
3. 茶褐色土：白色パミス含有・塊状褐色土多量。

第12009号土坑

層序：(基準線標高値111.80m)

1. 暗茶褐色土：白色パミス含有・塊状褐色土含有。
2. 茶褐色土：白色パミス含有・塊状褐色土多量。

層序：(基準線標高値111.70m)

第12019号土坑

層序：(基準線標高値111.60m) 1. 暗褐色土：白色パミス含有。 2. 暗茶褐色土：白色パミス含有・塊状褐色土含有。

第12027号土坑

層序：(基準線標高値111.80m)

1. 暗褐色土：白色パミス含有。
2. 茶褐色土：白色パミス含有・塊状褐色土多量。

第12028号土坑

層序：(基準線標高値111.80m) 1. 暗茶褐色土：白色パミス含有・塊状褐色土含有。

第12045号土坑

層序：(基準線標高値110.70m)

1. 黒褐色土。
2. 黒褐色土：白色パミス。
3. 暗褐色土：白色パミス含有。
4. 暗褐色土。
5. 茶褐色土：塊状褐色土多量・塊状ローム多量斑状。
6. 茶褐色土：塊状褐色土多量。
7. 暗褐色土：塊状ローム主・暗褐色土塊状含有。
8. 茶褐色土。
9. 茶褐色土：塊状ローム多量。
10. 茶褐色土。

第12068号土坑

層序：(基準線標高値110.80m) 1. 暗褐色土：白色パミス少量。

第12070号土坑

層序：(基準線標高値110.80m) 1. 暗褐色土：白色パミス含有。

第12071号土坑

層序：(基準線標高値110.80m) 1. 暗褐色土：塊状ローム斑状。

第12092号土坑

層序：(基準線標高値112.10m)

1. 黒色土：塊状褐色土含有・白色パミス少量。
2. 黒色土。
3. 茶褐色土：塊状ローム多量・粒状ローム混入。
4. 暗褐色土：塊状ローム混入・粒状ローム混入。
5. 暗茶褐色土：塊状褐色土・塊状ローム混入。
6. 暗茶褐色土：塊状ローム混入。
7. 暗褐色土：白色パミス少量・塊状ローム少量。
8. 黄褐色土：塊状ローム混入。
9. 暗茶褐色土：塊状ローム多量。

第12104号土坑

層序：(基準線標高値112.00m)

1. 黒色土：粒状C軽石混入。
2. 暗褐色土：粒状C軽石少量。
3. 茶褐色土：粒状C軽石少量・褐色塊状含有。
4. 褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。

第12165号土坑

層序：(基準線標高値110.10m) 1. 暗茶褐色土：塊状褐色土含有。

第12166号土坑

層序：(基準線標高値110.10m)

1. 暗褐色土：塊状ローム混入・塊状褐色土混入。
2. 暗褐色土：塊状褐色土少量・塊状ローム少量。
3. 暗褐色土：塊状褐色土少量。
4. 暗茶褐色土：塊状褐色土少量。
5. 暗褐色土：塊状ローム多量・粒状ローム多量混入。
6. 暗茶褐色土：塊状褐色土混入・塊状ローム混入。

第12167号土坑

層序：(基準線標高値110.10m) 1. 暗茶褐色土：塊状ローム混入・炭化物含有。

第12168号土坑

層序：(基準線標高値110.10m) 1. 暗茶褐色土：塊状褐色土混入。

第12169号土坑

層序：(基準線標高値110.20m) 1. 暗褐色土：塊状褐色土含有・塊状ローム少量。

第12170号土坑

層序：(基準線標高値110.20m) 1. 暗褐色土：塊状褐色土含有。

第12173号土坑

層序：(基準線標高値109.70m) 1. 暗褐色土：塊状ローム混入。

第12174号土坑

層序：(基準線標高値108.40m) 1. 黒色土：粒状C軽石含有。

第12176号土坑

層序：(基準線標高値108.80m)

1. 黒色土：粒状C軽石少量・塊状褐色土含有。 2. 黒色土：粒状C軽石少量。 3. 1. 黒色土：粒状C軽石若干・塊状ローム含有。

第12177号土坑

層序：(基準線標高値108.80m)

1. 黒色土：粒状C軽石混入。 2. 黒色土：粒状C軽石含有・粒状ローム混入。 3. 1. 黒色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量。

第12184号土坑

層序：(基準線標高値109.10m)

1. 暗褐色土：塊状褐色土斑状。 2. 茶褐色土：塊状褐色土混入。 3. 黒褐色土：塊状少量。
4. 暗褐色土：塊状褐色土少量・塊状ローム少量。 5. 茶褐色土：塊状褐色土含有・塊状ローム少量。

第12185号土坑

層序：(基準線標高値109.30m) 1. 暗褐色土：白色パミス含有・塊状褐色土含有。

第12186号土坑

層序：(基準線標高値109.30m) 1. 暗褐色土：白色パミス含有。

第310号土坑

層序：(基準線標高値110.10m)

1. 暗褐色土：塊状褐色土少量・白色パミス少量。 2. 暗褐色土：塊状褐色土微量。
3. 暗褐色土：塊状褐色土斑状・白色パミス少量。 4・5. 茶褐色土：塊状褐色土混入・塊状ローム若干。
6. 黄褐色土：塊状褐色土混入・塊状ローム主。 7. 暗褐色土：塊状褐色土・塊状ローム

富田下大日遺跡 諸元

富田下大日遺跡土坑一覧表(1)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			摘要
		区	グリッド			長	幅	深さ	
第1号土坑			48-K-2	北から64°東	隅丸長方形	0.97	0.80	0.16	平安時代
第2号土坑			38-K-20	北から36°東	円形	0.91	0.83	0.21	平安時代
第3号土坑			48-L-2	北から12°西	円形	1.00	0.95	0.22	平安時代
第4号土坑			38-L-19	北から48°東	円形	1.17	1.15	0.33	平安時代
第5号土坑			70-C-1						
第6号土坑			70-B-1						
第7号土坑			70-B-1						
第8号土坑			70-B-1						
第9号土坑			60-A-20						
第10号土坑			60-A-20						
第11号土坑			59-T-20						
第12号土坑			60-A-19						
第13号土坑			60-B-19						
第14号土坑			60-B-19						
第15号土坑			60-B-19						
第16号土坑			60-A-19						
第17号土坑			60-A-19						
第18号土坑			60-B-19						
第19号土坑			60-B-19						
第20号土坑			60-A-19						
第21号土坑			60-A-18						
第22号土坑			60-B-18						
第23号土坑			60-A-18						
第24号土坑			60-A-18						
第25号土坑			60-B-18						
第26号土坑			60-B-18						
第27号土坑			60-B-17						
第28号土坑			60-A-17						
第29号土坑			60-A-17						
第30号土坑			60-A-16						
第31号土坑			59-T-20						
第32号土坑			59-T-19						
第33号土坑			59-T-18	北から2°東	楕円形	0.30	0.24	0.17	平安時代
第34号土坑			59-S-17		楕円形	0.20		0.8	平安時代
第35号土坑			59-S-18	北から45°東	楕円形	0.30	0.20	0.15	平安時代
第36号土坑			59-S-18						
第37号土坑			59-S-18	北から70°東	楕円形	0.24	0.16	0.15	平安時代
第38号土坑			59-S-18						
第39号土坑			59-S-18	北から0°	円形	0.28	0.26	0.15	縄文時代
第40号土坑			59-S-17						
第41号土坑			59-S-17						
第42号土坑			59-S-17	北から0°	円形	0.26	0.25	0.16	平安時代
第43号土坑			59-S-17	北から3°西	楕円形	0.38	0.30	0.23	平安時代
第44号土坑			59-S-17	北から34°西	不整形	0.53	0.33	0.28	平安時代
第45号土坑			59-T-17		不整形	0.25		0.24	平安時代
第46号土坑			59-T-16						
第47号土坑			59-T-16						
第48号土坑			59-S-17						
第49号土坑			59-S-16						
第50号土坑			59-T-16	北から48°東	楕円形	0.56	0.43	0.20	平安時代
第51号土坑									欠番
第52号土坑			59-T-14						
第53号土坑			59-T-14						
第54号土坑			59-T-15						
第55号土坑			59-T-14						
第56号土坑			59-T-14						
第57号土坑			59-S-14						
第58号土坑			59-S-14						
第59号土坑			59-R-15						
第60号土坑			59-R-15						
第61号土坑			59-R-15						
第62号土坑			59-T-14						
第63号土坑			59-T-13						

富田下大日遺跡土坑一覧表(2)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			摘要
		区	グリッド			長	幅	深さ	
第64号土坑			59-T-13	北から70°東	楕円形	0.40	0.50	0.51	平安時代
第65号土坑			59-T-13	北から0°	円形	0.82	0.78	0.44	縄文時代
第66号土坑			59-S-13						
第67号土坑			59-R-13	北から62°東	楕円形	1.10	0.90	0.10	縄文時代
第68号土坑			59-T-13	北から0°	円形	φ50		0.15	縄文時代
第69号土坑			59-T-13						
第70号土坑			59-R-13	北から0°	円形	0.47	0.45	0.11	縄文時代
第71号土坑			59-R-13						
第72号土坑			59-R-13						
第73号土坑			59-S-12						
第74号土坑									
第75号土坑			59-S-12						
第76号土坑			59-S-11	北から44°西	隅丸長方形	1.64	1.24	0.33	縄文時代
第77号土坑			59-S-11						
第78号土坑			59-R-11						
第79号土坑			59-R-11						
第80号土坑			59-Q-11						
第81号土坑			59-Q-12						
第82号土坑			59-Q-12						
第83号土坑			59-Q-11						
第84号土坑			59-Q-11						
第85号土坑			59-Q-11						
第86号土坑			59-P-12	北から0°	円形か	1.00	1.14	0.21	縄文時代
第87号土坑			59-S-10						
第88号土坑			59-R-11						
第89号土坑			59-Q-11						
第90号土坑			59-P-11	北から34°西	楕円形	0.98	0.94	0.16	縄文時代
第91号土坑			59-O-13						
第92号土坑			59-N-13						
第93号土坑			59-N-13						
第94号土坑			59-N-13	北から19°西	円形	1.26	1.11	0.42	縄文時代
第95号土坑			59-N-12						
第96号土坑			59-N-12						
第97号土坑			59-M-12						
第98号土坑			59-N-12						
第99号土坑			59-N-11	北から48°東	不整形	1.27	1.06	0.50	縄文時代
第100号土坑			59-L-10						
第101号土坑			59-L-10						
第102号土坑			59-M-9						
第103号土坑			59-K-10						
第104号土坑			59-K-9						
第105号土坑			-						
第106号土坑			59-K-9						
第107号土坑									欠番
第108号土坑			59-L-10						
第109号土坑			59-L-10						
第110号土坑			59-L-10						
第111号土坑			59-L-10						
第112号土坑			59-L-10						
第113号土坑			59-L-10						
第114号土坑			59-M-10						
第115号土坑			59-M-10						
第116号土坑			59-M-10						
第117号土坑			59-M-10						
第118号土坑			59-M-10						
第119号土坑			59-M-10						
第120号土坑			59-M-10	北から0°	楕円形	1.40	1.26	0.52	縄文時代
第121号土坑			59-M-9						
第122号土坑			59-M-10						
第123号土坑			59-M-10						
第124号土坑			59-N-10						
第125号土坑			59-N-10	北から48°東	不整形	0.70	0.58	0.10	縄文時代
第126号土坑			59-O-10						

富田下大日遺跡土坑一覧表(3)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			摘要
		区	グリッド			長	幅	深さ	
第127号土坑			59-O-10						
第128号土坑			59-O-10						
第129号土坑			59-O-10	北から10°東	円形	0.36	0.30	0.21	縄文時代
第130号土坑			59-P-10						
第131号土坑			59-P-10	北から26°東	楕円形	0.56	0.40	0.17	縄文時代
第132号土坑			59-P-10	北から6°西	楕円形	0.46	0.38	0.64	平安時代
第133号土坑			59-P-10	北から56°東	長方形	0.13	0.10	0.14	平安時代
第134号土坑			59-P-10	北から0°	円形	φ0.46		0.12	縄文時代
第135号土坑			59-P-10						
第136号土坑			59-P-10	北から37°東	楕円形	0.46	0.36	0.26	縄文時代
第137号土坑			59-P-10	北から0°	円形	φ0.84		0.23	縄文時代
第138号土坑			59-Q-10	北から80°西	円形	0.23	0.18	0.05	平安時代
第139号土坑			59-Q-9	北から90°	円形	0.70	0.60	0.10	縄文時代
第140号土坑			59-Q-10	北から87°東	円形	0.78	0.72	0.21	平安時代
第141号土坑			59-Q-10						
第142号土坑			59-Q-10						
第143号土坑			59-P-10						
第144号土坑			59-Q-10	北から0°	円形か	0.82	0.87	0.38	縄文時代
第145号土坑						0.27		0.28	平安時代
第146号土坑			59-Q-10	北から47°西	円形	0.64	0.62	0.22	縄文時代
第147号土坑			59-Q-10	北から7°西	円形	0.26	0.22	0.11	平安時代
第148号土坑			59-Q-10						
第149号土坑			59-Q-10	北から4°西	楕円形	0.50	0.40	0.22	縄文時代
第150号土坑			59-Q-10						
第151号土坑			59-Q-10	北から62°東	円形	0.30	0.22	0.13	縄文時代
第152号土坑			59-Q-10	北から0°	円形	0.20	0.18	0.29	縄文時代
第153号土坑			59-R-10						
第154号土坑			59-Q-10						
第155号土坑			59-R-10						
第156号土坑			59-R-10	北から2.5°西	楕円形か	0.98	0.66	0.13	縄文時代
第157号土坑			59-R-10	北から2.5°西	楕円形	1.01	0.64	0.30	縄文時代
第158号土坑			59-R-9						
第159号土坑			59-S-10						
第160号土坑			59-S-10						
第161号土坑			59-S-10						
第162号土坑			59-S-10						
第163号土坑			59-S-10						
第164号土坑			59-S-10						
第165号土坑			59-S-10						
第166号土坑			59-R-9						
第167号土坑			59-O-10						
第168号土坑			59-O-10	北から90°	不整形	0.90	0.68	0.75	縄文時代
第169号土坑			59-O-10						
第170号土坑			59-O-10						
第171号土坑			59-P-10						
第172号土坑			59-O-10						
第173号土坑			59-O-10						
第174号土坑			59-O-10						
第175号土坑			59-P-11	北から29°東	円形	0.84	0.72	0.07	縄文時代
第176号土坑			59-R-8						
第177号土坑			59-R-7						
第178号土坑			59-Q-7						
第179号土坑			59-Q-7						
第180号土坑			59-Q-7						
第181号土坑			59-R-6						
第182号土坑			59-Q-6						
第183号土坑			59-Q-6						
第184号土坑			59-O-7	北から40°西	円形	0.98	0.96	0.19	
第185号土坑			59-O-6	北から82°東	楕円形	0.64	0.55	0.25	
第186号土坑			59-O-6	北から0°	不整形	1.28	1.30	0.41	縄文時代
第187号土坑			59-N-6	北から61°東	円形	1.02	0.94	0.13	縄文時代
第188号土坑			59-N-5	北から0°	円形	1.10	1.00	0.22	縄文時代
第189号土坑			59-P-5	北から19°東	楕円形	0.58	0.42	0.17	縄文時代

富田下大日遺跡土坑一覧表(4)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			摘要
		区	グリッド			長	幅	深さ	
第190号土坑			59-P-5	北から5°東	不整形	0.68	0.68	0.09	縄文時代
第191号土坑			59-Q-6	北から90°	不整形	1.06	0.90	0.35	縄文時代
第192号土坑			59-Q-5						
第193号土坑			59-P-3						
第194号土坑			59-0-1						
第195号土坑			49-M-20						
第196号土坑			49-L-20						
第197号土坑			49-L-20						
第198号土坑			49-N-16						
第199号土坑			49-F-19						
第200号土坑			49-F-19						
第201号土坑			49-G-18	北から0°	方形か	1.40	0.80	0.24	平安時代
第202号土坑			49-F-18						
第203号土坑			49-D-19						
第204号土坑			49-D-19						
第205号土坑			49-E-19						
第206号土坑			49-D-19						
第207号土坑			49-D-19						
第208号土坑			49-D-19						
第209号土坑			49-C-19						
第210号土坑			49-D-14						
第211号土坑			48-E-5						
第212号土坑			49-A-3	北から15°東	不整形	2.04	1.53	0.42	中世以降
第213号土坑A			49-B-2	北から10°東	楕円形	2.64	1.07	0.40	中世以降
第213号土坑B			49-B-2	北から10°東	円形	1.90	1.84	0.62	縄文時代
第214号土坑			48-S-3	北から15°東	円形	1.70	1.70	0.24	平安時代
第215号土坑			48-S-3	北から0°	不整形	1.30	1.16	0.14	平安時代
第216号土坑			48-S-1	北から15°西	円形	0.85	0.68	0.18	平安時代
第217号土坑			39-R-20	北から77°東	隅丸長方形	1.10	0.86	0.38	平安時代
第218号土坑			48-N-6						
第219号土坑			38-R-20	北から81°西	楕円形	1.18	1.08	0.18	平安時代
第220号土坑A			38-R-20	北から81°西	楕円形	1.30	0.83	0.30	平安時代
第220号土坑B			38-R-20	北から7°西	楕円形か	1.01+ α	1.30	0.10	縄文時代
第221号土坑			38-N-20	北から44°西	隅丸長方形	0.32	0.47	0.09	縄文時代
第222号土坑			38-O-19	北から25°西	円形	0.84	0.76	0.16	平安時代
第223号土坑			38-M-20	北から48°東	円形	0.30	0.26	0.10	平安時代
第224号土坑			38-M-19	北から56°東	円形	1.02	0.92	0.30	平安時代
第225号土坑			38-M-19	北から0°	円形	0.25	0.25	0.27	平安時代
第226号土坑			38-N-19	北から72°西	円形	0.40	0.35	0.10	平安時代
第227号土坑			38-N-18	北から81.5°西	円形	0.98	0.80	0.40	平安時代
第228号土坑			38-R-17	北から67°西	楕円形	1.15	0.94	0.35	平安時代
第229号土坑			38-S-17	北から19°東	楕円形	0.84	0.75	0.21	平安時代
第230号土坑			38-T-16						
第231号土坑			38-T-16			0.65		0.12	平安時代
第232号土坑			39-D-17						
第233号土坑			39-D-16	北から0°	円形	0.31	0.41	0.29	平安時代
第234号土坑			39-D-16	北から15°東	楕円形	1.36	1.04	0.26	平安時代
第235号土坑			39-C-16	北から0°	円形	0.82	0.82	0.26	平安時代
第236号土坑			39-B-16	北から16°西	楕円形	0.98	0.49	0.17	平安時代
第237号土坑			39-D-15	北から25°東	円形	0.57	0.53	0.55	平安時代
第238号土坑			39-C-15	北から37°東	円形	0.78	0.70	0.16	平安時代
第239号土坑			39-B-15	北から91°東	円形	0.40	0.33	0.18	平安時代
第240号土坑			39-A-15	北から0°	円形	0.72	0.72	0.11	平安時代
第241号土坑			39-A-15			0.26		0.12	平安時代
第242号土坑			39-A-15	北から87°西	楕円形	0.72	0.61	0.12	平安時代
第243号土坑			39-C-15	北から89°西	隅丸正方形	0.56	0.58	0.20	平安時代
第244号土坑			39-C-14	北から73.5°西	楕円形	0.68	0.50	0.21	平安時代
第245号土坑			39-B-14	北から59°東	円形	0.24	0.26	0.25	平安時代
第246号土坑			39-B-15	北から60°西	円形	1.03	0.92	0.15	平安時代
第247号土坑			39-B-14						平安時代
第248号土坑			39-B-14	北から11°西	円形	0.70	0.54	0.15	平安時代
第249号土坑			39-A-15	北から54.5°西	円形	0.41	0.32	0.19	平安時代
第250号土坑			39-A-14	北から83°西	円形	1.22	1.04	0.26	平安時代

富田下大日遺跡 諸元

富田下大日遺跡土坑一覧表(5)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			摘要
		区	グリッド			長	幅	深さ	
第251号土坑			39-B-13	北から45.5°東	円形	0.28	0.25	0.16	平安時代
第252号土坑			39-B-13	北から50°東	楕円形	0.34	0.25	0.15	平安時代
第253号土坑			39-A-13	北から0°	楕円形	0.48	0.39	0.29	平安時代
第254号土坑			39-A-13	北から85.5°東	円形	0.39	0.35	0.11	平安時代
第255号土坑			39-B-11	北から0°	円形か	3.30	3.30	1.20	平安時代
第256号土坑			39-A-11	北から56°東	楕円形	0.73	0.58	0.51	平安時代
第257号土坑			39-A-13	北から0°	円形	0.44	0.35	0.27	平安時代
第258号土坑			39-A-13	北から0°	円形	0.43	0.48	0.16	平安時代
第259号土坑			39-A-13	北から80°東	楕円形	0.65	0.58	0.50	平安時代
第260号土坑			39-A-13	北から0°	不整形	0.47	0.43	0.13	平安時代
第261号土坑			39-A-13	北から13°西	楕円形	1.00	0.42	0.12	平安時代
第262号土坑			39-A-13	北から13°西	楕円形	1.00	0.50	0.33	平安時代
第263号土坑			39-A-13	北から35°西	楕円形	0.55	0.48	0.31	平安時代
第264号土坑			39-A-12	北から78°西	円形	0.60	0.54	0.38	平安時代
第265号土坑			39-A-12	北から90°	円形	0.44	0.37	0.19	平安時代
第266号土坑			39-A-13	北から10°西	円形	0.46	0.42	0.18	平安時代
第267号土坑			39-A-13	北から0°	円形	0.52	0.57	0.28	平安時代
第268号土坑			39-A-13	北から68°東	隅丸長方形	0.51	0.38	0.12	平安時代
第269号土坑			39-A-13	北から65°東	楕円形	0.85	0.62	0.25	平安時代
第270号土坑			39-A-12	北から0°	円形	0.28	0.29	0.27	平安時代
第271号土坑			39-A-12	北から63°西	不整形	0.30	0.27	0.15	平安時代
第272号土坑			39-A-12	北から32°西	円形	0.42	0.33	0.18	平安時代
第273号土坑			39-A-12	北から64°東	不整形	0.55	0.44	0.15	平安時代
第274号土坑									
第275号土坑			38-R-12	北から35°西	不整形楕円形	0.48	0.32	0.27	平安時代
第276号土坑									
第277号土坑			38-R-14	北から8°東	楕円形	0.69	0.68	0.19	平安時代
第278号土坑			38-R-15	北から0°	円形	0.58	0.58	0.17	平安時代
第279号土坑A			38-R-15	北から56°西	不整形楕円形	0.66	0.72	0.21	平安時代
第279号土坑B			38-R-15	北から56°西	楕円形か	0.78+ α	0.79	0.19	平安時代
第280号土坑									
第281号土坑									
第282号土坑			38-P-17	北から63°東	円形	0.92	0.81	0.27	平安時代
第283号土坑			38-T-14	北から11°西	不整形	0.48	0.38	0.07	平安時代
第284号土坑			38-T-14	北から0°	円形	0.38	0.34	0.24	平安時代
第285号土坑			39-C-15	北から25°東	楕円形	1.02	0.90	0.17	平安時代
第286号土坑			38-S-12	北から34°東	楕円形	1.44	1.04	0.17	平安時代
第287号土坑			60-B-20	北から28°東	不整形楕円形	1.54	1.28	0.40	平安時代
第288号土坑			60-A-20	北から0°	円形	1.14	1.12	0.25	平安時代
第289号土坑			60-A-18	北から60°西	不整形	1.28	0.88	0.20	平安時代
第290号土坑			59-T-13	北から78°東	楕円形	0.60	0.46	0.21	平安時代
第291号土坑			59-S-13	北から76°東	円形	0.54	0.42	0.31	縄文時代
第292号土坑			59-R-11	北から0°	円形	0.82	0.80	0.20	縄文時代
第293号土坑			59-N-13	北から30°西	楕円形	0.79	0.74	0.20	縄文時代
第294号土坑			59-N-12		円形か	1.00+ α	0.38+ α	0.20	縄文時代
第295号土坑			59-O-11	北から39°西	円形	0.48	0.34	0.14	縄文時代
第296号土坑			59-N-11		円形か	0.60	0.30+ α		縄文時代
第297号土坑			59-N-11	北から71°東	楕円形	0.70	0.60	0.27	縄文時代
第298号土坑			59-M-11	北から25°西	円形	0.92	0.82	0.25	縄文時代
第299号土坑			59-M-11		円形か	1.36	0.65	0.55	縄文時代
第300号土坑			59-N-11	北から0°	円形	ϕ 0.80		0.20	縄文時代
第301号土坑			59-N-10	北から18°西	楕円形	1.10	0.88	0.70	縄文時代
第302号土坑			59-N-9	北から35°西	円形か	0.92	0.88	0.50	縄文時代
第303号土坑			59-M-10	北から24°東	楕円形	0.66	0.48	0.19	縄文時代
第304号土坑			59-L-10	北から8°西	楕円形	0.48	0.36	0.50	縄文時代
第305号土坑			59-M-9	北から35°西	円形	0.60	0.53	0.17	縄文時代
第306号土坑			59-N-19	北から65°西	円形	0.98	1.19	0.34	縄文時代
第307号土坑			49-I-19	北から0°	隅丸方形か	1.90	1.10+ α	0.53	縄文時代
第308号土坑			49-E-13		楕円形	1.90	1.80	0.15	縄文時代
第309号土坑			49-F-12		円形か	0.92	0.54+ α	0.30	縄文時代
第310号土坑			48-Q-3	北から95°西	楕円形	1.72	2.22	0.97	縄文時代
第12001号土坑			59-M-3	北から0°	円形か	1.24~1.10	1.24~1.10	0.80	縄文時代
第12002号土坑			59-L-4	北から0°	円形	0.40	0.37	0.31	縄文時代

富田下大日遺跡土坑一覧表(6)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			摘要
		区	グリッド			長	幅	深さ	
第12003号土坑			59-L-3	北から55°西	楕円形	0.55	0.50	0.18	縄文時代
第12004号土坑			59-K-2	北から75°東	楕円形	0.12	0.60	0.78	縄文時代
第12005号土坑			59-K-2	北から91°東	円形	0.85	0.70	0.46	縄文時代
第12006号土坑			49-K-20	北から43°東	楕円形	0.30	0.24	0.14	縄文時代
第12007号土坑			59-J-4	北から2°東	円形	0.58	0.56	0.11	縄文時代
第12008号土坑			59-J-3	北から54°東	円形	0.92	0.90	0.26	縄文時代
第12009号土坑			59-J-3	北から0°	円形	0.92	0.89	0.45	縄文時代
第12010号土坑			59-J-2	北から0°	円形	0.37	0.37	0.18	縄文時代
第12011号土坑			59-J-2	北から81°東	楕円形	0.64	0.50	0.29	縄文時代
第12012号土坑			59-J-2	北から37°西	円形	0.34	0.32	0.32	縄文時代
第12013号土坑			49-I-19	北から50°東	楕円形	0.94	0.82	0.20	縄文時代
第12014号土坑			49-I-18	北から20°東	不整楕円形	0.80	0.50	0.29	縄文時代
第12015号土坑			49-I-17	北から0°	隅丸方形	0.20	0.20	0.18	縄文時代
第12016号土坑			59-H-1	北から70°東	楕円形	0.50	0.44	0.20	縄文時代
第12017号土坑			49-H-11	北から30°東	円形	0.28	0.25	0.27	縄文時代
第12018号土坑			49-H-11	北から50°西	楕円形	0.26	0.20	0.55	縄文時代
第12019号土坑			49-G-19	北から83°東	楕円形	1.22	0.83	0.32	縄文時代
第12020号土坑			49-G-17	北から90°	円形	0.54	0.46	0.15	縄文時代
第12021号土坑			49-G-14	北から0°	不整形	0.53	0.43	0.07	縄文時代
第12022号土坑			49-G-11	北から50°西	円形	0.36	0.38	0.20	縄文時代
第12023号土坑									
第12024号土坑			59-F-1	北から0°	円形	0.50	0.50	0.20	縄文時代
第12025号土坑			59-F-1	北から0°	楕円形	0.40	0.32	4.41	縄文時代
第12026号土坑			49-F-20	北から25°西	不整形	1.00	0.78	0.49	縄文時代
第12027号土坑			49-F-20	北から3°東	楕円形	1.72	1.25	0.46	縄文時代
第12028号土坑			49-F-20	北から87°東	楕円形	0.93	0.70	0.19	縄文時代
第12029号土坑			49-F-17	北から8°東	楕円形	1.20	0.80	0.28	縄文時代
第12030号土坑									
第12031号土坑			49-F-17	北から62°西	円形	0.22	0.18	0.21	縄文時代
第12032号土坑			49-F-16	北から7.5°東	円形基調	1.53	1.41	0.15	縄文時代
第12033号土坑			49-F-12	北から0°	円形	0.30	0.30	0.24	縄文時代
第12034号土坑			49-F-12	北から18°東	不整方形	0.36	0.36	0.35	縄文時代
第12035号土坑									
第12036号土坑			49-E-19	北から22°西	楕円形	0.58	0.42	0.33	縄文時代
第12037号土坑			49-E-19	北から62°東	不整方形	0.48	0.34	0.66	縄文時代
第12038号土坑			49-E-18	北から48°西	不整形	0.80	0.70	0.26	縄文時代
第12039号土坑			49-E-17	北から50°東	楕円形	1.00	0.88	0.32	縄文時代
第12040号土坑			49-E-17	北から90°	不整形か	2.30+ α	1.50	0.22	縄文時代
第12041号土坑			49-E-15	北から2°東	不整形	1.00	0.58	0.12	縄文時代
第12042号土坑			49-E-14	北から44°東	不整形	0.76	0.53	0.36	縄文時代
第12043号土坑			49-E-14	北から0°	円形	0.32	0.32	0.48	縄文時代
第12044号土坑			49-E-11	北から0°	不整方形	0.70	0.71	0.26	縄文時代
第12045号土坑			49-E-8	北から35°東	不整形	2.13	1.4	1.02	縄文時代
第12046号土坑			49-D-19	北から9°東	不整方形	0.52	0.46	0.17	縄文時代
第12047号土坑			49-D-19	北から78°西	楕円形	0.42	0.32	0.11	縄文時代
第12048号土坑			49-D-19	北から68°東	不整形	2.14	0.50	0.23	縄文時代
第12049号土坑			49-D-15	北から56°東	不整形	2.50		0.19	縄文時代
第12050号土坑			49-D-13	北から27.5°東	不整形	0.77	0.60		縄文時代
第12052号土坑			49-B-11	北から88°西	楕円形	0.72	0.48	0.26	縄文時代
第12053号土坑			49-B-10	北から8°東	円形	0.29	0.30	0.51	縄文時代
第12051号土坑			49-B-5	北から4°西	円形	0.30	0.28	0.11	縄文時代
第12054号土坑			49-B-10	北から5°西	不整形	0.98	0.80	1.20	縄文時代
第12055号土坑			49-B-9	北から0°	円形	0.32	0.30	0.24	縄文時代
第12056号土坑			49-A-13	北から22.5°西	楕円形	0.68	0.58	0.08	縄文時代
第12057号土坑			49-A-11	北から82°東	不整形か		2.02	0.27	縄文時代
第12058号土坑			49-A-11	北から1°西	不整形	0.53	0.38	0.25	縄文時代
第12059号土坑			49-A-11	北から84°東	不整楕円形		1.70	0.14	縄文時代
第12060号土坑			49-A-11	北から86°西	不整形	1.08	1.48	0.28	縄文時代
第12061号土坑			48-T-8	北から27°西	楕円形	0.36	0.30	0.23	縄文時代
第12062号土坑			48-T-8	北から50°西	円形	0.20	0.16	0.32	縄文時代
第12063号土坑			48-S-7	北から0°	不整長方形	0.34	0.28	0.30	縄文時代
第12064号土坑									欠番
第12065号土坑			48-T-12	北から22.5°東	不整形	4.86	0.47	0.55	縄文時代

富田下大日遺跡 諸元

富田下大日遺跡土坑一覧表(7)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			摘要
		区	グリッド			長	幅	深さ	
第12067号土坑			49-E-4	北から72°東	円形	1.08	1.08	0.12	平安時代
第12068号土坑			49-E-4	北から10°西	楕円形	0.98	0.81	0.26	縄文時代
第12069号土坑			49-D-4	北から90°	円形	1.39	1.23	0.14	縄文時代
第12070号土坑			49-E-3	北から22°東	円形	1.26	1.20	0.05	縄文時代
第12071号土坑			49-D-3	北から12°西	楕円形	1.57	1.30	0.06	縄文時代
第12072号土坑			49-D-4	北から86°西	楕円形	0.93	0.81	0.12	縄文時代
第12073号土坑			49-D-3	北から16°東	不整形	1.03	0.78	0.10	縄文時代
第12074号土坑			49-D-3						
第12075号土坑			49-E-8	北から13°東	円形	1.45	1.39	0.33	平安時代
第12076号土坑			48-R-2	北から0°	円形	0.69	0.70	0.17	縄文時代
第12077号土坑			48-T-7	北から48°東	楕円形	0.58	0.50	0.10	縄文時代
第12078号土坑			49-A-2	北から71°西	円形	0.83	0.75	0.51	平安時代
第12079号土坑			49-A-2	北から31°東	不整形	1.23	0.70	0.49	平安時代
第12080号土坑A			49-A-1	北から69°西	楕円形	0.79	0.83	0.22	平安時代
第12080号土坑B			49-A-1	北から82°東	不整形	0.45	0.29	0.62	縄文時代
第12081号土坑			38-S-16						
第12084号土坑			59-H-1	北から0°	円形	0.19	0.19	0.27	縄文時代
第12085号土坑			59-H-1	北から8°西	楕円形	0.26	0.20		縄文時代
第12087号土坑			59-F-1	北から48°東	円形	0.28	0.20	0.29	縄文時代
第12088号土坑			40-F-18	北から42°西	不整形	0.70	0.52	0.30	縄文時代
第12089号土坑			49-D-17	北から7°東	楕円形	0.44	0.24	0.21	縄文時代
第12090号土坑			49-C-14	北から60°東	不整形	0.98	0.74	0.12	縄文時代
第12091号土坑			49-F-11	北から0°	円形	0.19	0.22	0.27	縄文時代
第12092号土坑			49-B-10	北から22°東	楕円形	3.00	2.14	1.30	縄文時代
第12093号土坑			49-C-10	北から1°西	不整形	1.18	0.72	0.21	縄文時代
第12094号土坑			48-T-7	北から0°	円形か	0.64	0.38+α	0.16	縄文時代
第12095号土坑			49-A-6	北から13°東	楕円形	0.48	0.30	0.19	縄文時代
第12096号土坑			49-A-6	北から33°東	楕円形	0.40	0.32	0.38	縄文時代
第12097号土坑			49-A-5	北から90°	不整楕円形	0.74	0.44	0.19	縄文時代
第12098号土坑			48-T-5	北から5°東	不整形	0.34	0.28	0.10	縄文時代
第12099号土坑			48-T-5	北から21°東	楕円形	0.40	0.28	0.16	縄文時代
第12100号土坑			48-S-4	北から12°東	円形	1.03	0.93	0.23	縄文時代
第12101号土坑			48-T-10	北から8°西	不整楕円形	2.66	1.88	1.24	縄文時代
第12102号土坑			49-A-15	北から72°東	楕円形	0.61	0.53	0.27	平安時代
第12103号土坑			49-A-15	北から84°西	不整方形	0.61	0.52	0.30	縄文時代
第12104号土坑			49-B-15	北から41°西	不整方形	1.24	1.26	0.50	平安時代
第12105号土坑			49-C-14	北から8°西	円形	1.24	1.10	0.40	平安時代
第12108号土坑			48-T-1	北から14°西	不整楕円形	1.95	1.28	1.90	縄文時代
第12109号土坑			38-T-17	北から32°西	楕円形	0.60	0.54	0.39	縄文時代
第12110号土坑			38-T-17	北から32°西	楕円形	0.62	0.41	0.22	縄文時代
第12111号土坑			38-T-17	北から80°西	円形	0.28	0.25	0.18	縄文時代
第12112号土坑			38-T-17	北から32°東	不整楕円形	0.83	0.50	0.25	縄文時代
第12113号土坑			38-T-17	北から77°西	円形	0.38	0.32	0.25	縄文時代
第12114号土坑			38-T-17	北から88.5°西	円形	0.28	0.29	0.20	縄文時代
第12115号土坑			38-T-17	北から88°西	円形	0.48	0.43	0.27	縄文時代
第12116号土坑			38-S-17	北から2°東	楕円形	1.34	1.13	0.34	縄文時代
第12117号土坑			38-T-17	北から8°東	不整楕円形	1.10	0.65	0.38	縄文時代
第12118号土坑			38-T-17	北から34°東	不整形	0.75	0.30	0.15	縄文時代
第12119号土坑			38-T-16	北から1.5°東	不整楕円形	1.78	0.98	0.48	縄文時代
第12120号土坑			38-T-16	北から87°東	不整形	1.30	0.95	0.49	平安時代
第12121号土坑			39-A-16	北から57°西	不整楕円形か	1.74+α	1.1+α	0.36+α	平安時代
第12122号土坑			39-A-16						
第12123号土坑			39-A-16						
第12124号土坑			39-A-16	北から0°	不整方形	0.28	0.29	0.31	平安時代
第12125号土坑			39-A-16	北から43°西	楕円形	1.10	0.93	0.43	縄文時代
第12126号土坑			39-A-16	北から32°東	円形基調	1.07	1.07	0.34	縄文時代
第12127号土坑			39-B-15	北から36°東	不整楕円形	1.41	1.17	0.37	縄文時代
第12128号土坑			39-A-15	北から66°東	円形	1.48	1.32	0.55	平安時代
第12129号土坑			38-S-17	北から19°東	円形	0.48	0.43	0.29	縄文時代
第12130号土坑			38-S-17	北から81°西	楕円形	1.38	1.10	0.34	縄文時代
第12131号土坑			38-S-17	北から73°西	円形	0.31	0.26	0.40	縄文時代
第12132号土坑			38-P-18	北から34°東	隅丸正方形	1.37	1.26	0.39	縄文時代
第12133号土坑			38-P-18	北から38°西	長方形	1.34	0.88	0.18	縄文時代

富田下大日遺跡土坑一覧表(8)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			摘要
		区	グリッド			長	幅	深さ	
第12134号土坑			48-R-1	北から76°東	不整形	0.41	0.28	0.38	縄文時代
第12135号土坑			48-R-1	北から0°	不整形	0.24	0.25	0.54	縄文時代
第12136号土坑			48-R-1	北から45°西	円形	0.25	0.19	0.32	縄文時代
第12137号土坑			48-R-1	北から87°東	楕円形	0.82	0.78	0.33	縄文時代
第12138号土坑			48-R-2	北から38°西	不整形	0.38	0.34	0.25	縄文時代
第12139号土坑			48-R-2	北から43°東	不整形	0.27	0.28	0.18	縄文時代
第12140号土坑			48-R-2	北から27°西	楕円形	2.22	1.06	0.86	縄文時代
第12141号土坑			39-C-19	北から15.5°西	隅丸長方形	3.08	1.71	1.47	縄文時代
第12142号土坑			39-D-19	北から66°西	不整形	1.72	0.66	0.34	縄文時代
第12143号土坑			38-Q-19	北から85°東	不整形	0.30	0.23	0.40	縄文時代
第12144号土坑			38-Q-19		不整形	0.30+ α	0.43	0.20	縄文時代
第12145号土坑			38-P-19	北から17°西	不整形	0.35	0.26	0.50	縄文時代
第12146号土坑			38-P-19	北から37°西	不整形	0.72	0.61	0.43	縄文時代
第12147号土坑			38-P-19	北から0°	楕円形	0.22+ α	0.18	0.23	縄文時代
第12148号土坑			39-E-20	北から0°	円形	0.26	0.20	0.15	縄文時代
第12149号土坑			39-E-20	北から77.5°東	円形	0.52	0.43	0.15	縄文時代
第12150号土坑			39-E-20	北から0°	円形	0.56	0.56	0.27	縄文時代
第12151号土坑			39-E-20	北から43°西	楕円形	0.32	0.35	0.15	縄文時代
第12152号土坑			39-E-20	北から0°	楕円形	0.27	0.24	0.19	縄文時代
第12153号土坑			39-E-20	北から90°	円形	0.35	0.25	0.15	縄文時代
第12154号土坑			38-T-19	北から0°	楕円形	0.32	0.32	0.52	縄文時代
第12155号土坑			38-S-18	北から33°西	不整形	0.98	0.68	0.38	縄文時代
第12156号土坑			39-B-20	北から84°西	楕円形	1.36	1.12	0.24	縄文時代
第12157号土坑			39-B-20	北から6°西	楕円形	0.22	0.23	0.22	縄文時代
第12158号土坑			39-B-20	北から88°西	円形	0.19	0.18	0.17	縄文時代
第12159号土坑			39-B-20	北から89°西	不整形	0.21	0.22	0.41	縄文時代
第12160号土坑			39-B-20	北から52°西	不整形	1.10	0.80	0.46	縄文時代
第12161号土坑			39-B-20	北から75°西	不整形	1.79	0.95	0.35	縄文時代
第12162号土坑			48-Q-2	北から7°東	不整形	0.73	0.63	0.29	縄文時代
第12163号土坑			48-Q-2	北から68°東	不整形	0.86	0.39	0.18	縄文時代
第12164号土坑A			48-N-3	北から36°西	楕円形	2.25	1.21	0.78	縄文時代
第12164号土坑B			48-T-3	北から38°西	楕円形	0.63	0.66	0.32	縄文時代
第12165号土坑A			48-0-4		楕円形	1.67	0.92+ α		縄文時代
第12165号土坑B			48-S-2	北から0°	円形	0.30	0.30	0.10	縄文時代
第12166号土坑			48-S-2	北から1°西	不整形	2.24	1.08	0.80	縄文時代
第12167号土坑			48-S-2	北から0°	円形	0.94	0.92	0.39	縄文時代
第12168号土坑			48-S-2	北から0°	不整形	0.39	0.30	0.20	縄文時代
第12169号土坑			48-Q-3	北から0°	不整形	0.80	0.80	0.15	縄文時代
第12170号土坑			48-Q-3	北から0°	円形	0.50	0.50	0.15	縄文時代
第12171号土坑			48-N-4	北から9°東	不整形	0.97	0.70	0.33	縄文時代
第12172号土坑			48-N-4	北から45°西	不整形	0.76	0.60	0.16	縄文時代
第12173号土坑			48-N-4	北から0°	不整形	0.68	0.68	0.16	縄文時代
第12174号土坑			38-S-16	北から47°西	楕円形	1.04	0.89	0.20	縄文時代
第12175号土坑			38-S-13	北から40°西	不整形	1.75	1.07	0.26	縄文時代
第12176号土坑			38-R-17	北から114°東	不整形	2.40	1.88	0.24	平安時代
第12177号土坑			38-R-17	北から52°西	不整形	1.66	1.10	0.18	平安時代
第12178号土坑			38-P-17	北から0°	円形	0.18	0.20	0.13	平安時代
第12179号土坑			38-P-17	北から0°	円形	0.21	0.20	0.08	縄文時代
第12180号土坑			38-P-17	北から0°	楕円形	0.27	0.29	0.40	縄文時代
第12181号土坑			38-P-17	北から0°	不整形	0.20	0.22	0.17	平安時代
第12182号土坑			38-P-17	北から3°東	不整形	0.34	0.32	0.39	平安時代
第12183号土坑			38-P-18						
第12184号土坑A			39-C-18	北から17°東	不整形	2.42	1.00	0.73	縄文時代
第12184号土坑B			39-P-17	北から24°東	楕円形	0.35	0.27		平安時代
第12185号土坑			48-N-2	北から86°東	不整形	1.70	0.98	0.15	縄文時代
第12186号土坑			48-N-2	北から80°東	不整形	1.40	1.20+ α	0.06	縄文時代

上武国道地域富田下大日遺跡

第3号溝状遺構出土遺物実測図

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00001	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.0)	密・酸・硬・黒雲母・長石・黒色鉾物粒子	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	藤岡産
10-00002	土師器 坏	覆土内 破片	口(11.1)	並・酸・並・黒色鉾物粒子・長石・軽石・B生地土	型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施す。口縁部直下は型膚を残す甘い撫でを施す。底面は寛削り。	東毛産
10-00003	土師器 甕	覆土内 破片	口(17.2)	並・酸・硬・鈍黄橙・黒色粒子・黒色鉾物粒子・β石英・石英・B生地土か	紐作り。頸部直下は横位の寛削り。頸部は3段に棒状工具による横撫で整形を施す。	東毛産
10-00004	土師器 甕	覆土内 破片	口(20.2)	並・酸・並・黒色鉾物粒子・β石英・火山ガラス・B生地土	紐作り。頸部直下は横位の寛削り。頸部は2段に棒状工具による横撫で整形を施す。	東毛産
10-00005	土師器 鉢	覆土内 破片	厚0.8	並・酸・並・橙・黒色鉾物粒子・火山ガラス・白色微粒子・B生地土	紐作り。轆轤様の横位回転撫で整形。丸味を帯びた胴部が口縁部直下で最大径になり、口縁部に向かい窄む。	東毛産
10-00006	須恵器 坏	覆土内 破片	口(14.2)	並・還・並・灰～暗灰・黒色鉾物粒子・透明鉾物粒子・白色微粒子	轆轤成整形右回転。底部を欠損する。轆轤目は細かい。体部に墨書「食」が認められる。	墨書-1 笠懸産か
10-00007	須恵器 埴	覆土内 1/2	口(14.5) 底(7.6) 高5.1	酸・並・並・浅黄橙・黒色鉾物粒子・白色微粒子	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。轆轤目は強い。直線的に立ち上がる体部から口縁部は短く外反する。	漆田産
10-00008	須恵器 足高台	覆土内 破片	底(8.0)	並・酸・並・浅黄橙・黒色鉾物粒子・透明鉾物粒子・白色鉾物粒子・B生地土	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。底面は厚い。	東毛産
10-00009	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(12.2)	並・還・並・灰白・黒色鉾物粒子・B生地土	轆轤成整形右回転。天井部は回転寛削り。外面に重ね焼痕のこんせきが認められる。	東毛産
10-00010	須恵器 蓋	覆土内 破片	口5.2	並・還・硬・暗灰・白色鉾物粒子・白色微粒子	轆轤成整形右回転。天井部は回転寛削り。摘部は製作段階から取り付けていない。皿の可能性も考慮される。内面に自然釉付着。	東毛産
10-00011	須恵器 不詳	覆土内 破片	口(14.0)	並・酸・硬・黒色鉾物粒子・白色鉾物粒子	轆轤成整形右回転。下半部は寛削りを施す。高環とも思われたが、轆轤目が顕著。足高台の脚部とも思われる。	東毛産
10-00012	須恵器 足高台	覆土内 破片	底(11.0)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鉾物粒子・白色粒子・軽石・B生地土	轆轤成整形。内外面布乃至皮挽きを行っている。	東毛産
10-00013	須恵器 甕	覆土内 破片	口(11.4) 頸(11.6)	粗・還・並・鈍黄橙・黒色鉾物粒子・B生地土	轆轤成整形。胴部の轆轤目は非常に細かい。	東毛産
10-00014	須恵器 瓶	覆土内 破片	厚0.6	並・酸・並・茶褐・白色鉾物粒子・透明鉾物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。器内面に有機質が付着する。	東毛産か
10-00015	施釉陶器 緑釉碗	覆土内 破片	厚0.4	並・還・軟・白・夾雑物微粒	轆轤右回転整形。内外面に施釉する。施釉方法は不詳。	京都か

低地部 As-B 被覆水田面出土遺物実測図

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00016	土師器 甕	As-B下 破片	口(20.4)	並・酸・硬・鈍黄橙・黒色粒子・黒色鉾物粒子・β石英・石英・B生地土か	紐作り。頸部直下は横位の寛削り。頸部は4段に棒状工具による横撫で整形を施す。	東毛産
10-00017	土師器 埴	As-B 破片	底(6.0)	並・酸・並・黒褐・白色鉾物粒子・長石(多量)	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。内外面黒褐に焼れている。黒色土器か。	東毛産

第3号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00018	縄文土器 深鉢	埋設 破片	厚0.6	並・酸・並・鈍橙・β石英・岩片・B生地土(粘土化暗色帯)	紐作り。Lr 原体の擬似羽状回転施文。	赤城山中
10-00019	縄文土器 深鉢	133坑覆土 破片	厚1.1	並・酸・並・浅黄橙・透明鉾物粒子(β石英火山ガラス)・長石・軽石	施文部は部分的にしか残存しない。糸痕状の文様が残存する。縄文中期加曾利E3式か。	
10-00020	縄文土器 深鉢	136坑覆土 破片	厚0.7	並・酸・並・鈍橙・β石英・岩片・B生地土(粘土化暗色帯)	紐作り。Lr 原体の擬似羽状回転施文。	赤城山中
10-00021	縄文土器 深鉢	137坑覆土 破片	厚0.9	並・酸・並・鈍橙・β石英・岩片・B生地土(粘土化暗色帯)	紐作り。Lr 原体の擬似羽状回転施文。	赤城山中
10-00022	縄文土器 深鉢	168坑覆土 破片	厚0.7	並・酸・並・鈍橙・β石英・岩片・B生地土(粘土化暗色帯)	紐作り。Lr 原体の擬似羽状回転施文。	赤城山中
10-00023	縄文土器 深鉢	168坑覆土 破片	厚0.8	並・酸・並・鈍橙・β石英・岩片・B生地土(粘土化暗色帯)	紐作り。Lr 原体の擬似羽状回転施文。	赤城山中
10-00024	縄文土器 深鉢	168坑覆土 破片	厚0.9	並・酸・並・鈍橙・β石英・岩片・B生地土(粘土化暗色帯)	紐作り。Lr 原体の擬似羽状回転施文。	赤城山中
20-00001	石器 磨石	完形	長22.25 幅15.55 厚5.5 重2,552	粗粒状安山岩	裏面は敲打を加え、平に調整し置きやすく加工している。	

第5号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00025 101	土師器 小型甕	覆土内 1/2残	口(12.2) 高9.5 胴殿(13.5)	酸・密・鈍赤褐・硬・黒鉾・白粒	胴部の張りが強く、口縁部は外反する。器厚は薄い。口縁部に指頭痕を残す。	
10-00026 101	土師器 甕	覆土内 1/3残	口18.8 高22.3 胴殿21.6	酸・並・鈍橙・並・白粒・細砂粒	「コ」の字状口縁。器厚は薄い。口縁部は横撫で整形。胴部内面は粘土紐の接合痕が明瞭。	
10-00027 101	須恵器 埴	覆土内 1/2残	口(14.4) 高5.3 底7.4	中・密・明赤褐・硬・赤粒・黒粒	口縁部で弱く外反する。器厚は均質。轆轤右回転成整形、付高台。体部外面に墨書「古」か。	墨書-2
10-00028 101	土師器 甕	覆土内 破片	高9.5 底(11.6)	酸・並・鈍黄橙・硬・赤粒・黒鉾	底部片。外面は寛削りの後横位の撫で調整。内面は粘土紐の接合痕が明瞭。	
10-00029 101	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 1/5残	口(14.5) 高3.9	還・密・灰白・硬・普通・白粒	丸みを帯び、口唇部で外反する。器厚は薄い。轆轤右回転成整形。内外面施釉。	
10-00030 101	須恵器 甕	覆土内 破片	厚1.0	還・並・灰・並・黒鉾・白鉾・粗粒砂	胴部片。器厚は厚い。細かい平行叩き、当て具は青海波文。	

第5号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
20-00002 101	石器 磨石	覆土内 2/1残	長8.45 幅7.7 厚5.5 重469		粗粒輝石安山岩	表裏面を磨面として使用する。
20-00003 101	石器 磨石	覆土内 完形	長17.4 幅6.5 厚5.1 重861		石英閃緑岩	表裏面と側面を磨面として使用する。
20-00004 101	石器 磨石	燃焼部 完形	長22.85 幅13.3 厚9.1 重2,486		粗粒輝石安山岩	表面を磨面として使用する。
20-00005 101	石器 磨石	左袖 完形	長22.40 幅19.40 厚7.85 重4,354		粗粒輝石安山岩	両面を磨面として使用する。表面中央し敲打痕が認められる。

第6号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00031 101	土師器 環	破片	底厚0.6	酸・並・明赤褐・並・透明鈣物粒	底部片。器厚は薄い。内面底部に「×」、周辺に放射状暗文を施す。内面に墨書。	墨書-3
10-00032 101	土師器 環	覆土内 完形	口12.0 高3.3	酸・並・橙・並・黒鈣・透鈣	平底。口縁部は直線的に立ち上がる。器厚は薄い。口縁部は横撫で。内面に油煙付着。	
10-00033 101	土師器 台付甕	覆土内 破片	口(12.1) 高4.9	酸・密・鈍褐・硬・黒鈣・白粒	「コ」の字状口縁。器厚は薄い。口唇部に沈線。口縁部は横撫で、外面に指頭痕が認められる。	
10-00034 101	土師器 甕	覆土内 破片	口(19.0) 高6.9	酸・並・鈍橙・硬・黒鈣・砂粒	「コ」の字状口縁。器厚は薄く均質。口縁は横撫で、外面に指頭痕が認められる。粘土紐の接合痕が明瞭。	
10-00035 101	土師器 甕	覆土内 破片	口(19.0) 高7.0	酸・密・明褐・硬・赤粒・黒鈣・白鈣	「コ」の字状口縁。器厚は薄い。口唇部外面に沈線。口縁部は横撫で、外面に指頭痕が認められる。器面は滑らかで、丁寧なつくり。	
10-00036 101	須恵器 埴	覆土内 3/4残	口12.8 高4.1 底5.8	還・並・褐・並・黒粒・砂粒	直線的に立ち上がり、口唇部は僅かに外反する。器厚は薄い。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。胎土は砂質。	
10-00037 101	須恵器 環	覆土内 2/3残	口12.3 高3.7 底7.8	還・並・灰・並・白鈣・白粒・細砂粒	直線的に立ち上がる。器厚は薄い。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。外面に墨書「内」か。	墨書-4
10-00038 101	須恵器 環	覆土内 破片	高2.5 底(6.5)	還・並・灰黄・並・黒鈣・白鈣・黒粒・白粒	やや丸みを帯びて立ち上がる。底部の器厚はやや厚い。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	
10-00039 102	須恵器 埴	覆土内 ほぼ完形	口14.4 高5.7 底6.9	還・粗・灰・並・黒鈣・白鈣・白粒	直線的に立ち上がり、口縁部は弱く外反する。器厚は薄い。轆轤右回転成形、付高台。石英・片岩を多く含む。	
10-00040 102	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 ほぼ完形	口14.3 高4.5 底7.8	還・硬・灰白・釉・灰白・密・黒粒・白粒	直線的に立ち上がり口縁部で弱く外反。器厚は薄く轆轤右回転成形、付高台。漬け掛け。内面と高台に重ね焼き痕確認。	
20-00006 101	基石	覆土内 完形	径2.0 厚0.7			表面は滑らか。自然石と思われる。

第8号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00041 102	土師器 甕	覆土内 破片	高3.3 底(5.4)	酸・並・鈍黄橙・並・赤粒・黒鈣・砂粒	底部片。底部はリング状。外面寛削り。内面は寛撫での後、指撫で。	
10-00042 102	須恵器 環	覆土内 破片	高2.1 底(6.2)	中・並・鈍黄橙・並・砂粒	底部片。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	
10-00043 102	須恵器 環	覆土内 1/2残	高4.5 底5.5	中・粗・橙・並・赤粒・黒鈣・透鈣・白粒	直線的に立ち上がる。器厚薄い。轆轤左回転成形、底部は回転糸切り。	
10-00044 102	須恵器 環	覆土内 2/3残	口(12.8) 高4.6 底6.4	中・粗・鈍黄褐・並・赤粒・黒粒・白粒	器厚は厚く、丸みを帯びて立ち上がる。轆轤左回転成形、底部は回転糸切り。	
10-00045	土師器 羽釜	覆土内 破片	厚0.85	酸・並・灰褐・並・白微・	胴部片。外面寛削りと指撫で。内面は横方向の撫で。細片のため器形は不明。	
10-00046	土師器 羽釜	覆土内 破片	厚1.0	中・密・黄灰・並・黒鈣・白粒・チ角	胴部片。外面寛削りと指撫で。内面は粘土紐の接合痕が明瞭。細片のため器形は不明。	
10-00047 102	施釉陶器 灰釉輪花皿	覆土内 破片	口(14.4) 高2.0	還・並・灰白 釉浅黄・硬・白粒	口唇部で僅かに外反する。器厚は薄い。轆轤右回転成形。輪花が一箇所残存している。漬け掛けか。	
10-00048 102	須恵器 紡 錘車(転用)	覆土内 完形	径5.7 孔径0.9	還・並・灰・硬・白微	甕口縁部転用。全面を研磨し整形。波状文が一部に残る。	

第9号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00049 102	土師器 壺	覆土内 破片	高1.4	酸・並・外面黒褐・並・細砂粒	底部片。器厚は厚い。外面は寛削り。	
10-00050 102	土師器 内黒埴	覆土内 3/4残	口12.3 高4.8 底(7.5)	酸・並・鈍橙・硬・黒鈣・透鈣・砂粒	直線的に立ち上がり内面に黒色処理・研磨を施す。外面口縁部は横位の研磨体部は寛削り。付高台。体部外面に墨書。	墨書-5
10-00051 102	須恵器 内黒埴	覆土内 2/3残	口10.9 高5.0 底6.4	酸・並・鈍橙・並	轆轤成形右回転。高台は付高台。内面は磨後焼し焼成。底部は厚い。丸みを帯びて立ち上がり口縁部は外反する。	
10-00052 102	須恵器 埴	覆土内 完形	口12.0 高4.9 底6.3	中・並・鈍黄橙・並・赤粒・黒鈣	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部で弱く外反する。底部の器厚は厚い。轆轤右回転成形、付高台。	
10-00053 102	須恵器 埴	覆土内 3/4残	口12.2 高4.2 底6.5	中・並・鈍黄橙・並・赤粒・黒鈣・透鈣	丸みを帯びて立ち上がる。器厚は均質。轆轤右回転成形、付高台。	
10-00054 102	須恵器 埴	覆土内 一部欠損	口14.5 高6.1 底(8.3)	中・並・鈍黄橙・並・赤粒・黒鈣・白鈣	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部で弱く外反する。器厚は厚い。轆轤左回転成形、付高台。轆轤の目は細かい。	
10-00055 102	須恵器 埴	覆土内 破片	高3.6	中・粗・鈍黄橙・並・黒粒・砂粒	直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形、付高台。口縁部・高台欠損。	
10-00056 102	土師器 甕	覆土内 1/4残	高8.0 底5.5	酸・並・暗褐・並・細砂粒	底部のみ。器厚は厚い。外面は丁寧な寛削りを施す。内面は粘土紐の接合痕が明瞭。	
10-00057 102	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	高6.3	中・並・淡黄・硬・赤粒・黒鈣	直線的に立ち上がる。器厚は厚い。外面は斜め方向の寛削り。轆轤右回転成形、付高台。瓦質。	
10-00058 102	三足鍋	覆土内 脚部	幅3.2	酸・並・鈍褐・並・角粒・白粒	脚部。粘土塊を手で握り棒状に成形。棒状工具で撫で整形。指頭痕が明瞭に認められる。10-00059・60と同一個体。	

第9号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00059 102	三足鍋	覆土内 脚部	幅2.8	酸・並・鈍褐・並・角粒・白粒	脚部。粘土塊を手で握り棒状に成形。棒状工具で撫で整形。指頭痕が明瞭に認められる。10-00058・60と同一個体。	
10-00060 102	三足鍋	覆土内 脚部	幅3.1	酸・並・鈍褐・並・角粒・白粒	脚部。粘土塊を手で握り棒状に成形。棒状工具で撫で整形。指頭痕が明瞭に認められる。10-00058・59と同一個体。	
10-00061	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 1/2残	口(16.3) 高6.7 底8.5	還・密・灰白・釉灰オリーブ・硬・黒粒・白粒	直線的に立ち上がり、口唇部内面に沈線が巡る。器厚は薄く均質。轆轤右回転成形、付高台。内外面刷毛塗り。内面に重ね焼き痕が認められる。	
10-00062 103	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 2/3残	口(13.2) 高2.9 底6.6	還・密・灰白・釉灰白・硬・黒粒・白粒	丸みを帯びて立ち上がり口唇部は僅かに外反。器厚は薄く轆轤右回転成形、付高台。内外面刷毛塗り。底部内面は摩滅している。	
10-00063 103	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口(16.4) 高3.1	還・並・灰黄・釉灰黄・硬・黒粒	直線的に開く。器厚は薄い。轆轤右回転成形。潰け掛け。	
10-00064 103	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 1/4残	高1.6 底7.2	還・密・灰白・硬・赤粒・白粒	底部片。器厚は厚い。轆轤右回転成形、付高台。内面に重ね焼き痕が認められる。内面は使用時の研磨が著しく、転用皿と思われる。	
10-00065 103	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	高2.3 底(7.0)	還・密・灰白・硬・黒粒	底部片。器厚は厚い。轆轤右回転成形、付高台。内面に重ね焼き痕が認められる。	
10-00066 102	土師器 甕	覆土内 破片	口(19.2) 高5.3	酸・粗・鈍黄橙・並・赤粒・砂粒	口縁部は強く外反する。器厚は厚い。口縁部は余暇撫で。体部は縦位の寛削り、口縁部は横撫で。	
10-00067 103	須恵器 羽釜	甕 1/4残	口20.4 高24.2	酸・粗・鈍褐・並・砂粒・角閃石	やや丸みを帯びる。器厚は厚い。胴部外面に寛削りと指撫でを施す。轆轤右回転、鐳貼り付け。	
10-00068 102	土師器 土釜	甕右壁 1/3残	高13.3 底(8.4)	酸・並・橙・並・透鉄・細砂粒	底部の器厚は非常に厚い。外面底部未調整。	
10-00069 102	須恵器 羽釜	甕 1/3残	口(29.8) 高25.8	中・並・鈍黄橙・並・白微・細砂粒	口縁部は直立する。器厚は厚い。轆轤右回転成形、鐳貼り付け。	
10-00070 102	土師器 土釜	覆土内 破片	高6.6 底8.3	酸・並・鈍褐・並・黒鉄・透鉄・岩片	底部片。器厚は厚い。外面は撫で整形、内面は指押さえで成形。	
10-00071 102	須恵器 紡 錘車(装用)	掘方 1/2残	径5.6 孔径0.8	還・密・灰・硬・白微・細砂粒	坏底部転用。内面と側面を研磨し調整。	
40-00001 103	鉄器 利鏝か	9住覆土内 破片	残長3.0 幅0.7 厚0.3 重4			茎の残欠片か。錆化が顕著。
20-00007 103	石製 叩き石	覆土内 完形	長13.6 幅9.7 厚6.2 重1,265	石英閃緑岩		側縁に敲打痕。表裏面と下端面を磨面として使用している。

第23号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00072 112	土師器 台付甕	覆土内 1/4残	口(12.0) 高10.0	酸・並・鈍黄橙・並・赤粒・黒鉄	胴部は丸みを帯び口縁部で外反。器厚は厚く、先細り。口縁部は横撫で、内面には刷毛目状の寛撫を一部に確認。	
10-00073	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.0) 高2.8	中・密・浅黄・並・細砂粒	口縁部片。直線的に開き、口唇部で外反する。轆轤右回転成形。	
10-00074 112	須恵器 塊	覆土内 1/3残	高3.7 底(6.3)	還・並・暗灰黄・並・白微	直線的に立ち上がる。器厚はやや厚い。轆轤右回転成形、付高台。轆轤目は明瞭。	
10-00075 112	須恵器 甕	覆土内 破片	厚1.0	還・並・灰黄橙・並・白微・白粒・砂粒	胴部片。器厚は厚い。轆轤右回転成形。	
10-00076	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口(18.0) 高4.1	還・密・灰白・釉灰白・硬・黒粒・白粒	やや丸みを帯びて開く。器厚は薄い。轆轤右回転成形。潰け掛け。	
40-00002 112	鉄滓	掘方 完形	長5.4 幅9.0 厚3.1 重216			上面側に磁力を強く呼ぶ部分(磁力4)が認められる。利器片を熔かした可能性が考えられる。

第10号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00077 103	土師器 坏	燃焼部 1/4残	口(12.0) 高3.3 底6.8	中・並・灰黄・並・白微	平底。口縁部は外反する。底部は寛削り。口縁部は横撫で。	
10-00078 103	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(13.8) 高2.9	還・並・灰・硬・白粒	天井部欠損。口唇部内面に沈線状の浅い窪み。外面に稜を持つ。轆轤右回転。	
10-00079 103	須恵器 塊	覆土内 1/4残	口(14.2) 高5.7 底8.0	中・並・鈍橙・並・黒鉄・砂粒	口縁部は直線的。底部から体部下半の器厚厚い。轆轤右回転成形、付高台、乾燥時の棒状圧痕。	
10-00080 103	須恵器 塊	覆土内 1/4残	口(14.5) 高4.7 底7.0	中・並・橙・並・赤粒・黒鉄・白鉄	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は外反する。轆轤左回転成形、付高台。轆轤目顕著。	
10-00081 103	須恵器 塊	覆土内 底部のみ	高3.3 底7.2	酸・粗・鈍黄橙・並・白粒・透鉄・細砂粒	直線的に立ち上がる。器厚厚い。右回転轆轤成形、付高台、乾燥時の棒状圧痕。轆轤目顕著。	

第11号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00082 103	須恵器 坏	覆土内 1/3残	口(13.4) 高3.7	中・密・鈍黄橙・並・赤粒・黒鉄・白粒	口縁部は僅かに外反する。轆轤右回転成形。外面に墨書「内」。	墨書-6
10-00083 103	須恵器 塊	破片	高3.8	酸・並・浅黄・並・角閃石・赤粒	丸みを帯びて立ち上がる。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。内面に墨書。	墨書-7
10-00084 103	須恵器 塊	覆土内 完形	口12.9 高4.9 底6.6	還・並・浅黄・並・黒鉄・白粒	直線的に立ち上がり口縁部は僅かに外反。底部の器厚は厚く轆轤右回転成形、付高台。底部に黒斑。外面に墨書。	墨書-8
10-00085 103	須恵器 塊	覆土内 完形	口13.4 高5.6 底6.9	中・並・鈍黄橙・並・砂粒	直線的に立ち上がり、口縁部で僅かに外反する。底部中央の器厚は薄い。轆轤右回転成形、付高台。	
10-00086 103	須恵器 塊	覆土内 1/4残	口(13.8) 高4.5 底(6.7)	中・並・鈍黄橙・並・赤粒・黒鉄	やや丸みを帯びて立ち上がり、口縁部で外反する。器厚は厚い。轆轤右回転成形、付高台。轆轤目顕著。	
10-00087 103	須恵器 塊	覆土内 1/4残	高3.7 底7.8	中・並・橙・並・赤粒・黒鉄・白粒	器厚は厚い。轆轤右回転成形、付高台。	

第11号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
20-00088 103	石製品 白玉	覆土内 完形	幅0.9 厚0.5 孔径0.2			側面に研磨の痕跡有り。
40-00003 103	鉄器 釘	床直層 破片	残長2.3 幅0.4 厚0.3 重2			頭部のみが残存する。頭部は薄く大きい。錆化が顕著。

第12号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00088 103	土師器 手づくね	覆土内 1/3残	高5.3 底(3.4)	酸・並・鈍黄橙・並・赤粒・白微・ 細砂粒		外面は指頭痕が明瞭。内面は指撫で。
10-00089 103	須恵器 環	甕 破片	口(16.0) 高4.1	中・並・褐灰・並・赤粒・チ角・		口縁部片。丸みを帯びる。轆轤右回転成整形。外面に焼成後の瓦記号。
10-00090 104	土師器 甕	覆土内 1/4残	口(19.0) 高18.2 胴最(20.6)	酸・並・橙・並・赤粒・黒鈹・白粒・ 砂粒		口縁部は「コ」の字くずれ。器厚はやや厚い。口縁部は横撫で。内面胴部下は粘土紐の接合痕が明瞭。
10-00091 104	土師器 甕	甕右壁 破片	口(20.7) 高18.9	酸・並・鈍黄橙・並・赤粒・白粒・ 細砂粒		口縁部は「コ」の字くずれ。器厚はやや厚い。口縁部は横撫で。胴部内面は粘土紐の接合痕が明瞭。
10-00092 103	土師器 甕	甕左壁 破片	高7.8 底4.4	酸・並・鈍黄橙・並・赤粒・砂粒		底部片。器厚は薄い。外面底部未調整。
10-00093 103	須恵器 環	覆土内 2/3残	口(11.9) 高4.2 底5.4	酸・並・鈍黄・並・赤粒・黒鈹・白 粒		底部から丸みを帯びて立ち上がる。底部の器厚厚い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。
10-00094 103	須恵器 環	甕右壁 3/4残	口12.2高3.9 底6.7	酸・並・鈍黄橙・並・赤粒・黒鈹・ 白粒		底部から丸みを帯びて立ち上がる。上げ底気味。口縁部の器厚厚い。轆轤右回転成整形、回転糸切り。
10-00095 103	須恵器 環	覆土内 3/4残	口12.5 高3.7 底6.6	酸・並・灰黄・並・赤粒・黒鈹		底部から直線的に立ち上がる。体部の器厚厚く、口縁部下でくびれる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。
10-00096 104	須恵器 塊	覆土内 1/4残	口(11.9) 高4.5 底(6.5)	酸・粗・鈍黄橙・並・赤粒・黒鈹・ 白粒		直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。轆轤目顕著。
10-00097 104	須恵器 塊	覆土内 一部欠損	口12.8 高4.9 底7.4	酸・並・鈍黄・並・黒鈹・透鈹・白 粒		口縁部は僅かに外反する。底部の器厚厚い。轆轤右回転成整形、付高台。
10-00098 104	須恵器 塊	3/4残	口13.0 高4.6 底6.6	中・並・橙・並・赤粒・白粒・細砂 粒		直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。立ち上がり部分は角張る。轆轤右回転成整形、付高台。
10-00099 104	須恵器 塊	甕左壁 ほぼ完形	口13.2 高5.1 高台径7.2	酸・並・橙・並・白鈹・黒粒・白粒・ 粗粒砂		丸みを帯びて立ち上がり、口唇部は外反する。器厚厚い。轆轤右回転成整形、付高台。
10-00100 104	須恵器 塊	覆土内 完形	口13.2 高5.0 高台径6.9	酸・並・鈍黄橙・並・黒粒・白粒		直線的に立ち上がる。口縁部の器厚は薄く尖り気味。轆轤右回転成整形、付高台。轆轤目顕著。
10-00101 104	須恵器 塊	甕右壁 3/4残	口13.4 高5.3 底7.0	酸・粗・鈍黄橙・並・黒鈹・赤粒・ 透鈹・岩片		丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。
10-00102 104	須恵器 塊	甕右壁 1/3残	高5.4 底(7.3)	酸・粗・鈍橙・並・黒鈹・透鈹・砂 粒		丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。
10-00103 104	須恵器 足高塊	覆土内 1/4残	高4.4 底9.0	中・粗・浅黄・軟・赤粒・白粒		高台は直線的に開く。器厚は厚い。轆轤右回転成整形、付高台、底部の回転糸切りは撫で消し。
10-00104 104	須恵器 羽釜	覆土内 破片	厚0.6	酸・並・黄灰・並・白微・黒鈹・砂 粒		胴部片。外面下半部削り。轆轤右回転。細片のため器形は不明。
10-00105 104	須恵器 甕	覆土内 破片	厚1.1	還・並・灰・硬・白粒・粗粒砂		胴部片。紐作り後叩き整形、撫でを施す。当て具は青海波文。
10-00106 104	施釉陶器 緑釉碗	覆土内 破片	高1.1	還・密・灰白・釉浅黄・軟・白粒		体部片。器厚は薄い。小片のため器形の詳細は不明。轆轤右回転成整形。内外面に施釉。
10-00107 104	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口(15.8) 高3.5	還・密・灰白・釉灰白・硬・黒粒・ 白粒		直線的に開く。器厚は薄い。轆轤左回転成整形。潰け掛け。
10-00108 104	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 1/2残	口(14.6) 高4.2 底7.1	還・密・灰白・硬・黒粒・白粒		直線的に開く。器厚は薄い。轆轤左回転成整形、付高台。潰け掛け。内面底部に重ね焼き痕が認められ、摩滅している。
20-00009 105	石器 台石	覆土内 完形	長31.95 幅26.9 厚11.4 重10,800	粗粒輝石安山岩		表裏面に溝状の痕跡があり、砥石としても使用されていたと考えられる。
20-00010 105	石器 砥石	左袖 完形	長31.65 幅19.55 厚11.30 重7,022	粗粒輝石安山岩		線条痕が使用面に、わずかに残っている。
20-00011 105	石器 磨石	覆土内 完形	長12.00 幅10.50 厚3.35 重668	粗粒輝石安山岩		表裏面を磨面として使用する。側縁に敲打痕。
20-00012 104	石器	覆土内 完形	長18.65 幅8.55 厚5.1 重1,112	粗粒輝石安山岩		表裏面と上下端面を磨面として使用する。
20-00013 105	石器	覆土内 1/2残	長12.6 幅9.6 厚5.7 重860	粗粒輝石安山岩		表裏面を磨面として使用する。
40-00004 104	鉄器 釘	12住覆土内 完形	長12.1 幅7.5 厚7.5 重19			下半部が「L」字状に曲がり、先端は「J」の字状に曲がっている。頭部は錆化が顕著。
40-00005 104	鉄器 不詳	床直層 部分欠損	残長5.5 幅5.0 厚0.2 重22			三角形に基調を探る。上端側は細く延びると思われるが欠損する。錆化が顕著。
40-00006 104	鉄滓	12住覆土内 破片	長5.0 幅6.1 厚2.9 重78			破片であるが、全体やはり小ぶりの鉄滓と思われる。全体に若干磁力を呼ぶ(磁力5)。
40-00007 104	鉄滓	12住甕覆土 内完形	長6.3 幅5.6 厚3.3 重106			鉄滓では小ぶり。全体に若干磁力を呼ぶ(磁力5)。
40-00008 104	鉄滓	12住甕 掘方完形	長7.1 幅6.3 厚3.3 重123			鉄滓では小ぶり。図中左から中央にかけて部分的に磁力を呼ぶ(磁力3)。
40-00009 104	鉄滓	12住甕覆土 内完形	長9.5 幅5.8 厚3.7 重155			鉄滓では小ぶり。図中左下端側が部分的に磁力を呼ぶ(磁力4)。
40-00010 104	鉄滓	覆土内 完形	長11.8 幅7.3 厚3.8 重352			やや重い。図中右下側が部分的に磁力を呼ぶ(磁力3)。

第13号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00109 105	土師器 塊	覆土内 1/4残	口(16.0) 高4.3	酸・並・橙・硬・白微・チ角		直線的に立ち上がる。器厚は薄い。口縁部は横撫で。外面は瓦削り、口縁下に指頭痕が認められる。

第13号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00110 105	土師器 壺	覆土内 破片	口(18.7) 高7.2	酸・並・明褐・並・赤粒・白粒	「コ」の字状口縁。器厚は薄いが口縁部でやや厚くなる。口縁部は横撫で、肩部に指頭痕が認められる。	
10-00111 105	土師器 壺	覆土内 破片	口(21.2) 高8.9	酸・密・鈍橙・硬・赤粒	口縁部は「コ」の字くずれ。器厚は薄い。口縁部下半まで縦位の篋削りが及ぶ。口縁部は横撫で。	
10-00112 105	須恵器 坏	覆土内 2/3残	口14.6 高5.1 底6.6	中・並・浅黄・並・赤粒・白粒	直線的に立ち上がり口縁部で僅かに外反。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。内外面に重ね焼き時の黒斑確認。	
10-00113 105	須恵器 壺	覆土内 1/3残	口(15.2) 高6.3 底(8.8)	中・並・灰黄・並・白粒・細砂粒	直線的に立ち上がり口縁部で外反。低部の器厚は厚く轆轤右回転成整形、付高台。轆轤目の凹凸は顕著。雲母を多含。	
10-00114 105	須恵器 壺	左袖 1/2残	口(13.8) 高4.7 底7.3	中・粗・鈍黄橙・並・赤粒・粗粒砂	やや丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	
10-00115 105	須恵器 壺	覆土内 1/3残	口(15.0) 高4.8	中・並・黒・軟・黒粒・白粒・砂粒	直線的に立ち上がる。口縁部がやや先細りする。燻し焼成。轆轤右回転成整形。高台欠損。雲母を多く含む。	
10-00116 105	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.4) 高2.9	酸・密・鈍黄橙・並・細砂粒	弱く外反する。器厚は薄い。轆轤右回転成整形。金雲母を多く含む。	
10-00117 105	須恵器 蓋	覆土内 破片	高1.5	還・密・灰・硬・白微	天井部片。器厚は厚い。轆轤右回転成整形。外面に篋記号。	
10-00118	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口(17.8) 高3.9	還・並・灰白 釉浅黄・並・黒粒・白粒	僅かに丸みを帯びる。器厚は薄い。轆轤右回転成整形、下半は回転篋削り。漬け掛け。	
20-00014 106	石器	覆土内 1/2残	長10.50 幅8.20 厚4.45 重376	粗粒輝石安山岩	下半分を欠損する。	
20-00015 106	石製品 砥石	覆土内 1/2残	長4.7 幅4.5 厚1.7	凝灰岩	使用は四面。上部は極薄い。	
40-00011 106	鉄器 鎌	掘方 破片	残長9.7 身幅4.5 厚0.15 重48		身の中ほどから欠損する大身の鎌。耳は角の部分折り返すのみ。錆化が顕著。	
10-00119 106	須恵器 壺	覆土内 1/4残	口(20.8) 高24.1 胴最(28.5)	酸・密・鈍橙・並・細砂粒	胴部は丸みが強く、口唇部は直立し尖り気味。器厚は厚い。轆轤右回転成整形。	
10-00120 106	須恵器 壺	電右壁 1/4残	口(17.8) 高16.9 胴最(26.3)	中・並・鈍橙・並・砂粒	胴部は丸みが強い。器厚は厚い。轆轤右回転成整形。内面に斑点状剝離が認められる。	
10-00121 105	須恵器 壺	覆土内 破片	厚1.1	還・並・灰・硬・白粒・岩片・粗粒砂	胴部片。平行叩き、当て具は無文。当て具痕の上に撫で調整。石英粒を多く含む。	
10-00122 106	須恵器 紡 錘車(転用)	覆土内 完形	径7.1 孔0.7 厚1.4	還・並・黒・並・黒粒・細砂粒	須恵器壺底部転用。外周を打ち欠き、欠け口を研磨して調整。	
40-00012 106	鉄器 不詳	13住覆土内 破片	残長7.9 幅3.5 厚0.3 重17		錆化が顕著。複数個体の製品が鋳着する。上位の物は「U」字状に加工され、下位は板状を合わせている。	
40-00013 106	鉄器 棒状	13住覆土内 破片	残長10.5 幅0.4 厚0.3 重14		錆化が顕著。紡錘車の軸棒な可能性が推定される。断面矩形。	
40-00014 106	鉄器 鋸	床直 完形	長16.5 幅2.9~4.6 厚2.4~2.9 重1,017		棒状素材を加工して成形している。手元側に従い断面四角なる。柄の挿入部は周辺は膨らんでいる。	

第14号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00123 106	土師器 小型壺	覆土内 1/3残	口(12.0) 高7.7	酸・並・鈍橙・硬・白粒・粗粒砂	口縁部は「く」の字状に弱く外反する。口縁部は横撫で。粘土紐の接合痕が明瞭に認められる。	
10-00124 106	須恵器 坏	覆土内 1/2残	口(13.0) 高3.3 底6.8	還・並・灰黄・並・赤粒・白粒	直線的に開いて立ち上がる。器面滑らか。内面に火燻。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	
10-00125 106	須恵器 壺	覆土内 破片	高4.9	還・密・灰・硬・黒粒・白粒	胴部破片。器厚厚い。胎土はきめ細かく、器面滑らか。轆轤右回転成整形。	
10-00126 106	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口(14.8) 高2.1	還・密・灰白・釉灰白・硬・黒粒・白粒	僅かに丸みを帯び、口唇部は僅かに外反する。器厚は薄い。右回転成整形。漬け掛け。	

第15号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00127 106	土師器 手づくね	覆土内 3/4残	口(6.0) 高3.0	中・並・黄灰・軟・黒黧・白粒	丸底。器厚は厚く、口唇部は細く尖る。口縁部と底部は横撫で、外面に指頭痕が認められる。	
10-00128 106	土師器 手づくね	覆土内 1/2残	口(6.0) 高3.8	酸・並・灰黄褐・並・赤粒・白粒・細砂粒	器厚は厚く、口唇部は尖る。外面は指頭痕が認められる。底部は欠損。	
10-00129 106	土師器 手づくね	覆土内 3/4残	高(4.9) 底3.7	酸・並・鈍黄橙・硬・黒黧・白粒	底部の器厚は厚い。外面は指頭痕が認められる。底部は撫で。口縁部欠損。	
10-00130 106	土師器 手づくね	覆土内 破片	口(6.0) 高4.8 底(3.5)	酸・並・浅黄橙・並・黒黧・黒粒・細砂粒	底部の器厚は厚く、口縁部で先細りする。外面は指頭痕が認められる。底部は撫で。	
10-00131 106	土師器 手づくね	覆土内 一部欠損	口7.0 高5.5 底3.4	中・並・黄灰・硬・黒黧・透黧・粗粒砂	器厚は厚く、口縁部は先細りする。外面は撫で、口縁部は横撫で。指頭痕が認められる。	
10-00132 106	土師器 手づくね	覆土内 破片	高(4.0) 底(3.6)	酸・並・浅黄橙・並・黒黧・黒粒	外面は撫で調整。口縁部は欠損。	
10-00133 106	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口12.4 高4.5	酸・密・橙・並・赤粒	丸底、口縁部は直立する。底部との境に稜を持つ。口縁部は横撫で。内面に斑点状剝離が認められる。	
10-00134 106	土師器 坏	覆土内 4/5残	口13.4 高4.6	酸・並・橙・並・白粒	やや平底、口縁部は弱く外反。器厚は厚く外面は研磨が施される。口縁部下に指頭痕確認。内面に斑点状剝離確認。	
10-00135 106	土師器 坏	覆土内 3/4残	口(11.7) 高5.4	酸・密・鈍橙・硬・黒黧・透黧	丸底、口縁部は弱く外反する。底部は篋削りの後指撫でを施す。口縁部は横撫で。	
10-00136 106	土師器 坏	覆土内 3/4残	口12.4 高5.2	酸・密・明赤褐・硬・赤粒・白粒・砂粒	丸底、口縁部は僅かに外反。底部との境に稜を持つ。器厚は薄く口縁部は横撫で。内面に斑点状剝離が認められる。	
10-00137 106	土師器 高坏	覆土内 1/4残	口(13.8) 高6.6	酸・密・橙・硬・黒黧・透黧	口縁部は直立する。器厚は非常に厚い。外面底部と内面は研磨を施す。口縁部は横撫で。	
10-00138 106	土師器 坏	覆土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍橙・並・白粒・細砂粒	底部片。外面は篋削り、内面は丁寧な撫でを施す。	
10-00139 106	土師器 坏	覆土内 1/4残	高3.4	酸・並・鈍黄橙・並・赤粒・黒黧・白粒	器厚は厚い。外面は雑な調整で、粘土紐の接合痕と指頭痕が明瞭に認められる。内面は放射状暗文。	

第15号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00140 107	土師器 甕	覆土内 3/4残	口23.4 高(14.3)	酸・並・鈍黄・並・黒鉄・透鉄・白 粒	胴部はやや丸みを帯び、口縁部は外反する。器厚は厚い。口縁部は横撫で、内面は研磨を施す。斑点状の剝離、内外面に焼成時の黒斑が認められる。底部欠損。	
10-00141 107	土師器 甕	覆土内 1/2残	口(23.7) 高27.7 胴最21.4 底8.1	酸・並・鈍黄橙・並・石英・長石・ 砂粒	胴部は丸みを帯び、口縁部は外反する。器厚は下半がやや薄い。口縁部は横撫で。	
10-00142 107	土師器 甕	覆土内 破片	口(16.8) 高6.7	酸・並・鈍橙・並・黒鉄・透鉄・白 粒	口縁部は大きく外反する。器厚は厚い。口縁部は横撫で、胴部外面は篋削りの後撫で調整。	
10-00143 107	土師器 甕	破片	口(18.0) 高6.3	酸・並・橙・並・赤粒・白微	口縁部は大きく外反する。器厚は厚い。口縁部は横撫で、胴部外面は篋削り。	
10-00144 107	土師器 小型甕	覆土内 破片	口(14.0) 高10.3 胴最(15.2)	酸・並・鈍黄橙・並・赤粒・黒鉄・ 砂粒	胴部の丸みは強く、口縁部は大きく外反する。器厚は均質。口縁部は横撫で、胴部外面上半は篋削りの後に撫で調整。	
10-00145 107	土師器 甕	覆土内 2/3残	口15.0 高23.5 胴最18.4 底5.8	酸・並・淡黄・軟・黒粒・白粒・細 砂粒	胴部中位に最大径を持ち、口縁部は外反する。器厚は厚く均質。口縁部は横撫で、底部外面には小石が張り付き、「V」字の刻みを確認。	
10-00146 108	土師器 甕	覆土内 ほぼ完形	口18.4 高36.4 胴最20.1 底5.1	酸・粗・鈍黄橙・並・赤粒・長石	長胴甕。胴部中位に最大径を持ち、口縁部は外反する。器厚は厚い。口縁部は横撫で。砂粒を多く含む器面はざらつく。外面に焼成時の黒斑が認められる。	
10-00147 108	土師器 甕	覆土内 2/3残	口(16.2) 高37.9 胴最(20.4)	酸・粗・明赤褐・並・白粒・砂粒	長胴甕。胴部中位に最大径を持ち、口縁部はすぼまり外反する。器厚はやや薄い。口縁部は横撫で。砂粒を多く含む、器面はざらつく。	
10-00148 107	土師器 甕	覆土内 1/4残	高19.5 底(5.5)	中・並・黄灰・硬・黒鉄・透鉄・粗 粒砂・	やや丸みを帯びて立ち上がる。器厚は厚い。内面は粘土紐の接合痕が明瞭。底部は未調整。器面は粗い。	
10-00149 107	土師器 甕	覆土内 破片	口(17.4) 高8.8	酸・並・鈍黄橙・並・砂粒	口縁部は直線的に開く。器厚は均質。口縁部は横撫で、胴部外面は細かい篋削り、内面は滑らか。	
10-00150 107	土師器 甕	覆土内 破片	口(18.0) 高7.4	酸・粗・鈍黄橙・並・黒鉄・透鉄・ 砂粒	口縁部は外反する。器厚は厚い。口縁部は横撫で。	
10-00151 107	土師器 甕	覆土内 1/4残	高12.5 底8.0	酸・粗・鈍黄・軟・赤粒・粗粒砂	丸みを帯びる。器厚は厚い。底部は木葉痕が認められる。器面はざらつく。	
10-00152 107	土師器 台付甕	覆土内 破片	高5.4 底11.2	酸・密・鈍橙・硬・黒鉄	台部。器厚は非常に厚い。底部は横撫で、胴部内面は研磨を施す。角閃石を多く含む。	
10-00153 107	土師器 甕	甕 破片	厚0.5	酸・並・橙・並・赤粒・黒粒	底部片。器厚はやや厚い。小片のため器形の詳細は不明。内面に墨書。	墨書-9
10-00154 107	須恵器 高坏	覆土内 破片	高3.6 底(9.1)	還・密・灰・硬・細砂粒	脚部片。器厚は均質。四方透。轆轤右回転成整形。	
20-00016 107	石製品	電掘方	長1.5 幅1.1	角閃石安山岩	細片。	
20-00017 108	石器 砥石	覆土内 破片	長17.85 幅17.15 厚6.2	粗粒輝石安山岩	砥石として使用された部分は溝状にへこんでいる。	

第16号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00155 108	須恵器 坏	覆土内 破片	高2.0	還・並・灰・並・黒粒	口縁部破片。横撫で整形。細片のため、器形は不明。外面に墨書。	墨書-10
10-00156 108	土師器 坏	覆土内 1/4残	口(10.6) 高3.3 底(7.0)	酸・密・鈍黄橙・並	屈曲して立ち上がる。底部は篋削り、口縁部・内面は横撫で整形。	
10-00157 108	土師器 甕	覆土内 破片	高6.6 底3.2	中・密・鈍褐・硬・赤粒・白粒・砂 粒・	「コ」の字甕の底部。底部は篋削り。	
10-00158 108	須恵器 坏	覆土内 1/4残	口(12.0) 高3.3 底(6.5)	中・並・鈍黄・並・黒鉄・透鉄・白 粒	直線的に開いて立ち上がる。器厚は口縁部で薄い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。内外面底部に墨書。	墨書-11・12
10-00159 108	須恵器 坏	覆土内 破片	口(14.7) 高3.7 底(7.6)	還・密・鈍黄・硬・白粒	直線的に開いて立ち上がる。器面滑らか。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	
10-00160 108	須恵器 坏	覆土内 1/4残	高2.2 底(5.6)	還・並・灰・硬・白鉄・透鉄・白粒	直線的に大きく開く。底部の器厚は厚く、高台状に突出する。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	
10-00161 108	須恵器 坏	覆土内 1/3残	高3.1 底(7.0)	中・粗・暗灰・軟・白粒・細砂粒	直線的に開く。器厚は厚い。煙し焼成。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	
10-00162 108	須恵器 壺	覆土内 破片	高3.8 底径(13.8)	還・密・灰・硬・白粒・細砂粒	底部片。器厚は厚い。体部外面は右回転篋削り。轆轤右回転成整形、付高台。	
10-00163 108	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.9	還・密・灰・硬・白粒・砂粒	胴部片。叩き整形。平行叩きで、当て具は青海波文。胎土はきめが細かい。	
10-00164 108	粘土塊	覆土内 塊	長5.3 幅7.1 厚3.7	酸・粗・橙・軟・赤粒・白微	長さ2～3mmのスサ材の混入痕あり。胎土はもろい。	
10-00165 108	施釉陶器 灰釉長頸瓶	覆土内 破片	口(11.0) 高1.0	還・密・灰白 釉オリブ黄・硬・白鉄・黒粒	口縁部片。器厚は非常に薄い。内外面刷毛塗り。	
20-00018 108	石器	覆土内	長17.5 幅14.8 厚4.5 重1.007		原礫面の残らない破損品	

第17号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00166 109	土師器 甕	焚口 1/2残	口17.4 高24.1 胴最21.1 底4.2	酸・並・暗灰黄・並・赤粒・黒鉄・ 透鉄・砂粒	「コ」の字状口縁。器厚は薄く均質。口縁部は横撫で。内面の底部近くは刷毛目状の篋撫で。外面胴部上位に砂様の付着物。	
10-00167 109	土師器 甕	燃焼部 破片	口(17.4) 高6.4	酸・密・橙・硬・黒鉄・透鉄・砂粒	「コ」の字状口縁。器厚は薄い。口縁部は横撫で、胴部内面は刷毛目状の篋撫で。	
10-00168 109	土師器 甕	燃焼部 破片	口(19.6) 高10.3	酸・並・鈍黄橙・硬・黒鉄・透鉄・ 粗粒砂	「コ」の字状口縁。器厚はやや厚い。胴部外面は細かい篋削り。口縁部は横撫で。	
10-00169	須恵器 塊	覆土内 破片	口(13.0) 高1.1	還・並・灰・硬・白微・黒粒	口縁部片。轆轤右回転成整形。	

富田下大日遺跡 諸元

第17号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00170 109	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.6) 高3.6	還元・並・灰・硬・白鈦・黒粒	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。器厚は薄い。轆轤右回転成形。	
10-00171 109	須恵器 坏	甕 1/3残	口(15.5) 高4.7	中・並・黒褐・並・黒鈦・透鈦・砂粒	直線的に開く。器厚は口縁部下でやや薄くなる。燻し焼成。轆轤右回転成形。	
10-00172 109	須恵器 蓋	覆土内 破片	高1.7	還元・密・灰・硬・白微	器厚は厚い。天井部外面は回転削り。轆轤右回転成形。外面に窠記号。	
10-00173 109	須恵器 塊	覆土内 1/2残	高4.2 底5.8	中・並・鈍橙・軟・黒鈦・透鈦・白粒・岩片	直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形、付高台。口縁部欠損。	
10-00174 109	須恵器 コップ型	覆土内 破片	高3.7 底(7.7)	還元・密・鈍黄・硬・赤粒・白鈦・透鈦・砂粒	直線的に僅かに外傾して立ち上がる。器厚は厚い。轆轤右回転成形、回転は弱い。底部は回転削り。	
10-00175 109	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口(20.0) 高8.9	中・粗・鈍黄橙・並・赤粒・黒鈦・白鈦・透鈦	口縁部は内傾する。器厚は均質。口唇部に沈線を持つ。轆轤右回転成形。鏝貼り付け。	
10-00176 109	須恵器 紡 錘車(転用)	覆土内 完形	径7.1 厚1.2	還元・並・灰黄・並・白鈦・透鈦・黒粒・白粒	須恵器塊底部転用。内面を研磨して調整。	
10-00177 109	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.9	還元・密・灰白・並・黒粒・白粒	胴部片。器厚は厚い。平行叩き、当て具痕は無で消し。	
10-00178 109	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.6	還元・密・褐灰・硬・黒粒・白粒	胴部片。平行叩き、当て具痕は丁寧に無で消している。	
10-00179 109	須恵器 壺	覆土内 破片	厚0.55	還元・並・黒褐・硬・白粒	胴部片。轆轤右回転成形。石英粒多く含む。	
10-00180 109	須恵器 甕	覆土内 破片	厚1.1	還元・並・灰・硬・白粒	胴部片。器厚は厚い。平行叩き、当て具痕は無で消し。外面は自然軸付着。大粒の石英粒混入。	
10-00181 109	須恵器 甕	覆土内 破片	高8.3	還元・並・灰・並・細砂粒	底部片。器厚は厚い。外面は回転削り。轆轤右回転成形。	
10-00182 109	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 1/3残	口(13.2) 高5.1 底(6.3)	還元・密・灰白・釉灰白・硬・黒粒・白粒	直線的に立ち上がる。器厚は薄い。轆轤右回転成形、付高台。内外面刷毛塗り。内面底部の摩滅著しく、転用硯と思われる。墨痕有り。内面に重ね焼き痕が認められる。	
10-00183 109	施釉陶器 灰釉碗	甕 1/4残	口(16.1) 高5.0 底(7.8)	還元・密・灰白 釉灰白・硬・黒粒・白粒	直線的に立ち上がり、口唇部は外反する。器厚底部が厚く、口縁部は薄い。轆轤右回転成形、付高台。漬け掛け。	
10-00184 109	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口(16.0) 高3.4	還元・並・灰白・釉灰白・並・黒粒・白粒	僅かに丸みを帯びて開く。器厚は薄く、口唇部は尖り気味。轆轤右回転成形。漬け掛け。	
10-00185 109	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口(15.0) 高2.9	還元・密・灰白 釉灰白・硬・黒粒・白粒	直線的に開き、口縁部は外反する。器厚は薄く、口唇部は先細りする。轆轤右回転成形。内面に自然軸付着。	
10-00186 109	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 2/1残	高2.8 底7.7	還元・密・灰白・釉灰白・硬・黒粒・白粒	丸みを帯びて立ち上がる。器厚は薄い。轆轤右回転成形、付高台。内外面刷毛塗り。内面の摩滅著しく、転用硯と思われる。内外面に墨痕明瞭。	
10-00187 109	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	高1.2 底(6.4)	還元・密・灰白・硬・黒粒・白粒	底部片。器厚は薄い。轆轤右回転成形、付高台。内面に重ね焼き痕が認められる。	
10-00188 109	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	高2.4 底(7.6)	還元・密・灰白・硬・黒粒・白粒	底部片。器厚はやや厚く均質。轆轤右回転成形、付高台。内面に自然軸付着。	
20-00019 109	石製品 砥石	覆土内 完形	長9.3 幅3.3 厚1.8	凝灰岩	使用は四面。側面に刃傷が見られる。中央部がやや薄い。	
20-00020 109	石製品 砥石	覆土内 完形	長10.4 幅4.4 厚0.8	凝灰岩	使用は四面。中央部がやや薄い。	
20-00021 110	石器 叩き石	覆土内 1/2残	長7.6 幅7.9 厚6.0 重330	粗粒輝石安山岩	上端面に敲打痕が集中している。	
40-00015 110	鉄器 釘	覆土内 部分欠損	残9.9 長幅0.6 厚0.6 重21		先端を欠損する。全体に錆化が特に顕著。頭部は特に顕著である。捻れ状態で弓なりに曲がっている。	
40-00016 110	鉄器 釘	床面直上 部分欠損	残長10.5 幅0.7 厚0.8 重20		頭部を調査後の欠損により失っている。全体に弓なりに曲がっている。錆化が顕著。	
40-00017 110	鉄器 釘か	覆土内 破片	残長11.5 幅0.9 厚0.9 重43		両端の欠損は古い。錆化が顕著。断面正方形を呈する。	
40-00018 110	鉄器 紡錘車か	17住壺内 破片	残長23.3+α 幅0.4 ~0.5 重0.7+α		調査後の欠損が著しい。軸棒の部分であるが、細片化している。良好な残存部を図化した。	
40-00018 110	鉄器 紡錘車か	17住覆土内 破片	残長37.9+α 幅0.5 ~0.6 重58		調査後の欠損が著しい。軸棒の部分であるが、細片化している。良好な残存部を図化した。	
40-00019 110	鉄器 紡錘車か	覆土内 破片	残長25.7+α 幅0.5 厚0.5 重35		調査後の欠損がある。錆化が顕著。断面は正方形を呈する。	
40-00020 110	鉄器 有袋鉄斧	床直層 完形	長10.3 身幅3.9 厚 1.5 刃部0.8 重147		袋部は叩き製して袋に成形している。刃部は直刃。錆化が顕著。	
40-00021 110	鉄器 鎖尺か	17住覆土内 完形	通高6.8 幅3.5 重77		分銅を伴う鎖。鎖の1単位は4.0cm程。鎖は9個が確認出来る。一部調査時の欠損で逸している。	

第18号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00189	土師器 甕	覆土内 破片	口(17.5) 高5.8	酸・密・鈍赤褐・硬・白微	「コ」の字状口縁。器厚は薄い。外面の窠削りはササラ状、口縁部は横撫で整形、一部に指頭痕が認められる。	
10-00190 110	土師器 坏	覆土内 破片	高2.9	酸・並・橙・並・角閃石	口縁部片。口唇部は僅かに外反する。器厚は薄い。内面に墨書。	墨書-13
10-00191 110	須恵器 坏	覆土内 破片	口(14.0) 高2.1	還元・並・灰・硬・軽い・白粒・細砂粒	口縁部破片。弱く外反する。器厚は薄い。轆轤右回転成形。	
10-00192 110	須恵器 坏	覆土内 破片	高1.7	中・並・浅黄・並・白粒・粗粒砂	口縁部破片。弱く外反する。轆轤右回転成形。細片のため、器形は不明。	
10-00193 110	須恵器 坏	覆土内 破片	高1.3 底(6.9)	還元・粗・灰・硬・黒粒・白粒・岩片	底部片。底部中心の器厚は薄い。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	

第19号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00194 110	土師器 環	覆土内 破片	口(12.6) 高3.5	酸・密・橙・硬・細砂粒	模倣皿。口縁部は外反気味。外面に稜を持つ。底部は寛削り、口縁部は横撫で整形。	
10-00195 110	土師器 環	覆土内 破片	口(14.0) 高3.2	酸・並・橙・並・粗粒砂	口縁部は外反気味。外面に稜を持つ。底部は寛削り、口縁部は横撫で整形。	
10-00196 110	土師器 内黒環	覆土内 破片	口(14.3) 高2.8	酸・密・浅黄橙・硬・白粒	口縁部は外反する。内面に研磨・黒色処理を施す。底部は寛削り、口縁部は横撫で整形。	
10-00197 110	須恵器 環	覆土内 破片	高2.7	還・密・灰・硬・黒粒・白粒	口縁部片。内湾気味。器厚は薄い。轆轤右回転成整形。器面は滑らか。	
10-00199 110	須恵器 壺	覆土内 破片	高2.6	還・粗・灰・硬・白粒	肩部片。轆轤右回転成整形。胎土は粗く、ガサガサしている。	
10-00201 110	須恵器 甕	覆土内 破片	高4.1	還・並・灰・並・白粒・細砂粒	頸部片。轆轤右回転成整形、二条の沈線で区画しその間に波状文を施す。	
10-00202	須恵器 壺	覆土内 破片	厚0.6	還・密・黄灰・硬・白微・白粒・砂粒	胴部片。叩き整形。平行叩きで、当て具は無文。外面に自然釉付着。	
10-00204 110	施釉陶器 灰釉長頸瓶	覆土内 破片	高9.7	還・密・灰白・釉灰白・硬・黒粒・白粒	胴部片。丸みを帯び器厚はやや厚い。轆轤右回転、外面は上半が左回転下半が右回転の回転寛削り。外面刷毛塗り。	

第27号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00198	須恵器 蓋	覆土内 破片	高3.0	酸・並・鈍黄橙・並・赤粒・砂粒	天井部片。器厚はやや厚い。外面は右回転寛削り。轆轤右回転成整形。摘み欠損。	
10-00200	須恵器 環	覆土内 破片	高1.9	中・密・鈍黄橙・並・白粒・細砂粒	口縁部片。轆轤右回転成整形。	
10-00203	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口(13.6) 高3.0	還・密・灰白・釉淡黄・硬・黒粒・白粒	やや外傾する。器厚は薄い。轆轤右回転成整形。内外面施釉、釉はほとんど剥落している。	
10-00205	土師器 壺	覆土内 破片	厚0.5	酸・並・鈍黄橙・硬・赤粒・黒粒・透鋳・チ角	胴部片。器厚は薄い。細片のため器形の詳細は不明。	
10-00206 113	土師器 壺	覆土内 破片	厚0.45	酸・並・浅黄・並・赤粒・黒粒・透鋳	胴部片。器厚は薄い。内外面とも撫で調整。外面に煤付着。細片のため器形の詳細は不明。	
40-00022 113	鉄器	覆土内 部分欠損	残長7.1 幅0.6 厚0.4 重7		上端側は利器を思わせるが、刃先はやや曲がっている。錆化が顕著。	

第20号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00207 110	土師器 環	覆土内 破片	口(12.6) 高3.1	酸・密・橙・並・赤粒	口縁部は外反する。外面に稜を持つ。底部は強い寛削り、口縁部は横撫で整形。内面は木口状工具の撫で。	
10-00208 110	土師器 手づくね	覆土内 底部のみ	高2.3 底3.2	酸・並・鈍黄橙・並・白粒・細砂粒	器厚は厚い。外面底部は未調整。	
10-00209 110	土師器 壺	燃焼部 破片	口18.0 高12.4	酸・粗・橙・並・赤粒・白粒・チ角	口縁部は外反する。胴部外面は細い縦寛削り、内面は焼成後の深い刻みが多く施される。	
10-00210 110	土師器 壺	覆土内 破片	高2.8 底(5.6)	酸・並・灰黄・並・細砂粒	底部片。器厚は厚い。底部外面に木葉痕が認められる。	
20-00022	石器	覆土内	長22.3 幅17.5 厚5.75 重2,176	粗粒輝石安山岩	被熱のため、赤色化している。	

第21号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00211 111	土師器 台付壺	甕 破片	口(11.6) 高5.5	酸・密・橙・並	「コ」の字状口縁。口唇部に沈線を持つ。器厚は薄い。口縁部は横撫で。	
10-00212	土師器 環	覆土内 破片	厚0.6	酸・並・黒褐・硬・赤粒	底部片。器厚はやや厚い。内面に放射状暗文を施す。硬質。	
10-00213	土師器 内黒環	覆土内 破片	高0.9	酸・密・鈍黄橙・硬	底部片。器厚はやや厚い。内面に黒色処理・研磨を施す。銀雲母を多く含む。	
10-00214 111	須恵器 環	覆土内 破片	高3.8	還・並・灰・並	口縁部片。器厚はやや厚い。轆轤右回転成整形。内面に墨書。	墨書-14
10-00215 111	須恵器 壺	覆土内 破片	高4.1 底(8.8)	中・並・鈍黄・硬・赤粒・透鋳・岩片	直線的に開く。底部中央の器厚は薄い轆轤右回転成整形、付高台。内外面に墨書。外面は「若」、内面も「若」か。	墨書-15・16
10-00216	須恵器 壺	覆土内 破片	口(16.8) 高1.9	中・並・淡黄・並・白粒・粗粒砂	口縁部片。大きく開き、器厚は薄い。轆轤右回転成整形。	
10-00217	施釉陶器 灰釉長頸瓶	覆土内 破片	高2.6	還・密・灰白・釉暗黄灰・硬・透鋳・白粒	外反する。器厚は非常に薄い。内外面に自然釉付着。	
10-00218	須恵器 壺	覆土内 破片	厚0.9	還・並・灰白・硬・黒粒・白粒	胴部片。器厚は厚い。平行叩き、当て具は青海波文。	
10-00219	施釉陶器 緑釉皿	覆土内 破片	口(13.2) 高1.6	還・密・灰白 釉灰オリブ・軟	器厚はやや厚い。内面に研磨を施す。内外面施釉。	
10-00220	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	高1.9	還・密・灰白・釉灰白・硬・黒粒・白粒	口縁部片。器厚は薄い。小片のため器形の詳細は不明。轆轤右回転成整形。	
10-00221	施釉陶器 灰釉瓶	覆土内 破片	厚0.7	還・密・灰白・釉灰オリブ・硬・白粒・黒粒	肩部片。器厚は厚い。小片のため器形の詳細は不明。轆轤成整形。外面刷毛塗り。	
10-00222	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	高1.7 底(6.6)	還・密・灰黄・釉灰白・硬・黒粒・白粒	底部片。轆轤右回転成整形、付高台。外面施釉。内面と高台に重ね焼き痕が認められる。	
20-00023 111	礫器 甕材	覆土内	長42.35 幅19.05 厚13.1 重9,400	粗粒輝石安山岩	側面は面取りされる。被熱のため剥落が著しい。	
40-00023 111	鉄器 鋤先	覆土内 部分欠損	長23.0 幅19.8 厚1.8 重554		部分欠損は調査段階遺構の欠損。図の正面左側が片減り状態に見られ、使い込みの痕跡と考えられる。	

第22号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00223 111	土師器 手づくね	覆土内 3/4残	口(5.6) 高6.3	中・並・浅黄・並・黒鈺・白粒	僅かに丸みを帯びて直立する。器厚は厚い。撫で調整。	
10-00224 111	土師器 坏	覆土内 1/2残	口(11.8) 高7.4	酸・並・明赤褐・硬・赤粒・黒鈺・透鈺・白粒・粗粒砂	丸底、口縁部は直立し、口唇部で先細りする。口縁部は横撫で、内面に放射状暗文が認められる。	
10-00225 111	土師器 坏	貯蔵穴内 ほぼ完形	口13.4 高5.3	酸・密・明赤褐・硬・赤粒・黒鈺・透鈺	丸底、口縁部は外反し、口唇部は細く尖る。口縁部は横撫で、内面に放射状暗文を施す。斑点状剝離が認められる。	
10-00226 111	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口11.6 高4.8	酸・並・橙・硬・赤粒・チ角	丸底、口縁部は直立する。端部に沈線を持つ。器厚はやや厚く、先細りする。底部との境に弱い稜を持つ。口縁部は横撫で。重ね焼きによる黒斑。器面は滑らか。	
10-00227 112	土師器 坏	貯蔵穴内 完形	口11.8 高5.2	酸・密・橙・硬・白微・チ角	丸底、口縁部は直立する。端部に沈線を持つ。器厚はほぼ均質。口縁部は横撫で。重ね焼きによる黒斑。器面は滑らか。	
10-00228 112	土師器 坏	覆土内 4/5	口8.4 高4.8	中・密・鈍黄橙・硬・黒鈺・白鈺	丸底。口縁部は内傾する。器厚は厚い。口縁部は横撫で、内面は刷毛目状の窪撫で。斑点状の剝離が認められる。	
10-00229 112	土師器 坏	貯蔵穴内 ほぼ完形	口12.1 高6.0	酸・密・鈍黄橙・硬	丸底、口縁部は直立する。器厚は底部が厚い。口縁部もやや厚く横撫で、外面底部に重ね焼きによる黒斑確認。	
10-00230 112	土師器 塊	覆土内 ほぼ完形	口12.1 高8.2	酸・並・鈍橙・硬・黒鈺・透鈺・白粒	丸底、口縁部は直立する。器厚は厚い。口縁部は横撫で、底部は研磨を施す。	
10-00231 112	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口11.4 高5.0	酸・並・鈍橙・並・赤粒・黒鈺・透鈺	丸底、口縁部は直立する。端部に沈線を持つ。器厚は口縁部が薄い。口縁部は横撫で。内面は斑点状剝離が認められる。	
10-00232 112	土師器 坏	覆土内 3/4残	口12.0 高5.4	酸・密・橙・並・赤粒	丸底、口縁部は僅かに外反する。端部に沈線を持つ。底部との境に稜を持つ。口縁部は横撫で。外面底部に重ね焼きによる黒斑。器面は滑らか。	
10-00233 112	土師器 坏	貯蔵穴内 3/4残	口(12.1) 高5.2	酸・並・明赤褐・硬・赤粒・白微・	丸底、口縁部は直立する。端部に沈線を持つ。器厚は均質。底部との境に稜を持つ。口縁部は横撫で。	
10-00234 112	土師器 坏	覆土内 1/2残	口(14.4) 高3.5	酸・並・鈍黄橙・硬・白微・	口縁部は短くやや外傾。器厚は均質。内外面に研磨を施す。外面底部中央に重ね焼き時の黒斑、内面は赤色を呈す。	
10-00235 112	土師器 高坏	覆土内 ほぼ完形	口12.6 高10.8 底(9.8)	酸・密・橙・並・赤粒	口縁部は僅かに外反する。脚部は外反して開く。脚部の器厚は厚い。口縁部と脚部は横撫で。器面は滑らか。	
10-00236 112	土師器 高坏	覆土内 1/2残	高6.7 底(9.6)	酸・密・鈍褐・硬・黒鈺・透鈺	脚部は外反して開く。器厚は厚く、先細りする。外面は研磨が施される。内面は粘土紐の接合痕が明瞭。	
10-00237 112	土師器 坏	覆土内 1/2残	高0.7 底8.5	酸・並・橙・硬・白粒	平底。内面底部に螺旋暗文、体部に放射状暗文を施す。	
10-00238	土師器 壺	覆土内 破片	高2.6 底4.2	酸・並・鈍黄橙・並・チ角・細砂粒	底部片。器厚は厚い。外面底部は未調整。	
10-00239	須恵器 はそう	貯蔵穴2 破片	口(8.0) 高2.9	還・密・灰・硬・白微・細砂粒	口縁部片。口唇部は摘み出し。器厚は薄い。轆轤右回転成整形。下部に穿孔。	
10-00240	須恵器 高坏	覆土内 破片	高4.2	還・密・灰・硬・白微・細砂粒	脚部片。直線的に開く。器厚は厚い。長脚二段方透か。透の下に一条の沈線を巡らす。外面に自然袖付着。	

第24号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00241	土師器 坏	掘方 破片	口(13.6) 高3.7	酸・並・灰黄褐・並・白微	平底、直線的に立ち上がる。器厚は均質。口縁部横撫で。	
10-00242 112	土師器 内黒坏	竈右壁 1/4残	口(14.2) 高4.0	中・並・浅黄・硬・黒鈺・砂粒	やや丸みを帯びて立ち上がる。口縁部は横撫で、内面は黒色処理と研磨を施す。雲母を多く含む。	
10-00243 113	土師器 甕	竈 破片	口(19.6) 高11.4 胴最(21.7)	酸・並・橙・硬・赤粒・黒鈺	口縁部は「コ」の字くずれ。器厚は口縁部でやや厚い。口縁部は横撫で、内面胴部は刷毛目状の横窪撫で。	
10-00244 112	土師器 甕	掘方 1/3残	口(19.2) 高14.5 胴最(22.2)	酸・密・鈍黄橙・硬・赤粒・白微	「コ」の字状口縁。器厚は薄いが口縁部でやや厚くなる。口縁部は横撫で。粘土紐の接合痕が明瞭。	
10-00245 112	須恵器 足高台甕	覆土内 1/3残	高5.6 底径(8.8)	中・並・浅黄・並・砂粒	直線的に立ち上がる。器厚は厚い。轆轤右回転成整形、付高台。内面に重ね焼きによる黒斑が認められる。	
10-00246 112	須恵器 高台付皿	覆土内 1/4残	高2.4 底6.5	中・密・鈍黄・並・白微	底部片。器厚は厚い。轆轤右回転成整形、付高台。	
10-00247	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口(15.1) 高4.2 底(7.2)	還・密・灰黄・釉灰白・硬・黒粒・白粒	直線的に立ち上がる。器厚は薄い。轆轤右回転成整形、付高台。内外面刷毛塗り。	
10-00248 112	土師器 塊	覆土内 1/4残	高2.4 底(6.6)	酸・並・鈍黄橙・硬・黒鈺・白粒・粗粒砂	底部片。器厚は厚い。内面に研磨を施す。付高台。	
10-00249 113	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.7	還・並・灰・硬・透鈺・白粒・粗粒砂	胴部片。器厚は厚い。幅広い平行叩き、当て具は青海波文。焼成後に穿孔を施す。	
40-00024 113	鉄器 大形鋤先	床直層 破片	残長20.0 幅3.9 厚0.5 重115		欠損状態で廃棄されている。残存状況からかなり大形の鋤と考えられる。	

第25号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00250 113	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口12.6 高4.3 底5.7	酸・並・鈍橙・軟・赤粒・黒鈺・白粒	平底、やや丸みを帯びて立ち上がる。器厚は厚い。口縁部は横撫で。指頭痕が認められる。	
10-00251 113	須恵器 坏	覆土内 1/3残	口(12.0) 高3.8 底6.2	中・並・鈍黄・並・赤粒・白粒・細砂粒	直線的に立ち上がり、口縁部で弱く外反し器厚は薄い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。角閃石を多く含む。	
10-00252 113	須恵器 坏	覆土内 1/2残	口(12.6) 高3.5 底6.2	中・並・灰白・並・白微・細砂粒	直線的に立ち上がり、口唇部で先細り。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。重ね焼きによる黒斑が認められる。	
10-00253 113	須恵器 塊	覆土内 1/2残	口(15.8) 高7.0 底7.5	還・並・灰白・並・白微・黒粒・砂粒	直線的に立ち上がり、口縁部で弱く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。底部外面に煤付着。	
10-00254	施釉陶器 灰釉長頸瓶	覆土内 破片	高3.3	還・密・灰白・釉灰白・硬・黒粒・白粒	肩部片。器厚はやや厚い。轆轤右回転成整形。外面刷毛塗り。	
40-00025 113	鉄器 破片	覆土内 破片	残長8.1 幅1.7 厚0.3 重19		平造り状態に研減り、刃先は薄く尖る。冠落とし状態だが、転用も考慮される。	

第29号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00255 113	土師器 環	甕口 3/4残	口12.5 高4.2 底7.9	酸・密・明赤褐・硬・黒黧・透黧・砂粒	平底、直線的に立ち上がる。器厚はやや薄く均質。口縁部下半に工具による撫でを施す。	
10-00256 113	土師器 甕	甕口 破片	口(20.2) 高5.0	酸・密・鈍黄橙・硬・白微	口縁部片。「コ」の字状口縁。粘土紐の接合痕が明瞭。	
10-00257 113	土師器 甕	甕右袖 1/4残	口18.4 高20.8 胴最(20.3)	酸・並・鈍黄橙・並・普通・赤粒・黒黧・白粒	口縁部は「コ」の字くずれ。器厚は厚い。内面は指撫での凹凸が明瞭。	
10-00258 113	須恵器 埴	覆土内 1/2残	口14.9 高5.1 底6.8	中・並・灰・並・白微・白粒	直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。煙し焼成。轆轤右回転成整形、付高台。	
10-00259	土師器 埴	覆土内 破片	高3.3	酸・密・明赤褐・硬・透黧・テ角	器厚は厚い。内面に放射状暗文を施す。	
10-00260 113	土師器 甕	覆土内 破片	高8.5 底4.2	酸・並・鈍黄橙・硬・赤粒・黒黧・砂粒	「コ」の字甕の底部。胴部の器厚は薄い。底部外面は寛削り。	
20-00024 113	石器 礫器	覆土内 4/5残	長23.0 幅16.4 厚5.5 重2,507	粗粒輝石安山岩	扁平面が摩滅し、多数の擦痕が認められる。	
20-00025 113	石器 凹石	覆土内 1/2残	長15.65 幅18.95 厚9.9 重3,049		表面に凹部と敲打痕が認められる。	

第30号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00261	土師器 内黒埴	覆土内 破片	口(14.4) 高4.3	酸・密・鈍黄橙・並・赤粒・黒黧	やや屈曲して大きく開く。器厚はほぼ均質。内面に黒色処理と横方向の細かい研磨を施す。高台剝離。	
10-00262 114	須恵器 環	覆土内 1/2残	口11.2 高3.6 底5.7	中・密・鈍黄橙・並・黒粒	直線的に立ち上がり、口縁部の器厚は薄くなる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	
10-00263 114	須恵器 環	覆土内 2/3残	口11.6 高3.8 底5.6	中・密・淡黄・並・黒黧	丸みを帯びて立ち上がり、口唇部は尖る。体部中ほどで縁れる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	
10-00264 114	須恵器 埴	甕燃焼部 1/2残	口(12.0) 高3.6 底6.4	中・並・灰白・並・細砂粒	直線的に立ち上がる。器厚は厚い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。内外面に重ね焼き時の黒斑が認められる。	
10-00265 114	須恵器 環	覆土内 完形	口12.4 高4.1 底6.2	酸・密・灰白・並・細砂粒	丸みを帯びて立ち上がり口縁部で外反。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。重ね焼き時の黒斑確認。外面に墨書。	墨書-17
10-00266 114	須恵器 環	覆土内 一部欠損	口12.4 高4.0 底6.2	中・並・鈍黄・並・赤粒・黒黧	直線的に立ち上がり、口縁部で外反する。器厚は厚い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	
10-00267 114	須恵器 環	覆土内 3/4	口(11.7) 底5.4 高4.5	並・酸・並・黄橙・黒色微粒子・透明鉱物微粒子・白色鉱物微粒子	轆轤成整形右回転。底部は回転糸切り。器内面は布挽き再整形。環部3段目の轆轤挽きが強い。	漆田産
10-00268 114	須恵器 埴	覆土内 1/2残	口(13.5) 高5.0 底(7.0)	中・並・灰黄・並・黒粒・細砂粒	口縁部は弱く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。重ね焼き時の黒斑が認められる。体部内面と底部外面に墨書。	墨書-18・19
10-00269 114	須恵器 埴	覆土内 1/2残	口(12.3) 高4.6 底7.3	中・並・浅黄・並・白微	丸みを帯びて立ち上がり口縁部で外反。器厚は厚い。轆轤右回転成整形、付高台。内面底部に重ね焼き時の黒斑確認。	
10-00270 114	須恵器 埴	覆土内 3/4残	口13.6 高5.3 底7.5	中・並・鈍黄橙・並・赤粒・黒黧・白粒	直線的に立ち上がり、口唇部内面に沈線状の窪みを持つ。轆轤右回転成整形、付高台。器面は粉っぽい。	
10-00271 114	須恵器 埴	覆土内 1/2残	口(14.3) 高4.6 底(6.2)	還・並・灰白・並・白微・砂粒	口縁部は強く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	
10-00272 114	須恵器 埴	覆土内 一部欠損	口13.9 高5.4 底7.5	中・並・浅黄・並・赤粒・黒黧・白粒	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部で弱く外反する。器厚は薄い。轆轤右回転成整形、付高台。外面に重ね焼き時の黒斑。角閃石を多く含む。	
10-00273	須恵器 埴	覆土内 破片	口(15.8) 底(7.6) 高5.7	並・還・並・黒褐・透明鉱物粒子・軽石	轆轤成整形右回転。高台は付け高台。器内面は布挽き再整形。環部2段目の轆轤挽きが強い。	漆田産
10-00274 114	須恵器 埴	覆土内 3/4残	口15.6高7.0 底8.3	酸・並・鈍黄橙・並・赤粒・黒黧・透黧・白粒	口縁部で強く外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	
10-00275 114	須恵器 埴	甕右袖 破片	高1.5 底6.8	酸・並・浅黄・並・角閃石・白粒	底部片。器厚は厚い。轆轤右回転成整形、付高台。内面に焼成後の寛削り「十」。	
10-00276 114	土師器 羽釜	甕燃焼部 破片	口(17.4) 高15.5	中・並・鈍黄橙・並・赤粒	胴部の張りは強い。鐙下から寛削り。鐙貼り付け。	
10-00277 114	土師器 羽釜	覆土内 破片	口(18.6) 鐙部(21.4) 胴部(20.8)	並・還・並・浅黄橙・微粒長石・黒色微粒子・黒色鉱物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。鐙は貼り付け。胴部は横位の寛削りを施す。	漆田産か
10-00278 114	土師器 羽釜	覆土内 破片	口(20.2) 鐙部(23.5)	並・還・並・浅黄橙・微粒長石・黒色微粒子・黒色鉱物粒子	紐作り後轆轤右回転成整形。鐙は貼り付け。胴部は横位の寛削りを施す。	漆田産か
10-00279 114	土師器 埴	覆土内 破片	高13.5 底(6.2)	酸・並・浅黄橙・軟・白微・黒粒・細砂粒	やや丸みを帯びて立ち上がる。器厚は厚い。胴部外面下端は横方向の寛削り。底部寛削り。軽い。	
10-00280 114	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 1/2残	口(13.4) 高3.0 底(7.0)	還・密・浅黄・釉灰白・硬・やや重	丸みを帯び大きく開き、口唇部は僅かに外反する。器厚は薄い。轆轤右回転成整形、付高台。内外面刷毛塗り。重ね焼き痕が認められる。	
40-00026 114	鉄滓	甕右袖 1/2残	残長6.3+α 幅9.4 厚4.2 重249		下端側1/2を欠損する。図中右下側が部分的に磁力を呼ぶ(磁力2)。	
40-00027 114	鉄滓	30号住 覆土完形	長8.0 幅9.4 厚5.7 重361		底面側は小泡状態を呈する。中央部付近が磁力をやや強めに呼ぶ(磁力3)。	
40-00028 114	鉄滓	覆土内 完形	長12.5 幅15.6 厚6.7 重1,091		碗形を呈する。全体的に磁力は少ない(磁力5)。	
20-00026 115	石器 台石	右壁 ほぼ完形	長21.0 幅18.3 厚8.3 重3,817	粗粒輝石安山岩	表面の中央には敲打痕が集中して認められる。	

第31号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00281	土師器 環	覆土内 破片	厚0.4	酸・並・淡黄・並・赤粒・黒黧	小片のため器形の詳細は不明。外面に墨書。	墨書-20
10-00282	土師器 環	覆土内 破片	厚0.4	中・粗・灰黄・並・黒黧・白粒	小片のため器形の詳細は不明。外面に墨書。	墨書-21
10-00283 115	土師器 環	覆土内 2/3残	口12.2 高4.3 底(5.2)	酸・並・鈍黄橙・硬・赤粒・黒黧	平底、口縁部は直線的に開く。底部の器厚は厚く口縁部上半は横撫で、下半は指頭痕確認。底部外面は未調整。	

第31号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00284 115	土師器 壺	覆土内 破片	□(15.7) 高3.9	酸・並・鈍黄橙・硬・赤粒・黒鈺・砂粒	やや丸みを帯びて立ち上がり、大きく開く。底部の器厚は厚い。口縁部は横撫で、内面は研磨を施す。高台は欠損。	
10-00285 115	土師器 小型壺	覆土内 破片	高4.9	酸・並・鈍黄橙・並・黒鈺・透鈺・白粒	口縁部は外反する。器厚は均質。口縁部は横撫で、体部外面は縦位の寛撫で。	
10-00286 115	土師器 壺	甕 1/4残	□(19.0) 高14.4 胴最(21.2)	酸・密・鈍褐・硬・赤粒・黒鈺・白粒・砂粒	「コ」の字状口縁。肩部が張る。口唇部に沈線を持つ。器厚は薄い。口縁部は横撫で。粘土紐の接合痕が明瞭。	
10-00287 115	土師器 壺	覆土内 破片	高8.6 底5.9	酸・粗・鈍橙・硬・赤粒・黒鈺・透鈺・砂粒	胴部は丸みを帯びる。底部の器厚は厚い。外面に煤付着。	
10-00288 115	須恵器 坏	覆土内 2/3残	□13.6 高4.0	還・並・黄灰・並・白粒・粗粒砂	丸みを帯び、口縁部は外反する。器厚は均質。轆轤右回転成整形。硬質。	
10-00289 115	須恵器 壺	甕右壁 2/3残	□(13.8) 高4.9 底6.1	中・並・灰黄・並・赤粒・白鈺・岩片・砂粒	直線的に立ち上がる。器厚は薄い。轆轤右回転成整形、付高台。器面はざらつく。	
10-00290	須恵器 壺	覆土内 破片		還・密・灰・硬・白微	胴部片。器厚はやや薄い。平行叩き、当て具は青海波文。	
10-00291	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	□(12.4) 高2.8	還・密・灰白・釉灰白・硬・黒粒・白粒	直線的に立ち上がり、口唇部外面に沈線を持つ。器厚は薄い。轆轤右回転成整形。潰け掛け。	
10-00292	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	□(12.6) 高2.1	還・密・灰白・釉灰黄・硬・黒粒・白粒	直線的に開き、口唇部で僅かに外反する。器厚は薄い。轆轤右回転成整形。内外面施釉。	
10-00293	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	□(16.0) 高1.9	還・並・灰白・釉灰白・並・黒粒・白粒	直線的に開き、口唇部で僅かに外反する。器厚は薄い。轆轤右回転成整形。潰け掛け。	
10-00294 115	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 1/3残	□(14.7) 高2.9 底(6.8)	還・密・灰黄・釉灰白・硬・黒粒・白粒	轆轤右回転成整形、付高台。内外面刷毛塗り、重ね焼き痕が認められる。黒痕が僅かに残り、内面の摩滅が著しい。	
20-00027 115	石製品 砥石	覆土内 1/2残	長(7.6) 幅6.0 厚1.0~2.6	凝灰岩	使用は四面。よく使用して、上部はかなり薄い。	
20-00028 115	石製品 砥石	覆土内 1/2残	長8.5 幅5.6 厚1.0	凝灰岩	使用は四面。上部はやや薄い。刃傷が見られる。	
40-00029 115	鉄器 鉄滓		長9.9 幅8.8 厚3.3 重300			3つの塊から成っている。上面左側が磁力をよぶ(磁力4)。
40-00030 115	鉄滓	覆土内 完形	長9.9 幅8.0 厚5.1			二層の碗形滓。弱い磁着力有り。底面は碗形状で中央が最も突出している。

第32号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00295 115	須恵器 坏	覆土内 1/2残	□(11.3) 高3.3 底(5.7)	中・並・鈍黄橙・硬・黒鈺・透鈺・白粒	直線的に立ち上り器厚はやや厚い。轆轤右回転成整形、底部回転糸切り。器面ざらつき。外面に重ね焼きによる黒斑。	
10-00296 115	須恵器 壺	覆土内 1/2残	□(14.6) 高4.8 底(7.5)	中・並・浅黄・並・黒鈺・透鈺	丸みを帯びて立ち上がり口唇部が僅かに外反。器厚は均質。轆轤右回転成整形、付高台。重ね焼きによる黒斑確認。	
10-00297 115	須恵器 足高台	甕焚口 3/4残	□(14.3) 高6.0 底9.4	中・並・鈍黄橙・並・黒鈺・白粒	直線的に立ち上がる。器厚はやや厚い。轆轤左回転成整形、付高台。高台は高く、「ハ」の字に開く。	
10-00298 115	須恵器 壺	覆土内 1/2残	□(15.2) 高6.2 底7.6	中・並・鈍黄橙・並・白粒・砂粒	僅かに丸みを帯びて立ち上がる。轆轤左回転成整形、付高台。轆轤の回転は弱く、轆轤目の間隔が広い。胎土はガサガサで、器面は粗い。	
10-00299 115	須恵器 壺	覆土内 1/4残	高3.3 底7.5	中・並・鈍黄橙・並・赤粒・黒鈺・白粒	器厚はやや厚い。轆轤左回転成整形、付高台。高台は「ハ」の字に開く。	
10-00300	須恵器 高坏	覆土内 破片	高4.7	還・並・暗灰黄・並・白微・細砂粒	脚部片。器厚は厚い。轆轤右回転成整形。三方透。	
10-00301 116	須恵器 壺	覆土内 破片	□(18.6) 高10.4	還・並・灰黄・並・白微・砂粒	胴部は丸みが強く、口縁部は外反する。器厚は厚い。轆轤左回転成整形。	
10-00302 116	土師質 土釜	甕焚口 1/3残	□(20.8) 高19.7 胴最(21.0)	酸・並・橙・並・赤粒・白微	胴部は丸みを帯び口縁部は外反し器厚は厚い。口縁部は横撫で胴部外面は縦位の寛削り、内面は横指撫での凹凸が明瞭。下半は研磨を施す。	
10-00303 116	土師器 壺	甕覆土内 1/4残	□20.1 高19.3 胴最23.3	中・密・黄灰・並・赤粒・砂粒	「コ」の字状口縁。肩部は張る。口唇部に沈線を持つ。器厚は薄い。口縁部はやや厚い。口縁部は横撫で。	
10-00304 116	土師器 壺	甕 破片	□(21.1) 高13.9 胴最(23.6)	酸・並・橙・並・黒鈺・白粒・砂粒	口縁部は「コ」の字くずれ。器厚は薄い。口縁部は横撫で、外面は指頭痕が認められる。内面は刷毛目状の寛撫で。	
10-00305 116	土師器 壺	甕右袖 破片	□(21.5) 高14.8 胴最(24.5)	中・並・鈍黄橙・硬・赤粒・黒鈺・白粒・粗粒砂	口縁部は「コ」の字くずれ。器厚は薄い。口縁部でやや厚くなる。口縁部下半は工具による横撫で、外面に指頭痕が認められる。内面は粘土紐の接合痕が明瞭。	
10-00306 115	施釉陶器 灰釉碗	左袖 4/5残	□12.3 高4.1 底6.7	還・密・灰白・釉灰白・硬・黒粒・白粒	丸みを帯びて立ち上がる。底部の器厚は厚く、先細りする。轆轤右回転成整形、付高台。潰け掛け。内面に重ね焼き痕が認められる。内外面に油煙付着。	
10-00307 115	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 1/4残	□(12.8) 高3.1	還・密・灰・釉灰白・硬・白鈺・黒粒	丸みを帯びて立ち上がる。器厚はやや薄い。轆轤右回転成整形。潰け掛け。	
10-00308 115	施釉陶器 灰釉碗	甕燃焼部 1/2残	□(15.9) 高5.4 底8.5	還・密・灰白・釉灰白・硬・黒粒・白粒	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部で僅かに外反する。器厚は薄い。轆轤右回転成整形、付高台。体部下半は回転寛削りを施す。潰け掛け。内面に重ね焼き痕が認められる。	
10-00309 115	施釉陶器 灰釉輪花段 皿	覆土内 1/2残	□15.2 高1.5	還・密・灰白・釉灰白・硬・黒粒・白粒	直線的に大きく開き中位に段を持つ。器厚はやや厚い。轆轤右回転成整形。潰け掛け。輪花は四弁。口縁部は大きく歪む。	
40-00031 116	鉄器 鉄	覆土内 部分欠損	残長6.4 残身長3.0	寛被部幅0.7/同厚0.4/茎幅0.5/同厚0.5/重10/身幅1.3/身厚0.3		有茎尖根鬚箭式。錆化が顕著。片側に錆筋が残る。
40-00032 116	鉄器 刀子	覆土内 部分欠損	残長7.5 身幅1.1	重11/厚身0.2/茎厚0.3		切先側・茎尻側を欠損する。刃縁は研減り、刀身と茎の境が不明瞭。切先側は非常に薄く研がれている。
40-00033 116	鉄器 刀子	覆土内 部分欠損	残長12.0 身幅1.2	茎長6.2/重15/闊幅0.8/身厚0.3		調査後の欠損。丸棟造りか。刀身と闊部の幅が一致していない。別個体の可能性も有る。茎尻が旧欠。
40-00034 116	鉄器 刀子	覆土内 部分欠損	残長13.3 身幅1.1	茎厚0.2/重16/身厚0.3/茎長6.3		切先側は調査後の欠損。刀身に研減りがおぼろげながら認められる。茎尻は旧欠。
40-00035 116	鉄滓	覆土内 部分欠損	長4.5 幅6.6 厚3.0 重55			全体に小孔状を呈する。全体に磁力をよぶ(磁力5)。

第32号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
40-00036 116	鉄器 刀子	覆土内 部分欠損	残長17.3 身幅1.1	茎幅0.8/茎厚0.25/身厚0.3/茎長5.6		切先側は調査後の欠損。刀身に研減りがおぼろげながら認められる。茎は比較的短い。推定長20.2。
40-00037 116	鉄器 刀子	覆土内 部分欠損	残長18.2 身幅1.7	茎幅1.0/茎厚0.25/身厚0.35/茎長9.4		切先側は調査後の欠損。刀身に研減りがおぼろげながら認められる。茎は長い。刀身は研減り刃関が山形。
40-00038 116	鉄器 鏃	覆土内 部分欠損	残長15.1 刃部長5.3	身幅1.3/身厚0.3/茎幅0.5/茎厚0.4		鏃の中央部を欠損する。刃部は筋筋が認められる。茎は捻れている。
40-00039 116	鉄器 刀子	覆土内 部分欠損	残長8.7 身幅1.1	茎幅0.8/茎厚0.25/身厚0.3/茎長7.3		刀身側は調査後の欠損。研減りにより、刃関ぶんが不明瞭。
40-00040 116	鉄器 大刀子か	覆土内 部分欠損	残長13.0 身幅2.5	茎厚0.2以下/重29/身厚0.2/茎長7.6		刀身側は調査後の欠損。重ねは非常に薄く特殊な利器。茎には目抜が認められる。

第33号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00310 116	須恵器 坏	右袖 3/4残	口11.4 高3.7 底6.1	中・粗・鈍黄橙・並・赤粒・黒鈺・透鈺・砂粒		直線的に立ち上がる。器厚は薄い。轆轤左回転成整形、底部は回転糸切り。内面底部の轆轤目強い。
10-00311 116	須恵器 坏	覆土内 一部欠損	口12.1 高4.2 底6.3	中・並・鈍黄橙・軟・赤粒・黒鈺		直線的に立ち上がる。轆轤左回転成整形、底部は回転糸切り。内面底部の轆轤目強い。
10-00312 116・138	土師器 甕	覆土内 1/2残	口22.3 高19.5	酸・粗・鈍黄橙・並・赤粒・黒粒・白粒		「し」の字状口縁。外面の篋切りはササラ状。内面は粘土紐の接合痕が明瞭。
10-00313 116	須恵器 坏	右袖 完形	口11.1 高3.1 底5.7	中・並・鈍黄橙・硬・赤粒・黒鈺・透鈺・白粒		直線的に立ち上がる。器厚は薄い。轆轤左回転成整形、底部は回転糸切り。内面底部の轆轤目強い。
10-00314 116	須恵器 塊	覆土内 ほぼ完形	口14.3 高6.8 高台径8.5	中・並・鈍黄橙・並・赤粒・白微・細砂粒		直線的に立ち上がる。高台は高く、「ハ」の字に開く。轆轤左回転成整形、付高台。器面はざらつく。

第34号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00315 117	須恵器 坏	左袖 3/4残	口(12.1) 高4.1 底6.1	中・並・鈍黄橙・並・黒鈺・白粒・白粒		直線的に立ち上がり口縁部の器厚は薄い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。外面底部に黒斑を確認、器面はざらつく。片岩を多含。
10-00316 117	須恵器 坏	覆土内 1/3残	口(13.3) 高3.7 底(5.8)	還・並・灰白・軟・黒鈺・白粒・白粒		丸みを帯びて立ち上がり、口縁部で弱く外反する。器厚は薄い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。外面に煤の痕跡。
10-00317 117・138	土師器 甕	覆土内 1/2残	口20.0 高20.7	酸・密・橙・並・赤粒・白粒		「コ」の字状口縁。肩部は張る。器厚は薄い。口縁部は横撫で。粘土紐の接合痕が明瞭。
40-00041 117	鉄器 紡錘車	34号住No 2 部分欠損	径5.5 軸残長10.7 軸幅0.5 重37			車輪部正円を呈し、軸棒貫通時の盛り上がりが認められる。軸棒は断面正方形をていする。

第35号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00318 117	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鈺		口縁部に幅広の浅い沈線を巡らす。地文は条線を縦方向に施文する。
10-00319 117	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・鈍橙・白粒・黒鈺		胴部下半の破片。地文は櫛歯状の条線を縦方向に施文する。
10-00320 117	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・橙・白粒・黒鈺		口縁部には2本1組の沈線文で、連弧文を施文する。地文は無節のLの縄文を施文する。
10-00321 117	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒		キャリバー形深鉢の胴部のくびれ部分。地文は櫛歯状の条線を縦方向に施文する。
10-00322 117	縄文土器 深鉢	覆土内 1/2残	口(28.0)	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鈺・小礫・砂粒		口縁部は隆帯とそれに沿った幅広の沈線で文様が施文される。
20-00029 117	石器 凹石	覆土内 完形	長11.5 幅8.6 厚4.7 重700.4	石英閃緑岩		表面に浅い凹部が1ヶ所。表裏面に敲打痕が認められる。表裏面・側面を磨面として使用する。
20-00030 118	石器 石皿	炉内 4/5残	長28.40 幅24.05 厚7.70 重7,741	細粒輝石安山岩		表面は上下両端方向にゆるやかに傾斜する。裏面には複数の凹部と敲打痕が認められる。
20-00031 117	石器 石皿	炉内 4/5残	長32.8 幅19.8 厚9.5 重8,200	細粒輝石安山岩		縁付きで、中央が窪んでおり掻きだし部は認められない。縁と裏面に凹部と敲打痕が認められる。
20-00032 117	石器 凹石	炉内 完形	長19.9 幅19.1 厚9.4 重3,510.9	細粒輝石安山岩		表裏面に複数の凹部が認められる。また敲打痕も表裏面に認められる。

第36号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度量目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00323 118	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.0	酸・並・鈍橙・白粒・黒鈺		平縁の口縁部に波状文を施文する吉井城山類型の土器で、地文は単節 RL の縄文を施文する。
10-00324 118	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鈺		口縁部の破片で、口縁部に沈線を巡らす。地文は単節 RL の縄文である。
10-00325 118	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚2.4	酸・並・明褐・白粒・黒鈺・砂粒・小礫		キャリバー形の深鉢で、幅広で浅い沈線によって、楕円区画文を施文している。
10-00326 118	縄文土器 深鉢	覆土内 2/3残	口(22.6) 厚1.0	酸・並・橙・白粒・白鈺・黒鈺		平縁の口縁部に波状文を施文する吉井城山類型の土器で、地文は単節 RL の縄文を施文する。
10-00327 118	縄文土器 深鉢	覆土内 1/4残	厚0.9	酸・硬・橙・白粒・透鈺・黒鈺		キャリバー形深鉢。胴部には沈線による懸垂文が垂下される。口縁部は隆帯を施文する。
20-00033 118	石器 打製石斧	覆土内 完形	長16.6 幅5.9 厚2.4 重206.8	黒色頁岩		横長の大型剥片を使用したもので、基部先端に礫面が残る。調整は最小限にとどめている。
20-00034 118	石器 打製石斧	覆土内 2/3残	長10.7 幅5.4 厚1.6 重118.8	細粒輝石安山岩		基部と刃部の両端を欠損するもので、表面に礫面を残す。風化が著しい。

富田下大日遺跡 諸元

第36号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
20-00035 118	打製石器 削器	覆土内 完形	長7.45 幅6.15 厚1.55 重76.1	黒色頁岩		素材となる剥片の周縁に、簡単な調整を加えたのみで使用しているものである。
20-00036 118	石器 台石	覆土内	長20.85 幅19.4 厚15.5 重8,600	粗粒輝石安山岩		表面には擦痕、敲打痕、凹部が認められる。
20-00037 118	石器 台石	炉内 完形	長31.7 幅19.1 厚13.2 重10,800	粗粒輝石安山岩		表面には擦痕が残る。裏面は凹石として使用している。

第37号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00328 119	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・鈍橙・白粒・黒鉄		口縁部の破片で、無文部分である。
10-00329 119	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鉄		胴部には沈線によって縦位の懸垂文が施文される。
10-00330 119	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.8	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鉄		波状文口縁で、2本1組の磨消沈線で逆U字状に胴部に施文する。
10-00331 119	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.0	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鉄		波状口縁で、沈線を巡らして口縁部を区画する。沈線下には縦位に区画された懸垂文を施文する。
10-00332 119	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.3	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉄・砂粒・透鉄		波状文口縁で、2本1組の磨消沈線で逆U字状に胴部に施文する。
10-00333 119	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉄		口縁部の破片で、地文は条線がごく浅く施文される。
10-00334 119	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.0	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉄		沈線を胴部に垂下させる。地文は条線である。
10-00335 119	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.3	酸・並・橙・白粒・黒鉄・砂粒		浅鉢の屈曲する部分で、口縁部には条線によって文様が施文される。
10-00336 119	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・橙・白粒・黒鉄・砂粒		胴部の破片で沈線に近い条線が地文として施文されている。
10-00337 119	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.3	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鉄・砂粒		胴部の破片で2本1組の磨消沈線で、懸垂文を複数施文する。
10-00338 119	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.4	酸・並・鈍橙		底部の破片。
10-00339 119	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	口(15.5)	酸・硬・鈍黄橙・白粒・小礫		平縁で無文の口縁部で、沈線文を胴部との区画に巡らす。胴部は単節 RL の縄文の地文のみ施文する。
10-00340 120	縄文土器 深鉢	覆土内 1/3残	口(30.2)	酸・並・明赤褐色・白粒・黒鉄 3mm 大小礫・砂粒		口縁部は変形した楕円区画から端部を渦巻きにする文様を4単位入れ子状に施文する。
10-00341 119	縄文土器 深鉢	覆土内 1/2残	口28.0	酸・並(全体に風化)・鈍黄橙・白粒・ 黒鉄・砂粒・小石		口縁部には楕円状の区画の先端に渦巻きをつけた文様を4単位施文する。胴部文様は直線2本の間に蕨手文の3本1組の懸垂文を8単位施文する。
10-00342 119	縄文土器 深鉢	覆土内 1/2残	口(26.0) 底(3.0)	酸・硬・鈍黄橙		口縁部には楕円状の区画の先端に渦巻きをつけた文様を4単位施文する。胴部には2本1組の沈線文が8単位施文される。
10-00343 119	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	口(35.6)	酸・並・橙・白粒・黒鉄・3~5mm 大小礫		口縁部は隆帯で渦巻き文を4単位貼付し、幅広い沈線でなぞる。
10-00344 119	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.4	酸・並・鈍黄橙・白粒・白鉄・砂粒		キャリパー形深鉢の口縁部の破片で、2本1組の隆帯を施文している。
10-00345 119	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.7	酸・並・鈍橙・白粒・黒鉄		胴部の破片。地文は条線を曲線的に縦方向に施文する。
10-00346 119	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・黒褐・白粒・白鉄		胴部の無文部分の破片である。
10-00347 119	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.4	酸・並・黒褐・白粒・黒鉄		楕円状の条線を地文とする。
20-00038 120	石器 石鏃	覆土内 完形	長3.35 幅1.9 厚0.3 重1.7	黒色安山岩		無茎平根三角形抉式。
20-00039 120	石器 剥片	覆土内 完形	長8.6 幅4.9 厚2.2 重73.4	黒色頁岩		素材となる剥片の鋭い縁辺部分をそのまま使用したもので、刃こぼれ状の痕跡が認められる。
20-00040 120	石器 剥片	覆土内 完形	長5.7 幅8.8 厚1.9 重74.7	黒色頁岩		素材となる剥片の鋭い縁辺部分をそのまま使用したもので、刃こぼれ状の痕跡が認められる。
20-00041 120	石器 打製石斧	覆土内 完形	長13.4 幅5.1 厚1.75 重139.7	細粒輝石安山岩		基部の端部を欠損するもので、刃部に最大幅を持つ。刃部は直刃である。
20-00042 120	石器 磨石	覆土内 1/2残	長5.8 幅6.4 厚4.8 重180.0	粗粒輝石安山岩		球状に近いもので全体を磨面として使用している。
20-00043 120	石器 石皿	覆土内 1/4残	長15.5 幅11.7 厚9.8 重1,819	粗粒輝石安山岩		縁付きのもので、裏面には凹部複数と、敲打痕が認められる。
20-00044 120	石器 台石	炉内 ほぼ完形	長28.05 幅19.45 厚14.60 重10,200	かこう岩		表裏面を磨面として使用している。

第38号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00348 121	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒		波状口縁で狭い無文部を沈線を巡らして作り出す。胴部には逆U字文を施文する。
10-00349 121	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・浅黄・白粒・黒粒		波状口縁で蕨手文、逆U字文の懸垂文を沈線で施文する。
10-00350 121	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・白粒・赤粒・黒粒		胴部下半の破片で、間を磨り消す2本1組の沈線を垂下させる。
10-00351 121	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.8	酸・並・鈍黄橙・黒粒・黒鉄		胴部の破片で、地文は無節Rの縄文を施文する。
10-00352 120	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	口(26.6)	酸・硬・鈍黄橙・白粒・小礫(径2mm)・黒粒		波状口縁で4単位と考えられる。口縁部の文様は楕円区画と波頂下で渦巻き文様を入れ子状に4単位施文する。

第38号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00353 121	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・鈍黄橙・白粒・透鉢・黒鉢	胴部に2本1組の沈線を垂下させる。沈線間は磨り消さない。地文は単節RLの縄文を施文する。	
10-00354 121	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉢	胴上部で屈曲するもので、上部は隆帯で区画し内側に縄文を施文する。下部は地文条線を施文する。	
10-00355 120	縄文土器 深鉢	覆土内 1/4残	厚1.0	酸・硬・鈍黄橙・白粒・黒鉢	底部と胴上半の1部残存。地文はLと1の縄を合わせさらにそれを撚り合わせた前々段合撚りの縄文を施文する。	
10-00356 121	縄文土器 鉢	覆土内 破片	厚1.5	酸・並・浅黄橙・赤粒・黒鉢・白粒	地文のみ施文する。地文は条線を縦方向に施文する。	
10-00357 121	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鉢	口縁は外反し無文となる。胴部とは隆帯で区画する。隆帯の両側は撫で付けられる。	
10-00358 121	縄文土器 鉢	覆土内 破片	厚1.4	酸・並・浅黄橙・赤粒・黒鉢・白粒	胴部下半の破片。7+αを一単位とする条痕文を縦位に施文する。施文具の一単位の幅は広い。	
10-00359 121	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鉢	胴部下半の破片。7+αを一単位とする条痕文を縦位に施文する。	
10-00360 121	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鉢	胴部下半の破片。7+αを一単位とする条痕文を縦位に施文する。	
20-00045 120	石器 剥片	覆土内 完形	長4.5 幅6.7 厚1.05 重29.5	黒色頁岩	剥片の鋭い縁辺に使用によるものと考えられる、刃こぼれ状の痕跡が確認できる。	
20-00046 120	石器 打製石斧	覆土内 4/5残	長13.55 幅5.1 厚2.2 重139.2	灰色安山岩	右側縁の1部欠損。全体的に粗雑なつくり。	
20-00047 120	石器 打製石斧	覆土内 完形	長16.0 幅5.95 厚2.25 重260.3	粗粒輝石安山岩	刃部に最大幅を持つもので、表面に原礫面を残す。	
20-00048 120	石器 打製石斧	覆土内 1/3残	長5.9 幅5.8 厚1.6 重66.4	黒色頁岩	刃部のみが残存。	
20-00049 120	石器 石皿	覆土内 1/4残	長20.7 幅16.7 厚9.3 重2,321.2	粗粒輝石安山岩	縁付きのもので、中央付近は使用のため器厚が薄くなっている。裏面は深い凹部を複数作り出す。	
20-00050 120	石器 磨石	覆土内 完形	長5.9 幅9.1 厚3.3 重256.1	粗粒輝石安山岩	表裏面と側面に磨面をもつ。	
20-00051 121	石器 凹石	覆土内 1/2残	長25.5 幅15.7 厚11.1 重4586.7	粗粒輝石安山岩	表面の平らな部分に凹部が複数認められる。裏面は平らに割られ、凹部を複数作り出す。	
20-00052 121	石器 台石	覆土内 完形	長26.15 幅23.20 厚14.20 重8,018	粗粒輝石安山岩	表面には複数の凹部と敲打痕が認められる。裏面にはまばらに凹部が認められる。	
20-00053	石器 台石	覆土内	長33.1 幅22.8 厚16.2 重13,600	粗粒輝石安山岩	表裏面に複数の凹部と敲打痕が認められる。	
20-00054	石器 台石	覆土内	長34.45 幅29.95 厚28.20 重33,000	粗粒輝石安山岩	表面の破損されていない部分に、磨面として使用された部分が残る。	

第39号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00361	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.8	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒・黒鉢	平縁の口縁部で、口縁部からやや丸みを帯び、直線的に底部に至る器形で口縁部には隆帯と沈線によって文様が施文される。	
10-00362						
10-00363						
10-00364	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.5	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鉢・透鉢	口縁部の破片で、端部が渦巻く区画文を隆帯と沈線せ施文する。	
10-00365	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.9	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒鉢・赤粒	口縁部の破片で、楕円区画文などを隆帯と沈線で施文する。	
10-00366	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.6	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒・黒鉢・小礫	口縁部の破片で、端部が渦巻く区画文を隆帯と沈線せ施文する。胴部には2本1組の沈線を垂下させる。	
10-00367 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・橙・白粒・透鉢・3~5mm 大小礫	口縁部の端部に列点文を施文する。	
10-00368 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・灰褐・白粒・黒鉢・砂粒	口縁部は無文で、沈線によって区画し、沈線内には列点を施文する。	
10-00369 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.0	酸・並・灰褐・白粒・黒粒・黒鉢	口縁部は無文で、沈線によって区画する。	
10-00370	縄文土器 壺	覆土内 破片	厚2.0	酸・並・暗灰黄・白粒・黒鉢・2~3 mm大小礫	口縁部が直立し、肩部を作り出している。	
10-00371 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.8	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・小礫	胴上部に波状区画文を施文する。	
10-00372 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒	胴上部に波状区画文を施文する。10-00375と同一個体	
10-00375 122						
10-00373 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鉢・透鉢・砂粒・小礫	口縁部から底部にかけて直線的にいたる器形で、隆帯によって胴部に文様を施文する。	
10-00374	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・橙・白粒・黒粒・砂粒・2 ~3mm大小礫	ごく浅いなぞり状の沈線で文様を施文する。	
10-00376	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉢・透鉢	小型のもので、胴部くびれ部分の破片である。	
10-00377	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒鉢・砂粒	胴部の破片で、ごく浅いなぞり状の2本1組の沈線文を垂下させる。	
10-00378 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒鉢	胴部の破片で、ごく浅いなぞり状の2本1組の沈線文を垂下させる。	
10-00379 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.5	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒鉢・砂粒	胴部の破片で、2本1組と3本1組の間を磨り消す沈線を施文する。	
10-00380 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	口(40.0)	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉢・透鉢	口縁部は幅広いなぞり状の沈線で、両端部を楕円状に巻く文様を入れ子状に施文する。	

第39号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00381 121	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	口(18.0)	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉄・砂粒・ 3～5mm大小礫	口縁部に4箇所小突起を持つ。口縁部文様は小突起下に渦 巻き文を配し、その間に楕円形の区画を施文する。	
10-00382 122	縄文土器 深鉢	覆土内 2/3残	厚1.4	酸・白粒・赤褐色粒・黒鉄	口縁と底部は欠損する。胴部には3本1組の沈線文を垂下 させる。地文は単節RLの縄文を施文する。	
10-00383 121	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	口(16.6)	酸・並・鈍黄橙	波状口縁で口縁に沿って沈線を施し、波頂部分で渦巻き文 を施す。胴上部には波状沈線文を施文する。	
10-00384 122	縄文土器 深鉢	覆土内 底部破片	厚0.8 底4.9	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉄・砂粒	胴下部から底部の破片。胴部には3本1組の沈線を垂下さ せる。	
10-00385 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	底(6.6)	酸・並・橙・白粒・黒鉄・砂粒	底部と胴下部の破片。地文は単節RLの縄文を施文する。	
10-00386 122	縄文土器 両耳壺	覆土内 1/3残	厚1.2	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉄・黒鉄・ 2～3mm大小礫	口縁は大きく屈曲し、段をつけ胴部にいたる。胴部には楕 円状の条線を地文として施文する。	
20-00055 123	石器 楔形石器	覆土内 完形	長7.5 幅6.1 厚2.1 重106.0	黒色頁岩	上下両方向から調整を行っている。表面に原礫面を残す。	
20-00056 123	石器 打製石斧	覆土内 完形	長11.3 幅4.15 厚1.4 重83.3	黒色頁岩	表面に大きく原礫面を残すもので、刃部に擦痕が認められ る。	
20-00057 123	石器 磨石	覆土内 完形	長6.75 幅4.05 厚2.05 重90.6	輝緑石	板状のもので、表裏面を磨面として使用している。	
20-00058 123	石器 凹石	覆土内 ほぼ完形	長11.35 幅6.55 厚4.7 重425.0	粗粒輝石安山岩	裏面に2箇所凹部を持つ。両面に敲打痕があり、表裏面は 磨面としても使用される。	
20-00059	石器 凹石	覆土内 完形	長62.5 幅33.0 厚14.3 重24,000	粗粒輝石安山岩	表面に凹部を持つ。大型のもので台石として使用されてい たとも考えられる。	
20-00060 122	石器 石棒	覆土内 破片	長30.9 幅9.85 厚5.9 重1,515.2	緑色片岩	被熱のため細かく砕けている。裏面は剥落している。棒状 であるが、加工の痕跡は不明。	

第40号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00387 123	土師器 手づくね	覆土内 完形	口3.8 高2.2	酸・並・橙・並・赤粒・白微・細砂 粒	丸底。器厚は厚い。指頭痕が全面に認められる。	
10-00388	土師器 環	覆土内 破片	口(12.0) 高5.0・底 (7.2)	酸・並・黄灰・並・白微	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部は横 撫で。	
10-00389 123	土師器 小型甕	覆土内 破片	口(14.8) 高3.3	酸・並・黒海・硬・白微	口縁部片。外反する。器厚は厚いが、先細りする。横撫で 整形。	
10-00390	土師器 甕	右袖 破片	口(22.0) 高4.0	酸・密・灰黄・並・白微	口縁部片。器厚はやや厚い。横撫で整形。	
10-00391	土師器 甕	覆土内 破片	高4.2 底(7.6)	中・粗・暗灰黄・硬・黒鉄・細砂粒	器厚は底部で厚く、胴部は薄い。底部外面は未調整。粘土 紐の接合痕が明瞭。	
10-00392	須恵器 足高台	覆土内 破片	高2.6 底(9.7)	中・並・鈍黄橙・並・白微・白粒・ 細砂粒	高台片。「ハ」の字に開く。	
10-00393	須恵器 塊	覆土内 破片	口(16.5) 高3.4	中・並・鈍黄橙・硬・白微	直線的に開く。器厚は均質。軸轆右回転成整形。	
40-00042 123	鉄器 鏃	覆土内 部分欠損	残長6.3 幅3.9 重0.2 重12		有茎平根三角形腹伏式。左腹伏を欠損。寛背部から茎部を 欠損している。	
40-00043 123	鉄器 鋸先	40号住居土 内破片	残長13.8 幅2.9 厚1.5 重80		側部及び上端側の破片。直線部分が非常に長いことから、 21号住の類例より遙かに大きい個体である。	
40-00044	鉄滓	40号住居土 内完形	長4.6 幅4.6 厚2.7 重39		最も小さい鉄滓大きさに含まれる。全体に磁力は少ない(磁 力5)。	

第41号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00394 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鉄・黒鉄	平縁の口縁部の破片。波状沈線区画文を施文する。	
10-00395 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚10.16	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鉄・透鉄・ 2～3mm大小礫	平縁の口縁部の破片。波状沈線区画文を施文する。	
10-00396 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.4	酸・並・鈍鉄・白粒・黒鉄・黒鉄・ 1～2mm大小礫	平縁の口縁部の破片。波状沈線区画文を施文する。	
10-00397 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚11.96	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鉄	平縁の口縁部の破片。波状沈線区画文を施文する。	
10-00398 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚11.24	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉄・黒鉄・ 2mm大小礫	平縁の口縁部の破片。波状沈線区画文を施文する。	
10-00399 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.4	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鉄	波状口縁部の破片。胴部には沈線によって逆U字文を施文 する。	
10-00400 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉄・砂粒	波状口縁部の破片。口縁部は沈線を巡らして区画し、胴部 に沈線によって文様を施文する。	
10-00401 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉄・黒鉄・ 1～2mm大小礫	波状口縁部の破片。隆帯と沈線によって文様を施文する。	
10-00402 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.7	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉄・2～3 mm大小礫	隆帯と沈線によって区画文が施文され、区画内は条線を施 文する。	
10-00403 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚18.85	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉄・黒鉄・ 砂粒・2～3mm大小礫	頸部の破片で、口縁部は隆帯と沈線によって楕円区画文が 施文される。	
10-00404 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚10.92	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鉄・黒鉄・ 赤粒・2～3mm大小礫	波状沈線区画文を施文する土器の胴部くびれ部分。	
10-00405 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚16.49	酸・並・浅黄橙・白粒・黒鉄・黒鉄	頸部の破片で、口縁部は隆帯と沈線によって文様が施文さ れ、胴部は間が広い2本1組の沈線文を施文する。	
10-00406 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚15.58	酸・並・黄橙・白粒・黒鉄・砂粒・ 2～3mm大小礫	2本1組の間を磨り消す沈線を垂下させる。地文は条線を 施文する。	

第41号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00407 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚14.59	酸・並・鈍橙・白粒・黒粒・黒鈺3 ～5mm大小礫	2本2組の間を磨り消す沈線を垂下させる。地文は条線を 施文する。	
10-00408 124	縄文土器 深鉢	覆土内 一部欠損	□37.5 底9.0	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒鈺・ 砂粒・1～2mm大小礫	底部から開き口縁部でやや内湾。口縁部に7単位の波状文 を施文。胴部は逆U字文と2本又は3本1組の垂下する沈 線を施文。	
10-00409 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	□(11.5)	酸・良・明黄褐色・砂粒・白粒・黒 鈺	4単位の波状口縁で胴下半は欠損する。口縁部には端部が 渦巻く三日月状の区画文を4単位施文する。	
10-00410 124	縄文土器 深鉢	覆土内 2/3残	厚0.9	酸・並・橙	開く口縁部から頸部でくびれ、やや丸みをもって底部にい たる。胴部には縦手文や逆U字文を施文する。地文は口縁 部は条線、胴部は単筋RLの縄文を施文する。	
20-00061	石器 石錐	表土 ほぼ完形	長4.3 幅3.5 厚0.6 重7.8	黒色頁岩	つまみ部を作り出すもので、刃部の先端を欠損する。	
20-00062 124	打製石器 削器	表土 1/2残	長6.95 幅5.4 厚2.75 重111.2	黒色頁岩	刃部を欠損する。表面に原礫面が大きく残る。	
20-00063 124	石器 打製石斧	覆土内 1/2残	長7.4 幅5.8 厚1.75 重0.5	黒色頁岩	基部のみが残存するもので、表面に原礫面が残る。	
20-00064 124	石器 打製石斧	表土 一部欠損	長12.6 幅4.8 厚1.7 重116.3	黒色頁岩	刃部は丸刃で、左側縁部は浅く内湾する。刃部に擦痕が認 められる。	
20-00065 124	石器 打製石斧	覆土内 2/3残	長8.7 幅4.45 厚1.6 重85.5	黒色頁岩	刃部に最大幅を持つもので、側縁部は直線的に開く。	
20-00066 124	石器 打製石斧	表土 1/2残	長7.9 幅5.15 厚2.7 重146.5	細粒輝石安山岩	表面に原礫面を残すもので、刃部は欠損する。	
20-00067 124	石器 打製石斧	表土 3/5残	長9.0 幅3.35 厚1.8 重57.3	黒色頁岩	刃部に最大幅を持つもので、刃部先端、左側縁を欠損する。	
20-00068 124	石器 打製石斧	表土 2/5残	長7.35 幅4.8 厚1.4 重52.5	灰色安山岩	刃部に最大幅を持つもので、側縁部は直線的に開く。器面 の剥落著しい。	
20-00069 124	石器 磨製石斧	覆土内 1/2残	長9.0 幅5.2 厚2.8 重227.4	変玄武岩	定角式のもので、丁寧に研磨がなされている。器面の剥落 は著しい。	
20-00070 124	石器 凹石	表土 完形	長8.5 幅7.9 厚6.2 重511.5	細粒輝石安山岩	表裏面に複数の凹部を持つ。側縁と表面には敲打痕が認め られ、左側縁は磨面としても使用されている。	
20-00071 124	石器 磨石	表土 3/5残	長8.55 幅7.35 厚3.8 重331.4	粗粒輝石安山岩	表裏面を磨面として使用している。	
20-00072 124	石器 磨石	表土 完形	長10.75 幅6.8 厚5.1 重422.6	変質安山岩	表裏面と側面を磨面として使用している。	
20-00073 124	石器 磨石	覆土内 完形	長16.0 幅13.1 厚6.55 重1,898.9	粗粒輝石安山岩	表裏面と左側面を磨面として使用している。側縁の一部に 敲打痕が認められる。	
20-00074 124	石器 凹石	覆土内 一部欠損	長24.60 幅18.85 厚12.05 重5,346	粗粒輝石安山岩	表裏面、側面に多量の凹部を持つ。	
20-00075 124	石器 砥石	覆土内 完形	長15.4 幅19.05 厚9.7 重3,227.7	粗粒輝石安山岩	線条痕や擦痕が多くみられる。	

第42号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00411 125	須恵器 埴	燃焼部 完形	□11.5 高5.6 底径6.5	中・並・鈍黄橙・並・赤粒・白微	丸みを帯びて立ち上がる。立ち上がりから口唇部まで厚さ は均質。軸轆右回転成整形、付高台。高台は外反する。重 量感がある。	

第44号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00412	土師器 坏	覆土内 1/4残	□(12.6) 高4.1	酸・並・明赤褐・硬・赤粒・黒鈺・ 白微	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は弱く外反する。器厚は 薄い。体部外面に墨書。	墨書-22
10-00413 125	須恵器 埴	覆土内 1/3残	□(14.7) 高4.7 底6.5	中・密・灰黄褐・並・白微・細砂粒	体部下半に腰を持ち、口縁部は外反する。器厚は薄い。軸 轆右回転成整形、付高台。	

第43号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00414 125	土師器 三足鍋	覆土内 1/2残	□18.7 高16.0	酸・密・鈍黄橙・被熱部分黒褐・硬・ 赤粒・黒鈺・透鈺	脚部は1本残存し体部は直立。器厚はやや厚い。脚部は太く 撫で調整。接合部にはカキヤブリが見られ外面に煤が付着。	
40-00045 125	鉄滓	43号住 覆土内	長13.0 幅13.9 厚9.2 重2,001		調査後クラック状に割れている。全体に若干磁力を呼ぶ(磁 力5)。	

第45号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00415 125	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	□10.7 高4.5	酸・並・橙・並・黒鈺・透鈺・白粒	丸底、口縁部は短く直立。器厚は厚く、口唇部は尖り気味 で横撫で、内面は丁寧な撫で。斑点状の剝離が認められる。	
10-00416 125	土師器 坏	覆土内 完形	□12.4 高4.9	酸・密・橙・硬・白粒	丸底、口縁部は僅かに外傾する。器厚は薄い。口縁部は横 撫で。丁寧なつくり。	
10-00417	土師器 坏	覆土内 破片	高3.4	酸・並・橙・並・赤粒・黒鈺・白粒	口唇部は尖る。内面に放射状暗文を施す。口縁部は横撫で。	
10-00418 125	土師器 高坏	覆土内 1/4残	□(14.1) 高5.2	酸・密・明赤褐・硬・赤粒・黒鈺・ 透鈺	口縁部は直線的に開く。器厚は均質。内面に放射状暗文を 施す。	
10-00419 125	土師器 台付甕	覆土内 ほぼ完形	□12.4 高13.8 底9.4	酸・密・鈍黄橙・硬・赤粒・黒鈺・ 透鈺・粗粒砂	胴部は丸みが強く、口縁部は直立する。脚部は外反する。 器厚は下半で厚く、上半は薄い。硬質で、粗雑なつくり。	
10-00420 125	土師器 小型甕	覆土内 完形	□11.4 高11.3 底4.3	酸・並・鈍黄橙・硬・黒鈺・透鈺・ 白粒・粗粒砂	胴部は丸みを帯び、口縁部は直線的に開く。胴部の器厚は 非常に厚く、口縁部は先細りし横撫で、外面は丁寧な撫で。	

第45号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00421 125	土師器 小型甕	覆土内 完形	口15.0 高17.2 底5.8	酸・並・鈍黄橙・並・黒鈹・透鈹・粗粒砂・軽石粒	胴部の丸みは強く、口縁部は外反する。器厚は厚くほぼ均質。口縁部は横撫で、底部外面は篋削りを施す。	
10-00422 125	土師器 甕	覆土内 2/3残	口14.2 高15.3	酸・粗・鈍黄橙・硬・黒鈹・透鈹・砂粒・軽石粒	胴部の丸みは強く、口縁部は外反する。底部は丸底か。器厚は厚い。口縁部は横撫で。	
10-00423 125	土師器 甕	覆土内 2/3残	口(17.8) 高21.4 底7.4 胴最16.6	酸・並・鈍黄橙・並・黒鈹・透鈹・白粒	胴部はやや丸みを帯び、口縁部は外反する。器厚は厚い。口縁部は横撫で、底部外面は篋削りを施す。	
10-00424 126	土師器 甕	覆土内 4/5残	口(18.9) 長35.7 胴最22.0 底5.0	酸・密・暗灰黄・並・砂粒・白粒	胴部中位に最大径を持ち、口縁部は外反する。器厚は厚い。口縁部は横撫で。胴部外面に粘土が付着。	
10-00425 125	土師器 甕	覆土内 1/4残	口16.5 高7.6	酸・粗・淡黄・軟・黒鈹・透鈹・白粒・軽石粒	口縁部は外反する。器厚は厚い。口縁部は横撫で。	
10-00426 126	土師器 甕	覆土内 4/5残	高29. 胴最21.7 底7.0	酸・並・黄褐・並・砂粒・白粒	胴部中位に最大径を持つ。底部の器厚は厚く、胴部上半は薄い。胴部外面に黒斑が認められる。	
10-00427 126	土師器 壺	覆土内 ほぼ完形	口(22.6) 高33.5 胴最29.8 底7.4	酸・粗・橙・並・赤粒・岩片・砂粒	胴部は球形、口縁部は外反し、下位に段を持つ。器厚はほぼ均質。口縁部は横撫で、胴部外面は丁寧な篋削り。内面は摩滅しざらつく。胴部中位に焼成後穿孔。	
10-00428 127	土師器 甕	覆土内 4/5残	口19.1 高29.8 胴最19.7	酸・硬・鈍橙・並・黒鈹・軽石粒	胴部に最大径を持ち、口縁部は外反し横撫で。器厚は厚く、胴部は内外面に刷毛目を施す。胴部下半に焼成後の穿孔。	
10-00429 127	土師器 甕	ほぼ完形	口24.2 高28.8 底9.0	酸・並・橙・硬・黒粒	胴部の丸みは弱く口縁部は外反し横撫で。器厚は厚く均質で、内外面に丁寧な研磨を施す。外面に黒斑が認められる。	
10-00430 125	須恵器 蓋	覆土内 1/2残	口(15.1) 高5.9	還・密・灰・硬	丸みを帯び、天井部と口縁部の境に稜を持つ。口唇部に沈線を持ち天井部の器厚は非常に厚い。轆轤左回転成整形、天井部は回転篋削り。	
20-00076 125	石器	覆土内 完形	長14.75 幅6.8 厚4.8 重612	ひん岩	器面風化のため、剥落している。	
20-00077 125	石器	覆土内 完形	長14.70 幅7.30 厚4.75 重705	ひん岩	表裏面と右側面に平坦面が認められる。	

第46号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00431 127	土師器 環	覆土内 破片	口(10.4) 高4.0	酸・密・橙・硬	口縁部はやや外傾して立ち上がる。器厚は薄い。外面に稜を持つ。器面は粉っぽい。	
10-00432 127	土師器 環	覆土内 破片	口(12.0) 高4.9	酸・粗・鈍黄褐・硬・黒鈹・透鈹・砂粒	体部は丸みを帯び、口縁部は外反する。体部は篋撫で、口縁部は横撫で。	
10-00433 127	土師器 甕	覆土内 破片	口(18.8) 高15.2	酸・粗・鈍黄・硬・黒鈹	口縁部は大きく外反する。口縁部は横撫で。	
10-00434 127	土師器 高環	覆土内 破片	高5.1 脚径(10.0)	酸・密・橙・硬・赤粒	脚部は外反して開く。環部の器厚は厚い。胎土は粉っぽくきめ細かい。	
10-00435 127	土師器 壺	覆土内 破片	口(12.9) 高3.6	酸・粗・明赤褐・硬・黒鈹・透鈹・粗粒砂	外反し、口唇部外面は面をもつ。外面は縦方向の細かい研磨を施す。	
10-00436 127	土師器 甕	覆土内 破片	高7.8 底9.2	酸・並・鈍黄橙・軟・黒鈹・透鈹・軽石粒	器厚は均質。孔は大きい。底部外面下端は横篋削り、内面は横撫で。	

第47号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00437 127	縄文土器 深鉢	覆土内	口20.0 底6.0	酸・硬・明赤褐・白微・黒鈹・白粒	口縁部に4単位の櫛間文を施文、文様間は波状沈線文を施文。胴部は2本1組の磨り消し沈線文を8単位垂下させる。	
10-00438 127	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚12.52	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒鈹・1~2mm大小礫	波状口縁部の破片で、沈線によって櫛間文を施文する。	
10-00439 127	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚16.69	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒鈹・1~2mm大小礫	口縁部の破片で、隆帯と沈線によって文様を施文する。	
10-00440 127	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚16.62	酸・並・鈍黄橙・白粒・白鈹・黒鈹・2~3mm大小礫	口縁部の破片で、隆帯と沈線によって文様を施文する。	
10-00441 127	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚9.10	酸・並・黄橙・白粒・黒鈹・砂粒	胴部のくびれ部分の破片で、沈線によって文様が施文される。	
10-00442 127	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚8.03	酸・並・明黄橙・白粒・黒粒・黒鈹・砂粒	地文に櫛間状の条線を施文している。	
10-00443 127	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚13.34	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒鈹・2mm大小礫	胴部の破片で、沈線によって文様が施文される。	
10-00444 127	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚14.66	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒・黒鈹	胴部の破片で、3本1組の間を磨り消し沈線文を垂下させる。	
10-00445 127	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚14.23	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鈹・透鈹・砂粒	胴部の破片で、2本1組の間を磨り消し沈線文を垂下させる。	
20-00078 128	打製石器 削器	覆土内 完形	長5.3 幅5.6 厚1.0 重29.8	黒色頁岩	削片の鋭い縁辺をそのまま利用していたものと考えられる。	
20-00079 128	石器 攪器	覆土内 完形	長5.9 幅6.8 厚1.35 重59.9	長黒色頁岩	削片の鋭い縁辺をそのまま利用していた物と考えられ、また突起部分は石錐としても利用していたと考えられる。	
20-00080 128	石器 打製石斧	覆土内 1/2残	長4.35 幅4.05 厚1.3 重30.2	珪質頁岩	破損した刃部を再加工しており、くさびなどに転用していたと考えられる。	
20-00081 128	石器 打製石斧	覆土内 4/5残	長11.8 幅4.65 厚1.7 重80.7	黒色頁岩	刃部に最大幅を持つもので、裏面は剥落が著しい。	
20-00082 128	石器 打製石斧	覆土内 1/2残	長6.65 幅4.6 厚2.25 重74.5	黒色頁岩	基部の破片である。	
20-00083 128	石器 磨石	覆土内 完形	長5.3 幅4.7 厚3.4 重94.0	粗粒輝石安山岩	肉厚なもので、表裏面を磨面として使用している。	
20-00084 128	石器 磨石	覆土内 完形	長6.05 幅5.45 厚3.35 重143.0	粗粒輝石安山岩	肉厚なもので、表裏面を磨面として使用している。	
20-00085 128	石器 磨石	覆土内 完形	長13.6 幅8.0 厚3.9 重689.2	粗粒輝石安山岩	板状のもので、表裏面を磨面として使用。両面中央部には敲打痕が認められる。	

第47号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
20-00086 128	石器 凹石	覆土内 完形	長21.65 幅14.75 厚11.3 重4,282	粗粒輝石安山岩	肉厚なもので、表裏面に1箇所ずつ凹部が認められる。また表面は磨面としても使用している。	
20-00087	石器 凹石	覆土内 完形	長16.6 幅15.25 厚9.3 重2,580.7	石英斑岩	表面に2箇所凹部が認められる。表裏面は磨面としても使用されている。	

第48号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00446 128	縄文土器 深鉢	4/5残	口11.0	酸・硬・橙・繊維含む・白粒・黒粒	口縁部は側面瓦痕文(RとLの条)を施文、胴部は0段多条を施文する。	
10-00447 128	縄文土器 深鉢	破片 (底部)	厚1.2	酸・硬・鈍黄橙・繊維含む・白粒・黒粒	尖頭上の底部の破片で、地文は0段多条RLの縄文を施文している。	
10-00448 128	縄文土器 深鉢	破片	厚0.9	酸・並・橙・白粒・黒粒・黒粒・透 鉢	胴部の破片で、地文は0段多条RLの縄文を施文している。	
10-00449 128	縄文土器 深鉢	破片	厚1.5	酸・並・橙・白粒・黒粒・黒粒・透 鉢	尖頭上の底部の破片で、地文は0段多条RLの縄文を施文している。	
10-00450 128	縄文土器 深鉢	破片	厚1.1	酸・並・鈍橙・白粒・黒粒・透鉢	胴部の破片で、地文は0段多条RLの縄文を施文している。	
10-00451 128	縄文土器 深鉢	破片	厚1.1	酸・並・鈍橙・白粒・黒粒・透鉢	胴部の破片で、地文は0段多条RLの縄文を施文している。	
10-00452 128	縄文土器 深鉢	破片	厚1.3	酸・並・橙・白粒・黒粒	胴部の破片で、地文は0段多条RLの縄文を施文している。	
10-00453 128	縄文土器 深鉢	破片	厚0.9	酸・並・鈍橙・白粒・黒粒・1mm大 小礫	胴部の破片で、地文は0段多条RLの縄文を施文している。	
10-00454 128	縄文土器 深鉢	破片	厚1.0	酸・並・鈍橙・白粒・黒粒・黒粒・透 鉢	胴部の破片で、地文は0段多条RLの縄文を施文している。	
10-00455 128	縄文土器 深鉢	破片	厚1.0	酸・並・鈍橙・白粒・黒粒	胴部の破片で、地文は0段多条RLの縄文を施文している。	
10-00456 128	縄文土器 深鉢	破片	厚1.2	酸・並・鈍橙・白粒・白粒・黒粒	胴部の破片で、地文は0段多条RLの縄文を施文している。	
10-00457 128	縄文土器 深鉢	破片	厚1.0	酸・並・鈍橙・白粒・黒粒・黒粒・ 1mm大小礫	胴部の破片で、地文は0段多条RLの縄文を施文している。	
20-00088 129	石器 石鏃	覆土内 完形	長4.1 幅2.4 厚0.75 重6.3	黒色頁岩	無茎長平根三角形	
20-00089 129	石器 搔器	覆土内 完形	長2.0 幅2.7 厚0.5 重2.3	珪質頁岩	裏面に大きく1次剝離面を残すもので、加工は最小限である。	
20-00090 128	石器 搔器	覆土内 完形	長6.4 幅3.1 厚0.75 重13.9	黒色頁岩	剥片の鋭い縁辺部をそのまま利用して使用したものである。	
20-00091 129	石器 搔器	覆土内 完形	長2.6 幅4.8 厚0.85 重9.4	珪質頁岩	裏面に大きく1次剝離面を残すもので、加工は最小限である。	
20-00092 128	石器 搔器	覆土内 完形	長8.4 幅5.4 厚1.7 重51.0	黒色頁岩	裏面に大きく1次剝離面を残すもので、加工は最小限である。	
20-00093 128	石器 搔器	覆土内 ほぼ完形	長5.5 幅8.85 厚1.5 重58.4	黒色頁岩	剥片の鋭い縁辺部をそのまま利用して使用したものである。	
20-00094 128	石器 打製石斧	覆土内 1/2残	長7.2 幅4.7 厚3.5 重110.4	黒色頁岩	裏面は原礫面を大きく残すもので、ごころ礫を利用する、いわゆる礫石斧である。	
20-00095 128	石器 打製石斧	覆土内 完形	長8.9 幅6.35 厚2.2 重139.8	黒色頁岩	裏面は原礫面を大きく残すもので、ごころ礫を利用する、いわゆる礫石斧である。	
20-00096 128	石器 打製石斧	覆土内 完形	長11.9 幅6.5 厚1.9 重179.4	黒色頁岩	裏面は原礫面を加工しないで、そのまま残すもので、いわゆる礫石斧である。	
20-00097 128	石器 打製石斧	覆土内 2/3残	長10.8 幅7.6 厚4.05 重331.1	黒色頁岩	両面し原礫面を残すもので、礫を加工するいわゆる礫石斧である。	
20-00098 129	石器 磨石	覆土内 完形	長10.5 幅5.25 厚4.1 重305.4	珪質頁岩	表裏面と右側面、下端面を磨面として使用している。	
20-00099 129	石器 磨石	覆土内 完形	長13.3 幅8.25 厚5.9 重903.8	粗粒輝石安山岩	表裏面と側縁を使用しているもので、表面上には敲打痕が認められる。	
20-00100 129	石器 磨石	覆土内 3/1残	長8.25 幅6.95 厚5.80 重464.9	粗粒輝石安山岩	肉厚なもので、表裏面と側面が使用されている。側縁は面取りされる。	
20-00101 129	石器 石皿	覆土内 破片	長9.65 幅10.05 厚9.15 重774.7	粗粒輝石安山岩	破損したもので、ごく一部が残存する。裏面に1箇所凹部が認められる。	

第49号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00458 129	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口12.3 高3.8 底6.4	中・並・灰黄・並・白微・黒粒	丸みを帯びて立ち上がり口縁部は外反し器厚は厚い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。外面に墨書「内」。焼成時の黒斑を確認。	墨書-23
10-00459 129	須恵器 坏	覆土内 2/3残	口(11.8) 高4.1 底(6.1)	中・並・鈍橙・並・赤粒・細砂粒	直線的に立ち上がり口縁部は僅かに外反。器厚は非常に厚い。轆轤右回転成整形、底部回転糸切り。内外面に墨書「内」。	墨書-24・25
10-00460 129	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口11.9 高3.5 底6.0	中・並・灰白・並・白微	直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。器厚は厚く、口縁部はやや薄くなる。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。外面に墨書「内」。焼成時の黒斑が認められる。	墨書-26
10-00461 129	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口12.6 高4.4 底5.8	中・並・灰黄・並・白微・細砂粒	僅かに丸みを帯びて立ち上がり口縁部は外反。器厚は厚く均質。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。外面に墨書「内」か。焼成時の黒斑を確認。	墨書-27
10-00462 129	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口11.6 高3.3 底6.2	中・並・浅黄・並・赤粒・細砂粒	直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。器厚は厚い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	
10-00463 129	須恵器 坏	覆土内 2/3残	口11.8 高3.5 底6.3	中・並・浅黄・並・赤粒・白微・細 砂粒	直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。器厚は厚い。轆轤右回転成整形、底部は回転糸切り。	
10-00464 129	須恵器 塊	覆土内 4/5残	口13.7 高5.5 底7.4	中・並・浅黄・並・赤粒・細砂粒	直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。底部の器厚は熱い。轆轤右回転成整形、付高台。瓦質。	

第49号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00465 129	須恵器 埴	覆土内 1/3残	口(12.5) 高4.5 底(7.1)	中・並・淡黄・並・白微	直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。底部の器厚は薄い。轆轤右回転成形、付高台。外面に墨書。	墨書-28
10-00466 129	須恵器 埴	電 ほぼ完形	口12.6 高4.6 底7.7	中・並・明黄褐・並・赤粒・白微	直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。底部の器厚は厚い。轆轤右回転成形、付高台。重い。	
10-00467 129	須恵器 埴	覆土内 底部完形	高3.1 底6.7	中・並・浅黄・並・黒粒	直線的に立ち上がる。底部の器厚は厚い。轆轤右回転成形、付高台。断面中心は黒色を呈す。	
10-00468 129	須恵器 埴	電 1/3残	高3.7 底(5.6)	還・並・灰黄・並・白粒・細砂粒	丸みを帯びて立ち上がる。器厚はほぼ均質。轆轤右回転成形、付高台。器面はざらつく。	
10-00469 129	須恵器 内黒埴	覆土内 破片	高2.5 底(6.9)	酸・密・浅黄・並・シ・細砂粒	底部片。器厚は厚い。内面に黒色処理・研磨を施す。轆轤右回転成形、付高台。	
10-00470 129	土師器 羽釜	覆土内 破片	口(20.4) 高10.8	中・密・鈍黄橙・並・白微・白粒・砂粒	内彎する。器厚は厚く鑢貼り付け。外面は横位の寛削り後、縦位の寛削りを施す。内面は粘土紐の接合痕が明瞭。	
10-00471	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口(13.8) 高3.3	還・並・灰黄・釉灰白・硬・黒粒・白粒	僅かに丸みを帯びる。器厚は薄い。轆轤右回転成形。漬け掛け。	
10-00472	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口(17.8) 高4.0	還・密・灰白・硬・黒粒・白粒	僅かに丸みを帯びる。器厚は薄い。轆轤右回転成形。下半は回転削り。漬け掛け。	

第50号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00473 129	須恵器 埴	覆土内 ほぼ完形	口10.2 高2.9 底5.4	還・密・灰黄・硬・細砂粒	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は器厚が薄く外反する。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	
10-00474	須恵器 埴	覆土内 破片	高2.2	中・並・鈍黄橙・並・赤粒・白微・細砂粒	口縁部片。外反する。轆轤左回転成形。外面に墨書。	墨書-29
10-00475 129	須恵器 埴	覆土内 破片	高1.9 底(6.8)	中・粗・浅黄・並・白微	底部片。器厚は厚い。轆轤右回転成形、付高台。	
10-00476 129	須恵器 羽釜	覆土内 破片		酸・粗・灰黄・並・白微・粗粒砂	口縁部片。器厚は厚く均質。紐作り後轆轤左回転成形。鑢は貼り付け。	
10-00477	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口(12.6) 高2.4	還・並・灰白・釉浅黄・硬・黒粒・白粒	丸みを帯びて開く。口唇部が先細りする。轆轤右回転成形。漬け掛け。	
10-00478	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	高1.3 底(6.7)	還・並・灰白・釉灰白・並・黒粒・白粒	底部片。器厚は薄い。轆轤回転成形、付高台。内外面に墨痕があり、摩滅が著しいため転用視と思われる。	
10-00479 129	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 1/4残	高3.6 底(8.8)	還・密・灰白・硬・黒粒・白粒	丸みを帯びて立ち上がる。器厚は薄い。轆轤右回転成形、付高台。外面は回転削り。	
20-00102 129	石製品 砥石	覆土内 1/2残	長5.6 幅2.7 厚1.7	凝灰岩	よく使用して、割れ口付近は極薄い。	
40-00046 129	鉄器 釘	不明 頭部欠損	残長5.5 幅0.5 厚0.5 重9		頭部を欠損する。全体に錆化が顕著。尖端側は丸味を帯びる様な状態。	

第51号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 目(cm) 量 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘 要
10-00480 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚2.1	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒・1~3mm大小礫	口縁部の破片。口縁部は隆帯によって文様を施文する。	
10-00481	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.5	酸・並・橙・白粒・黒粒・黒粒・透釘	口縁部の破片。口縁部は隆帯によって文様を施文する。	
10-00482	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.9	酸・並・黄橙・白粒・黒粒・黒粒・1~3mm大小礫	波状口縁の破片で、断面が三角形となる微隆帯によって、文様が施文されている。	
10-00483 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.0	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒粒・透釘・3mm大小礫	波状口縁部の破片で、胴部に2本1組の間を磨り消す沈線を施文する。	
10-00484	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・暗褐・白粒・黒粒・2~3mm大小礫	波状口縁の破片で、断面が三角形となる微隆帯によって、文様が施文されている。	
10-00485	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・1~3mm大小礫	口縁部の破片で、口縁部に沈線を巡らし、その下には磨り消す沈線によって、波状文を施文している。	
10-00486	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・黄橙・白粒・黒粒・黒粒・透釘	口縁部の破片。口縁部に文様帯はなく、胴部に沈線によって、蕨手文などを垂下させる。	
10-00487	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒	波状口縁部の破片で、沈線によって区画される文様を施文し、内側に単節RLの縄文を施文する。	
10-00488	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.3	酸・並・黄橙・白粒・黒粒・黒粒	口縁部の破片で、口縁部に沈線を巡らし、胴部には逆U字文を施文する。	
10-00489	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒粒	口縁部の破片で、口縁部に沈線を巡らし、胴部には逆U字文を施文する。	
10-00490	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・透釘	口縁部の破片で、口縁部には微隆帯とそれを撫で付ける浅い沈線を施文する。	
10-00491	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒粒・透釘	文様を沈線によって施文する。	
10-00492	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚3.5	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒・黒粒	口縁部の波頂部分の突起である。	
10-00493	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.9	酸・並・橙・白粒・黒粒・黒粒・赤粒・1~5mm大小礫	浅い沈線文によって、蕨手文などを施文する。	
10-00494	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.8	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒・透釘・1~2mm大小礫	頸部の破片で胴部には3本1組の間を磨り消す沈線を垂下させる。	
10-00495	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.4	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒粒・透釘	無文の口縁部を隆帯によって区画している。	
10-00496	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・鈍橙・白粒・黒粒・黒粒・透釘	胴部の破片で、2本1組の間を磨り消す沈線を垂下させている。	
10-00497	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.3	酸・並・鈍橙・白粒・黒粒・透釘・2mm大小礫	文様を沈線によって施文する。	
10-00498 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・橙・白粒・黒粒・黒粒・透釘・1~2mm大小礫	胴部に縦長の楕円状の区画文を、沈線によって施文している。	

第51号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度 量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00499 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒・黒鈺・透鈺・1~2mm大小礫	文様を沈線によって施文する。	
10-00500	縄文土器壺	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・黄橙・白粒・黒粒・黒鈺・1~2mm大小礫	微隆帯によって文様を施文する。	
10-00501 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒・黒鈺・透鈺・1~2mm大小礫	胴部のくびれ部分の破片で、沈線によって文様を施文する。	
10-00502 130	縄文土器深鉢	覆土内 3/5残	口径24.0	酸・並・明赤褐色・黒粒・黒鈺・2~3mm小礫	口縁部四分割の正面に冠状把手を施し、他は波状で小さい。沈線区画内にLRを施文。	
10-00503 130	縄文土器 深鉢	覆土内 1/6残	口(13.0)	酸・並・明赤褐色・砂粒・黒鈺・白鈺	4単位の波状口縁で口縁部に幅広の沈線で楕円状の区画を4単位施文する。地文は0段多線のLRの縄文を施している。	
10-00504	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.7	酸・並・鈍橙・白粒・黒粒・黒鈺・1~3mm大小礫	胴部の破片で、3本1組の間を磨り消す沈線文を垂下させている。	
10-00505 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.3	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒鈺・透鈺・1~3mm大小礫	文様を沈線によって施文する。	
10-00506	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒・黒鈺	波状口縁の破片で、断面が三角形となる微隆帯によって、文様が施文されている。	
10-00507	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.6	酸・並・黒褐・白粒・透鈺	波状口縁の破片で、断面が三角形となる微隆帯によって、文様が施文されている。	
10-00508 130	縄文土器壺	覆土内 破片	厚0.8	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒・黒鈺	微隆帯によって文様を施文する。	
10-00509	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・橙・白粒・黒粒・黒鈺・透鈺・2~3mm大小礫	胴部の破片で、断面三角形となる微隆帯を施文している。	
10-00510	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.3	酸・並・鈍橙・白粒・黒粒・黒鈺	円形列点文を施文している。	
10-00511	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・橙・白粒・黒粒・黒鈺	底部の破片で、単節RLの縄文を地文として施している。	
10-00512	縄文土器 台付深鉢	覆土内 破片	厚2.0	酸・並・鈍褐・白粒・黒粒・黒鈺・1~2mm大小礫	台部分の破片である。	
10-00513 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	口(34.0)	酸・並・鈍黄橙・砂粒・黒鈺	無文の口縁部を胴部と隆帯によって区画。胴部の文様の玉抱き文と口縁部の隆帯との接点部分は舌状に粘土を貼付する。	
10-00514 130	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・鈍橙・白粒・黒鈺	無文の口縁部を沈線で区画する。地文は条線である。	
10-00515	縄文土器 鉢	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒鈺・透鈺	口縁部の破片で、地文は櫛歯状の条線を施文する。	
10-00516	縄文土器壺	覆土内 破片	厚2.9	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒鈺・1~2mm大小礫	把手の破片である。	
10-00517 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.5	酸・並・鈍橙・白粒・黒粒・黒鈺・透鈺	底部に近い破片で、51-33と同一個体と考えられる。	
20-00103 131	石器 石鏃	覆土内 完形	長4.35 幅3.4 厚1.0 重12.7	黒色安山岩	尖頭器に近いが、石鏃とした。無茎平根三角形形式	
20-00104 131	打製石器 削器	覆土内 完形	長5.0 幅3.8 厚1.7 重28.6	珪質頁岩	製作途中と考えられるもので、表面の一部に原礫面を残す。	
20-00105	石器 打製石斧	覆土内 3/1残	長4.60 幅4.30 厚1.50 重27.9	細粒輝石安山岩	基部のみ残存するもので、調整は粗い。中央付近に擦痕が残る。	
20-00106	石器 擦器	覆土内 完形	長4.5 幅5.85 厚0.9 重22.6	黒色頁岩	素材となる剥片の形状を利用したもので、表裏面ともに原礫面は残さない。	
20-00107 131	石器 石匙	覆土内 完形	長3.5 幅4.6 厚1.25 重17.4	黒色頁岩	わずかだがつまみ部分を作り出している。両面ともに原礫面を残さない。	
20-00108 131	石器 石匙	覆土内 完形	長3.9 幅4.4 厚1.05 重21.4	黒色頁岩	両面ともに原礫面は残さない。刃部は丁寧に作り出されている。	
20-00109 131	石器	覆土内	長10.05 幅4.00 厚1.45 重59.1	黒色頁岩	側縁部が平行するもので、基部と刃部の一部を破損する。刃部には擦痕が認められる。	
20-00110 131	石器 打製石斧	覆土内 4/5残	長9.0 幅4.6 厚2.0 重73.2	黒色頁岩	刃部に最大幅を持つもので、刃部と基部を破損する。	
20-00111	石器 打製石斧	覆土内 1/2残	長9.0 幅4.8 厚2.3 重63.0	黒色頁岩	刃部に最大幅を持つものと考えられ、表面には減礫面が残る。	
20-00112 131	石器 砥石	覆土内 1/2残	長5.7 幅5.0 厚1.5 重23.4	軽石	板状のもので、側縁は丁寧に面取りされている。	
20-00113	石器 擦石	覆土内 完形	長5.40 幅3.75 厚1.70 重53.3	変質安山岩	板状のもので、表裏面と左側面を磨面として使用している。	
20-00114	石器 磨石	覆土内 完形	長8.80 幅4.30 厚3.25 重139.4	変質安山岩	横断面形が三角形となるもので、表裏面を磨面として使用している。	
20-00115	石器 磨石	覆土内 完形	長9.0 幅4.65 厚2.9 重192.5	粗粒輝石安山岩	表裏面と両側面、上下端面を磨面として使用している。	
20-00116 131	石器 磨石	覆土内 完形	長10.85 幅6.40 厚3.35 重366.7	砂岩	表裏面と左側面を磨面として使用している。	
20-00117 131	石器 磨石	覆土内 完形	長11.60 幅7.20 厚4.15 重475.7	変質安山岩	形状が三角錐状となるもので、表裏面と下端面を磨面としている。	
20-00118 131	石器 磨石	覆土内 完形	長15.65 幅5.55 厚5.85 重757.7	溶結凝灰岩	棒状のもので、横断面形が三角形となるものである。表裏面を磨面として使用している。	
20-00119 131	石器 敲石	覆土内 完形	長13.8 幅3.95 厚3.35 重285.4	変質玄武岩	棒状のもので表裏面と両側縁に主に敲打痕が認められる。磨石としても使用されている。	
20-00120	石器 磨石	覆土内 完形	長5.65 幅3.35 厚1.45 重36.1	粗粒輝石安山岩	板状のもので、表裏面と左側面を磨面として使用している。	
20-00121	石器 磨石	覆土内 完形	長7.25 幅3.2 厚1.6 重56.9	粗粒輝石安山岩	板状の楕円形のもので、表裏面のほか側縁も磨っている。表面に敲打痕が認められる。	
20-00122 131	石器 敲石	覆土内 完形	長9.60 幅4.75 厚3.65 重252.4	黒色頁岩	下端部に集中して敲打痕が認められる。磨石としても使用され表裏、右側面に磨面が認められる。	
20-00123	石器 砥石	覆土内 完形	長13.0 幅8.25 厚1.7 重228.7	粗粒輝石安山岩	不定形のもので、側面は面取りされている。	

第51号住居跡出土遺物(3)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
20-00124	石器 磨石	覆土内	長9.6 幅6.75 厚3.2 重181.4	粗粒輝石安山岩		不定形のもので、両面を磨面として使用している。両面には敲打痕が認められる。
20-00125	石器 磨石	覆土内 完形	長15.25 幅10.30 厚3.4 重751.8	粗粒輝石安山岩		板状で不定形のもので、表裏面と同側面を磨面として使用している。
20-00126	石器 石皿	覆土内 完形	長21.70 幅19.85 厚5.90 重3739.1	粗粒輝石安山岩		縁なしのもので、敲打痕が認められる。
20-00127	石器 石皿	覆土内 1/8残	長11.60 幅10.85 厚7.2 重565.8	粗粒輝石安山岩		縁なしの石皿の一部と考えられる。
20-00128	石器 石棒	覆土内 破片	長7.75 幅5.05 厚2.55 重370.1	緑色片岩		20-00130と同一個体と考えられる。
20-00129	石器 石棒	覆土内 破片	長8.3 幅12.2 厚7.8 重797.0	デイサイト		大型の石棒の一部と考えられる。
20-00130	石器 石棒	覆土内 破片	長21.0 幅7.25 厚2.55 重466.8	緑色片岩		細かく破砕されたものと考えられる。

第52号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00518 131	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.0	酸・並・橙・白粒・黒粒・黒鈺		口縁部に円形の列点文を施文している。
10-00519 131	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.3	酸・並・鈍橙・白粒・黒粒・黒鈺・透鈺・赤粒		口縁部の破片で、沈線文を巡らしている。
10-00520 131	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.7	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒・黒鈺・透鈺		隆帯によって施文される。
10-00521 131	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒鈺		胴上部の破片で、隆帯を施文する。
10-00522 131	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.5	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒・黒鈺・透鈺・赤粒・2~3mm大小礫		頸部から胴上部の破片で、胴部には間を磨り消す沈線を施文する。
10-00523 131	縄文土器 深鉢	覆土内 1/2残	厚1.2	酸・並・鈍黄橙・白粒・黒粒		文様は胴部に逆U字状に沈線を施文する。整形は粗く地文は条線だが、施文されていない部分も多い。
10-00524 131	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.0	酸・並・橙・白粒・黒粒・黒鈺・透鈺		胴部に沈線文を施文する。
10-00525 131	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒・黒鈺		胴部のくびれ部の破片で、内側に単節 RL の縄文を施文する沈線文を施文する。
10-00526 131	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.1	酸・並・橙・白粒・黒粒・黒鈺・透鈺		地文は条線である。
10-00527	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒・黒鈺		地文は条線である。
10-00527 131	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.2	酸・並・浅黄橙・白粒・黒粒・黒鈺		地文は条線である。

1号掘立出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00528	須恵器 蓋	覆土内 破片	高(2.2)	還・並・灰・硬・白鈺・透鈺		天井部は左回転の回転篋削りを施す。軸轆右回転成整形。

第1号古墳出土遺物(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要	
10-00529 132	手捏 破片	周溝内 破片	口(11.3)	並・酸・並・浅黄橙・黒色鈺物粒子 (角粒状)・β石英		下半部は篋撫で整形。口縁部は横撫で整形。内面は撫で整形。	東毛産か
10-00530 132	土師器 坏	覆土内 破片	口(13.7) 高3.8	酸・並・鈍褐・並・砂粒		口縁部は外反する。器厚は均質。口縁部は横撫で。底部との境の境は弱い。	東毛産
10-00531 132	土師器 坏	周溝内 破片	口(13.3)	並・酸・並・鈍黄橙・黒色鈺物粒子 (角粒状)・β石英		型作り。器内面及び口縁部は横撫でを施すが、外面には篋撫で整形痕を留める。口縁部直下に外稜を有す。内面は黒褐に焼る。	東毛産
10-00532 132	土師器 坏	周溝内 破片	口(12.0)	並・酸・硬・橙・黒色鈺物粒子白色 鈺物粒子・夾雑物微粒		型作り。器内面は撫で整形。外面は篋撫で成形。口縁部直下に外稜を有す。	東毛産
10-00533 132	土師器 坏	周溝内 破片	稜(12.0)	並・酸・硬・透明鈺物粒子・黒色鈺 物粒子・夾雑物微粒		型作り。器内面は撫で整形。外面は篋撫で成形。口縁部直下に外稜を有す。	東毛産
10-00534 132	土師器 坏	34-D-19 破片	口(11.0) 高2.2	酸・並・橙・並・角閃石		型作り。器内面は撫で整形。外面は篋撫で成形。口縁部直下に外稜を有す。	東毛産
10-00535 132	土師器 坏	39-C-20 破片	口(12.0) 高2.7	酸・並・橙・硬・砂粒		型作り。器内面は撫で整形。外面は篋撫で成形。口縁部直下に外稜を有す。	東毛産
10-00536 132	土師器 坏	周溝内 破片	口(13.0) 高1.8	酸・並・橙・並・砂粒		口縁部は短く、僅かに内傾する。器厚はやや厚い。口縁部は横撫で。	東毛産
10-00537 132	土師器 高坏	周溝内+ 39-D-19	口(18.0) 高3.5	酸・密・橙・硬・白粒・細砂粒		ゆるく外反する。器厚は均質。口縁部は横撫で。器面は滑らかで、硬質。	破片
10-00538 132	土師器 高坏	周溝内+ 39-C-20	高12.8 底14.3	酸・密・橙・硬・白粒・細砂粒		坏部・脚部片。脚部は「ハ」の字に開き坏部外面に稜を持つ。器厚は均質。器面は滑らか。坏部内面に斑点状の剝離確認。	破片
10-00539 132	須恵器 蓋	周溝内39- D-19 1/3	口(14.0) 高4.7	還・並・灰・硬・黒鈺・細砂粒		口縁部は外傾する。器厚は底部で厚く、口縁部で薄い。軸轆左回転成整形、天井部は回転篋削り。	
10-00540 132	須恵器 高坏	周溝内+表 土層 破片	高11.1 底(11.4)	還・並・灰・硬・白粒		脚部片。「ハ」の字に大きく開く。口唇部は直立し尖る。器厚は薄い。軸轆右回転成整形。	
10-00541 132	須恵器 高坏	周溝内 破片	高3.2 底(12.2)	還・密・黄灰・硬・砂粒		脚部片。「ハ」の字に開く。口唇部は直立気味。器厚は薄い。軸轆右回転成整形。透かしの痕跡が認められる。	
10-00542 132	須恵器 高坏	周溝内 破片	高9.6	還・並・灰・並・砂粒		坏部は丸みを帯び脚部は「ハ」の字に弱く開く。器厚は厚いが脚部の下半は薄い。軸轆右回転。坏部外面にカキ目を施す。	